

ホソミ——ホタカ

通路をなす。土師川流域には京都より關部を経て福知山市に至る關道山陰街道通じ、其の附近の交通便なり。産業は農業を主とし、養蠶業また見るべきものあり。山地よりは木材・薪炭の産あり。

ホソミ

〔細見〕 伯耆國(鳥取縣)の古地名。和名抄に會見郡細見郷あり、その地今の西伯耆大幡村・日吉津村の邊なるべし。

ホソミ

明治三十九年に外一町二村と共に廢して二川町を置く。

ホソミ

細呂木村 福井縣越前國坂井郡の北部。北は吉崎村、東は坪江村、南は伊井村及び金津町、西は北湯村に接す。全村小山を以て圍まれ砂地多し。ために甘露の栽培盛く行はれ、製茶業と共に郡下一の稱あり。其他、瓦・薪等の産も多し。また北湯村との境にある北湯湖にはワロコノ産ありて特に名高し。省線北陸本線はほは村の中央を南北に縱斷して細呂木驛(明治三十年設置)を置く。平常は淋しき驛なるも毎春吉崎の御忌には一列車毎に數千の乗降者あり。この地は舊北國街道の細呂木宿のありし所。中世、河口庄に入り、細呂木郷と稱し春日神領なりき。延元元年、加賀の陣に降りてこの地に城を構へ、津波五郎を加賀大藏寺の城に攻め、國中を擄す。天正三年、上杉謙信は加賀松任城を圍め、信長(軍)に向進す。信長、即ちこの地に退く。歴

ホソミ

長五年七月、前田利家、大聖寺城を陥れ、八月、進んで此地に到り西軍の北ノ庄城を、青木一矩及び殺賀城主大谷吉隆の聯合軍に當りしも、吉隆の計に隔り軍を引退せり。〔春日神社〕 大字細呂木にあり。村社。天兒屋祖命を祀る。昔、坂上田村麿の信仰せし保倉呂伎神社なるべしと云ふ。しからば式内社と云ふべし。然るに寛弘八年、押領使齋藤伊傳は春日十社を勧請し春日明神を之に合祀せりと。然れども天正年中兵燹にかり、由緒詳ならず。〔照嚴寺〕 清王にあり。縣下眞宗大谷派唯一の大坊にて檢家千五百と稱す。嘉暦元年行覺法眼(覺如上人の眞弟)が越中國射水郡水見に一宇を建立し、正慶二年、覺如上人より照嚴寺の號を給ふ。應安七年、二世覺如は越前國吉田郡久末(今の幾久)に移轉し、一向一揆の大將として創始末記等に久末の照嚴寺として喧傳せらる。然るに天正三年、織田信長の一揆征伐の患に會ひ、加賀江沼郡二聖村へ引越し、慶長五年八月、兵燹にかり再び越前に立ち歸り、坂上人の原に移轉し、更に堂宇を建て一如上人の本願、隆慶寺となり、寶曆十年同村飛地字岡の峯へ移轉す。

ホタカ

高岳(二九〇・八・六米)と稱し、東南に走るものを前穂高岳(三〇九〇米)と云ふ。前穂高岳の東南に派出する山塊は明神岳と呼ばる。北穂高岳の北方はキレット(大切戸)を經て樺ヶ岳山群に連り、西穂高岳の南西は次第に低夷し、焼岳方面に續き、東面は梓川谷及び上高地の盆地に急下りて常念岳に對峙し、西面は龍田川谷に下りて錫杖・笠・披戸の諸山と相對す。山體は角閃岩と閃花崗岩より形成せられ、その壯麗なる岩石美は殆んど他峯に比すべきものなく、僅に北方の劍岳と共に、特異なる山貌を中天に時たしむ。登山路は上高地を根據として梓川を溯り、その支谷横尾谷より至るものと、梓川に注ぐ岳川を登るものとあり。岳川の登山路は上高地河童橋の西側より川沿ひに懸崖帯、針葉樹林帯を過ぎ、岳川谷のガラク岩を越え、草帯を通過すれば、岩石帯となりて終に前穂高岳に至る。上高地より約五時間行程なり。前穂高より南方に進めば明神岳に至り、北方に進めば約二時間にて奥穂高岳に達す。奥穂高山頂には岩石累積し殆ど植物を見ず。頂上よりの展望は雄大廣闊にて北方に北アルプスの連嶺を一時に集め、南麓に上高地溪谷を俯瞰し、南方に乗鞍・御岳・八ヶ岳・富士山を初め、中央アルプス・南アルプスの山々を望む。別途横尾谷よりの登山路は上高地より梓川に沿ひ、樺ヶ岳登山路なる徳澤牧場を經て潤澤か辿り、

ホタカ

汗餘。北境・南境共に丘陵連り、西北境には鋸山あり。丘陵一帶森林多し。町の中央は結合にて小流あり。附近は耕地ありて米・麥を産す。漁業盛なり。海岸の北端は鋸山(其項參照)海に迫りて明鏡崎となり、それより南は大部分砂濱にて所産磯濱を交へ風光佳良にて海水浴場として名高し。縣道は海岸沿ひに南走し、乗落はこれに沿うて發達す。倉庫房地西隣これに沿ひ、保田驛(大正六年設置)を置く。又、この縣道より分れ、東走して外房州の鴨川に通ずる縣道あり。海岸には東京海濱汽船會社の汽船發着す。古くは和名抄、平群郡徳田郷の地に於て早くより開け、鋸山日本寺が行基を開祖にして神龜元年の創建なるが故に遠く二千年前に於て既に多少の民家の存在せしを知る。然れども偶々中央山地に於て發見する所の墓石の多くが治承・建久年間のものにして、源氏の姓を冠するより見れば源氏氏の祖先は平家興隆の頃その鋭鋒を避けて散散せる源氏の一黨がこの地方一帯に流し、土着せるものに非ざるかとも思はる。〔徳神神社〕 大字元名に鎮座。郷社。祭神、應神天皇。古來當村の鎮守たり。例祭、陰曆八月十五日・十六日。〔日本寺〕 大字元名にあり。曹洞宗。乾坤山。神龜元年行基、觀武天皇の勅により七堂十二院百坊を造營して開創し本尊藥師如来を安置すと傳ふ。のち寺運漸次衰きしが、美和年中、源賴朝これを再興す。貞和

ホタカ

元年、足利尊氏また再興せしも近世衰頹す。寺地は鋸山の中段を占め、山頂十州一覽臺よりの眺望絶佳なり。〔妙本寺〕 大字吉濱にあり。本門宗。中岩山と號し本宗七本山の一にして、末寺十八寺を統ぶ。建武年中、日蓮の弟子日興の法孫日郷、安房國磯村に來りて教化を垂るるや吉濱の郷士佐々木左衛門尉深くこれに歸依し、己が所有地なる堀の内の地を寄進して一寺を建つ、これ本寺の草創なり。文和二年足利基氏寺領若干を寄す。里見氏・徳川幕府また之に準ず。

ホタカ

〔徳高川〕 長野縣南安曇郡にある川。上流は燕岳(二七六三米)と有明山(二二六八米)との間を南流する中房川にして、松本平西麓を限る斷崖崖下の扇狀地群を北より南に流れて流る乳川と合し、徳高町の北方なる穂高橋に於て鳥川を合せこれより穂高川と呼ぶ。穂高町の東に

ホタカ

おいて高瀬川と合して信濃川の上流たる犀川となる。流域には複合扇狀地發達し扇圓多く、また扇狀地開拓の特別な人文現象あり。

ホタカ

〔穂高町〕 長野縣信濃國南安曇郡の北部。松本市より一五軒。糸魚川街道を大町に向ふ途上あり。東端には高瀬川が流れ南方より流下せる犀川と合流し、更に穂高川も加はり、三川の合流地をなし、更科郡内を峡谷を縫じて長野盆地に注ぐ。附近は日本アルプス連嶺より發したる鳥川・中房川の兩扇狀地末端の結合點に當り全く水に恵まる。鳥川扇狀地の湧水と灌漑水路によりて水田が耕地の主要部を占め、更に養蠶・發達す。最近に於ては山葵の栽培が盛にして穂高を中心とし附近をも含め、その産額は年額百萬圓に達し本邦第一位たり。この特殊作物は實に此町が鳥川の扇狀地の末端にあり其の豊富な湧水が常に温度一、二度附近を保ち砂礫層の發達する爲とす。交通は倉庫大糸南線の穂高驛(大正十四年設置)ありて便なり。もと東穂高村と稱せしが大正十年穂高町と改稱。古くは和名抄、安曇郡八原郷の内なるべく、中世は穂高庄と呼ぶ。矢原御厨といふも此地なり。〔穂高神社〕 郷社。祭神、穂高見命(奥社)・穂高見命・綿津見命・現々并命。俗傳によれば上古は穂高嶽に鎮座せしを、大化年間いまの穂高町に里社を造營し、奥社・里社の二祠を營むといふ。式内名神大社に

ホタカ

五十四

ホタカ

五十四

ホタカ

五十四

ホタカ

五十四

ホタカ

五十四

ホタカ

五十四

ホタカ

五十四

列し、大寶三年八月勅使奉幣の事あり、爾來、領土の崇敬厚し。例祭、二月二十七日・九月二十七日。

〔徳高村〕長野縣信濃國下高井郡の西部。飯山盆地内にあり、飯山町より千曲川を渡りて東約四軒、同川の右岸に位置す。毛無山(一六五〇米)・城山(一五六九米)等三國山脈の支脈が東部に迫り、三―四百米の山地をなし西に急斜す。これは飯山盆地を形成する東部の断層崖に當り村の平地は其の断層崖の浸蝕谷によつて作られ一層状地の上に乘る。谷の出口たる扇状地の頂點は原部落に當り、桑畑に利用せらる。これは層崖の堆積による浸透のためなり。北郷部落以北は湧泉を利用して水田發達す。水田地域はまた千曲川氾濫原の堆積層より成り肥沃な土壌は其の生産を豊にす。養蠶と米・麥を主體とする村にて、中心をなす中村には農林學校が設置さる。住民は農業者と林業者が大部分を占め、東部山地は製炭地域にして、また紙漉部落もあり和紙の産あり、内山紙(内山は字名)の名を以て知らる。この地は和名抄、高井郡神戶郷の内なるべし。

ホタリ 穂足村

山梨縣甲斐國北巨摩郡の中部。東西を鹽川とその支流に圍まれ地形南北に細長し。北より南へ稍傾斜し、灌漑の利あり水田多し。米・蕎麥・麥及び桑を主産とす。縣道南北に走り、隣村若神子村に出づるものは佐久平に通ず

るものなり。省線中央本線穴山・日野春兩驛へいづれも約四軒、縣道通じ、若神子より甲府市へはバスの便もあり。天正十年、徳川氏と北條氏が對陣の時に北條勢この地に營を築きしといふ。

ボタンロ

社 臺灣高雄州潮州郡にある蕃社。楓港溪の左岸、女仍山の西南山腹にあり。標高約一〇〇―二四〇米に位し、牡丹路駐在所附近約四軒の地に三個所に分れ各々集團す。同郡バスが社より約二百年前移住し來り現在の社を形成す。現在は社頭目なく、バスが社頭目の支配を受け、毎年番組を納む。マイソン族の恒春下番に屬する高砂族の部落。戸數五三、人口二九〇(昭和十一年調査)。

ホチヨ

朝鮮江原道鐵原郡のほほ中央。鐵原邑の西北に隣る。東西約六軒、南北約一〇軒。中部は歇野嶺地帯にて、北部に曉星山(五九六米)、南部に夜月山(約四八〇米)等の熔岩流によりて成れる山地あり。中部を東北―西南に流るる驛谷川と、東境に横はる山明湖より出づる一川との流域なる鐵原高原は近時開墾の業進み、美田と化せる處少からず。産物は米・大豆を主とし、栗・梅花・繭・牛等あり。東部を鐵道京元線がすめ、中部地帯に沿ひ鐵原・安峽間の道路通じてバスの便あり。

ホツカ

北下面 朝鮮全羅南道長城郡の北東部。地南北に長く、西北は北上は本州西部を走る男鹿半島の嶺脈部に屬するものと見做さる。本道の海岸に沿ひ所々に見らる、段丘は海拔四―五〇米より二〇〇米に及び、特に東部北海岸に於ては内陸地方に擴がりて十勝原野の如きものを形成す。平原は石狩より男勝地方に發達するもの最も廣く、旭川・名寄等の盆地は中央山脈の間に擴がり、北見の波狀地は海岸に廣く平野を伴ひ、根室平野は一の海岸臺地なり。河川の主なものは石狩川・天鹽川・十勝川等にして、本道の三大河川と稱し、他の二三長流と共に何れも其源を本道中央部の山地に發す。特に石狩川は流程三六〇軒に及ぶ本道第一の大河、本邦屈指の長流にして、その本支流の流域面積は實に一萬四千餘方軒に達し、稲田・麥畑相連る本道第一の農業地を成す。天鹽川は北海道第二の長流にして流程二九二軒餘、流域面積五千六百餘方軒、沿岸の原野は中流以上は肥沃にして能く開發せらる、下流々城は概し寒冷卑濕にして開拓の業遅々たる觀あり。而して本道河川の大部分は原始河川にして流路の變轉極りなく、附近耕地の開發に伴ひ益々洪水氾濫の被害増大するに鑑み、應急的治水工事として臨岸及び改修工事を施行し、更に其の損害甚大なる箇所に対しては組織的治水工事を施行しつゝあり。湖沼は頗る多く、著名なるものみにも二十有餘を數へ、従つて其の成因も複雑なり。即ち大別して

面、西南は郡邑長城面に隣り、東部は潭陽郡月山面に、北東は全羅北道淳昌郡福興面に界す。面積五四方軒餘。慶山山脈の西部の山地にて、北境には白平山(七二一米)・加仁峰(六七七米)等、南境には屏風山(八八二米)・艾峰(四八一米)等ありてその山嶺境上に延互し、面内至る處山地をなす。ただ榮山江支流の黃龍江の上流は月山面より來り山地を載りて中部を西に流れ、南・北兩境より來る支流を合せて北上面に出で、これに沿ふ谷地に幅狭き低地をつくり耕地をなす。農産に米・麥・大豆・蕎麥等も産額多からず。外に木炭・薪等の林産あり。鐵道南本線四街里驛(北二面)より潭陽に至る街道中部の低地を通じバスの便あり。沿道の薬水里に上・中・下の三層をなす薬水瀑布あり。また薬水里の北方約四軒、白羊山中に白羊寺あり、千二百餘年前、如幼禪師の開創にかかり、大雄殿・雙溪樓等の伽藍を始め、清涼・地藏・白蓮・藥師・寶泉・天眞等の諸庵山中に散在す。山中には奇岩怪石林立し、蔚蒼なる老樹、激湍深潭をなす溪流ありて山水美に富み、初夏の新緑、秋の紅楓の好遊地なり。また白羊寺より北方内藏山の内藏寺へ通ずるハイキングコースあり、距離約八軒。

ホツカイド

我國の北海道に位し、北海道本島及び十數箇の屬島と、三十有餘の島嶼を含む千島列島より成る。之を略述すれば海岸部として北見の釧路・能取湖・網走湖、根室の風連湖・温根湖、釧路の厚岸湖・春採湖等その代表的なるものにて、概して東北部に多し。また海岸隆起と共に砂洲が河口を堰止めて湖沼となりしものは北見・天鹽・十勝海岸に多く、湯涌湖・湧別湖等それなり。また内陸平原に存在する湖沼は概し大河川の流身變轉轉りき蛇行により溜溜して生成せるもの頗る多きも、著名なるものなし。而して本道の山地に存在する湖沼の主なるものは皆火山湖にて、其の主なるものは屈斜路湖・摩周湖・阿寒湖・然別湖・支笏湖・洞爺湖等にして、千島にも此種の火山湖多し。

〔位置・面積〕 西は日本海に、北はオホーツク海に、東及び南は太平洋に各々面す。南は津軽海峡を隔てて本州と相對し、その最短距離僅に十哩、北は宗谷海峡を挟みて相ること二十四哩にて樺太島と相對し、東北は占守海峡を以て勸察加半島に對し、北西遙かに海を隔てて蘇國領西比利亞と相呼應す。而して西は渡島國大島西端東經百三十九度二十九分二十分を以て極西とし、渡島國小島南端北緯四十一度二十一分を以て極南とす。また極東は占守島の東端東經百五十六度三十五分にして、極北は千島國阿羅度島の北端北緯五十五度五十七分なり。これ日本の最東端及び最北端にして、國防並に漁業上重要な國際接觸線を成す。總面積八八、四五四方軒にして、臺灣・樺太及び四國を併せたるものに近似し、尙ほ千島を除くも東北六縣及び新潟縣を合したるものに匹敵す。いま本道は渡島・後志・石狩・天鹽・北見・釧路・日高・十勝・釧路・根室・千島の十一國及び八十郡に分かれ行政的には北海道廳の下に石狩・渡島・檜山・後志・空知・上川・留萌・宗谷・網走・釧路・浦河・釧路・河西・根室の十四支廳置かる。

〔地形・地質〕 本島はほぼ菱形をなし、渡島半島はその西部に恰も附屬せるが如き觀を呈す。而してこの菱形の南北對角線を對するものは北海道中央山脈(脊梁山脈)にして、その長き約四五〇軒に及ぶ。最低の溫度を示し、即ち最高三九・五度、最低零下四一・〇度を示す。而して一箇年中の平均溫度を諸外國の夫れに比較するに、略々本道の中心に位する札幌にては年平均は六度九分にして、浦蘆新橋の五度四分、哈爾濱の四度三分、レンینگラーの四度二分及びストックホルムの五度八分比し溫暖にて、ロンドンに九度七分、ベルリンの九度一分に比し稍々寒冷なるも、コペンハーゲンに八度一分、ベルリンの七度九分比しては大差なし。降水量は渡島の海岸より西海岸にかけて一般に多く、太平洋岸これに次ぎ副走・根室は最も少なし。特に渡島の海岸より積丹半島に至る間は多く、白神山にては二〇〇軒に垂んとするも、他にては一三〇乃至一四〇軒なり。また釧路・日高地方は一〇〇軒程度にして、更に北見の斜里に至れば僅かに五六五軒に減ず。また露即ち夏期のガスは太平洋岸を特徴づけるものにして、六・七・八月頃となれば近海は濃霧襲來し、咫尺を辨ぜざる日多し。これは夏期、親潮即ち寒流が盛んになり、本道南東の海面が比較的寒冷なる際、溫暖なる南風がこの海面を吹き渡る爲に生ずる現象なり。また流

ぶ。その南端部は即ち日高山脈にて、山體は主として古生層變成岩層たる神居古澤系、秩父古生層に相當する日高系、花崗岩等を脊梁とし、その最高峯を幌尻山(二〇五二米)となす。中央山脈は本島の中央部に於ては三條の南北山脈にて代表さる。即ち東側の石狩山脈は北方に北見山脈・連り、中央の十勝火山脈は本島最高山たる旭岳を頂き、而して西側や離れたる夕雲・空知山脈は、石狩炭田の東側を北行して石狩川の北に於て天鹽山脈となる。中央山脈の北端部は前記二者と其の西側を走る兩龍山脈にて代表さる。これ等の山脈は何れも中生層・第三紀層より成る。殊に夕雲・空知山脈・天鹽山脈・兩龍山脈地方は主として第三紀含炭含油地方にして、本道の經濟的立場より頗る重要視さる。この外、渡島半島には重に日高系及び花崗岩より成る渡島山脈あり。次に火山脈は主として安山岩より成る火山にして、先づ北端千島に於て北海道の最高峯阿羅度島(二三三九米)より始まりて雁行狀をなし、知床半島に至り更に屈斜路・阿寒を経て然別湖火山地方に達り、その末端は十勝岳の火山列にて代表さる。この外、本島の西側には利尻島より南下し西海岸の暑寒別火山群を経て後志火山帯に連る火山脈があり、また後志火山帯より樺前・有珠・駒ヶ岳を経て南下し基山に至る活動盛んなる一連の火山列あり、また西南端の大島・小島

ホツカ—ホツカ

本は毎年一—三月の間に北見・根室の海岸に押し寄す。初霜は普通五月中旬頃にして終霜は普通五月上旬なり。雪は普通十月下旬より降り、四月下旬より五月上旬に止む。一般に西海岸は積雪量最も多く、太平洋岸には少なし。而して西部地方にては積雪量一〇〇以上を達すること往々にして、旭川に於ては約七〇程度を示す。

〔動植物分布〕 本道の植物は本州と異なる種類多く、蝦夷松・楡松等の針葉樹林は北海道の特殊景観を現出す。然し樺皮・波島は闊葉樹林多く頗る内地の林相に近似す。本道の針葉樹の主なるものは前記二種の外、ヒバ・オソコ・五葉松・楡松・ナマケラマツ等にして、闊葉樹にては楡・松・ササギ・アカササギ・シロ・桂・朴・樟・赤楊・アサギ等なり。また外来移植種としては杉・赤松・桐・ドイトウ・ヒバ・ドイトウ赤松・ドイトウ黒松・アカササギ・オブラ等挙げらる。また動物分布を見るに津軽海峡は動物分布上、謂ゆるアラキストン線と呼ばれ、この線の北、即ち本道は内地と著しく種類を異にす。また八田線と呼ばれる、宗谷海峡の南に在る本道はまた樺太とも頗る異なる。例へば狼・テン・アナグマ・モグラ・ヤマイヌ・イノシシ・野兎等は本州には見られ、北海道にてはもと殆んど見ざりしものなり。その他龜の類は全く見られず、蛇は本州の八種あるに對して僅かに四種を見るのみなり。

また北海道に多かりし鹿は次第に減少し狐・狸・白鳥・熊等も同様減少しつつあり。然し近時、狐は飼育の種として新たにシベリヤ・カナダ等より良種が輸入されつつあり。

〔人口〕 今や本道は人口三、一七四、八〇〇(昭和十二年十月一日現在)を有し、益々稠密になりつつある状態なるも、明治二年開拓使の設置せらるゝ迄は蝦夷地と稱し、専ら蝦夷民族の跳梁に委せたり。抑々和人移住の盛況は今より七百餘年前の文治年間なるも、少数なりし爲その勢力は微々たるものにして、屢々蝦夷民族の迫害を受け、僅に今の波島地方の一隅を守り漁撈を事とするに過ぎざりき。松前氏の蝦夷を征服するに及び和人の數も微増し、制度及び施設等には稍々見るべきものありしも、猶ほ未だ積極的に殖民の業を興すには至らず。江戸時代に至るや幕府は内外の狀勢に鑑み、漸く和人の移住を奨励せしめ、人民は封建の鎖り未だ覺ゆず、隨つて人口の増加は見るべきものなく、明治二年に於て僅に五萬八千四百六十七人を算するに過ぎざりき。のち三縣一府時代を経て北海道設置の設置を見るに至りしも、明治四十二年第一期計畫の樹立を見る迄は拓殖上、消長變遷多くして實政現はれざりしも、該計畫の樹立するに及び、殖民地の選定區劃及び土地處分を統括ならしめ且つ鐵道敷設及道路開闢等交通の便を圖り、また移民世

話所を設くる等、鋭意移民の招來を促して開拓の氣運を振興せしむる移民は陸續到來し人口は頓に増加するに至れり。人口増加の趨勢を示せば左の如し。但し昭和十二年は十月一日に於ける内閣統計局の推計人口、昭和十年、同五年、大正十四年、同九年は國勢調査、他は北海道調査の推計人口とす。右表に就て見るに、昭和五年より同十年に至る五箇年に於て實に二十五萬五千九百四十七人の増加を示し、また昭和十二年に至る二年間には十萬六千餘人の増加を見たり。而して最近十箇年に於ける人口増加率の年平均は〇・二四とす。尙ほ本道の人口増加は自然増加と移民來往の差増に依るものなるも、前者に於ても其の増加率は昭和十一年に於て全國第二位にして頗る優秀なる増加率を示したる。(密度と可容人口) 昭和十年(國勢調査)に依る本道人口の密度は一方里五百三十三人に當り、之を東北六縣の平均一方里當千六百十人

Table with columns: 年次 (Year), 戸數 (Households), 人口 (Population), 均人口 (Average Population per Household). Rows include 昭和十二年, 昭和十年, 昭和五年, 大正十四年, 大正九年, 明治三十二年, 明治十年.

に比するに僅にその三割七分を容るゝに過ぎず、更に全國中最も稀薄なる岩手縣の一方里當千五十九人に比較するも尙ほその五割六分に過ぎず。いま千島を除きたる本島の地積に對し、東北六縣また岩手縣の例に依り可容人口を算出すれば、東北六縣の例 一、六一〇人に依れば八、二〇〇、七二四人、岩手縣の例 一、〇五九人に依れば五、三九四、一四一人となり、岩手縣を標準とするも今後僅に二百二十萬餘人を收容し得る状態なり(移民來往) 統計分類より見たる來住者中、最も多きは農業者及び職業者にて本道經濟界の活躍時代たる大正五年以來四箇年間は移民の來住最も盛況を極め、大正八年の如きは二萬五千戸、九萬一千人に達し既往に於て最高位に達したるも歐洲戰亂後の財界反動は本道農業にも深刻なる不況を齎して來住者の減少と往住者の増加となり、大正十三年に於ては往住者九千二百二十三戸、四萬三千八百四十六人の多きを算する悲況を呈せしも、爾來堅實なる殖民政策を採りたる結果、既往の如き活況は見ざるも、頗る順調なる趨勢を示したり。而して昭和十一年度に於て來住四萬八千五百九十九人、往住二萬八千六百七十五人を算し、最近數年は稍々來住に減少を示せるも、この現象は近年頻發せる凶作に原因するものなり。また昭和十二年四月より昭和十一年三月に至

Table with columns: 府縣 (Prefecture/County), 來住者 (Immigrants), 往住者 (Migrants), 殘留者 (Residuals). Lists various prefectures like 秋田, 青森, 宮城, etc.

ホツカ—ホツカ

Table with columns: 郡縣 (County), 人口 (Population). Lists various counties like 高田, 和歌山, 群馬, etc.

の明治五年以降同一年に於ける人口は其間多少の増減ありとはいへ、概れ停緩状態を呈し、同廿二年以後その出生及び死亡を比較すれば、毎年三百一三百五十人の増加を續く。されど斯の如く事實上増加しつつあるにも拘らず、統計上は停緩もしくは減退の傾向を示す。これは舊土人の統計を得ることが如何に困難なるかを如實に示すものにして、即ち現行法上、舊土人と内地人との區別なきのみならず、内地人と舊土人との間に生れたる子は、舊土人として保護せらるるものなり。當局の解釋は、何人も舊土人と認むべき者に限り舊土人として取扱ふといふが如き極めて漠然たるものなり。而して最近の調査に據れば、内地人にして舊土人の養子女もしくは婿・妻となりたる者一千八百八十一人、舊土人にして内地人の養子女もしくは婿・妻となりたる者八百九十八人に達し、年と共にその數が増加しつつある傾向に徴するも、人口統計に現る舊土人の數に實數と相當の懸隔あるか首肯し得。また一方、舊土人の統計は一定不動の舊土人部落、即ち給與地を附與せられて定着せるものか基礎として調査せらるるものなれば、部落を離れて道内の諸都市、或は他府縣に轉住せる者の多數あることを考慮に入らる要あり。而して統計に基く人口は昭和十一年末に於て人口一萬六千五百十九人、出生五百七十一人、死亡四百七十七人、其千分率は

前者三十五人、後者十九人、差引六人の自然増加にして、總數に於て前年より百三十人増加せり。なほ分布状態を支離別に見るに、其數の最も多きは日高の一千四百四十七戸、六千二百五十八人にして、膽振の九百五十八戸、四千三百七十二人、十勝の三百六十八戸、一千三百七十三人これに次ぎ、其他、道内の各地に散在す。謂ゆるアイヌは多毛の人種にて、眉根・眼窩の狀態は西洋人の相貌を有す。かかる種族は白人種を除きては白人の血を混じたる濠洲土人に見らるる外、太平洋沿岸には見られず、またその言語は吾大和人種の膠着語とも異り、また白人種の曲折語とも異なる複合語にして、アマ・カ印度人・エスキモー人種と西班牙の山間のバスター人等の語系に屬する言語なり。悉くアイヌは白人の血を混じて長く太平洋に孤立し、複合語系の文化に接しむたりしものと見做すことを得べし。〔交通〕(鐵道) 本道に於ける鐵道は開拓使時代に幌內炭山の開掘と共にその石炭輸送のため明治十三年に札幌・手宮間三五・一軒の幌內鐵道を建設したるに創まり、昭和十年末現在に於ては國有鐵道三、四九二・二軒、私設鐵道五一・七軒、計四、〇〇三・九軒に達せり。而して敷設の標路は初期の鐵道は何れも礦産物の搬出を主として建設せられ、私設鐵道は大正九年に鐵道者補助の外、更に拓

ホツカ—ホツカ

電費を以て補助の途を開きし以來、本道に之が發達を見るに至れり。いま本道の面積との比例を見れば、固有鐵道は面積一・六五方里につき鐵道一軒、私設鐵道を加ふるも一・四方里につき鐵道一軒の割合にして、これを内地府縣に於ける固有鐵道の面積一・〇九方里につき鐵道一軒の割合(昭和十一年末現在)なるに比較すれば劣位にあり、而も本道は資源豊富にして開拓の餘地多きを以て、なほ今後數設を要するもの頗る多し。本道の鐵道幹線は何れも中央より諸方に走り、函館本線・宗谷本線・根室本線・室蘭本線・北見線・石北線等とす。昭和十二年末に於ける固有鐵道及私設鐵道を列挙すれば、固有鐵道

Table with 2 columns: 線名 (Line Name) and 延長 (Length). Lists various railway lines and their lengths in kilometers.

Table with 2 columns: 社名 (Company Name) and 區 (District). Lists private railway companies and their respective districts.

Table with 2 columns: 社名 (Company Name) and 區 (District). Lists private railway companies and their respective districts.

本道に於ける鐵道は大正九年北海道拓殖鐵道補助法に依り、地方鐵道と共に補助を受ける事となるや續々建設せられ、昭和十二年末に於て一市一町十一會社、其延長一七五・一軒に達せり。而してこれ等の動力も時代の趨勢に伴ひ漸次電力化

Table with 2 columns: 社名 (Company Name) and 區 (District). Lists private railway companies and their respective districts.

Table with 2 columns: 社名 (Company Name) and 區 (District). Lists private railway companies and their respective districts.

され、地方鐵道にありては定山溪鐵道、洞爺湖電氣鐵道、鐵道にありては札幌市營鐵道、帝國電力鐵道、旭川電氣鐵道、大沼電氣鐵道及び旭川市街鐵道の七社に及ぶ。更に本道の交通機關として特記すべきは植民鐵道及び森林鐵道にして、植民鐵道は拓殖促進のため新開地方の物資輸送を目的とし、簡易なる鐵道を敷設せるもの、大正十三年に根室國厚床・中標津間に試験的に敷設せしを初めとし、いま道内移住民の多數なる所には殆んど敷設せられ其延長四七・七軒に及ぶ。また森林鐵道は本道の固有林經營上、官行新伐製品

五二五

輸送の目的を以て鐵道及び鐵道を敷設したるものにして、其延長は三七四軒に及び、其餘力を以て民間の物資輸送の需に應じ、沿線住民の便宜を計れり。(道路) 本道の國道は一百五十一里にして、沿線間及び岩見澤・室蘭間に通ず。地方鐵道、拓殖費よりの支辨に成るものにして六百三十二里に及ぶ。主として宗谷・十勝・上川・釧路・宗谷地方に多し。この道路は二十六線に分れ、その幹線は、(1)札幌より日高海岸の幌泉に達するもの。(2)札幌より北龍・留萌・天鹽を経て稚内に達するもの。(3)釧路より帯廣・大津を経て根室に達するもの。(4)旭川より鐵道宗谷本線に並走し、蘆野・宗谷を経て稚内に達するもの。(5)旭川より鐵道石北線に並走して釧路に達するものとす。また地方鐵道の中には以上の幹線を連絡するものありて、海岸を走り、または千島火山帯を横斷す。即ち(1)北見海岸の頓別より南走して釧路・釧路・標津・別海を経て厚床に達し、(2)釧路の東の新旭より破火山・弟千屈を経て釧路に達し、(3)釧路の西南の美幌より津別・磯木倉・足寄を経て帯廣に達し、更に大正、大樹を経て釧路に出で日高海岸の幌泉に至る。(4)準地方鐵道、この道路は地方費にて支辨せらるるを原則とするも、例外として、拓殖費にて支辨するものあり。其延長は千七百二十四里に達し、主に中部以西に多し。その著しきものは、(1)函

ホツカ—ホツカ

館より渡島半島の東南岸を経て森に達するもの、(2)函館より江差を経て小樽西方の山田に達するもの、(3)札幌より喜茂別に通じ、こゝより北西は倶知安、西南は札幌に至り、また長流に至るもの、(4)札幌より石狩・増毛を経て留萌に達するもの、(5)日高の海岸平野より南富良野地方の金山に達するもの、(6)十勝の西南部の大樹より喜別・本別を経て西足寄に達するもの、(7)釧路南岸の大樹毛より阿寒湖岸を経て磯木倉に達するもの、(8)厚岸より釧牛を経て根室海岸の標津に達するもの等あり。其他としては市費支辨の市道(百八十四里)・拓殖費支辨の町村道(千七百三十三里)・町村費支辨の町村道(七千三百九十六里)等あり。(港灣) 本道に於ける現在の主要商港は函館・小樽・室蘭・釧路・留萌・網走・稚内及び根室の八港にして、函館港は本道の海産取引市場として益々隆盛を極め、小樽港は主として農産物及び木材の取引市場として近年特に異常の發達をなし、室蘭港は石炭の輸移出港として古くよりその使命を有し、釧路港は木材・石炭及び穀物の輸出港、根室港は水産物の集散港、網走港は北見の沿岸唯一の漁港、稚内港は樺太との連絡港、また留萌港は石炭の移出港としてそれぞれ進展し、各特有の價値を顯はせり。國庫補助鐵道は本道沿岸の全周を十一線(函館・小樽線、函館・標振線、函館・釧路線、函館・占守線、函館・根室

甲線、函館・根室乙線、函館・鹿部線、小樽・稚内線、根室・占守線、根室・近海線、稚内・香深線)十八區間に分け、受命會社として定期航海をなすため、以て陸上交通機關の短を補ひ、併せて廣く離島との交通運輸の利便を圖れり。また内地諸港との往來を往來するものは、北海道に於ける諸官署の命令航路となれるを以て、僅に市費航路の三線(函館市の三陸線・三陸線、釧路市の豐登線)あるのみなり。對外自由定期航路には主として一千一三噸の船舶にして、主に小樽・釧路・根室と内地その他の地方の諸港間を連絡す。(航空) 昭和十二年四月一日より札幌・東京間九四〇軒の定期航空が開始せられ、一日一往復により旅客及び郵便物の輸送を行へり。而して十二月一日休航に至るまでの運航日数は二百三十三日(航路四十一日)間に札幌飛行場に於て發着したる旅客数は一千九百人、郵便物は約二十萬通に達し、交通及文化の促進に寄與するところ益々其大なるものあらん。(産業) (農業) その重要作物は米・麥類・馬鈴薯・大豆類・大小豆・豌豆・玉蜀黍・甜菜・除蟲菊・薄荷・玉葱・林檎等極めて廣範圍に亘り、殊に甜菜奨励に基き甜菜栽培の勃興は一新機軸を開き、年々作付反別を増加し、着々北方特殊農業の使命を果しつつあり。また本道の氣候風土は飼料作物に好適し、約九十七萬町歩に達する廣大なる放牧適地を擁する

を以て牛馬・山羊を始め各種の家畜飼養に適し、農業經營を多角化し得る最適の條件を有す。昭和十一年末現在の北海道耕地の總面積は九十七萬三千二百九十一町歩にして、其内、水田は二十萬四千七百三町歩、畑は七十六萬八千五百八十八町歩を占め、これを前年に比較すれば、凶作の影響により畑地に還元せるもの増加せしため、水田に於ては六千三百七十五町歩の減少なるも、畑に於ては二萬一千八百八町歩の増加を示す。現在本道の全面積に對する割合は一分一分、その農耕地に對しては約六割一分、農家一戸當の耕地面積は四町九反、これを府縣の一戸當九反三畝に比すれば實に五倍に當る。これは本道の農業經營を多角化し且つ單位收量の増加を圖るべき餘地の廣さを示唆するものにて、極めて將來の發展性ある所以を物語るものといはざるを得ず。一方、農業戸數を見るに、昭和十一年末の農業戸數は二十萬五千四百四十四戸、人口は百二十萬五千四百三十六人を算し、これを前年に比較すれば戸數に於て百二十七戸の減、人口に於ては四千四百三十六人の増加を示す。これを自作・小作及び自作兼小作の三種に區分して觀るに、昭和十一年末に於ける自作は七萬五千六百六十六戸、小作は九萬五千二百七十七戸、自作兼小作は三萬四千七百一十一戸なり。自作農は大正十一年以來久しく漸減の一途を辿り昭和四年度を最低とし、其後は年々

Table with 4 columns: 品名 (Crop Name), 作付反別 (Cultivation Area), 收穫高 (Yield), 價額 (Value). Lists various crops and their production statistics.

か種別に見れば、(イ)米 本道の稲作は二百三十餘年前にその端を發し、爾來幾多の消長を經、今日に於ては新潟縣に亞ぐの米産地として聞え、本道中寒冷著しき根室・釧路・宗谷等二三の地方を除きては道内に到ると、その水稲の成育を見ざるはなし。昭和十二年度は收穫高三百三十萬石を越ゆるに至り、なほ今後に於て耐寒品種の育成を遂げ、且つ耕作上の技術に

五二五

ホツカ——ホツカ

より以上の改良を加ふるに至れば本道の米作は將來有望なるものあらん。而して其收穫量は凶作年を除き、現在道民三百十七萬五千人に對する食料の自給可能なると共に、餘剰は主として樺太または北洋漁場等へ移出せらる。...

勝及び網走支廳管内とす。大豆は品種極めて多く十福・中福・手亡・金時等にして、最も多く栽培せらるる地方は十勝・後志・空知・網走支廳管内とす。...

氣候に依り左右せらるるを以て殆んど網走支廳管内に限らる。從來その販路は取卸油として神戸等を經由し海外に輸出せられたるものなるも、近年は精製方法を...

村民の收入を増大し得べく、此點に於て本道は好箇の副業國となり得るの素地を有す。目下府縣移入品中の副業品は相當額に達するを以て、先づ自給を計るの必要を認むるものとす。...

ホツカ——ホツカ

七石を突破するの状況なり。(ロ)馬 一時は生産馬價格の暴落により減少の傾向を示したるも、最近はまた増加の趨勢に向ひ、而も實質に於ては逐年著しき進歩を見、その強健なることは今次の日支事變に際して微發されし多くの軍馬が府縣のそれに比して甚だ優秀なることが立證され頗る好評を博し、産駒の販路は全國に亘る。...

助成することとなりしを以て野米穀々發達せんとしつあり。(ハ)養蠶 農業經營の進歩發達に伴ひ、大に見るべきものあり。昭和十一年に於ては多少減少したるも、概して順調なる發達を見、殊に産卵能力に於て顯著なるものあり。...

豚の増殖を促進し、其肉工品の製造に年々増産の趨勢あり。昭和十一年に於てハム約三萬二千斤、ベーコン約二千斤、其他約六萬斤にして其價格約七萬二千圓に達せり。(ニ)毛皮動物 (イ)羊 羊は本道は自然的好條件に富むるを以て躍進的發達を遂げ、昭和十二年六月末に於ける美狐飼養戸數五百三十四戸、飼養頭數五千四百七十五頭、養狸は飼養戸數五百二十戸、飼養頭數二千八百三十二頭に及ぶ。...

漁洋に成を示すあり、また鮭・鱒は四洋に回遊して秋季に至れば數萬の河川に夥しく河上する等既に本邦漁業の大業を成す。而して年久しく本道の生産額中首位を占めし、近時開拓の内陸に逐むに從ひ本道産業の重點も漸く農工に移り、近年に於ては第三位にあるも、なほ本邦水産總額の約四分の一を占め、依然、水産國たるの名を尋しめざる状態なり。...

ホツカ—ホツカ

向にありしが近年再び隆盛となり、昭和十一年に於ては金局・二酸化を合せて其生産量は二萬七千三百餘噸を示したり。...

用品は道内の生産も年々増加の傾向にあるも、人口の増加と共に其消費力も旺盛にして府縣より多量の物資を移入する關係上、年々移入超過を示す状態なるも、...

Table with 3 columns: 港名 (Port Name), 輸出 (Export), 輸入 (Import). Lists ports like 函館港, 小樽港, 室蘭港, etc., with their respective trade volumes.

樽、同二十四年には釧路、同二十八年室蘭、同四十三年根室、更に昭和十年留萌と順次開港を見、本道六次貿易港として逐年繁盛に赴き今日に至る。...

五二八

概勢は次の如し。(前節港)輸出は支那・關東州・海峽植民地、並に歐洲向の海産物を主とし、輸入は支那並に關東州の豆...

ホツカ—ホツカ

【沿革】(古代) 北海道史(北海道廳編纂)は伊弉諾・伊弉冉兩尊の生みませる大八洲の一なる越洲を以て北海道の地に擬するも、これ必ずしも執り難し。...

【沿革】(近代) 船一隻、與五色旗一、被地神二、内入船、時同省蝦夷地、地名二人運白、可以後方半路、為政府所、...

三月、阿倍臣、率船師三百艘、南渡、阿倍臣、率船師三百艘、南渡、阿倍臣、率船師三百艘、南渡、...

【沿革】(近代) 船一隻、與五色旗一、被地神二、内入船、時同省蝦夷地、地名二人運白、可以後方半路、為政府所、...

扱て場所請負人の多くは近江商人にて、夷人に進歩せる漁法を教へ、或は夷人を使役して新器具による大規模の漁業を行ひなどして、産物の増加著しきものあり。従て蝦夷島の産物は彼等によりて世に弘められたるが、近江商人は新くして實に開拓使時代まで蝦夷地の経済界に重きをなしたりしなり。されど之を社会的に見るとき、彼等は産額を増大したりと雖も、一方に於て藩主以下藩臣に奢侈の資を供したる結果となり、他方に於ては夷人に奢侈の習慣を植ふ付けたる結果となれり。従て夷人は魚貝等を自分等の食するだけを探り、酒とても野生の稗などを貯へ隠して年に數回飲むを得たるに過ぎざりしが、今や場所請負人によりて收入の殆ど全部は酒・煙草、其他の奢侈品に費へられて、其間文化の向上など殆ど見るべきものなかりき。藩の政策として、一方、夷人には知識を興ふべからずとし、他方、和人の漁道を禁じれば夷人は向上せず、開拓も進まざりき。然るに寛永廿二年、露船千島に現れ、その野心を知るや、中央にては朝鮮、北邊の急に着眼するに至ると雖も、一方領主たる松前氏は寛文九年、島根の夷船沙貝漁を中心として東西の夷人叛亂して和人数百七十餘人を殺戮したるも之を討伐する實力なく、遂に幕府は旗本松前藩を遣して討伐せしめたるの態なり。幕府に對する態度は、争にして蝦夷松前氏の出なる旗本松前藩

廣の取なしにより幾分覆ひ得たるも、かの叛亂に津輕藩兵七百餘人の加勢ありしこと等世に隠し得ざることなりき。其後夷人の叛亂はたゞ一回國後日根蝦夷の叛亂のみにて、爾來終息したれども、露人の北侵、英船の餘威、いま宗廟市の内、來訪あり、また厚岸の夷船イコトイは露人と和親結託する等のことありて、幕府は最早この微弱なる松前氏に北邊を託する能はざるの狀態に立ち到れり。故に於て幕府は先づ寛政十一年、東蝦夷地を直轄し、場所請負人が夷人より食りて夷人の感情を害するを恐れて、之が交易を幕府・夷人間の直轄となす。文化四年には西蝦夷地をも幕府の手に取めて箱館奉行（のち松前奉行といふ）の所管となし、かくて松前氏は陸奥津川に移封せらる。北邊の急と共、公私孰れかの資格を以て蝦夷地を訪れて益したる者多し、中にも近藤重藏・伊能忠敬・間宮林蔵・最上徳内・松田傳十郎・高田屋嘉兵衛などは主なるものとす。天明六年に最上徳内は樺提島に至り露人イロムコ（イロムフ）に遇ひ、更に得撫島に至り調査す。近藤重藏は寛政十年、十勝國に於て山道二里を開きしが、これ蝦夷地に於ける道路開闢の嚆矢なりといふ。同十一年には高田屋嘉兵衛は樺提島までの航路を開く。翌十二年伊能忠敬は東蝦夷地を、間宮林蔵は西蝦夷地を各々實測して茲に蝦夷地の全地圖編む。また同年近藤重藏は樺提島に至り露

人の建てたる十字架を倒して日本國の標柱を建てたるに今もエピソードとして世人に知らる。かくの如き北邊の狀態を察し、武藏國八王子千人頭原半左衛門は部下同心の子弟厄分の者約百人を引連れて蝦夷地に赴き公役に従はんことを幕府に申出づ。かくて寛政十二年、幕府は彼等を津川・白糠の兩地に移住せしめ小銃と農具とを興へて警備と開墾とに當らしむ。これ謂ゆる屯田兵にはあらざれども蝦夷島に於ける此種移住の最初とす。扱て露人の侵略は従來多く千島方面にて、精々東蝦夷の北邊なりしが、文化に入るや露人は頻に樺太を侵す、かくて文化五年松田傳十郎・間宮林蔵は樺太島を巡察し、林蔵は更に大陸に渡り滿洲のアルシまで至りて歸國す。同じく文化年間には邦人が露將ゴロイソフ外七名を國後に捕へて福山に至るとか、高田屋嘉兵衛が露人に捕へられ勘察加に至るとか、事態頗る急迫せる觀あり。茲に於て幕府は頼りとなる和人が蝦夷島に少きを養ひ、越後・南部より農民を募集し居小屋・農具などを供給し開墾に従事せしむ。その多くは箱館附近にして、大野・文月にては水田成功し、同十二年には田百四十町歩ありと云ふ。其頃、奉行所の經費は到底多くの植民をなすに足らざりしかば、豪商に土地を割渡して開墾を奨励したりしが、度一凶作に遇ふや事業は頓挫して移民は難散し、水田また空しく荒蕪するの

狀なりき。かくの如き保護移民は失敗多きに拘らず、自由移民は相當の數に上れり。即ち嘗て奥羽等にて水害天災により耕地を荒されたる農民其他は蝦夷島移住を望みたれども、松前藩政時代は之を阻止したりしが、幕府は歓迎したれば、東蝦夷地にては小安・戸井・尾岸内・尾札部・茅部・野田追の如き、和人の著しき増加ありて場所制度は廢せられ、村並となる。箱館は文政の始め既に一千戸に達し、近在には植民により、新に本郷・中野・千代田・一本木・藤山・峠下の諸郷を生ず。文化四五年頃の調査によれば和人の戸口は約八、八八〇戸、約三一、七四〇人、夷人の戸口は約六、〇三〇戸、約三六、八〇〇人なり。文化三四年の頃は露國の暴狀最も甚かりしが、此頃津輕・南部・仙臺・會津等の諸藩に之が警備を命じたることあり。然るに文政四年に至りて幕府は幕府の從來なされる方式により藩政すべきを命じて、蝦夷島を松前氏に還す。されど松前藩には君臣ともに蝦夷島拓殖の進展などに寄與すべき人物なかりしが、天保の飢饉は、政策の有無に拘らず、南部・津輕・秋田等の罹災民を蝦夷島に自由移民となしたりき。而して従來和人の少かりし西蝦夷地は俄然繁昌し、商店は勿論、髮結・按摩などまで開業するに至るといふ。尤も松前藩は舊慣に従ひ磯丹半島の神威神以北へは婦女の出入を許さざりしかば、妻子を伴ふものこれ

只北に入らんとせば妻子と別れざるを得ず、従て神威神以南に多く土着す。殊に岩内の如き天保飢饉以前には僅に二十餘戸なりしに、嘉永年間には五六百戸となり、その多くは天保年間に増加したるものなりと云ふ。岩内の外に古宇・磯谷・歌峯・藤部・島小牧など何れも百乃至二百戸の部落を成せり。（なほ「忍路高島及びもないがせめて歌峯磯谷まで」の假説の忍路及び高島は實に神威神以北にある地とす。）かくて文化四五年頃和人数萬一千七百餘人なりしと云ふに、其後、約四十五箇年を経たる嘉永六年には六萬三千八百餘人となる。而して此等の中心地は福山・箱館・江差の三港にして各々戸數が五千二百餘・千七百餘・千四百餘ありしといふ。文政・天保・嘉永の間外國船北邊に現はるること多く、殊に嘉永六年には、露國樺太に上陸して櫓を立つとか、露使長崎に來り境界決定を迫るとかあるに、米使ペルリまた浦賀に來り、翌安政元年には神奈川條約締結せられ下田・箱館の二港を開くに決す、かくて同年には箱館港に米國軍艦來り、その六月には箱館奉行設置せられて箱館地方は奉行の管下となる。同二年二月には水古内以東、乙部以北を箱館奉行の管下となし、更に同年三月松前・仙臺・秋田・南部・津輕の五藩をして蝦夷島の警備に當らしむ。且つ露國は樺太まで迫り居ることとて、奉行は神威神以北の婦女入禁を解く、制

へこの方面は魚獲に當みしかば漁民等の頼丹より濱益にかけて移住する者多し。殊に小樽・余市・石狩に大聚落をなす。また奉行は従來の旗人入役錢を廢し蝦夷島への出入を自由になしたれば、奥羽北陸の農民及び諸地の商人などの渡來は増加す。然るに奉行は警備上武士の移民を希望し、また當時武士階級も財政的には相當困難なる狀態なりしに鑑み旗本・家人、殊に二三男、厄介者そのほか階級浪人を蝦夷地に屯田せしめんとし、先づ精選して二〇〇人を移民せんとせしに應募したる者一六人なりき。之により未だ蝦夷地に内地の一般人に理解せられざりしを推知すべし。以上の農民及び武士等は箱館在の七飯、石狩場所の發賣（今の札幌郡琴似村）同里置（今の札幌郡手稲村）室蘭等に部落をなしたるが、そのうち安政四年發賣・星置に入りし者は實に石狩平野の草分にして、その内の志村鐵市なる者の豊平川畔移住が札幌の草分なりといふ。神奈川條約にては箱館は單に薪水・食料等を供する港なりしが、安政六年には一般的なる開港場となり、幕府は土着者を作りて一層警備を全からしめんとし、此年仙臺・會津・秋田・庄内・南部・津輕の諸藩に蝦夷地を分割して與へ、開拓せしめんとせども殆ど效果なかりき。一方、箱館奉行は安政二年以來官費開墾を始めたが、保護期間を過ぎれば難散する狀態なりき。然るに助成貨

付は幾分の好結果を得たり。箱館商人にして移民を募集して開墾する者もありしが、云はば雙り種として東西本願寺と相馬藩との開墾移民あり。即ち安政六年西本願寺にては本山に於て但馬・越前・加賀・能登の農夫三七四名を今の上磯町の地に移して、清水村と稱し、萬延元年には寺を建立するまでに至る。同年東本願寺は今の龜田村の地に越前の農民數十戸を移して安室村と稱す。相馬藩の家老熊川兵衛は津輕・秋田・南部より移民を募り箱館在の軍川（今の七飯村の地）及び石川（今の龜田村の地）に移民す。其他の狀況を一瞥すれば東蝦夷地にては室蘭（今の元室蘭の地）が發達す。此地には土着者よりは出稼人多く集りしかば旗人宿が部落をなすに至れり。西蝦夷地にては小樽・余市・石狩の如き市街をなし商家・妓家を始めとし寺院もあり醫師も居たりと云ふ。殊に此頃に至りて小樽は場所請負人制度を廢し村並となるに至る。石狩原野には發賣・篠路・中島・札幌の諸聚落形成せられ、岩内原野には幌似・發足の開墾地ができ、濱益には庄内藩の開拓せし柏木原・吉岡・山崎・阿蘭陀・黄金その他の聚落あり。雄牛嶺以内にては増毛・留萌・利尻に入稼漁業者が増加し、殊に留萌にある庄内藩の開きし賢別・茅原の開墾地は特記に値す。即ち幕府より開墾の目的を以て分割授與を受けたる諸藩の領地中に於て開墾せられたるは、殆

ど庄内藩に依る此等開墾地の分なりしなり。このほか見るべきものに宗谷あり、此頃寺院が建立せらるるまでに發展したりき。かくて嘉永六年には和人数萬三千餘人なりしが六年後の安政六年には八萬人以上となる。その主なる増加地帯は箱館附近と西蝦夷地なり。總體の分布如何と云ふに、松浦武四郎の東西山川地理取調圖安政人別によれば、箱館地方三萬餘人、福山地方三萬餘人、江差地方二萬餘人、熊石地方（熊石より乙部に至る幕領八箇村）六千三百餘人、合計八萬六千餘人。（開拓使時代一明治維新の大業成るや天皇は直ちに、即ち明治元年三月蝦夷地開拓の義につき御諮詢あらせらる。諸藩は北邊防備並に拓殖の急務を答へ奉り、かくて同年四月箱館裁判所の設置となり、同じく五月一日五稜郭に新政を開き箱館府と改む。藩政時代より樺太は蝦夷島の屬島として北蝦夷の名ありしが、此度も亦箱館府の管下となり、特に露國との關係上重視せられ、同じく六月農民二百を募り、權判官岡本監輔これを引率して樺太に赴く。同じく九月松前藩は新城を館村に築き、之より藩名を館藩と稱す。同じく十月廿日、舊幕府の脱走軍は樺本武揚に率ゐられ開陽閣以下に乗じて蝦夷島に來り霧水に上陸す。廿二日より官軍との間に交戦あり、廿四日箱館府知事清水公考等は青森に遁る。ついで脱走軍は十一月五日福山城を、同十五日館

ホツカ——ホツカ

城を陥れ、かくて十二月脱走軍は投票によりて總裁以下を選舉し蝦夷地に政令を布く。翌年四月征討の官軍乙部村に上陸し江差・福山を奪取、五月には箱館港内外にて戰鬪、同十八日脱走軍遂に降る。茲に於て政府は聖旨を奉じて蝦夷地開拓の方針を定め、同年六月、薩定鍋島直正を以て蝦夷開拓督務に任ず、時に天皇は左の如き優渥なる詔書を直正に賜ふ。

蝦夷開拓ハ、皇威隆替ノ關スル所一日モ忽ニス可ラス故直正深ク國家ノ重ヲ荷ヒ身ヲ以テ之ニ任セシメテ其愛國濟民ノ志情、朕嘉納ニ堪ヘス爾恐ル汝高年邁ニ殊方ニ赴クコトヲ然レトモ朕之ヲ汝ニ委ス始テ北極ノ憂ナカラン仍テ督務ヲ命ス他日、皇威ヲ北極ニ宣ム汝方寸ノ間ニアルノミ汝直正懋

かくて同七月八日開拓使を置き、同十三日開拓使督務を開拓長官と改め、諸省卿と同列たり。同二十二日薩藩以下蝦夷地開拓を依頼する者には土地を割渡すこととを布告し、八月十五日には蝦夷を北海道と改め十一月八十六郡に分つ。かくて北門の經營はただ其緒につきしのみなりしが八月二十五日直正長官を辭任し、同二十五日東久世通禧長官に任ぜられ、また優渥なる御沙汰詔を賜はる。新政府創業のあつたはし、一北海道のことに就き、ても視ひ知るべしと雖も、而も北海道は

前掲の謂動によりて推知し得る如く、維新前後には外國との關係上更に重視せられたりしなり。同年九月、東久世長官以下は箱館(此年、箱館を函館と改む)に赴き開拓の事務を始め、札幌・根室・宗谷に出張所を置き、之に列官を派す(根室・宗谷に出張所の置かれたること、如何に露國の侵略が重視せられたるかを推し得べし)。外に省・府・藩・寺院などの支配地は獨立の形にて存在したりき。明治三年移民を募集して札幌附近に配し、また同年、仙臺の伊達邦成主従は開拓國有地等に、佐賀藩士長は釧路國領・厚岸の二郡に移住し、其他薩藩の士族等の移民あり。之よりさき札幌の地を相して開拓三神(札幌神社)の奉遷並に官衙・市街地の創設を計り、また開拓使廳の築造もなせしが、慶成成るや四年東久世長官以下札幌に移る。同年六月、開拓使次官黒田清隆は米國農務局長ケブロン以下専門技師數十名を雇ひて歸朝し、同九月には從來の省・府・藩・寺等の支配を一切擯げ開拓使の所轄に統一し、かの技師等の新知識に従つて開拓せんとし、其費用として明治五年以降十年間に國庫より一千萬圓、外に本道の收入を擧げて開拓費に充つるの計畫を建つ。先づ前哨札幌開拓の道路開鑿、室蘭港の修築、ついで官營工場の建設等ありしが、經費の不足甚しく遂に兌換證券の發行、大藏省よりの借入等により補足す。按て右の諸事業は例れ

めたるものとす(別表は明治二年十一月の移民扶助規則に依る)中央政府にては開拓使のみの力にては開拓困難なるべしと

も起大なる規模なりしが、それは北海道の實狀と懸隔ありしかば、次には農漁工商の民業を當局が助成するといふ方針を執ることとなる。十一年には幌内炭山を開掘し、十三年には小樽を起點とし札幌に向ひて鐵道の敷設に着手し、また拓殖の指導者を得るため米人クラークを聘して札幌農學校(北海道帝國大學の前身)を創設す。同校は其初期に於て多くの偉大な人物を輩出したるが、そのクラークに負ふところ夥からずといふ。また彼が日本を去るに臨み、學生に殘したる「God bless you」(學生よ、大衆あれ)の語は當時學生に感銘を與へたるものとして今に語り傳へらる。天皇には明治九年奥羽御遊幸の御前儀に御立寄遊ばせられしが、十四年には小樽・札幌・千歳・白老・室蘭・森・七重・函館の各地に御遊幸せられ、具さに開拓の狀を見せられたる

一般移民に對しても次表の如き保護を與へたるが、特に募集移民に對しては別表の外に監費は勿論、開墾一畝歩に付金二

品目	十五歳以上	男女十五歳以下
銀(二日)	三匁	一匁五分
玄米(一日)	七匁	五匁
味噌(二日)	七匁	七匁
鹽(二日)	一升	一升
同九歳以下	同四歳以下	同三歳以下
銀(二日)	三匁五分	二匁
玄米(一日)	七匁	五匁
味噌(二日)	七匁	七匁
鹽(二日)	一升	一升
同九歳以下	同四歳以下	同三歳以下
銀(二日)	三匁五分	二匁
玄米(一日)	七匁	五匁
味噌(二日)	七匁	七匁
鹽(二日)	一升	一升

給ふ。十年計畫の終了を期とし明治十五年開拓使を廢せしが、同時代の移民開拓につき一言せん。募集移民は大部分農業者にして、士族は團體移民多くして農業に就く、外に豪商などの募集移民あり。こは多く漁業者なりき。開拓使の保護方針は、渡島國は既に奥羽に近き程度に開け居たるゆゑ此地方への移住者には扶助を與へざること、また漁業は當時収入多かりしかば之にも扶助を與へず、主として農地開墾移民を保護することとなす。尤も根室・宗谷方面の移住者には、露國との關係もあり、奥地にして寒氣も甚しければ漁業者と雖も厚く保護することとし、特に奨励したりき。例へば明治二年の根室出張所の移民給與は次の如し(明治二年十一月の移民給與規則に依る。このほか滿三箇年間は薪炭採高に對して手當を給す)。

たりしかば小樽・余市・岩内・苫部など移民増加して益々膨脹す。東部沿岸は増殖少く、根室沿岸に昆布の産多きを利用し、開拓使は之が移民を奨励して百戸ばかりを得たり。札幌は本廳ある處として開拓使頻りに移住を奨励したるが、明治四年同地に本籍を移せる自移民(應募者)にもあらず、また保護もせざる者二百戸あり。前哨は奨励もせざるに、明治二年より四年の間に自移民二千餘戸ありき。開拓使は過去の経験によりて結局官費移民の不可を感じ、明治五年以後は移民募集を廢し、爾來既往移民に對する間接保護により彼等の生活を豊かにし、その豊かなる實狀自體が宣傳し、移民を募すことを期するに至れり。次に人口の動態は開拓使開墾の明治二年の推定人口は十二萬一千餘人、六年には十七萬一千、十年計畫の最終年たる十四年には二十三萬二千と成り。なほ本道に始めて鐵道の敷設せられたるは此時代にして、即ち明治十三年小樽・札幌間に交通す。

移民扶助規則に依る		中央政府にては		開拓使のみの力にては	
年齢	補助	補助	補助	補助	補助
十五歳以上	七匁	四匁	三匁	三匁	三匁
七歳以上	七匁	四匁	三匁	三匁	三匁
四歳以上	四匁	三匁	三匁	三匁	三匁
三歳以下	三匁	三匁	三匁	三匁	三匁
男	三匁	三匁	三匁	三匁	三匁
女	一匁五分	一匁五分	一匁五分	一匁五分	一匁五分
同九歳以下	同四歳以下	同三歳以下	同三歳以下	同三歳以下	同三歳以下
銀(二日)	三匁五分	二匁	二匁	二匁	二匁
玄米(一日)	七匁	五匁	五匁	五匁	五匁
味噌(二日)	七匁	七匁	七匁	七匁	七匁
鹽(二日)	一升	一升	一升	一升	一升

支配者	移住地	人数
伊達邦成	有珠郡	1,000人
石川邦光	室蘭郡	1,100人
片倉邦靈	札幌郡	1,200人
片倉邦靈	札幌郡	1,300人
仙臺	山越郡	1,400人
佐賀	厚岸郡	1,500人
高知	厚岸郡	1,600人
高知	厚岸郡	1,700人
高知	厚岸郡	1,800人
高知	厚岸郡	1,900人
高知	厚岸郡	2,000人
高知	厚岸郡	2,100人
高知	厚岸郡	2,200人
高知	厚岸郡	2,300人
高知	厚岸郡	2,400人
高知	厚岸郡	2,500人
高知	厚岸郡	2,600人
高知	厚岸郡	2,700人
高知	厚岸郡	2,800人
高知	厚岸郡	2,900人
高知	厚岸郡	3,000人

し、諸藩其他に土地を割渡すこととし、兵部省・東京府ほか廿六藩八士族二寺院に此旨を傳達したるが、明治三四年の間に移住したる主なるものは左表の如し。

彼等は兎角政治を諒じ、貧困せまれば兎角邪道に陥り易かりき。政府は之を憂ひまた北邊の防備を思ひて、舊武士の移住を特に期待したるが、諸藩舊武士の移住は之ありしも、多くは失敗に終る。此中において特に成績をあげたる者に仙臺の伊達邦成あり、公達生活の中に生ひ立ちて而も舊位を救ふの熱意のもとに率先して艱苦をなめたるが、何しろ米食せざるに數十日といふが如き餘りの艱苦に、舊臣中には邦直を恐むの聲甚しきものありき。されど故郷田舎に先立ち邦成は舊臣を菩提寺に集め、「この移住は一は國家のため、一は各自一家のための乾坤一擲の職である。されば婦女の髪飾は勿論、祖先傳來の寶物までも賣拂つて經費に當て、千辛萬苦に堪へて必ず大業を成就し

よう」と云ひ一同は感激して之に參じたるものなりといふ(邦成の言はほぼ北海道移民史に基く)。之によりて推し得る如く郷里に歸りても一物もなき身、殊に如何なる困苦にも邦成自らは泰然たりしかば、舊臣は皆付きて遂に成功するに至る。明治廿五年邦成は開拓の功により男爵を授けらる。邦成と全く同様な苦心をなしたる、また同様な成績を収めたる者に伊達邦直あり。これ以外、箱田邦植主従が土着するに至りしほか士族團體の移住は殆ど失敗に歸し離散するに至る。かくて開拓使は舊臣の手薄を感じ、明治八年宮城・青森・酒田の三縣及び道内に士族を募りて札幌郡等に移住せしむ、これ屯田兵の嚆矢なり。當時代を激刺するに、後志國沿岸は鱈等の漁業に惠まれ居

明治十四年北海道人口	和人	舊土人	合計
札幌本廳管内	7,700	3,800	11,500
前哨支廳管内	12,400	2,800	15,200
根室支廳管内	2,100	1,000	3,100
計	22,200	7,600	29,800

ホツカ——ホツカ

維新當時、舊武士階級には無職者多く、

新政府の時、舊武士階級には無職者多く、

新政府の時、舊武士階級には無職者多く、

新政府の時、舊武士階級には無職者多く、

ホツカ——ホツカ

即ち本道を札幌・函館・根室の三縣となし、植民・山林管理等の拓殖を目的とする事務は農商務省及び工務省これに當る(翌年兩者の事務を統一して農商務省内に北海道事務管理局を置く)。當局は北海道をほぼ内地の府縣なみに取扱はんとせしが、北海道自體は未だ其域に達し居らざるのみか、前記の如く組織複雑にして政務の連絡おはしからざるものありしかば、同十九年これを統一して北海道廳の成立を見る。此間内地にありては未だ土族の囂なき者多く、相變らず政治などを無闇に論じて社會の物議を醸すこと多かりしかば、同十六年北海道移住士族取扱規則なるものを發布して土族の移住を奨励す。三縣一州時代の保護移住に應じたる者は山形縣一〇五戸(上磯郡木古田)・鳥取縣一〇五戸(東郷郡鳥取)・山口外八縣二七七戸(空知郡岩見澤)にて、僅少なれども比較的よき成績をなせり。次に道廳初期時代とは開設の明治十九年より第一期拓殖計畫樹立の明治四十二年までとす。當時の植民政策は、要するに食品採集による直接保護を不可とし、移民自身の獨立精神に因る發展を俟つもの、その代り間接に免稅、道路の開墾改良、並に地質其他條件よき土地を畫め選定し置きて貸下ぐる等の保護をなすものなり。この政策下にありながら開墾相當の移住者ありしより見れば、内地の一般人間に北海道の事情が相當理解せら

るに至りしを推知し得べし。擬て三縣一州時代までの開拓は多く札幌附近及びその南西の海岸に止る。勿論これ以外廣大なる優良地ありて之を開墾すれども、新移住者は兎角既に開かれたる地の近くに行くを過例とし、開けざる地は何時までも開かれざる傾向あり。孤立し移民自身に種々なる不便困難を生じ、且つまた拓殖當局としても、分散は保護其他の上不便ありければ、當局は二十六年より未開にして廣大なる地へ集合移民せしむる方針をとる。同様の意味にて、單獨移民より集團移民の成績比較的良好なるを以て、道廳開設以來、諸府縣廳と聯絡をとりて集團移民を奨励し來れるが、其内には二十二年に於ける奈良縣吉野郡十津川郡及び四十一、二年に於ける山梨縣の集團移民は主なるものとする。これ等は大地に於て大水害のため耕地を失ひたる農民なり。之よりさき明治十九年に發布されたる土地移下規則なるものあり、之は開拓成功後と雖も有償にて移下ぐるの制なり。かくては開拓進捗せずとて、廿年成功後は無償にて移下ぐるの制となしたるが、當時實際開墾せずと將來とも自ら耕作せざる相當の大資本家を歓迎して、大地域を供したるは甚だ遺憾のことに屬す。その當時は前記の如き露國乃至は土族に對する懸念もなく、しかも開拓を急ぐ必要なかりしなり。かかる状態なりしに拘らず、内地にありて小作の貧困に罹

れたる農民をして再び小作人たらしめ、あたら新天地に今日見るが如き多數の小作を存在せしむるに至る。されば、此時代に於ける植民状態を概観すれば、島取村以外には殆ど和人の居らざりし釧路方面に多數の移住者あり、石狩の北部、十勝・日高・釧路にも和人増加して、俱知安・岩見澤・瀬川・深川・旭川・名寄・帯廣などには市街を見るに至れり。而して移民の七割以上は奥羽と北陸より來れる者とする。なほ故に特記すべきものとして屯田兵あり。はじめ西郷隆盛は北邊の防備の薄弱と土族の徒食とを懸へて之を重したるが、その制度樹立の趣は開拓次官黒田清隆の政府への建言に明なり。即ち「領土固より他府縣に準じ設立あるべしと雖も其完備を求むれば費用甚だ洪大にして難かに辨ずべしにあらざり、今略屯田の制に依り民を移して之れに充て且つ耕し且つ守らしめば則ち拓地兵備兩ながら其便を得ん」と云ふ。然し裡面には、土族移民は保護政策に出づれば憤民となり、自力に俟たんとせば歸還せる従来の失敗に鑑み、兵制の力によりて怠惰と離散とを防がんとする意味もありし如し。とまれ明治七年黒田清隆を陸軍中將に任じて屯田兵事務總理たらしめ、同年札幌郡野原に兵隊二百戸を新築し、翌八年青森・宮城・酒田及び道内より土族百九十八戸、男女九百六十五人を募集す。これ屯田兵の嚆矢にして、明治十五年陸軍省

へ移管するまでには僅に五百戸に過ぎざりき。此後大いに増加を計りしが二十三年に於ける七百八十八戸を以て最高率とすべし(また此年以後、屯田兵には平民をも採用するに至りしが、これは此項既に土族の徒食者もほゞ影を失ひたることを物語る)。二十八年第七師團を札幌に置くや、屯田兵はその管下に入り、三十二年の四三六戸を最後の募集とし、三十七年屯田兵第三大隊の解散を以て屯田兵は現役を失ふ。廢止の理由は、北海道は今や屯田兵の如き特殊制度なくして拓殖及び防備をなし得る程度に發展したるが故なり。即ち北海道はその人口に於ても屯田兵の創設當時(八年)の一八萬餘人に對し最終解散の年には一・二萬餘人となりしなり。以上明治八年より三十二年までに募集したる屯田兵は七、三三七戸、三九、九一人にして、かくて處分せられたる未開地は七四、六五一町歩なり。屯田兵制度を概観するに、その目的たりし土族救済は必ずしも好成績ならざりしも、西南・日露の兩役に従軍して功を建て、協同的團體開墾乃至は新式開墾の範を垂れ、開發の先驅者乃至は試驗者として後進に幾多の參考を供したり。殊に風俗の模範を垂れたるは特記に値す。屯田兵の兵員の資格は土族(後に族籍に關係なし)にして年齢は初め一八一三五歳、十八年以後は一七一三〇歳、廿三年十一月以後は一七一二五歳、身體強健にして

Table with columns: 國名, 郡名, 村名, 兵村名, 戸數, 移住の年. It lists various regions like 石狩國, 空知郡, 札幌郡, etc., and their respective villages and settlement years.

ホツカ——ホツカ

家族を有する者に限る。年限は初め世襲的なりしも後に廿年と限定す。編成は五名を一伍、六伍を一隊、四分隊を一小隊、二小队を一中隊、二中隊を一大隊、三大隊を一聯隊、一箇中隊を以て地方單位とし、その地域を兵村と呼ぶ。石狩國美瑛町に於ては今に二十四年兵村・二十五年兵村・二十七年兵村などの字名ありてその名残を留む(蓋し年次は屯田兵として移住せし年とす)。兵村を表示すれば上表の如し(村名は明治三十三年當時なるも括弧内は現在の市町村名とす)。以上の外に道廳初期時代に特記すべきは、三十年に郡役所を廢して十八支廳を置きたること、三十二年札幌・函館・小樽に區制を、次で渡島國龜田郡大野村外十五箇町村に一級町村制を布きたること(北海道に於て自治制施行の嚆矢)、三十四年に北海道會の開設を見るに至りたること(内地に於て府縣會は十二年に開設)、三十五年始めて札幌・函館・小樽の三區より各一名づつ衆議院議員を出すに至りたること、(國會は二十三年開設)にして、何れも北海道の發展乃至は日本に於ける地位の向上を物語るものとす。但し財力その他の關係上、自治制を布くに達せざる町村に對しては三十五年二級町村制を發布して石狩國札幌村外六十一箇町村に對して之を實施し、二級町村制にすら達せざるものには舊制通り戸長役場を置く。蓋し戸長の名は明治三年の移民規則に、五戸を

一組とし、二十五戸に長を置き、之を戸長と稱へたるに始まる。(第一期拓殖計畫以後)第一期拓殖計畫は明治四十三年度より十五箇年に亘るもの、のち延長せられて十七箇年となり、昭和元年度に至る。之よりさき廿四年開田長官は所謂十年計畫なるものを樹立せしも途中に日露戰爭ありて挫折したり。然るに第一期拓殖計畫は途中に歐州大戰ありしたため、頗る順調に達成せられたるなり。即ち第一期拓殖計畫の財源は、毎年度政府支出定額二百五十萬圓以外は、本道に於ける國庫の自然増収を以て充當することとし、總算總額七千萬圓なりしところ、歐洲大戰による自然増収多量なるものありしかば經費を増額して完成までに總額二億餘萬圓を要するに至れるものなり。但し自然増収中最大なるものは森林收入なりとす。開拓使開設當時の財政は、本道歳入(誠に僅少なるもの)の外に、一般國庫より支出する年額は十三萬兩と米九千石にして、之を以て一切の歳費に充當せしものなるが、第一期拓殖計畫の後年に於ては一箇年の拓殖費一千九百萬圓といふが如き尨大なるものにて、大正十二年には戸長役場の全廢を見たり、まして其他の發展推して知るべし。この大規模なる計畫中の主なる支出は、道路橋樑費の三、九一〇萬餘圓、港灣費の三、五三四萬餘圓、森林費の二、二四九萬餘圓、治水費の一、八五七萬餘圓、土地改良費の一、

二七九萬餘圓、植民費の一、二三〇萬餘圓なりとす。...

六十三萬七千町歩となる。畑の開墾は微少なりと雖も、田に於ては四倍以上の増加にして、...

Table with columns: 年 (Year), 募集数 (Recruitment), 移住 (Migration), 去退 (Departure/Return), 差引 (Difference). Rows for years 大正十二年 through 同六年.

て河東郡七槻村にある上士幌驛に至り、省線士幌驛に接続す。...

合す。流域三〇〇軒に近く、主なる支流に上流より金城川・水入川・昭陽江・洪川江等あり。...

辛卯二月、國家萬全の計を成さんとす。島の子王公設り以て守其國云々の語に...

於て合流、更に東流すること凡そ三軒にして本流に合す。...

門、東部の弟子山和尙あり先師聖代の法燈を授け來寮、經歲を經營せり。...

ホツタ—ホテ

五・九二方。地形東西にやや長く四角を山地に開かれ、村内概ね山地なるも、日野川の一支流村心を北流して谷をひらく。山麓低地と共に耕地を拓き米・麥・蕎麥及び油の産多し。山地は北部に原野を有するも他は山林に蔽はれ薪材・木材・木炭を産す。酒・醤油等の製造も行はる。米子市より社線伯陽電通し、法勝寺驛(大正十二年設置)を置く。(長田神社)大字馬場に鎮座。郷社。祭神、多古理比賣命・磐田別命外二神。もと岩國山東北に鎮座し、當國最古の神社なりと傳ふ。例祭、十月十五日。

ホツタ

堀田村 山形縣羽前郡南村山郡の中部。山形市の南方約七村。奥羽山脈の西斜面にて、東境に蔵王山の西北麓なる鳥兜山(一四〇一米)・三寶窟神山・湖山(一三六四米)等連り西方に傾斜し、西部は山形盆地に屬して平坦なり。群川は南境を西流し、流路を變じて西部を北流す。米・蕎麥を産す、また稲芋の養牧行はる。道路は西部を南北に通じ、北方山形市に至る。奥羽本線金井驛へは西約三村なり。この地は蔵王高湯温泉あるを以て知らる。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際、此地に御小休をせらる。(蔵王高湯温泉)地は海拔九〇〇米、東に三寶窟神・熊野神社・刈田の諸峯を繞らし、北には鳥兜・地蔵の連山を帯び、南に高アア山を控へ、西の一方のみが山形盆地に長く、夏は涼しく盛夏

と雖も二七度を越えず。泉質は酸性硫酸泉にして硫黄盛んに噴出し、東北の草津と云はる。この湯は今より七百年以前、貞應年間の見聞と傳ふ。

ホツツ

堀津村 岐阜縣美濃國羽島郡の西南隅。岐阜市の南方二〇村。北は福壽村に、東は江吉良村・上中島村に、南は桑原村に夫々接し、西は長良川を隔てて安八郡大藏町および海津郡海西村に對す。此地は近村と共に木曾・長良兩川に挟まれし地域にて水害多きため輪中を作り、桑原輪中の中に屬す。濃尾平野の中部に位し、平地には米・麥の産多し、堤外地等には桑畑多く養蠶も盛なれども、近年は生糸安のため繭の産額は漸減の傾向あり。交通は餘り便ならざるも、竹ヶ鼻町に近し。昔は原長岡長岡大須郷の内中島と稱し、慶長十四年の檢地の際にも津村と改稱さる。元は木曾川河口の阿多にて洲島をなし、無人の境にて、漁夫が一時的に住みそれが永住し、アルタは更に發達し今日の如くなり、水に四圍されしため中島の名を得たるもの如し。康正二年造内親段兼國引付に「伊賀美作守殿尾張國津北方段」と見ゆ。大字須賀には須賀城址あり、いま定城と云ふ字名を存す。天主閣のありし處と傳ふる場所は開發山と呼ばれ、海拔一五米にて村内の最高地とす。本村の加藤家は美濃左衛門尉行信、須賀城主となり城内下野野分合衆要二百五十石を受領し、

ホツツ

其子美濃共三部尉信春は太女兵に仕へ、孫美濃正徳右衛門行正に至り、土岐氏の臣となれり。其後、藤右衛門正由に二子あり、長子を其三部正徳と云ひ、次子を肥後守清正と云ふ。これ有名なる加藤清正にして、加藤家の古記録を考合するに須賀城にて清正は狐の聲を挙げしものか。また明應丙辰五月廿九日に土岐元頼、石丸利光等、方縣郡常磐村の城田寺の戦に敗れて自殺せりといふも、實は本村に逃れ制置し、開闢王寺を建立して住みしと云はる。

ホツツ

發哺(平塚村(長野縣)) 北方面 朝鮮江原道洪川郡の西北部。洪川西の西北に接し、北は春川郡と界す。東西約一五村、南北約八村あり。西部に金鶴山(六五五米)、南境に削峰(四七六米)聳え、城內山脈なるも高峻ならず、北西部は二三百米の臺地状をなす。洪川江東より西へ蛇曲流し沿岸に平地ひらけ、特に東南部洪川邑に近くやや廣く平地傾はる。米・麥・大豆・棉花等を産し、また砂金を出さす。東部の洪川江及びその支谷に沿ひて春川・横城間二等道路通じバスの便あり、東部は交通便なるも、西部は里道を通ずるのみにて交通・運輸ともに便ならず。

ホツツ

穂積(下種積) 一宮市の東方三村。北は古知野町に、東のありし所に於て、今は東海道本線の保土ヶ谷驛(明治二十年設置)を置き、此地より社線神中鐵道發す。

ホツツ

保戸島村 大分縣豊後國北海部郡の東南端に突出する半島の尖端に續く保土島を占む。周囲四村餘、面積〇・八六平方村の島にて丘段をなせど、全村の九分通りは畑にて「ヤマイモ」のみを産すかと思はる程なり。季節によりて村民は豊後・五島方面へ出稼ぎ漁獵に出づ。島は水少く、四百足らずの人家は飲料水を唯一つの寺の背後なる泉を用ふ。また島々の井戸にては女達が洗濯水の湧くを待つかと思ふ程に水少し。時々は船に桶を乗せて隣村の四浦村へ水を汲みに行くと云ふ。燃料に至りては殆ど外部より供給を仰ぐ。人口は二五七〇人にして人口密度は一方村二九八八人に達し、漁獵が終へて男達は實に難る場もなしと言ふ。故に半分は他家にて難るか、或は役場の當直室などを借る。梅田國男(海南小記)多考。交通は四浦港と四浦村の西隣なる日代驛(各線日豊本線の一驛)へ發動機船の定期航路あり。此地は和名抄、海部郡穂積門の内にて、風土記の穂積郷とあるも此處なり。明治二十五年に四保戸村より分割獨立す。

ホツツ

保戸島村 岐阜縣美濃國山縣郡の東南端。北は千疋村に、東は武儀郡小金田村に、南は稲葉郡芥見村に、西は春近村に接し、更に巖美村を隔てて岐阜

ホツツ

は大口村・東春日井郡小牧町に、南は岩倉町・千秋村に、西は西成村に夫々接す。南北にやや長く、面積七・一六平方村。本村は尾北扇狀地上に位し、沖積層より成り、扇面は砂地より成り、布袋野と呼ばれる。扇面は桑畑多く、これに流るる小流の流域にのみ水田分布す。蕎麥栽培も盛にして一宮に供給され、工産物に織物あり。此地も丹羽郡の郡役所のありし地にして、郡の中心をなすと共に交通も四通八達にして、鐵道は社線名古屋電氣大山崎が南北に通じ布袋驛・小折口驛(共に大正元年設置)を置く。此地は和名抄、丹羽郡穂積木郷の内なるべく、明治二十七年にも小折村を布袋町と改稱し、同三十九年には榮村・秋津村を合併して、現在の境域となる。大字小折は郡の訛にして、古の郡家の地なるべく、邑主は生駒左京家宗にして、その女は織田信長の室となり、信忠・信雄を生む。(伊賀實原神社)本實に鎮座。郷社。祭神、日本武尊。式内社。國內神名帳に從三位伊賀實原天神とあり。例祭、八月十九日。

ホト—ホナ

め、養蠶農業の大規模なる豊田開發ありて、西部及び南部には此等の豊田・魚塩運り、庄の産業的特異性を發揮す。即ち農業・水産業・製鹽業は庄の主要産業にして米・甘蔗・甘蔗・落花生を主要農産物とし、虱目魚・牡蠣等を主要水産物とす。鹽水港製糖の社線は庄の中心地布袋より西南鹽水街を経て新營街に至り、鐵貫線新營驛に連絡す。道路は該線路に沿ふものと、北方の朴子街に達するものとありて共に乗合自動車の便を有す。庄役場所在地布袋は現行制度施行の際、布袋町と改稱せしものにして、一の小港灣を形成するも、小型船舶を容る程度にして良港ならず。もと冬港と稱し、東方なる前東港・後東港これに當り、初め船舶の碇泊所は此地なりしが、爾後、地形の變遷によりて本港をなすに至る。管内はもと大坂田西條・龍穀渡・白鬚公渡の三堡に分屬し、康熙四十年代より漸く開墾に着手せられし地方にして、中央部なる内田は初め大坂田と稱し、清領當初に於ける諸藩十七莊の一とし、乾隆二十九年に成りし臺灣府志(續修)に大坂田街の名見え、南端の新堀は泉州府晉江の蔡構なる者、地方の墾首たる陳姓より海埔の給出を受け、新に魚塩を開きたる所にて地名これより出づ。我が領臺後明治二十八年十月十日我が南進軍の混成第四旅團は布袋港より上陸を開始し曾文溪を経て臺南の前側面に迫れり。爾後、數次行政

上の變遷を経て大正九年十月に至り地方制度の改正と共に堡を廢せられ、前記三堡より合計十一庄を割きて十一大字に改め、布袋町の境を削り、之を一括して布袋庄となれり。

浦頭面 朝鮮全羅南道高興郡の略中部。高興半島南部の東面に位し西は郡邑高興面と豊陽面に界し、東岸には海倉灣の灣入りあり。面積七・七方村餘。西境には雲嵐山(四八七米)・朝漢山(四五九米)・天燈山(五五五米)、東南部には馬伏山(五三九米)等の山峰峙ち、海倉灣岸に平地ありて耕地拓く。灣は東西・南北共に約六村、東口には蓬萊面に屬す。橋島・翠島等横に風波を防ぐも灣内水淺く概し干涸地にして碇泊に適せず。農産に米・麥・大豆・棉等、水産に鰺・海苔等あり。高興より内羅老島(蓬萊面)への道路は海倉灣南岸に沿ひて通ず。

保土ヶ谷 神奈川縣橋本郡にありし町。明治四十二年保土ヶ谷町・宮川村・矢野村を廢し保土ヶ谷町を置き、昭和二年に橋本市に編入され保土ヶ谷區の要部をなす。もと東海道保土ヶ谷宿

にして河川の見るべきものなく、従つて神農土の肥沃なる土地に乏し。また近海は有孔蟲のロビキナ坭土にして、島の附近は石灰質坭土なり。氣候は勿論、海洋性に於て、貿易風圈内に在り、特に十一月乃至五月の間は一定の東北風吹き大風は比較的少し。氣温は平均二六・四度を測り、降水量は殊にホナヘ島附近に大にして、年量四、〇〇〇以上を達するを常とす。支那管内の昭和十一年四月一日現在戸口は邦人八九七、二七〇三人、島民一四七五、八六九一人、外國人一〇戸、三〇人、合計三三八二戸、一四二四人にして、島民は大部分カナカ族とし、また一方戸口密度は二二・七人にて、南洋群島中最小なり。之を主要島別に見れば、最大のホナヘ島(面積三七五方軒)に邦人二六五二人、島民五三〇四人、外國人二四人、合計七九八〇人(人口密度二一・三人)、タサイ島(面積一六方軒)には邦人三四人、島民一一〇二人、外國人六人、計一二四二人(人口密度一〇・七人)居住す。而して邦人は水産業に従事するもの最も多く、工業・農業・商業・公務自由業は之につき、島民はありては農業者約四割を占め、公務自由業・交通業・工業・商業・水産業等に従事する者、各若干を數ふるも、總體の四割強は無業者なり。なほ支那管内の累年人口は島民中ナカマロ族が減少の傾向あり外は、邦人・カナカ族・外國人何れも

増加し、特に邦人は大正九年四二五人、昭和五年六八九人、同十年二四八六人と激増せり。産業は農業を主とす。耕地面積は田一〇一ヘクタール、畑一四四ヘクタール、計一四五ヘクタールあり。主要農産物はタヒオカ(八萬圓)・タロ芋(三萬圓)・諸穀(五萬圓)・糖菓(一二萬圓)・甘藷(一萬圓)・米(四萬圓)・その他、鳳梨・西瓜・胡瓜等はやや多く、漬物・玉蜀黍・南瓜・鱈魚・甜瓜・茄子・大根・葱、並にパイナップル・蜜柑・甘蔗・實糖等も栽培せらる。畜産は豚を主とし山羊・牛これに次ぎ、水牛も若干飼養せらる外、養鶏やや普及せり。林業にありては、既に獨逸領時代に椰子樹の栽培を奨励せし形跡がホナヘ、タサイに歴然として残り、今日にても之が栽培は盛にて、椰子林面積七五〇ヘクタールを數へ、コブアの年産二八萬餘圓に達し、其他紅樹も多く、木炭・用材をも多少産す。水産業は近年邦人の波來と共に著しく勃興せしものに係り、鰻を筆頭に鰯・鰯・鱈・海鼠・飛魚等の漁獲高多きも、昭和十年の漁獲高一三萬餘圓にて、前年に比し稍々不振なり。水産製鹽高は計二三萬圓にして、製鹽はその大部分を占め、南洋諸島として移出せられ、其他、鰻節・海苔等あり。工業はタヒオカ澱粉(一三萬圓)を最とし、水・糖・砂糖の外、若干の織甲製工・椰子細工・菓製製品・帽子等の手製品を産す。鑛産はホナヘ、

サイ島島のラチアイト中に鐵礦の試存する外、硫磺・耐火性粘土等もあるも、未だ開發するに至らず。商業は邦人が主として行ひ、概ね雜貨販賣の傍ら島民生産のコブアの仲買をなす(貿易につきてはホナヘ島の項を見よ)。交通は内地群島間に東運線と東西運線との兩命令航路によりて樺瀆・門司・神戸、並にトラタカ、ヤムルト、サイパン等の間を往復しまた離島間にも年數回中型汽船の運行あり外、ホナヘ島運航船はコロニヤ、ナヌワ、マナブ、タモン、シバパラブ、バルキール、ロンキニー、オホ等の間を定期に巡航し、従来の端艇或はカヌーに依りて交通を補ふ。(清華)西曆一五三〇年代、ポルトガル人、スペイン人によりて諸島は発見せられ、爾來スペイン政府は舊教宣教師を送りて土人教化に力めたり。一八八五年頃より獨逸・スペイン間に確執ありしが、結局スペインの領有に定められ、同國政府は若干の官吏・宣教師を派して統治せしが、政策・治績に見るべきものなく、ホナヘ島にては屢々土人の叛亂ありて防禦警備に窮みし状態なりき。後ドイツに割譲せらるるや、ドイツ政府はホナヘに政廳を設け、道路開設・椰子樹栽培等に効績のやや見るべきものあり。一九一四年我が南洋艦隊により占有せられ、今日に至る。

「ホナヘ島」南洋群島ホナヘ支廳の主島。トラタカ島の正東三九〇海里にして、ホナヘ支廳の所在地たり。面積三七五方軒、全群島中最大の面積を有し、ほぼ圓形にして斷崖發達す。全島玄武岩より成り、局部的に堆積石岩を貫く。玄武岩は熔岩流をなし全島に臺地状に發達し、又は高距六七百米の山地をつくる。北岸にココカ島の良港あり、附近は玄武岩が斷崖壁の如く屹立して代表的風景を呈し、大黒岩と稱して著はる。土地は比較的膏腴なり。河川は北流するエイレカ川を始め利用すべきもの少からず。曾て鐵礦工業及び製糖業を試みたる者ありしも不幸にして挫折せり。然れども礦産上大いに有望にして、南洋熱帯産業研究所支所ありて、主に水稲・藥草の試験調査に當る外、移住民を招致しタヒオカ或は珊瑚の栽培をなす者あり。また南洋製糖株式會社に於ても、此地にタヒオカ澱粉事業を營みつあり。島内に面積八〇〇ヘクタールの植民地を區劃認定せられ、之が農業經營調査、道路開墾その他の施設をなし、移民を奨励する外、更に昭和十一年度より向々五ヶ年間に約一一〇〇ヘクタールの植民地を設定する計畫にして、目下植民地はココカ村バルキールにあり、之が收容見込戸數一六九、昭和十一年十月現在移住戸數五〇戸を數ふ。農産物には前記の外、諸穀・甘藷・タロ芋・糖菓・米・芭蕉及び各種の蔬菜等あり、工業にタヒオカ澱粉・水・糖・砂糖、その他島民の手製品等

林産にはコブア、木炭等あり。水産には鰻・海鼠等多く、特に鰻節・鰻節等の謂ゆる南洋製鹽は盛にして、コブアと共に重要輸出品をなす。商業は主として邦人により行はるるも、金融機關としては信用組合を挙げ得るのみ。ホナヘ港は開港場にして、昭和十年中の輸出七九六、七二五圓、輸入一、〇四一、〇〇九圓に達せり。而して移出は日本内地に向けらるるものにして、コブア三八萬圓、糖二四萬圓、アイゴリーナット四萬圓を主とし、其他、海苔・高麗貝等あり。移出額計七七萬圓を超え、移入は米一一萬圓、酒類六萬圓、煙草七萬圓、石油その他油類一萬圓、布帛及び同製品一〇萬圓等を主とし計九九萬圓餘を數へ、また輸出は飲食物一・二萬圓、其他にて計二・五萬圓、輸入は米四・四萬圓を主とし計四・八萬圓あり。交通は近時著しく改善せられ、主要港間に自動車道路運じ、海上は樺瀆・神戸・サイパン・トラタカ・ヤムルトの諸港及び附近諸島間に定期航路ひらく。島に支廳の外、地方方法院・製糖所出張所・醫院・郵便局(無線電信設置)・學校(小學校一・公學校四宗)・教學校(二)等設けられ、コロニヤ町は邦人の集團居住地にして、同町の昭和十一年四月現在戸口は五六二戸、二二五〇人なりとす。島内には古蹟名勝跡からず。ナット村ホナヘ公園開闢の一部にスハイン時代の城門あり、全長四〇〇米、幅一

米餘、高さ四米餘の圓壁にて、西領時代一八九三年、時の知事ホセ・ヒタレの築造に係るといふ。マタラニム村ナヌワ島の南方地點にナンマデルの遺跡あり、ほぼ長方形の一水域にして岩底の淺水中に自然石を以て方形又は長方形に積上げた大小六十餘の石造建築の集合なり、口碑々々にして不詳なれども往昔豪族の居住せし跡ならんと思はる。島の北端ココカ島はドイツ領時代、叛亂せる土民の集合地なりと云ひ、この一揆は當時ココカ島の事件として世に喧傳せられたり。コロニヤ町にホナヘ舊植物園あり、ドイツ領時代、一九一〇年末頃より數年に亘り經營せしものにて、世界各地より單體又は前船を以て萬集植栽せる植物二四〇種を數へしが、現在約四六アールの區域に二十數種残存す。ホナヘ島が我國人と交渉を持ちしは既に古く、明治二十三年田口卯吉一行十七名は帆船天竺丸に乗り樺瀆を出帆、途中小笠原、アム、ヤップ、パラオの諸島を経て本島に至り、此處に南洋商會を創立せり。同商會は誠意を以て島民に接し、大いに彼等の信望を博したりと傳へらるるも、幾許もなく業務を他に譲渡し、一層商會の前途の下に之を繼續し、のち明治二十八年遂に解散せり。また明治二十六年には南洋貿易株式會社の前身なる南洋貿易日設合資會社の支店が本島に設けられ、盛に通商貿易に従事せしも、同三十

二年中、ドイツ官憲の暴じと云ふこととなり、支店を閉鎖するの止むなきに至れり。

ホナミ 樺瀆

「樺瀆村」長野縣信濃國下高井郡の南端。中野町の東に隣接す。中野町より津時(一九五六米)を越えて前橋に達する前橋街道は村の北境を流るる夜間瀬川の溪谷に沿ふ。村の南境は笠ヶ岳(二〇七六米)・三澤山(一五〇五米)にて上高井郡山田村と接す。北は平塚村と夜間瀬川を以て境す。夜間瀬川は上流二分し、横湯川と角瀬川これなり。兩川の合流點は温泉湧出し、平塚村の横湯・湯湯、並に本村の佐野部郷には徳波温泉等の温泉群あり。平塚村には湯田中と言ふ地名もあり。共に夜間瀬川の扇状地の上にある。殊に徳波温泉は夜間瀬川の溪流に沿ひ景勝地に當る。角瀬川を越れば、村の東境山地は石の湯・熊野湯を持つ志賀高原に接す。志賀高原は笠ヶ岳の東斜面にして遠かなスロープによつて冬季スキー場として近年名あり。本村の内温泉あり前記の徳波温泉と合して山之内温泉とも呼ばる。角瀬温泉は旅館あれども徳波にはなし。共に温泉泉なり。湯田中(平塚村)迄は中野町より長野電鐵の支線あり、更に此處を中心各地温泉には自動車によりて連絡す。角瀬温泉は湯田中驛の東南二軒餘、徳波は湯田中の對岸なり。本村は佐野・志賀・菅・戸持の諸聚落を中心とし、共に山麓扇状地の湧水によりて

其地が決定する。扇状地の湧水地點は夜間瀬川の支流溪谷各水田化し、砂礫の堆積により地下水の浸透地は季節化する點は、附近の扇状地と類似傾向なり。

〔佐野部郷〕大字佐野に隣接。郷社。祭神、健甕名方命。例祭、五月十五日。

〔徳波〕愛知丹羽郡にありし村。明治三十九年、木村外五村と共に廢され西成村を置く。

〔徳波(郡)〕筑前國(福岡縣)の古郡名。また徳波にも作る。書紀安閑二年紀に徳波屯倉、徳波郷とある徳波は後の徳波郡の地に當るならん。和名抄は三坂・高田・土師・聖・徳波の五郷を管す。明治二十九年四月に嘉麻郡と合して嘉麻郡を建て郡名を失ふ。

〔徳波村〕福岡縣筑前國嘉麻郡の中部。飯塚市の西南に接す。東部・西南部と西北部は丘陵をなすも、中央は平野開けて高尾川支流が村の中央にて西南方より來る細流を併せて中部を北へ貫流す。低地は田畑よく拓げ米産を産す。また本村は忠臣塚の所在地として著名なり。縣道中央を南北に貫きて飯塚市へハスの往來繁く、者線筑豊本線は中央を通過して天童驛(明治三十四年設置)あり。此地は飯西村と共に和名抄、徳波郡徳波郷の地なるべく、安閑天皇二年五月の條に徳波屯倉を置くことあるは飯西村の大字明星寺の遺蹟なるべし。大字村は宇佐大鏡に徳波郡村とある地にして神領の地たり。

大字辨分は豊後國弘安田鎮に安藤郡辨分八十町と見ゆる地にして、一に別府にも作る。〔忠烈炭礦〕また住友炭礦炭礦とも云ひ、常村及び稲葉村、飯塚市に跨る炭山。鑛區約百四十三萬坪、本邦重要鑛山の二つあり。附近の地質は凡そ第三紀英礫層にて、一部に古生層を含み殆ど全部花崗岩を基礎とす。當鑛區には落差約九米乃至約三十米の斷層あり、概ね走向に併行す。炭質は粘結性にして火力強大なり。昭和十年には塊炭十萬六千餘噸、新炭約二十九萬噸、粗炭約四萬三千餘噸、この總額約百四十五萬圓を産す。當炭礦の起源は古く維新以前にあり、村民は當時生石の備にて燃料となし、文政年間には既に採掘して他に販賣せるものも如し。いま住友炭礦會社の經營に屬し、昭和十年六月末現在にて使用鑛夫一八四一人。鑛山名は常村大字忠烈に因るものとす。なほ常村内、或は他町村に跨りて多くの石炭鑛區あり、主なるもの左の如し〔産額昭和十年の年産、重は重要鑛山、準は重要鑛山〕

ホネー 保寧郡 朝鮮忠清南道の西南部。地南北に長く、北は洪城、東北は青陽、東南は扶餘、南は舒川の諸郡に接し、西は黃海に面し、近くは元山島、捕矢島、遠くは外嶺列島等の小島島を有す。面積五三七方軒餘、道内十四郡中の第七位に居り、大徳・公州・禮山・牙山の諸郡と伯仲の間に在り。東嶺山脈の西市端に當り、東境北部に烏嶺山（七九一米）、中部に聖住山（六八〇米）、南部に嶺山（六四五米）あり、それより各々山脈西南に延び、その先端はいづれも低き岬角をなして海に没し、郡内を北・南の二地區に分つ。南部は熊川面に海に入る大川の流域にて川筋に狭き低地あり、北部も大川面に海に入る小川あるも南部に比すれば平坦地は狭小なり。農業行はれて米・麥を主とし其他に豆・棉・麻を産し果菜・櫻等の果實も少くならず、養蠶に勤、工業に宇布・織物・農工品、名産に藍浦硯あり。沿岸は遠淺にて水産あるもその額は多からず。社稷京南嶺道忠南嶺と舒川・洪城間の道路は西部を南北に貫き、道路上にはバスの往來ありて交通不便ならず。郡内十面を含み、郡廳を大川面に置く。人口約八・四萬。

ホハラ 穂原 愛知縣飯沼郡にありし村。明治三十九年に平幡村と共に廢され新たに八幡村を置く。

ホハタ 母畑村 福島縣磐城郡石川郡の西部。石川町の東北に接す。阿武隈山地の西斜面に屬し、土地は東南部と西北部に高く、北須川は村の中央部を東北より西南に流る。米・藁・蕎麥・木炭等を産す。道路は川に沿ひて東北より西南に通じ、西南方の石川町と東方の小平村へはバスの傾あり。この地は和名抄、白河郡藤田郷の内なり。

ホハラ 穂原村 三重縣伊勢國度會郡の東南部。村の東南部は五ヶ所湖の西北澳に面し東北部は宇治山田市の南部との間に約二軒を距つのみ。西境には五〇〇—五五〇米程度の山脈東北より西南に連りて村境を劃し、東境には之と同方向に延びる山脈あり、途中に龍仙山（四〇二米）聳ゆ。南境には西南境より東東北方へ二〇〇—二五〇米の丘陵連り、其東端は東境の山脈の南端と共に五ヶ所湖の西北部に轉入する一小湖を抱く。湖の西岸より中部へや低地續く。米・藁・麥の農産と林産を主とし、外に工業・畜産・水産あり。また鑛區二〇萬餘坪を有する倉掛鑛山あり、昭和十年の試掘にて滿鐵鐵八〇〇噸を出す。宇治山田市の便あり。〔倉ヶ城及び谷谷地性羊齒群落〕指定天然記念物。大字押淵字倉ヶ城と字細谷にあり。兩群落は東西僅かに一軒を距ててあり、琉球・臺灣に産する暖地の羊齒が群生す。

ホハラ 保原町 福島縣磐城郡伊達郡の中部。桑折町の東南。四軒。掛田町の西北約五軒。面積五・〇九方軒。福島盆

この下に謂ゆる牧谷と呼ばれる地方なり。産業は山間部地の爲め發達せず、主として畑作にて田は南部板取川の洪瀦地に僅にあるのみにて全村の二ヶ月分位の米を收穫し得るに過ぎず。曲流には桑畑あり、及は養蠶行はれ、冬は製紙が盛む。また此地方は冬は炭焼が行はれ、洞戸炭と稱して岐阜市場に出荷す。其他、木管細工も見らる。交通は便ならず、板取川の谷を唯一の交通路とす、これを下れば牧谷より郡上街道に出るを得。鐵道の便も悪しく、木材・木炭の如きは、南部より市の武藏谷の岩佐に出で岐阜に至る。岩佐（西武藏村）よりは岐阜にバスの便あり。洞戸の意味はこれより板取方面に入る洞の戸口の意なり。大字岩谷は洞戸十六村の中に、和名抄に「武藏郡岩田窟」石見守の子六郎利家洞戸郷に居す。石見守は土岐政房の長臣也と見ゆ。大字市場は洞戸の本郷にして、洞戸十六郷は江戸時代には名古屋藩に屬し、下洞戸は小坂・下大野・黒谷を合せ、奥洞戸は尾倉・高賀・同部・高見・小瀬見・老洞・松谷を合せ、天正十一年には此地にて八幡城主渡邊慶隆と豊臣秀吉とが合戦せりと。〔高賀神社〕大字奥洞戸に鎮座。郷社。祭神、天御中主命・國常立命外十八神。靈龜年間の創祀、養老元年以來、藤原高麗屋々富山中の妖鬼を退治し神祠を建つと傳ふ。例祭、十月十五日。

二年設置）及び深牛驛（大正十三年設置、貨物驛）を置く。本村はもと似得村と稱せしが、昭和四年郡別村と改稱す。

ホホ 保々村 三重縣伊勢國三重郡の北部。四日市市の西北約六軒にあり、北は員辨郡に界す。地形は概ね平坦にして中部を朝明川が東に貫流す。耕地多く拓けて米・藁の産多く、麥も産し、外に工業・畜産・林産あり。東部には社線三岐鐵道走りて保々驛（昭和六年設置）あり。この地は和名抄、朝明郡田光郷の内なるべし。

ホホマ 噯間丘 下被上村（奈良縣南葛城郡）

ホミ 保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

ホホ——ホリ

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

保見村 愛知縣三河國西加茂郡の西部。岡崎市の北方約二〇軒。北は愛知郡幡豆村、東は猿投村、南は學母町・三好村に、西は愛知郡長久手村・日進村に相接す。此村は花崗岩山地の木曾山脈の西南端が三河平野に終る所に、南部には第三紀層の臺地續き、之を伊保ヶ原と呼び、秋季軍隊の演習地とす。農業は南部に行はれ、養蠶も盛なり。殊に本村は花崗岩山地より成る爲に、その風化せる珪目粘土を産し、陶磁器原料としての陶土・硝子粉・磨砂・耐火粘土・石材の産多く、また瓦の産多し。本村の邊は和名抄の賀茂郡伊保郷の地にして、いま伊保堂・上伊保・下伊保の地名残る。もと一郡なりしが數村に分れ、伊保堂・殿具津・下伊保・御殿市場となり、天正三年に

邑。郡の西端、行政地域の南部に位置し、埔里盆地を中心として之を圍繞する。埔里盆地を占め、本島のほぼ中央部にあり、東は善地、西は南投郡中寮庄、南は新高南魚池庄、北は國姓庄に各々境を接す。西と北は山岳重疊として連り、埔里盆地は東市寄りに展開して、四圍層層を以て繞らし、海拔四四八・五米、盛夏と雖も三八度に昇らず、嚴冬も一一度を降ることなく、四時氣候温暖なり。盆地には西流する二條の河流あり、北なるを眉溪、南なるを南港溪といひ、盆地の西端に於て相會し、北隣國の姓庄を經て烏溪となる。隨つて灌溉の便多く加ふるに地味肥沃にして農耕に適し、主として水稻・甘蔗・甘藷の栽培行はれ、臺灣製糖の埔里製糖所を有す。一般に農家の主要副業として豚・鶏を主とする畜産家畜類等々飼育せられ、四圍の山地より薪炭・竹材・竹筴等の林産物を産出す。糖の名産地として聞え、又各種ステッキの特産あり。市街は盆地内に位し、能高道路の起點として中央審界に入る要衝に當り、貨物の集散多く、郡役所・街役場の外、法院出張所・專賣局出張所・郵便局・大學演習林派出所等ありて、商業發展を呈し、本島山間唯一の市街として特異の存在なり。縱貫線二水驛より分岐せる集々線の終點外車道より輕便軌道にて達し得る。外、同線の水理坑驛より日月潭・負傷を經由して来る自動車道驛及び北方

臺中より南投郡に入りて烏溪に沿ふ謂ゆる南投道あり、共に自動車を通ず。管内は舊の埔里社堡に相當し、初めオオイ(埔裏・埔里)・グアイイイ(厝裏・厝裡)といへる二社の土著古地にして、厝裡を境とし、前者は溪南に、後者は溪北に割據し、前者の位置は今の枇杷城附近、後者の位置は今の牛眠山と史港坑との中間なりといふ。埔里社なる地名の始めて知られしは早く清の康熙末年にありしもの、如く、雍正二年に成りし諸羅縣志に「埔里社水沙連各地、噴々黠黠」と見ゆ。而して南方なる水沙連番地(魚池庄の五城盆地)には康熙年間以來既に漢族の足跡を及ぼせし、埔里番地は嘉慶の初年に至るまで僅かに交易のため少數なる通事及び社丁の出入するに過ぎず、全く未知の區域に屬し、同十九年始めて漢族により一大侵略を企てられ、其の方向は南界なる水沙連番地より波及し來れるものにして、即ち同地の隘丁首黃林旺なる者、官を僱りて開墾を始めた。當時附近に二十五番社あり、激しく反抗したるため遂に散りて、官の知る所とせり、漢人は撤退を命ぜられ、蕃人復讐せり。かくて官憲は入山の隘口に汛を設けて之を鎮用しが爲め一時異族の足跡を絶ちし、幾時もなく漢族の再び水沙連番地より侵入するあり、道光年間及び明治は更に西平原に在る平埔番族の移住

し來る等のことありて、同末年には漢族匪徒細造の巷となり、咸豐年間及び漢族の移住は再び其の端を開けり。即ち閩の泉州人鄭勳先なる者、若干の社丁を率ゐて入り來り、信を社番に傳し、居住の認諾を得てより閩人の移住者は短期間に急増し、五六年の後既に一市街を形成するに至り、本來の番社名に因みて埔里社街と稱す。當時、漢族は蕃人に比し寡弱なるを以て専ら平和の協約を以て之に對せし、時に利害の衝突を來し、蕃人の爲め市街を燒毀せられたること二回に及ぶといふ。然れども爾後、一路發展の道程を辿り、光緒初年には一市街の他に三十餘の部落を築し、鹿港に在る北路理番同知を埔里社街に移して中路理番同知と改め、當時之を埔里社廳(光緒十二年埔里廳と改む)と稱し、市街の周圍に土垣を築き竹を環植し、東西南北の四門を設け、名づけて大埔城といひ、城街を中心として東角・西角・南角・北角の四隅に分てり。我が領臺後、改めて埔里社の一堡となし、數次行政上の變遷を経て大正九年に至り地方制度の改正と共に堡を廢止し、埔里社を埔里と改稱して埔里街となれり。

約八〇〇米、北方に傾斜し、全村概ね山地をなす。最上川の一支流南部に發源して北流し、最上川に合す。最上川は北境を西流し、舟楫の便あり。米・木炭・薪を産す。東北方の奥羽本線舟形驛へは約六軒あり。一般に交通便ならず。本村は明治二十三年に舟形村の大字堀内を以て建てしもの。
【堀内】京都府紀伊郡にありし村。昭和六年に京都府伏見區に編入す。
【堀江】 越前國(福井縣)の古地名。和名抄に坂井郡堀江郷あり、保里江と訓す。その地今の坂井郡蘆原町に當る。
【堀江村】 徳島縣阿波國板野郡の東部。徳島市の北方約四軒に位し、讚岐山脈東端の南麓を占む。東北隅は徳島町の西北隅に接す。北半は山地をなして南へ傾斜し、南半は低平なる徳島平野の一部を占め吉野川が南端を流る。灌溉の便多く耕地よく拓けて米産多く、蠶も亦多し。中部の山麓に徳島街道が横斷し、省線高徳本線は西南部に通じ徳谷・阿波市場の二驛(大正五年設置)を置き、池谷驛よりは省線徳島線分岐して、徳島街道に並走し、村の西南端に立道驛(大正五年設置)あり、交通便なり。この地は和名抄、板野郡高野郷の内なるべく、村内の大字池谷の徳島街道に沿ひし所に土御門天皇御火葬塚あるによりて知らる。村内に古墳多し。【土御門天皇御火葬塚】承久の皇

後、土御門天皇土佐國に配せられ給ひしが、のち阿波に移り給ひ御所を造營し給ふ。寛喜三年崩御せしとせしより此處にて茶屋に付し奉り御遺骨は京都に葬り奉る。塚の兩側に二墳あり、供奉の人々の墓と傳ふ。御火葬所の傍なる丸山神社は天皇の御體を祀れる所なり。【宇志比古神社】大字大谷に鎮座。郷社。祭神宇志比古命。式内小社の板野郡四座の一ならんといふ。例祭、九月二十五日。
【堀江村】 愛媛縣伊豫國温泉郡の西北部。堀江灣に面し、松山市の北方約二軒にあり。東半は約三・四百里の山地をなして西に傾斜し、西部の海岸は北より西南に連る砂濱をなし、沿岸の西南部に平野開く。風光明媚の地なり。米産頗る多し。講も盛す。縣道と省線徳島本線西部を南北に貫通し堀江驛(昭和二年設置)あり。この地は和名抄、和氣郡大内郷の内なるべし。大字福角の松尾山は國藏別王十城別王及び和氣君等の墳なるべしといふ。村の東部の花見山に城址あり。承平二十三年、久枝興利は此處に據りて河野通亮を防ぐ。大字大塚に鴨座山城址あり、河野氏十八將の一人なる大内義治の居城なりしといふ。

堀岡村 富山縣越中郡射水郡の北部。北は富山海に臨み、西は放生津瀨を隔てて新津町に接す。面積二方軒餘に過ぎず。土地平坦にして村内は水田開け米を産す。海岸は砂濱にして漁業盛なり。また夏季は海水浴場として賑はふ。海岸に沿ひ縣道と社線中環道並走し、堀岡驛(昭和四年設置)・堀切驛(昭和七年設置)あり交通便なり。この地は和名抄、射水郡津部郷(刊本には津部とあれど、郷は二字なる制度により津部となす)の内なるべく、近世は堀岡村に屬す。【草間神社】大字古神明に鎮座。郷社。祭神、大己貴命。延喜の制、國幣の小社に列す。古祭、五月三日。堀岡村の産土神なり。例祭、五月三日。
【堀カワト】 社 臺灣臺東廳大武壠庄にある舊社。カワト山の西南方稜線近き山腹の傾斜地に位し、標高約七六〇米の地なり。約六十五年前マカス社より移住し來る。マイワシ族の太麻里蕃に屬する高砂族の部落。戸數一九、人口八五(昭和十一年調査)。

堀里カネ 堀里村 埼玉縣武藏國入間郡の東南部。川越市の西南方に在り、入間川町の東隣にあり。武藏野臺地の一部を占め、畑地多く甘藷・麥・米を産し養蠶も盛にて繭を多産す。縣道は川越市・入間川町等に通じ、社線西武鐵道は北部をかすめて東北に走り、入間川町の入間川驛、東北隅の大田村の南大塚驛に近く、交通便あり。本村は歌枕の名所として知られし堀里井を以て知らるるも、堀里井が果して此地なりや否や詳ならず。太平記、元弘三年五月十五日の合戦に、新田義貞が堀里を指して引退くとあり。鎌

會街道は堀里より加佐志・東三ツ木を経て奥宮村に通じしが如し、いはるはと思ひこそやれ武藏野のほりかれの井に野寺あるてふ 貫之(堀里神社) 大字堀里に鎮座。郷社。祭神、木花佐久那姫命・大山咋命・迦遇突賣命等七柱。領主松平・秋元氏等篤く崇敬す。本殿・拜殿・神樂殿・祭器庫・隨身門等あり。
【堀カワ】 堀里村 北海道後志支庁古宇郡にありし村。明治四十二年、茅沼・興志内・蓋・泊の四箇村と共に合し、泊村となる。
【堀カワ】 堀里村 富山縣越中郡射水郡の南部。富山市の南に接し、神通川の右岸に沿ふ。土地平坦にして水田多く、米・野菜の産あり。富山市に近きため織物・實業等の工業盛なり。社線富南鐵道と富山縣營鐵道は南北に通じ、前者の堀川新驛(大正三年設置)、後者の南富山・上堀の二驛と共に大正十年設置)を置く。南方より富山市に至る縣道は散佈放射狀に集り交通便あり。町内に富山刑務支所・縣産業講習所・縣立農事試験場・富山輸出絹織物検査所・堀川氣象觀測所・富山女子師範學校・富山中學校・縣立富山高等女學校・市立富山高等女學校・工業學校等あり。昭和六年町制を布く。
【堀川】 ↓京都市(二二〇頁)
【堀川】 省線伊田線の貨物驛(明治四十二年設置)。福岡縣田川郡金田町にあり。

堀里カネ 堀里村 埼玉縣武藏國入間郡の東南部。川越市の西南方に在り、入間川町の東隣にあり。武藏野臺地の一部を占め、畑地多く甘藷・麥・米を産し養蠶も盛にて繭を多産す。縣道は川越市・入間川町等に通じ、社線西武鐵道は北部をかすめて東北に走り、入間川町の入間川驛、東北隅の大田村の南大塚驛に近く、交通便あり。本村は歌枕の名所として知られし堀里井を以て知らるるも、堀里井が果して此地なりや否や詳ならず。太平記、元弘三年五月十五日の合戦に、新田義貞が堀里を指して引退くとあり。鎌

會街道は堀里より加佐志・東三ツ木を経て奥宮村に通じしが如し、いはるはと思ひこそやれ武藏野のほりかれの井に野寺あるてふ 貫之(堀里神社) 大字堀里に鎮座。郷社。祭神、木花佐久那姫命・大山咋命・迦遇突賣命等七柱。領主松平・秋元氏等篤く崇敬す。本殿・拜殿・神樂殿・祭器庫・隨身門等あり。
【堀カワ】 堀里村 北海道後志支庁古宇郡にありし村。明治四十二年、茅沼・興志内・蓋・泊の四箇村と共に合し、泊村となる。
【堀カワ】 堀里村 富山縣越中郡射水郡の南部。富山市の南に接し、神通川の右岸に沿ふ。土地平坦にして水田多く、米・野菜の産あり。富山市に近きため織物・實業等の工業盛なり。社線富南鐵道と富山縣營鐵道は南北に通じ、前者の堀川新驛(大正三年設置)、後者の南富山・上堀の二驛と共に大正十年設置)を置く。南方より富山市に至る縣道は散佈放射狀に集り交通便あり。町内に富山刑務支所・縣産業講習所・縣立農事試験場・富山輸出絹織物検査所・堀川氣象觀測所・富山女子師範學校・富山中學校・縣立富山高等女學校・市立富山高等女學校・工業學校等あり。昭和六年町制を布く。
【堀川】 ↓京都市(二二〇頁)
【堀川】 省線伊田線の貨物驛(明治四十二年設置)。福岡縣田川郡金田町にあり。

堀里カネ 堀里村 埼玉縣武藏國入間郡の東南部。川越市の西南方に在り、入間川町の東隣にあり。武藏野臺地の一部を占め、畑地多く甘藷・麥・米を産し養蠶も盛にて繭を多産す。縣道は川越市・入間川町等に通じ、社線西武鐵道は北部をかすめて東北に走り、入間川町の入間川驛、東北隅の大田村の南大塚驛に近く、交通便あり。本村は歌枕の名所として知られし堀里井を以て知らるるも、堀里井が果して此地なりや否や詳ならず。太平記、元弘三年五月十五日の合戦に、新田義貞が堀里を指して引退くとあり。鎌

會街道は堀里より加佐志・東三ツ木を経て奥宮村に通じしが如し、いはるはと思ひこそやれ武藏野のほりかれの井に野寺あるてふ 貫之(堀里神社) 大字堀里に鎮座。郷社。祭神、木花佐久那姫命・大山咋命・迦遇突賣命等七柱。領主松平・秋元氏等篤く崇敬す。本殿・拜殿・神樂殿・祭器庫・隨身門等あり。
【堀カワ】 堀里村 北海道後志支庁古宇郡にありし村。明治四十二年、茅沼・興志内・蓋・泊の四箇村と共に合し、泊村となる。
【堀カワ】 堀里村 富山縣越中郡射水郡の南部。富山市の南に接し、神通川の右岸に沿ふ。土地平坦にして水田多く、米・野菜の産あり。富山市に近きため織物・實業等の工業盛なり。社線富南鐵道と富山縣營鐵道は南北に通じ、前者の堀川新驛(大正三年設置)、後者の南富山・上堀の二驛と共に大正十年設置)を置く。南方より富山市に至る縣道は散佈放射狀に集り交通便あり。町内に富山刑務支所・縣産業講習所・縣立農事試験場・富山輸出絹織物検査所・堀川氣象觀測所・富山女子師範學校・富山中學校・縣立富山高等女學校・市立富山高等女學校・工業學校等あり。昭和六年町制を布く。
【堀川】 ↓京都市(二二〇頁)
【堀川】 省線伊田線の貨物驛(明治四十二年設置)。福岡縣田川郡金田町にあり。

郎守信と稱す。守信は南部頼庭の戦に討死す。その子の信信は大浦より常城に移りし故に、商工の家また多く移轉し、一國の城府となりしが、慶長十五年、弘前に新府を建て頼庭は廢城すとあり。

【堀之内】新潟縣越後國北蒲原郡の西南部。水原町の南に接す。全村平低にして肥沃、東北部を新井郷川の上流流れ灌漑の便よく水田・桑園開く。米を主産とし、蠶を副産す。岩船街道の一部は南北に貫通し岩船羽本線水原驛に近く、水原・新發田間にはバスの便もあり。村内に新田原と呼ぶ地あり、村民は新田氏の古戦場と相傳へ、その古墳と傳ふるもの七塚あり。

ホリゴメ 堀米町 初木縣下野國安蘇郡の南部。佐野町の北隣にて、東は大伏町と隣す。東北境附近は丘陵地をなすも他は平地にて、秋山川南流し農業行はれて米多を産し穀量も行はる。縣道は佐野町に通じバスの便あり。桑園はこれに沿ひて發達す。社線東武鐵道佐野線また縣道に沿ひ、中央に堀米驛(明治二十七年設置)を置く。此地はもと佐野庄頼庭郷と稱せし地にて、小野寺氏の創建と傳ふる天徳寺あり、この寺にありし海中より出現せしと傳ふる鐘は、いま千葉縣の羅山の日本寺にあり。(八幡宮)大字堀米八幡山に鎮座。神社、祭神、聖田別命。天正十五年に佐野信吉、今の佐野町なる春日山に城を築き頼庭とすといふ。社地

は丘上に位し、安蘇川に臨みて古木森然たり。例祭、陰曆十月十五日。(妙顯寺)日蓮宗。當宗四十四本山の一。日蓮の法弟天目、師日蓮の歿後この地に來りて創建せるものなり。

ホリト 堀津 武蔵國(埼玉縣)の古地名。和名抄に足立郡堀津郷あり、その地の北足立郡吹上町の邊か。

ホリノウチ 堀之内 新潟縣越後國北魚沼郡の中部。魚野川に沿ひ、小田町の西に接す。南北に丘陵を負ひほば中央を東南—西北に魚野川貫流し、李川その他の支流を合し流域に平地開く。農業盛にして米・蕎麥を多産し、絹織物・生糸をも産す。倉線上越本線は魚野川左岸を貫流し、越後堀之内驛(大正十一年設置)あり、上越を結ぶ國道また之に並走す。大正十五年四月、堀之内村と田川入村を合併して堀之内村を設け、同年十一月町制を布く。大字下倉には僧徒の館りし下倉城址あり、慶長年間、一揆を興せし事あり。大字堀之内は三國驛路にて浦佐と川口の間なり。(常泉寺)明神にあり。新義真言宗智山派。唯摩山得得院と號し、文明元年開創法印の開創。本尊阿彌陀如来は善心僧都筆にて日本七福の一と稱せらる。天正元年、領主正信は當山本尊に歸依し寺領を附し、同五年自ら出家して常泉法師と号す堂宇を再建す。

東編。掛川町の東方三軒餘にあり。面積八・八平方軒。北部及び西部に五〇—一〇〇米の丘陵起伏し、村境に於て最高約一五〇米を示すも、東南部に平地ひらけ中部を南北に流るる菊川これを灌漑す。耕地面積約三〇〇ヘクタール、田畑相半ばし米・蕎麥・茶を出す。其他、工業・畜産に見るべきものあり。倉橋東海道本線は中部を東西に貫き堀之内驛(明治二十二年設置)あり、掛川町より萩岡村を經て相良町に至る道路これと並走し、途中北折して東海道に出づる道路あり、交通不便ならず。本町は大正十二年、西方村を堀之内町と改稱せしもの。此地は和名抄城郭郡荒木郷の内なるべく、中世は笠原庄に屬し、東鑑・文治四年の條に、八條院領、越江國笠原庄とある地なり。

ホリマツ 堀松村 石川縣能登國羽咋郡の中部。高濱町の東北に接す。村内百米前後の丘陵起伏し略中央を米町川は西南へ曲流し、下流に僅の平野開く。桑園は概れ此の谷に沿ひ、米作・養蠶を主産とす。また麻織物・清酒の特産あり。中央西側に南北に貫通して社線能登鐵道あり能登高濱驛に近く、縣道また並走し東北方の七尾海岸へも分岐し、自動車道の便もよし。この地は中世に堀松庄と稱せし地。(神代神社)大字神代に鎮座。神社、祭神、宇迦之靈神。式内社。崇神天皇御宇の開創と云ふ。古くより朝廷の勅額所たり。例祭、六月二十六日。

ホロトマリ 幌泊 西海海岸線の一驛(大正十年設置)。樺太真岡郡幌泊村にあり。

ホロナイ 幌内 樺太の最大河。中央低地帯をロシヤ領より南流して邦領に入り敷香町市街の東にて多來加灣に注ぐ。露領内の延長三三〇軒、邦領二二〇軒。河口は幅約三六〇米、水深二米内外なるが、やや濁れれば五米内外となり國境まで小型帆船を通ずることを得。また河口より二四軒の上流にて多爾川を分流す。この河の本支流及び多來加灣に注入する振戸・留久玉・毛裏の諸川の形成せし低地はツンドラと呼ばるる高位泥炭地にて、泥炭の厚層上には藁苔類衛生し、矮小なる落葉松が點點疎生する沼澤の多き階段的平地なり。されど乾燥地には在々白樺の純林が見られ河畔には樺・松・杉・榎等が叢生す。この南北約一二〇軒、東西二〇—三五軒の廣大なる開墾のツンドラ地帯は、ここに占居せる土人オロチオン・ヤリヤリ等に好箇の馴鹿放牧地を提供せる以外、殆ど經濟的に未開發なり。

【幌内線】 國有鐵道函館線の一部。北海道石狩平野の東部にあり。函館本線岩見澤驛より幌内太驛を経て幌内驛に至る一三・六軒及び幌内太驛より分れて幾春別

ホリヨ— 畝良面 朝鮮全羅南道靈光郡の南東部。西は郡邑靈光面に隣接し、東境の北半は長城郡蘇谷面に、南半は咸平郡月也・海保二面に境す。北東境には大湊山(五九三米)、南境には佛甲山(五一六米)の山嶺延亘し、中部には丘陵地起伏するも南部と西北部には低地ありて耕地拓く。米・麥・豆・棉・芋等の農産を出し蠶工品の副産行はる。靈光・松江里間の二等道路は南部を東南に通じてバスの便あり。これより較る、三等道路は東北方の長城方面に通じ、交通不便ならず。

ホロイズミ 幌泉 樺太。【幌泉村】 北海道日高國日高支廳幌泉郡の一部を占む。日高支廳の東南端を占め、その南端なる樺安岬は太平洋中に遙に突出して巒に宗谷岬と對角線を爲す。東と西南は太平洋に開かれ北は十勝國、西北は樺俱郡に接す。面積二八五・六四平方軒。村内は日高山脈に蔽はれて高峻、豊饒(一一〇五米)ほか諸峯屹立し、概れ交通文化途絶せるも南部海岸に小平地あり。桑園は大部分海岸に集り漁業に従事す。鮭・鱒・鱈・昆布の漁獲頗る多し。金銀銅硫化鐵の礦山あり、鐵區百萬坪、昭和十年より事業を開始す。準地方法は南部諸郡を連ね尾尾・三石にバスの便あり。函館港に定期航路あり。村内に浦河風鏡列所出聖所・幌泉港輸入調・幌泉燈臺・聖安岬燈臺あり。幌泉燈臺は明治二

十四年設置にして、不設紅光、光達距離七・五哩。幌泉港輸入調の防波堤の燈臺は昭和七年設置、不動白光、光達距離一〇・五哩。(住吉神社) 神社、祭神、底筒男命・中筒男命・表筒男命。文化十一年函館の住民島屋佐兵衛の創立。例祭、九月十五日。(百人濱一石一宇塔) 大字小島より大字庶野に至る約四軒に亘る砂濱を百人濱と呼び、曾て暴風雨の際船難漂流しこの濱に來り、乗船者約百人死にせしと云ひ、また宣文の觀夷亂の時百餘人をここに殺戮せしと、或は南部藩士の乗る船海上に遭難し百人の屍、の濱に漂着せしとも傳へらる。神は樺俱等樹院一世の住持秀曉の撰にかゝる。(庶野の遺) 大字庶野にあり。太平洋岸を距る五〇米、三段に分れ高さ約三〇(ヘタール)を占む。樺は五種類ありて合計三千本を數へ、太平洋の荒風に依り挽められたる樹委は頗る雅趣に富み、天然の櫻樹少なき本道としては隨一の名所なり。例年五月中旬蒲團、夫婦櫻・扇櫻等は頗る奇麗なり。櫻樹の間に雜木、少數の赤松・黒松及び桜松を混生す。

【幌泉郡】 ↓幌泉村

ホロカナイ 幌加内 北海道石狩國空知支廳南龍郡の北端。郡の最北部を占め、南北に細長き地形を有し、北及び東は上川支廳に西は留萌支廳に、南は沼田・多度志二村に接す。面積七六・八七方軒。天徳山

十四年設置にして、不設紅光、光達距離七・五哩。幌泉港輸入調の防波堤の燈臺は昭和七年設置、不動白光、光達距離一〇・五哩。(住吉神社) 神社、祭神、底筒男命・中筒男命・表筒男命。文化十一年函館の住民島屋佐兵衛の創立。例祭、九月十五日。(百人濱一石一宇塔) 大字小島より大字庶野に至る約四軒に亘る砂濱を百人濱と呼び、曾て暴風雨の際船難漂流しこの濱に來り、乗船者約百人死にせしと云ひ、また宣文の觀夷亂の時百餘人をここに殺戮せしと、或は南部藩士の乗る船海上に遭難し百人の屍、の濱に漂着せしとも傳へらる。神は樺俱等樹院一世の住持秀曉の撰にかゝる。(庶野の遺) 大字庶野にあり。太平洋岸を距る五〇米、三段に分れ高さ約三〇(ヘタール)を占む。樺は五種類ありて合計三千本を數へ、太平洋の荒風に依り挽められたる樹委は頗る雅趣に富み、天然の櫻樹少なき本道としては隨一の名所なり。例年五月中旬蒲團、夫婦櫻・扇櫻等は頗る奇麗なり。櫻樹の間に雜木、少數の赤松・黒松及び桜松を混生す。

【幌加内村】 北海道石狩國空知支廳南龍郡の北端。郡の最北部を占め、南北に細長き地形を有し、北及び東は上川支廳に西は留萌支廳に、南は沼田・多度志二村に接す。面積七六・八七方軒。天徳山

【幌加内線】 國有鐵道函館線の一部。北海道石狩平野の北部より北方に通ず。函館本線深川驛より分れ幌加内を経て朱鞠内驛に至る七八・八軒。

【幌内】 ↓三笠山村(石狩國) 驛(明治十五年設置)。北海道石狩國空知郡三笠山村にあり。

からず、されど馬鈴薯・燕麥・大豆・豌豆等の農産多く、また林業・漁業・牧畜業稍々行はる。省線宗谷本線山麓を南北に貫き、同線別(大正十二年設置)・雄内・安牛・上幌延(以上四線大正十四年設置)・下沼・豊満・廣川(以上四線大正十五年設置)・兜沼(大正十三年設置)等の諸線を有し、幌延より省線天鹽線分岐す。天鹽町よりバスの便あり。寛永十一年伊能忠敬の製圖せし北海道全圖を見るに、大字沙流村ワカサグナイ(現今の幌延所々在り)に測量基點を設け附近を實測せしこと瞭かなり。蓋し和人に於て村史上に足跡を印せしは之を以て嚆矢となすと思惟せらる。のち天鹽村に這上層段に會所置かれ、松前眞兵衛をして天鹽川及び沿岸一帶の漁業取締を任せ、備に任じたるを以て、偶々本村に居所したる者ありと思はるるも、漁務に從事せしものにして、定住者は認めらるに由なく、明治二年六月開拓使を置き、同三年前記ワカサグナイに官設宿泊所を設け旅行者の便を圖りたれば、是の經營者こそ本村定住者の開祖とも云ふべきもの何人なるか詳ならず。當年藩主の命により、鑛子の漁夫六十名を天鹽村に渡航せしめ、天鹽川の鮭・鱒の捕上するを漁獲せしめたるが、河身流木多し技術に不便なるを以て渡河工事を行行せし傳ふ。同二十二年天鹽村に官設宿泊所を設け、

長役場派出所を設置し、幌延村・沙流村との管轄に屬す。而も宿泊所の外は舊土人歌戸の散在せるに過ぎざれば施政上何等の事蹟なし。同年中、露國捕鯨船宗谷海峽附近にて難破し、一名の露國人屍體並に難品數十箇の難破内沿岸に漂着せしため、檢屍及び引取のため長崎より露國海軍少尉および軍醫の二名來村せしことあり。同二十三年東京の岩谷松平なる者大曲附近にて大地積の掘下並に漁場貸付の許可を受けたるも其の經營見るべきものなくして止む。同三十一年六月札幌の中野天民なる者ワカサグナイの探検を試みしが、運輸の不便に因り結果に終りたるも、就業者の一部は地積開闢にて肥沃なるに着眼し、以て本村の有象なる拓殖地なるに宣傳され、初めて北海道廳は殖産課に着手し、又この時に幌延村・沙流村の村名を公稱するに至る。越えて同三十二年下ワカサグナイに本村最初の移住民として入地せる福井縣國體十五戸あり、交通の不便に加へ、興害・霜害・水害等の被害多く、翌年遂に團員解散の止むなきに至りしが、是れ即ち本村開拓の難關とす。同年中、越後三條町本成寺經營に係る法華宗農協の大地積貸付となり、翌廿三年小作農家九十戸三百七十五人移住し漸く開墾の業大に進む。爾來大地主の轉地開墾に着手するもの、及び團員移住民抽出今日に至るまで見らる。同二十五年中又旅行外二十村役場

を設けられ幌延・沙流の二ヶ村これに屬し、明治四十二年四月幌延村外一ヶ村戸長役場を今の箇所に設置し、後十ヶ年にして大正八年四月幌延・沙流の二ヶ村を合併し二級町村制を布き初めて自治團體としての形態を具ふ。交通機關は天鹽川を便船を以て運送せるに始り、道路の開鑿せられしは明治廿三年今の地方費道路線たるワカサグナイ渡船場より上ワカサグナイ北廿五線に至る約四里の延長を嚆矢とし、逐年道路の開鑿敷線を算し現在總延長六十四里に達す。鐵道は省線宗谷本線の同線別線が大正十二年十一月本村南端に開業して以來、同十三年六月には兜沼驛、同十四年七月には幌延驛まで開通し、翌十五年七月全通を見、今後の村勢の發展進歩に底止する處を知らざるの感説を呈せんとす。特に豊富に埋藏せる石炭・石油・砂金銀は大いに採掘の歩を進め、拓殖の開發促進と共に本道屈指の大資源地として本村の將來は眞に天恵に富みたる一大寶庫と稱すべきなり。(豊富温泉)泉質は鹽類泉にてワカサグナイ・婦人病・呼吸器病等に効能あり。附近には荒蕪たるワカサグナイ原野あり。その中に針葉樹林に蔽はるる幽邃境ペンケ沼・パンケ沼あり。遠に利尻島の秀麗を望まざる。温泉は村井鐵業會社が石油坑掘鑿の際、突然温泉の湧噴を見しものなり。

全部より成る。室蘭市の東北に接し、東南は太平洋に面す。東は白老郡、北及び西は有珠郡に界す。面積二一三・六八方軒。登別火山の南麓に位し、地勢北部に高く海岸に向ひて漸低す。海岸線極めて平滑なるも北及び南に峭法花・登別の小岬あり。幌別・登別川口沿岸平野上に豪華闊く。各河川上流に發電所設けらる。鮭・鱈・昆布を筆頭に馬鈴薯・大豆・亞麻・牛馬を産すれども多からず。當村内には幾多の金銀銅鐵の礦區あり、また他村に跨りて硫黃の礦區ありと現在のところ何れも採掘せず。省線宗谷本線幌別(明治三十四年設置)・幌別(明治二十五年設置)・登別(明治二十五年設置)の三線を有し、また登別より登別温泉軌道電車發す。幌別はアイヌ語のワカサグナイにて、大川の義とす。この地は片倉景範が仙臺藩の白石城主たりし時、明治二十一年十一月、舊臣を以て支配地置振國幌別の地を相して還り、同三年七月、舊臣、六十七人なを移し、同四年春より五年秋に至り九十人なを移し、幌別・登別・開法華などの地に散居せしむ。十二月、土地人民を開拓使に移管す。(登別温泉)登別驛の西北七軒半にて自動車道の便あり。途中、紅葉の勝地として有名な紅葉谷あり。自動車はその溪谷を左に見つづ走り、やがて硫黃の氣任のかに漂ふ温泉場に入る。登別は北海道第一の温泉にて、我國に於ける著名なる温泉場の一つに數へられ、北海

道に入る旅行者にてこの温泉に足を入れざる人は殆どなしと云ふも過言ならず。温泉場は海抜約二〇〇米、四邊草叢に包まれ、北方の日和見山は絶壁ゆるを見ず。市街はタスキヤンベツ川(湯の流るる川の意)の流れを挾みて延び、旅館・料亭・カフェー・土産品店など軒を並べ、船の香煙を遊樂的温泉場たり。温泉の由来は古く、日蓮上人六老僧の一人なる日持上人の法弟日蓮がこの地に入りし事あり、いま湯澤神社境内にある願石は日蓮の筆蹟なりと云ふ。又この附近のアイヌの祭神にマブイベツカカモイあるを見るに、温泉の靈効が土人間にも知られし事想像さる。然し温泉場として開けしは安政年間、浦本金藏が妻の皮膚病を癒さん爲この地に來りてその効能を知り、廣くその惠を頌たため、浴室を設け湯宿を營みしに始まる。温泉は地獄谷の湯元より流るる硫黃泉の外、ワカサグナイ泉などの涌出するあり、湯の川の斷崖には十六條の湯淵が懸り、外湯三ヶ所の外、十數軒の種類の内湯の設あり。入湯者はその病癒し癒癒する温泉を運び入浴する事を得。(カサグナイ温泉)泉質は無色透明の單純泉にて温度七〇度、神經系諸症・骨節痛・リウマチス・痲痺・婦人病等に効能あり、飲用せば胃腸病に効ありと云ふ。浴場は瀝崖の岩壁を穿ちて設けられ、湯の中、湯の下の湯に別かる。登別川の上流千歳川の曲流せる溪間にあり、海

抜二五〇米、西に來り、北に登別の聖徳を仰ぐ開闢地なり。湯治専門の清淨な温泉場にて、遊樂的温泉と好對照なり。本温泉は明治二十年、日野久橋氏が樹種調査の爲この地に入り、千歳川畔の岩窟に野宿せし折、河畔に温泉の湧出するを發見せしに始まり、その後三十二年この地に移りて温泉場を開けり。「野宿之碑」と稱湯はその時の事を記念せるものにて、聖徳堂の側には「開祖日野久橋翁功績碑」が建つ。附近にはオロフレ山・御花畑の勝地あり。最近ここを経て神慶温泉方面への自動車路開かる。冬季は好スキー場となり、お花畑にはスキー・休憩小屋あり。(登別原始林)指定天然記念物。大字登別にあり。海抜二〇〇米、面積約三九二ヘクタールの山岳林にて、北海中帯南部植物區系的好標本なり。その上層は落葉闊葉樹に占められ、下木の發育は良好ならざるも、北部に見る能はざる「みやこささ」の生育最も良好なり。喬木には少數の藤本の上昇するを見る。いま主要植物を記せば、うだいかんば・ななかまど・あかいたや・ほほのき・くり・しらかんば・みやまばしのき・みづなら・はりざり・やまもじのき・しんまき・あづきたし・あさだ・あなだも・はうちにかへて・さばしば等にして、下木たる灌木は、みやこささ・こくわ・のりのき・なほほこりやなぎ・いそつづじ・こやうらくつづじ・はなびりのき・なつばせ・

がんこうらん・ほうつづじ・れまがりたけ・藤本類は、いかががみふことづづる。つるまき等なり。而して本地方は北海道の南部に位せるを以て比較的暖地の種類を含むと同時に、夏季の寒流影響を受くべき海岸に近く、且つ温泉地帯に屬するにより、植物區系極めて多様なり。この原始林指定區域中には全く樹木繁茂せざる温泉の涌出地、即ち俗稱地獄谷・大湯沼及び小湯沼を含むより、地質學上参考に資する事大なり。(地獄谷)温泉街より湯の川の上流四〇〇米、湯元の大湯谷に云ふ。川の噴火口の跡にて、數十米の懸岩絶壁を繞らし、流灰色硫黃質の岩石起伏連亘し、大小無數の氣孔と、熱泉を湧騰する十數のいはゆる地獄ありて、濃氣四逸を蒙り、地底より噴出する温泉は流れて川を成し、物凄き景觀を呈す。地獄には大地獄・龍巻地獄・虎地獄・湯花如・大地地獄・釜地獄・虎地獄・龍巻地獄などの名あり。劍ヶ峯の石柱はすさまじきものなり。(大湯沼)地獄谷の上手約三〇〇米、周囲約一軒、一面に熱湯を湛へ、含有量約七五%の硫黃を汲み上げ、多き時は一月三百超に上ると云ふ。岸邊に浮遊する球狀の破片は中空性燐狀硫黃にて珍奇なるものなり。附近には絶えず噴涌しつづある奥の湯の熱池あり、また大正地獄あり。(橋洞)一名カサグナイ。登別温泉の西方カサグナイ温泉の西三軒にあり。カサグナイ盆地の火口壁上の小

火山の火口に溢へられし小湖にして排水口なし。海抜四三〇米、面積〇・一一五方軒。湖岸は一・三二軒にして深度一・三・二米、水色は藍綠にて透明度四一九米、浮游生物は少なく、湯煙散漫さる。(登別スキー場)大湯沼の南方にある五八〇米を中心とする無樹帯の廣大なスロープにて、一般向の練習場なり。雪量は割合少きも、温泉を中心としてスキーを樂しむに適す。(四方塘)登別温泉よりワカサグナイに至る途中、ワカサグナイ湖の西岸海抜約五四五米の嶺を云ふ。温泉場より林間歩道に登ること約二軒餘、嶺上の四阿に立ちて四顧せば南に登別驛を見越して太平洋の荒波を見、東は山下にワカサグナイ湖の碧水を見、遙に標前山の噴煙を仰ぎ北は日和山の噴煙の下に大湯沼、その背後にオロフレ・來馬嶽等の連山を望み、西は登別方面より噴火煙を隔てて駒ヶ嶽の尖峯をも眺望し得る好箇の景勝展望なり。これより急坂一軒半を下ればワカサグナイ湖あり。(日和山)大湯沼の北に聳え、頂上よりは常に白煙を噴く。その噴煙上昇の多寡または方向によりて、漁夫海上より天候を豫測するよりこの名を負ふ。(湯澤神社)湯澤街より地獄谷への途中、湯の川の橋を渡りて左手にあり、應神天皇を祀る。境内に楓樹多し。日蓮上人の願石は多年雨露に曝され文字明かならざるも石面に水を注せば尙ほ黒痕を窺ふを得べしと云ふ。神社以北一帯の

ホロへ——ホンカ

山陵はいま温泉公園として教條の歩道拓かれ地獄谷一帯の光景散々。〔刈田神社〕大字ハマに鎮座。郷社。祭神保倉神。日本武尊を合祀す。古來當處の鎮守たり。例祭、九月二十一日。〔北大附屬温泉研究所〕温泉街の北部に位し、小湊に臨む。北海道帝國大學醫學部附屬醫院の分院にて、研究部と診療部に分れ、温泉及び氣候學の學理並びに治療的應用に關する研究を行ふ。建物は鐵骨コンクリート及びモルタル木造の三階建てにて、本館・病棟に分れ、浴室には全身浴室・特殊浴槽等あり。診療開始は昭和十一年一月二十日。

〔觀別郡〕 觀別村

〔觀別山〕 壯野村

〔觀別川〕 北海道日高國日高支廳浦河郡浦河町の東部。浦河町北境に發立する春別山(二九三米)の南麓に發して山向を南流し、東西両山地よりツカベツ・ルテツベツ等の支流と合して春別川となり、更にシムマン・メナ・ウワンベツ川注ぎ觀別川となり太平洋に注ぐ。河口に近く西方に約二軒急激なる大カーブをなせり。大なる三角洲を有し耕地を拓く。流域約三〇〇軒。

ホンガウ

本川村 高知縣土佐國土佐郡の西北隅。吉野川の水源地を占め山間僻地の地にして、南は吉野川に接し西及び北は愛媛縣上浮穴郡・新居郡に界す。面積二〇八・六平方町を有する大村なり。四國山脈の中央に位し、高峰峻嶽が層を並べて四圍村境に屹立し、村内は山又山を以て埋めらる。即ち、北境には平家平・荒山・笹ヶ峰・寒風山・伊豫富士・東風山・西風山・嶺ヶ森山(一八九七米)・伊吹山・岩黒山等が東北より西南に蜿蜒と櫛比し、西境の筒上山(一八五九米)より一〇〇〇米以上の連嶺南へ彎曲しつつ東に連りて東境に船登山(一五〇六米)を起す。吉野川は西境に發して中央を屈曲しつつ東流し東北隅より隣村に入る。南部には筒上山に發し南境の山麓に沿ひ東に流る大森川ありて東南部に北流し吉野川に合す。また東北部には寒風山に發し東南流して吉野川に合する川あり。村内低地と稱すべきものなきも河川沿岸に沿ひ部落點在す。麥・粟・米の農産及び林産・工業・水産等あり。基安嶺山(銅硫化鐵)の鑛區は富村と愛媛縣新居郡加茂村とに跨る。同嶺山は重要鑛山にて本嶺は加茂村大字藤野石山にあり(加茂村參照)。從來道路として見るべきものなく、其間斷は多年の懸案なりしが物語紛々の結果、昭和八年に隣村の吉川郡清水村より請ゆる辭職隧道出來、交通上一掃の曙光を見るに至る。村は山岳重

ホンカ——ホンロ

り數多の支流を集めつつオホーラ海に注ぐ。流域三〇軒餘。河口附近に至れば大いに蛇行し、流域に低温なる平地を展開す。沿岸に繁茂多く、耕地拓く。

ホロムイ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知支廳空知郡の西南隅。夕張川の江別川に合流せる北部の三角地形上に位し、岩見澤町の南に隣接す。西境を江別川北流して石狩支廳江別町と界し、南は夕張川を以て長沼村に、東は栗澤村に接す。面積八三・一平方町。石狩平野の東南部を占め、地勢極めて平坦肥沃なる原野を以て蔽はる。灌水の便に恵まれ稲作に適し、耕作漸次盛なり。米・蕎麥・玉蜀黍・馬鈴薯・大豆等の農産額最大にして、畜産積之に加はりて本村産業の全産額と爲す。社線夕張鐵道の晩翠驛・南幌驛(共に昭和五年設置)を設き、また江別町・長沼村間にバスの便あり。本村は明治三十年に栗澤村より分村せるもの。

ホロムシロ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホロムエ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンキ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

ホンケ

〔觀別川〕 北海道石狩國空知郡岩見澤町の大字。南前本嶺の觀内驛(明治十五年設置)あり。

の積りに係り、昭和十年には鐵道一三、九八四錢(價額約五萬六千圓)を産出す。

ホン

〔本村〕 新島本村(東京府) 廣島縣備後國比婆郡の南部。高村を挟みて西方は庄原町に對し、南は甲奴郡に接す。北は西城町、東は香澤村に界す。面積三三・一三平方町。西に大黒目山(八〇二米)、東に御神山(八八九米)の間、東北・西南に長く横り、村内概ね山地あり、二條の山脈東西兩境を地形に沿うて東北・西南に連り、中央に峽谷存し西南部に土地ひろげたり。附近に耕地拓け、他の大部は山林に蔽はる。米・麥・蕎麥・酒類・木炭等を産す。山間の僻村なれば鐵道も通せず、庄原町へ一〇軒餘、交通不便なり。〔觀別川〕 大字本に鎮座。祭神、天津日高日子德々出見命・神後伊波禮思古神。式内社。例祭、陰曆十月十日。特有神事として御田植祭、穂掛祭あり。

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

〔本村〕 廣島縣安藝國高田郡の西部。西は山縣郡壬生町に接し、北は北村、東は横田村、南は丹比村に界す。面積二九・四平方町。地形略々圓形にして四圍山脈に圍繞せられ、南に津ヶ良山(八九九米)聳ゆ。南部・中部に於て地勢最も高く東北方に傾き、横田村界に低地ひろく、耕地あり。山間の窪地に牧畜行はれ、他は概ね山林なり。米・麥・蕎麥・柿等の農産物最も多く、林産、工業これに次ぐ。畜産甚

米)連なりて東方に傾斜し、東市境には八久和山(九九一米)聳え、北方に傾斜す。全村山地多くして、大島川は中央部を、早田川は東部を各北流し、赤川の上流梵字川に合す。梵字川は東境を峡谷をなして北流す。大島川流域には耕地拓げ米、蕎麦を産す。また村内概ね山林地帯にして木材・木炭の産多し。道路は大島川に沿ひて南北に通じ、鶴岡市へはバスの便あり。人口密度は一方軒につき、五三人に過ぎず。「河内神社」大字本郷に鎮座。郷社。祭神、事代主命・溝咋比賣命。例祭、五月十八日。

【本郷村】山形縣羽前郡西村山郡の東部。左澤町の西に隣接す。西南境には田代山(五一八米)、北境に蒲谷地山(四五八米)聳え、前者は東北方に、後者は南方に傾斜し、全村山地多くして、月布川は村の中部を東流し、沿岸に耕地拓く。米・蕎麦を産す。道路は中部を東西に通じ、東方者線左澤線の左澤驛へバスの便あり。

【本郷町】福島縣磐前郡大沼郡の東部。若松市の西南約六軒、北及び東は北會津郡に接す。面積四・四六方軒。東南部に北山(四〇九米)そびえ、北方に傾斜し、北と西は會津盆地に属す。東境を大川北流す。米・蕎麦を産し、會津焼の本場として著名なり。會津附磁器同業組合あり。道路は北・西・南の三方に通じ、若松市・高田町へバスの便あり。省會津線會津本郷驛(大正十五年設置)は隣接せる

の丘陵に、中央へ傾斜し、八ヶ川南より中央を西へ曲流す。流域に狭き平地開く。農・林業を主とし、米・蕎麦を産する外、牧畜・工業少しく行はる。穴水・門前間に縣道通じ、バスの便あり。北方の輪島へも縣道通ず。省線七尾線穴水驛へ約八軒。此地は和名抄、風至郡御比郷(一)に御野郷に作るの内なるべし。

ホンノ

川南村に置く。人口密度は一方軒に付六四九人なり。この地は和名抄、會津郡長江郷の地なるべく、中世には長江庄に属す。永祿四年、輩名盛氏の城を築きし所にて今その址を存す。輩名氏若松城に移り、商家も共に移り村を築く。文祿二年、蒲生氏郷、城郭修理の時、屋根瓦を造らんとす。浦上村より石川久左衛門なるものを招き瓦を製せしむ。のち正保四年に藩主保科正之が美濃國の人、水野源左衛門成治に命じ瓦を開かしめ、製品の陶器を製造せしめ、源左衛門殿後、その弟長兵衛を招き製陶に従はしめ本郷焼の名漸く盛になり、瓦は別に役所を設けて造らしむ。初は黒瓦なりしが承應の頃より赤色の瓦を本郷とするに至り。磁器は寛政の初年、肥前の人近藤平吉を江戸より招き、本町の佐藤伊兵衛等をして學ばしめしが初めは完全なるものを造る能はず、藩主は伊兵衛をして關西・九州の陶窯を巡視せしめ、同十一年歸郷して新窯を開き漸く堅牢なる磁器を製するに至り。これ會津焼の盛大となりし起因なり。明治三十六年に町制を布く。

【本郷村】栃木縣下野郡河内郡の東部。上三川町の東北隣にして、鬼怒川の西岸にあり。東は川を隔てて芳賀郡の一部と相對す。全村平地にて農業を主業とし、米・蕎麦を産し、特産物として干瓢・桃あり。縣道は上三川町、西北隣の雀宮村、北の宇都宮市及び東の芳賀郡河内町

寺等に焼かれ、什物は現今その支寺福井市心月寺に存すと傳ふ。大字清水平に柱の清水と云ふ池あり。一區の飲料水に充てられ、清水平の名も之に見ゆ。傳に據れば大字蒲原に古書に彌骨と見ゆ。體體天皇の御一族にて彌骨にましませし王の原住せしより此の稱を得たりと。村内に十八社、眞宗大谷派寺院二ヶ寺あり。全村殆ど眞宗門徒にて一時は三門徒の義の景氣なりしも、今は邪氣も少く信仰極めて厚く縣下第一の信仰村の感あり。

【本郷村】福井縣若狭國大飯郡の中部。高濱町の東方約三軒にありて若狭灣に臨む。南は波敷郡に界す。南境には約四〇〇米の山脈東西に連りて村境をなし、東境に於ては山脚が北に延びて山麓は海に終る。西北部は山地東麓の東傾斜地をなす。中央には平野開け、西南方より来る一河川東北流して若狭灣に注ぐ。約一軒の海を隔てて、對岸には西隣の和田村より牛島嶼に東北方へ突出する陸地を望み、其の南部は南傾斜地をなして本村に属す。米・蕎麦を産し、副業に養蠶行はる。また水産もあり。海岸に沿うて若狭街道走り、河川に沿ひて西南方へ走る一道路あり。また香輪小預船は海岸を走りて若狭本郷驛(大正十年設置)あり。海上汽船の便あり。此地は和名抄、大飯郡大飯郷の地なるべく、大字山田に延喜神名帳の大飯神社あり。村上源氏、本郷氏の發祥地にして、本郷の豪族なり。文武の藝に秀

ホンノ

方面に通じ、雀宮村には省線東北本線雀宮驛を置く。この地は和名抄、河内郡羽部郷の内。

【本郷村】埼玉縣武藏國大里郡の西部。深谷町の西約四軒にて、西は見玉郡と隣す。西境には山崎山(一七米)等の丘陵地あるも他は平地にて畑地多く、農業・養蠶行はれて米・蕎麦を産す。縣道よく發達し、東は深谷町に通じバスの便あり。東北隣の岡部村に省線高崎線岡部驛ありて縣道を通ず。此地は和名抄、榛澤郡鹿形郷の内なるべし。文明八年、長尾景春と太田道灌との地に戦へり。

【本郷】千葉縣印旛郡にありし村。大正三年に本村及び柴原村を廢し、本郷村を置く。

【本郷郡】東京市三十五區の一。謂ゆる山の手に屬する一區にて、東は下谷區、南は神田區、西は小石川區、北は豊島・荒川野川の各區に隣接す。區はもとの本郷・湯島・根津・駒込及び千駄木の五町を合せしものにて、區名及びその中心を占むる本郷町より起りしものなり。元來本郷なる地名は我國に頗る多く、一定の聚落の一香本をなす郷の義なり。故に凡そ某所本郷となる。而してこの本郷區の本郷は定説によれば湯島本郷なりといはる。それがのち湯島と別になり單に本郷となりしものなりといふ。本區の一部は山の手に稱する地帯にて、舊幕時代には武家屋敷多く、町家は街道に當りて立ち列ぶに

過ぎざりき。「本郷もかれやすまでは江戸の内」と謂はれし如く、本區は江戸の湯米、隣接町なりき(現在の中心點、駒込追分町より分岐して、北に縱走する中仙道の兩側に發達す。舊幕時代より文教の中心地として湯島の聖堂(孔子廟)や昌平學(幕府直轄の學問所)を有し、自ら江戸に於ける學問の發祥地として重きをなせり。明治維新後も最高學府たる帝國大學が設置されし爲め、依然として學藝の中心となり、從つて本區は學者街と云ふが如き一種の特色を有す。

【本郷村】神奈川縣相模國鎌倉郡の東部。横濱市の西隣にして、南は鎌倉町・大船町と隣す。全村丘陵地にして森林多く、西北部は稍平地ありて農業行はれ米・甘藷等を産し、養蠶も行はる。縣道は横濱市及び大船町に通ず。此地は和名抄、鎌倉郡尺度郷の内なるべく、本郷の名は鎌倉寺の建武年間(文書)に山内庄本郷とあり、永徳・應永のものには山内本郷とあり、大字小菅谷は北條泰時(女を小菅谷殿と稱せし事ありといへば)或はこの姓田などありて住居せし地か(證書提寺)大字上野にあり。古義眞實宗。文久五年眞田與市追福のため建立の北條義時、安教・賢融相次いで重建す。

【本郷村】石川縣能登國鳳至郡の西部。西は門前町、東南は穴水町に隣接し、牛島東西岸の時中央部に當る。八ヶ川上流に沿ひ村境を開き二〇〇米・三〇〇米

陸上競技場あり、敷地面積二〇〇〇アールを有する綜合運動場にて神宮院技場と同じ設備を有つ。中信地方の中心として、また長野縣下經濟文化の中心たる松本市の郊外として、寧ろ其の一部として活況を呈す。此地は和名抄、筑摩郡幸大郷の地なるべく、また中世は岡田郷に属す。温泉多く、大岡氏の領地たりし故に大岡御湯とも稱され、また往時、小笠原家の廟所大隆寺ありしといふも今はその寺跡を残さず。大字惣社に信濃國府の總社のありし地なるべし。

ホンノ

榮の外に置かれたりしが、明暦の大火災後、市街開發の必要上、幕府は旗本屋敷下の屋敷を此處に建設するの目的を以て、當時未だ葦藪叢生せる此地に運河を開鑿し、道路を通じ、萬延三年には兩河橋を架設して専らその開拓に力を注ぎたり。茲に於て直接交通の便開かれし結果、江東一帯は急激な發展を來し武家屋敷と共に之を回る町家も著しく増加して、本區繁榮の魁をなせり。其の後水難等の事ありて一時衰微せしも、元禄元年旗本の十二百四十家を此處に移せしより、また一段と本區の活躍が展開さる。かくして本區は江戸の中核より旗本階級の中心地をなすに至り、世の太平に慣れしこれ等旗本の威風が謂ゆる「旗本五人男」の名稱を生みこれ等を中心として情緒麗々たる文化を生みぬ。然るに明治維新後、何時しか工業地帯と化し、大東京の産業の中心をなすに至りしかば、會ては文人墨客の巷なりし此の地も、その特色と方向を全く一變せり。かの大正十二年の大震災に於ては被服廠跡を始め、最も悲慘なる災禍が蒙りしが、隨生の愈氣に燃ゆる區民の大活躍の結果、今日の復興を見るに至る。なほ本區は大正十四年都市計畫の上より深川區と共に工業地帯として指定されたるを以て、今後工業方面に更に一段の飛躍をなすべし。區内には大小の河川縱横に貫通するを以て水運に基まれ、加ふるに復興計畫によりて、隅田川を跨ぐ音問、

駒形・藏前の三大橋が架設せられ、香妻、麻・兩國橋等の改築もまた相次いで完成するに至り、交通連絡の便更に加はりしため、本區獨特の工業地帯としての新らしき繁榮が著されつゝあり。

ホンシヨ——本庄村

島取郡國羽前山形市村山郡の南部。本庄村は、西北は福部村を隔てて日本海に臨む。東は岩井町、南は小田村に接す。面積九・八方町。地形東西に長く西より南に山脈連なり北東部は平地拓げ岩本川貫流す。山麓より河岸にかけて耕地拓げ米・麥・蔬菜を産す。山地には山林地と原野相半ばして荒涼なり。故に近時村内に造林保樹組合設けられて植林に努力せり。養蠶もまわく行はれ繭の産多し。省線山形本線北東部を貫通し岩美驛に近し。村名は岩井莊の本莊の義なりと。大字新井に流竹城址あり。三上兵庫の居城なり。兵庫は山名祐豐の弟にして、幼にして僧となり東陽藏主と稱す。天文の頃遺俗して城主となり、永祿の頃武田高信の謀反に與し終に永祿七年山名豊次の高に滅ぼされ城も廢す。幕末の勤王家村上源藏は此地の人にて、明治元年備前伊西園寺公山陰道經觀に隨行し人馬糧重の徴發に努めしが意の如くならず罪を朝廷に謝し自刃す、年五十五。贈從五位。(美東神社) 大字大田に鎮座。神社。祭神、大物主命。創建年代詳かならざれども、貞觀十五年正五位下を授け

ホンシヨ——本庄

山形縣羽前國南村山郡の南部。本庄村は、南に隣り、東には宮城縣刈田郡、西南は東置賜郡に接す。南境は海拔約八〇〇米にして北方に傾斜し、中部に大澤山(五三六米)聳え、北部は上ノ山盆地に屬し平坦なり。宮川は東部を北流す。米・蕎麥を産し、柿の産あはる。また縣下に於ける殆んど唯一の林産地として著名なり。名物に紅梅を加工したる關根柿あり。村の西部には三上銅山あり。道沿は村の中部を南北に通じ奥羽本線上ノ山驛へはバスの便あり。

本庄町

埼玉縣武藏國見玉郡の北部。全町平地にて養蠶地帯の中心をなし、生糸・蠶種の産頗る多し。農業之に次ぎ米・蕎麥を産す。山道は町の中央を西走し聚落はこれに沿ひて發達す。省線高崎線、これに沿ひ本庄驛(明治十六年設置)あり。その他縣道多く集りて交通の一中心をなす。この地は中山道の本庄宿のありし所にして、舊郡役所のありし所、いま警察署・實業支所・中學校・高等女學校

本庄村

山形縣出羽國八束郡の東北部。松江市の東北方約五町に存し、東は中海に面す。北は千代村、野波村、西は持田村に接す。面積二・一五方町。海岸に沿うて南北に長く、地形上三部より成る。北部は東西に山脈連なり、澁水山(五三六米)聳ゆ。南部また嵩山(三二六米)あり。兩山地は中央部に傾斜して中央平野に終る。中央平地は一小川灌漑して耕地多し。海岸線は出入に富み處處に漁業聚落存す。米・麥・蕎麥・茶・海産物等の産多し。縣道南北に貫通し松江市にバス通じ、海上は近海定期船の便あり。(長見神社) 大字長海に鎮座。祭神、天津彦火々瓊杵尊、木花咲彥尊、天孫降臨の後ち御立寄の地と傳ふ。式内の古社にて安産守神として古來一般の崇敬厚く、松平藩主代々の崇敬もまた深し。例祭、十月九日。(久良彌神社) 大字新庄に鎮座。祭神、豐受鏡神。式内の古社

本庄村

佐賀縣前國佐賀郡の南部。佐賀市の南に隣り、地形極めて平坦にて一帯の沃野連り、東境に沿ひて八田江南流し之より分れて南境に沿ひ西南流する細流あり。米産多く外に麥・蕎麥を産す。佐賀市へ近く交通の便よし。本庄とは奥賀本庄の謂にして享祿三年、鍋島氏の祖、平右衛門清久父子、田原原合戦に功ありしにより龍造寺家業より孫四郎清房に本庄八十町を雙引出物として分與す。

琵琶湖と分たる。米・蕎麥・桑葉・雄肥用作物・栗種・茶等の農産物を主とし水産物も亦多く水産製造物もあり。湖岸に沿ひて走る縣道あり、中部には東西に横斷するものあり。西南方の大澤町と北方の今津町へはバスを通ず。(日枝神社) 大字南船木に鎮座。祭神、大山作命。建久六年、日吉本社より勧請すると云ふと傳ふ。

【本庄村】 京都府丹後國與謝郡の東北部。與謝中島の東北端に位し日本海に臨む。全城は安山岩より成る山地にして、中央に小川あり曲折を描きて日本海に注ぐ。河川の流域に平地あり、米作を主業とし、養蠶業亦見るべきものあり。また沿岸は好漁場にして漁獲高も多く本庄濱は其の中心鎮地なり。然し天然の好鎮地なく、且つ漁獲物は殆んど附近の郡邑に送らる。但し本村の南方伊根村の伊根灣は好鎮地にて北丹の中心漁港なり。この地は位置北に偏在する事と、見るべき産業なく、地形亦山地多く海岸所々急崖をなす關係上、重要幹線路の開通遅れ、海上交通も良港地を缺き、且つ冬季の風波は通航を阻害するに由り海陸共に交通は極めて不便なり。文化の中心より遠ざかり交通不便なる爲に古風を遺す。本村に鎮座する宇良神社(浦島神社)の春夏の祭祀は古典を傳ふるものとして世に著はる。(宇良神社) 大字本庄濱に鎮座。祭神、浦島子。祭神浦島子は正しくは水

江浦島子といひ、一に水江浦島子に作る。後世の謂ゆる浦島太郎これにて浦島の物語は日本書紀・丹後風土記・本朝神代傳・古事談等に見え多く人口に膾炙す。本社は浦島の没後、社殿を建て、これを神に祀りしものといふ。延喜式與謝郡十七座の一にて、近郷十三村の氏神たり。例祭、八月七日。

本庄村

兵庫縣攝津國武庫郡の南部。大阪灣に面する海濱にして魚崎町の東に隣り。地形低平にして東境には蘆屋川南流して海に入る。蔬菜・花卉・米・果實・食用農産・麥類・鶏卵等の外、海岸は水産業盛にて漁獲漁獲物多く、また大阪灣岸工業地帯の一部を占むる爲め工業盛にて植物油・酢・メカス製品・肥料等の産出高多く木製品・蠶・竹製品等も産す。縣道及び社線阪神電氣東西に村を貫通し後者の深江・青木の兩驛あり、また神戸市・大阪市等へ自動車の便あり。神戸高等商船學校(大正九年創立)あり。

本庄村

兵庫縣攝津國有馬郡の西北部。三田町の北々西約五町にあり、北は多紀郡に界す。積々南北に細長し。北部には約五〇〇—七〇〇米の山地ありて其中央に奥山(五七一米)あり。中部と南部には丘陵處々に隣り、西境に若荷谷山(四二八米)・穴口山(三一九米)等あり。平地は中部及び南部の中央に稍々廣く開く。西方より來る武庫川は若荷谷山の北より本村に入り中央を南下して東南部より隣村に

即ち鶴島家發祥の地にして、此の地に清房が永正五年に創設せりといふ高傳寺あり。村内に佐賀高等學校あり。〔本莊神社〕大字本莊に鎮座。郡社。祭神、豐玉姫命。例祭、十月二十八日。〔高傳寺〕曹洞宗。天文二十一年鶴島清房創建。同家の菩提所。大涅槃像(八間・三間餘)は世に聞ゆ。

〔本莊〕熊本縣飽託郡にありし村。大正十年に熊本市に入る。

〔本莊町〕宮崎縣日向國東諸郡の東部。大淀川支流の本庄川に跨り、宮崎市の西北部より西方四軒餘にあり。北部及び南部には低き丘陵が南北より東南に連り中部を繞北川が東流し東南方約三軒にて大淀川に合す。流域には廣潤なる平野が開く。西北隅には深年川が流れ来り東南流し、北部中央にて八代村に入り、再び本村東北部に流れ入りて東境に田で之に沿ひて東南流し本庄川に合す。流域に稍々耕地拓く。農業を主とし一六、七〇〇石の産米の中、米は一、五六九〇石—三六〇、八七〇石、雑米は八一〇石、陸稻は二〇〇石にして、麥の産量は二、三五七石なり。工産物としては和紙(廢紙六一、四一〇圓)を産し婦人用懐中用紙として無比なり。東部の六日町より宮崎市へ鐵道通じバスの便あり。此地は和名抄、諸郡八代郷の内。大正八年町制を布く。

〔本庄古墳群〕本町民家の間、及び附近傾地に散在し、前方後圓墳あり、横穴及び

び地下墳あり、總數五十七を算す。此地は上代に日向諸縣の中心地をなせし事認められ、高塚式は形状完全且つ雄大なり。地下墳は近年内部より短甲・直刀・鏃等を出し、日向に於ける古墳群のうち顯著なるものに屬す。(八幡神社)大字北本莊村に鎮座。郡社。祭神、譽田別命・足仲産命・氣長足姫命。相殿、式内宿禰。淳和天皇の元長八年御前の宇佐神宮を勧誘して創祀す。例祭、陰曆九月十六日。

〔義門寺〕淨土宗。藥王山東福院。貞和二年直心の開創する所にして、もと藥王寺と稱し神代たり。のち日向の守護神伊東國の末孫たる義門の跡依を受け、堂宇を再建し、且つ現宗に轉ずると共に現寺號に改む。のち天正年中豊臣秀吉九州征討の際、弟秀長當寺に陣を構へたり。

〔本庄町〕秋田縣羽後國由利郡の西部。本郡の主要にして、西は日本海に面す。面積一五・二一方。村の西南部及び北部には臺地ありて森林をなし、東部は本莊平野にして平坦なり。子吉川は町の東境を北流し、北部に於て流路を西に變じ西南に流れて日本海に注ぐ。河口に近く河港を有す。海岸は平直にして砂濱をなし、杉の防風林連る。米・酒を産し、製材行はる。また本莊米・木材等の集散行はれ、船舶の出入は土崎港に次ぎて盛なり。酒田街道は町の中西部を南北に通じ、東北の刈野町へ刈野街道を分つ。東北

南方よりは本莊街道來る。省線羽越本線の羽後本莊驛(大正十一年設置)を置き、矢島線の分岐點をなし、同線はこれより東南方に出づ。交通便にして町内バスの便もあり。人口密度は一平方軒につき九五二人あり。本町は本郡の主要にして舊郡役所のありし所なり。いま稅務署・警察署・營林署・區裁判所・中學校・高等女學校等あり。和名抄、飽海郡由理郷の内にして、古の由理郷のありし地、由理郷もまたこの地にありしならん。いま本庄城址あり、一に尾崎城、又は舞鶴城と稱す。慶長十五年、最上義光の臣頼岡滿茂の築く所。尋て本多正純に賜ひ、九年六郷成業これに代り、二萬石を食み、子孫世襲して明治維新に至る。時に藩主政體、官軍に屬す。明治元年八月、藩内藩の兵來り、此城を占領す。亂平定後、政體勤王の功を以て一萬石を加へらる。藩校、總教館は天明年中、六郷政連の創立せしもの。(八幡神社)郡社。祭神、譽田別命、外二神。寛治年中、葛浦時中島に鎮座あり、その後數度遷座ありしが、慶長十二年、領主山形豐前守滿茂、現社地に遷宮す。領主六郷家累代の崇敬厚かりき。例祭、九月十四・十五日。〔本莊神社〕大字出戸町に鎮座。郡社。祭神、建御名方神・六郷兵庫頭藤原政業。もと靈神社と稱したるが明治三年諏訪神社へ合祀し同十二年本莊神社と改稱せり。例祭、五月八日。〔新山神社〕大字石島町

の兵來り、此城を占領す。亂平定後、政體勤王の功を以て一萬石を加へらる。藩校、總教館は天明年中、六郷政連の創立せしもの。(八幡神社)郡社。祭神、譽田別命、外二神。寛治年中、葛浦時中島に鎮座あり、その後數度遷座ありしが、慶長十二年、領主山形豐前守滿茂、現社地に遷宮す。領主六郷家累代の崇敬厚かりき。例祭、九月十四・十五日。〔本莊神社〕大字出戸町に鎮座。郡社。祭神、建御名方神・六郷兵庫頭藤原政業。もと靈神社と稱したるが明治三年諏訪神社へ合祀し同十二年本莊神社と改稱せり。例祭、五月八日。〔新山神社〕大字石島町

寺平・上田平の妻置地帯の影響により畑は墾闢化し、更に蔬菜栽培を加味せる蔬菜園に移化しつつあり。省線藤ノ井線の西條驛(明治三十三年設置)あり。當村と中川村とに跨りて二六萬餘坪の石炭礦區あり。花河原炭礦と稱せられ、昭和十一年には石炭備かに三一〇萬を産す。〔本城〕愛知縣西加茂郡にありし村。明治三十九年本村ほか三村と共に廢され小原村に置く。

〔本城村〕宮崎縣日向國南郡那都郡の南部。宮崎縣の南境を占めて、有明海に臨み、福島町の東南に接す。村内山岳多く東北境には西北より東南に連る山脈ありて村境をなしその高畑山(五一八米)より西南方へ延びる連嶺は東南境を限り、山麓は永田崎・荒崎となりて海に臨む。西北境にも東北より西南に走る丘陵ありて西南端は黒崎に終る。中央には本城川が西南流し河岸及び河口附近の海岸に平野發達す。全戸數約七百五十戸の内八割強は農業を生業とし米・麥・甘藷等を産し、林産物として大ぎ工産・畜産・水産もあり。特産物として温州ゴシカン・ネーブル等を擧ぐべきか。省線志布志線今町驛(西方約三軒)へ近くバスの便あり。この地に福島古墳群の南端と認めべき崎田古墳群あり。崎田の藩は室町時代に明と貿易を營みし處と傳ふ。藩政の頃は高橋秋月氏の所領たり。

〔本城村〕鹿児島縣薩摩國伊佐郡の南方より本莊街道來る。省線羽越本線の羽後本莊驛(大正十一年設置)を置き、矢島線の分岐點をなし、同線はこれより東南方に出づ。交通便にして町内バスの便もあり。人口密度は一平方軒につき九五二人あり。本町は本郡の主要にして舊郡役所のありし所なり。いま稅務署・警察署・營林署・區裁判所・中學校・高等女學校等あり。和名抄、飽海郡由理郷の内にして、古の由理郷のありし地、由理郷もまたこの地にありしならん。いま本庄城址あり、一に尾崎城、又は舞鶴城と稱す。慶長十五年、最上義光の臣頼岡滿茂の築く所。尋て本多正純に賜ひ、九年六郷成業これに代り、二萬石を食み、子孫世襲して明治維新に至る。時に藩主政體、官軍に屬す。明治元年八月、藩内藩の兵來り、此城を占領す。亂平定後、政體勤王の功を以て一萬石を加へらる。藩校、總教館は天明年中、六郷政連の創立せしもの。(八幡神社)郡社。祭神、譽田別命、外二神。寛治年中、葛浦時中島に鎮座あり、その後數度遷座ありしが、慶長十二年、領主山形豐前守滿茂、現社地に遷宮す。領主六郷家累代の崇敬厚かりき。例祭、九月十四・十五日。〔本莊神社〕大字出戸町に鎮座。郡社。祭神、建御名方神・六郷兵庫頭藤原政業。もと靈神社と稱したるが明治三年諏訪神社へ合祀し同十二年本莊神社と改稱せり。例祭、五月八日。〔新山神社〕大字石島町

〔本城村〕鹿児島縣薩摩國伊佐郡の南方より本莊街道來る。省線羽越本線の羽後本莊驛(大正十一年設置)を置き、矢島線の分岐點をなし、同線はこれより東南方に出づ。交通便にして町内バスの便もあり。人口密度は一平方軒につき九五二人あり。本町は本郡の主要にして舊郡役所のありし所なり。いま稅務署・警察署・營林署・區裁判所・中學校・高等女學校等あり。和名抄、飽海郡由理郷の内にして、古の由理郷のありし地、由理郷もまたこの地にありしならん。いま本庄城址あり、一に尾崎城、又は舞鶴城と稱す。慶長十五年、最上義光の臣頼岡滿茂の築く所。尋て本多正純に賜ひ、九年六郷成業これに代り、二萬石を食み、子孫世襲して明治維新に至る。時に藩主政體、官軍に屬す。明治元年八月、藩内藩の兵來り、此城を占領す。亂平定後、政體勤王の功を以て一萬石を加へらる。藩校、總教館は天明年中、六郷政連の創立せしもの。(八幡神社)郡社。祭神、譽田別命、外二神。寛治年中、葛浦時中島に鎮座あり、その後數度遷座ありしが、慶長十二年、領主山形豐前守滿茂、現社地に遷宮す。領主六郷家累代の崇敬厚かりき。例祭、九月十四・十五日。〔本莊神社〕大字出戸町に鎮座。郡社。祭神、建御名方神・六郷兵庫頭藤原政業。もと靈神社と稱したるが明治三年諏訪神社へ合祀し同十二年本莊神社と改稱せり。例祭、五月八日。〔新山神社〕大字石島町

に鎮座。郡社。祭神、宇迦之御魂命。後奈良天皇弘治元年、由利郡領主より社領二百五十石の墨印狀を附せられ、のち山利郡の惣領守と定められたり。例祭、四月八日。(永泉寺)曹洞宗。飽海山。僧道叟の開創に係り、舊領主六郷家の菩提所なり。陸中國永徳寺末にして元和九年仙北郡六郷村より移轉す。

〔本莊町〕福井縣越前國坂井郡の西部。福井平野の北部を占め、東西を金津・三國兩町に挟まれ、九頭龍川の一支出田川の右岸に沿ふ。土地東西に長く平坦肥沃なる田地開く。農を主生業とし米の産多く、次で畜製品、葉煙草の産あり。工産、畜産は農産に次で多し。南北・東西に連る縣道村内に交錯し、三國金津間バスの便あり、また社線三國蘆原電線南北に貫通し本莊驛(昭和三年設置)を置く。本莊村の地は和名抄、坂井郡川口郷の地に於て、往時は南郡興福寺の春日日社なり。中世は河口庄と稱す。また大字公文は河口庄の下文公文職の名田なりしものなるべく、公文員が白河法皇の院宣を水りて鳴鹿用水を開きたること口碑に傳ふ。

〔春日神社〕大字中香に鎮座。郡社。祭神天津兒屋根命・武甕槌命・額津主命。保元年中、押領使國貞、春日明神を勧誘し社殿を設く。相殿井口神社は式内社なり。例祭、二月二十四日。

〔本莊〕岐阜縣稲野郡にありし村。昭和六年に日野村と共に岐阜市に編入す。

ホンシヨ——本城

〔本莊〕京都府船井郡にありし村。明治廿七年富津村と合し富津村となる。

〔本莊村〕岡山縣備前國和氣郡の西部。吉井川下流左岸に近く、和氣町の南に接す。西は熊山村、南は片上町及び伊都町に界す。面積二〇・二七方。北境を吉井川の一支流西流して平地を開き、東部と西部に山地あり共に中央に傾き、山間に南北に長き低地を有す。縣道は中央低地を貫き岡山市に至る。バスの便有り。また略々縣道と並行し社線片上鐵道通じ清水・中山の二驛(大正十二年設置)を置く。村内は養蠶盛にして春繭一四〇三五圓、夏秋繭一〇九七〇圓を産す。米・麥・酒類・柿・薄荷の産あり。

〔本莊村〕岡山縣備前國見島郡の西南海岸。水島港に西面し、東は味野町、北は福田村、南は下津井町に接す。面積一〇・〇一平方軒。地形南北に狭長にして、東境を南北に連互する小山脈あり西方海岸に傾斜す。海岸線は小出入を有し、前面に小島數多散在す。海岸處々の平地に耕作行はる。米・麥・繭・柿・薄荷等を産す。社線下津井鐵道備前赤崎驛へ近し。大字通庄及び鹽生は瀬戸内海國立公園の内なり。(本庄八幡宮)大字通庄に鎮座す。祭神、足仲産命・品陀別命。息長帯比咩命。大寶元年の創祀なり。往昔神宮寺を置き寺社領八十石を有したるが、宇喜多直家の時没收せられたりと云ふ。例祭、十月六日・七日。

大面嶺山の嶺頂なり。同嶺山にては昭和十年に沼田八、四五六冠、真新一、七一六、三七三立方米、組織探査第一、八〇五好を産す。村名は日蓮宗本成寺あるによる。明治十一年、明治天皇、北陸東海御巡幸の際、この地の妙法寺にて火井を天覽あらせらる。親世家、松尾與十郎(贈従五位)は本村の出身者なり。

ホンダ 本田村 新潟縣越後國北蒲原郡の中部。福島湖の東南岸に面し、新發田・水原兩町の略中間にあり。東部に低き丘陵ある外は土地微平低にて新井郷川の上流をなす河床二分して福島湖に注ぐ。東部丘陵の麓には小沼湖二三あり。村内水田開け米を主産とす。西北部を省線羽越本線貫通し天王新田驛(大正元年設置)を置く。縣道また之に並行し、水原・新發田間バスの便もあり。本村は近世の開墾地なり。(月岡温泉) 泉質、食鹽性硫酸泉。皮膚病・リウマチス・胃腸病に効能ありと。大正六年に石油井戸發掘の際、偶然噴出せるものなりといふ。

ホンダ 本多 奈良縣生駒郡にありし村。昭和十年に平磯村と合併して昭和村となる。

ホンダ 譽田 茨城縣常陸國久慈郡の南部。太田町の北隣にあり。阿武隈山脈一支脈の南部を占め、東境は約三〇〇米あり。山地より木炭の特産あり。南部には松平地ありて、農業を主とし米・蕎麥、

小麥を主産す。縣道太田町に通じ、同町に省線水郡線常陸太田驛、社線常北電氣線常北太田驛ありて交通不便ならず。この地は和名抄、久慈郡太田郷の内なり。大字新宮の西山は水府義公退隱の時に住居を營まれしよりその名世に廣く聞ゆ。大字大門は佐竹氏の家臣、小野時家の族助川氏の世々所りし所。(西山莊) 丘陵の溪谷閑靜なる地にあり。水戸の徳川光圀が元禄四年隱居してより、その晩年を過せし所なり。最初の建物は文化年中焼失し、現存の家屋は天保年中齊昭が舊態を換して再建せしものなり。茅葺、瓦坪約四〇坪、間敷九室、庭前に丘陵を取り入れ、池を掘り池をなす。規模小さきも別天地をなす。庭内の寶庫に光圀の本像あり。(水戸藩主黒澤氏) 瑞龍山にあり。初代以下第十二代に至る藩主の墳域山中所々に散在す。墓は何れも儒葬の體により同一形式を有し遺骸の埋葬されたる上に塚を築きその前には龜形の臺石を置き其上に墓碑建つ。尙ほ山中に光圀の寶篋なりし明人來之の墓あり。(正宗寺) 大字津井にあり。臨濟宗圓覺寺派。萬壽山。もと當地に平良將の創建せる大瑞山禪院なる律宗の寺院あり。のち貞和年間に至り領主佐竹貞義の長子某出家して月山と云ひ、疎石の門に入り、本寺を禪宗に改めその寺域に本寺を創建す。慶長七年禪院寺の堂宇一部焼亡せしにより、該寺を本寺に屬せしめて塔頭となす。百

時は寺領三百石(中朱印百石)を有せり。(久昌寺) 大字新宮にあり。日蓮宗。靖定山。日蓮宗四十四本山の一。初め徳川光圀、其母久昌院靖定大姉の冥福を祈らんがためにこれを創建し、禪院日忠を請じて開山とす。のち光圀これが擴張を企圖し楡林を成就す。俗にこれを水戸三味堂楡林といふ。(辨山寺) 大字瑞龍にあり。曹洞宗。慶澤山。越後村上耕雲寺末。文永四年佐竹長義、楡澤村に本寺を開創し、證慧を請じて開山とす。然れども三世にして法統断絶せしを以て佐竹義仁、越後縣雲寺の僧堂を招きて中興せしむ。(統石寺) 大字大門にあり。淨土宗。親鸞門第二十四輩の第十五輩圓房の遺跡なり。もと本願寺の末寺なりしが、中世太田城主の眞宗寺院廢棄の厄に遭ひて、淨土宗に轉ず。

【譽田村】 千葉縣下總國千葉郡の南部。千葉市の東南隣にて、東は山武郡、南は市原郡と隣す。全村丘陵地にて針葉樹林多く、丘陵間に耕地ありて、米・麥・蕎麥を産し、養蠶も行はる。縣道は米道を横走して西北方千葉市及び東方山武郡大網町方面に通じ、省線房総東線また之に沿ひ、無田驛(明治二十九年設置)を置く。この地は地勢水利に乏しく、山林地大部分を占めしが、驛附近の十字字区は明治初年、津田陸軍少将他府縣人を募り來り、開墾移住せしめしに始まり、驛を現在の位置に設置せしめ、その力興りて大なり

し。驛名は初め野田驛と稱し、大正三年譽田驛と改む。大字野田は江戸時代、九十九里濱、東金方面より曾我野又は濱野に至る要路に當り、當時人馬の往來頻る繁く、近郷の貨物は勿論九十九里濱の濱邊に皆人馬に依り此地に移され、更に海岸に輸送して之より海路、京濱地方に轉送せられしを以て市街頗る盛衰を極め、旅館酒店等軒を接したりしが、鐵道通じたる今日は昔日の輝を止めず。明治天皇、明治十五年、千葉縣下行幸の際、この地に御小休あらせらる。

【譽田村】 兵庫縣播磨國揖保郡の中部。坂崎町の北及び西を圍み、龍野町の東南方約二軒にあり。東北部に積々丘陵ある外は地形平坦にして揖保川の一支流林田川が中央を貫きて南流す。米・麥・蕎麥・蔬菜・花卉・食用農産・果實等の農産及び本製品・製革・錫等の産物あり。西南隅には山陽道が本村を横めて通過する外、縣道各方面に通じバスの便あり。和名抄に揖保郡山郷とあるは本村の地なりといふ。(阿宗神社) 大字山に鎮座。縣社。祭神、應神天皇・神功皇后・玉依姫命。後鳥羽天皇文治五年の創立に係り。天正二年再興せらる。例祭、十月十五日。【ホンタツノ】 本龍野 省線新線の一驛(昭和六年設置)。兵庫縣揖保郡小宅村にあり。

ホンタテ 本橋村 本橋村(山形縣

ホンダニ 本谷 本谷山 日本南アルプス赤石山脈の一峯。東面は靜岡縣安倍郡井川村に、西面は長野縣上伊那郡伊那郡村及び下伊那郡大鹿村とに屬す。標高二六五八米。北東境は橋右衛門岳(二六七〇米)を経て雙見岳(三〇四七米)に至り南境は日本最高峰の峰の一なる三伏峠最高點(二五八〇米)・小河内岳(二八〇二米)に連る。南方赤石岳・荒川岳方面より雙見岳への徒走路に當り、三伏峠との中間に三伏小屋あり。【本谷山】 九州山脈の一峯。祖母山(一七五八米)の東方約七軒、尾平嶺山の東方に峙ち、北側は大分縣大野郡長谷川村に、南側は宮崎縣西臼杵郡岩戸村に屬す。標高一六四三軒。山は原始林を以て掩はれ、九州に於て最も深山性を有し、現在九州唯一の熊の棲息地なり。北東境は祖母山(一六〇五米)に續く。祖母山方面よりの徒走路はる。

ホンチ 品治 大和國(奈良縣)の古地名。和名抄に葛下郡品治郷あり、保無智と訓ず。今の北葛城郡王寺町の邊に當る。【品治】 因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄に邑美郡品治郷あり、その地今の鳥取市の東品治・新品治の邊なるべし。【品治(郡)】 備後國(廣島縣)の古地名。國造本紀にある品治國の國郡制定の時に郡となりしものか。續紀和銅二年の條に品治郡と見ゆるは本郡に同じ。和名抄は

保平知と註し品治・神道・佐我・石炭・神田・服織の六郡及び驛家を載す。明治三十一年に蘆田郡と合して產品郡を建て郡名を失ふ。【品治】 備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に品治郡品治郷あり。その地今の產品郡驛家村の地なるべし。【品治】 安藝國(廣島縣)の古地名。和名抄に山縣郡品治郷あり、その地今の山縣郡本山村・南方村の邊に當る。ホンチバ 本千葉 省線房総東線の一驛(明治二十九年設置)。千葉市寒川町にあり。

ホンチヨ 本町 東京市日本橋區の町名。町名は江戸創始の時に出来し町なるに依るといふ。天正日記「九月一日、はれ、くもる、本町通り繪圖御付らる、四十丈づつにわり可申旨、道は六丈にわり、よ、この町分、四丈より三丈二丈まで、所によりいろく、日本水代藏、四「自ら歩行荷物して江戸に下り、本町の榮服欄に賣ては、登壇に奥筋の絹織とのへ、さす手引手に油断なく露商にして十年たたぬうちに千貫目餘の分限となりぬ」一風管經藤一隔水の釣も申寄み噴す本町の角屋敷をなげて大門を打は、人の心の花にぞありける、江戸ク子の根生骨、萬事に渡る日本橋の真中から、ふりさけみれば神風や、伊勢町の新道に」

ホンツバタ 木津幡 省線七尾線の一驛(明治三十一年設置)。石川縣河北郡津

ホンタ——ホン

ホント——ホンナ

内・阿幸・遠節・鳥舞・吐保保・推内・南名好・十和田等の溪流ありてその各に小平地をつくる。海岸は南端に半島の先端たる西能登呂岬ある外は、南西部に宗仁岬、北部に氣主・本斗の小突出あるのみにて殆ど直線状をなし、遠泊に恵まれず。川に沿ふ平地には畑地拓けて農業行はれ燕麥・馬鈴薯・蕎麥・稗麥・牧草等の産あるも産額なほ多からず。農業には内幌炭山採行せられて石炭を出す。沿海は鱈・鰯・鱒・蟹・昆布等の水産に富み、漁獲物は多く加工水産物として移出せらる。道路海岸に沿ひて南北に通じ、鐵道には西海岸線は本斗より北方泊居に向ひ、支線内に本斗・遠節・阿幸・麻内・知根平等の諸駅を設け、社線内幌炭鐵道は本斗より東部の内幌炭山に達す。

【本斗郡】 樺太十五郡の一。樺太の南西端能登呂半島の西斜面とその前方海上に横ばる海馬島を含む。行政上本斗町・内幌村・好仁村及び海馬島(海馬島)に分かれ、本斗支廳の管轄区域をなす。

【本斗町】 樺太本斗支廳(本斗郡)管内の首邑。郡の北部に位し、南は内幌村に接し、北は眞岡支廳眞岡町に、東は大泊支廳留多加町に隣りし、西は開宮海峡に面す。樺太山脈南部の西側にて東海岸上に牛荷山(五八九米)あり、土地西方海岸に傾斜し、麻内・阿幸・遠節・鳥舞・吐保等の河海東境山地に發して西進しその川筋に各小平地あり。本斗の市街はその

線の一帯(昭和十年設置)。北海道石狩國常呂村にあり。

【本野原】 愛知縣飯飯郡の八幡村より豊川町に至る原野。舊鎌倉街道ここに懸り、北條泰時植ふる道しるべの柳の並木ありしこと東國紀行に見ゆ。正平六年この地方の豪族宮永氏が足利軍兵方、足利直義方とに分属し、この地に戦ふ。

【本納町】 千葉縣上總國長生郡の北部。北は山武郡の一部と隣接す。西半は丘陵地にて東半は九十九里濱沿岸平地の一部をなし、水田・畑地多く米・麥・蕎麥を産し養蠶も行はる。無道四方に通じ南は茂原町、北は山武郡大網町方面に通ず。何れもバスの便あり。省線房総東線これに沿ひ、中央に本納驛(明治三十年設置)を置く。傳によれば景行天皇の御代、日本武尊この地に来り龍起橋の遺物を埋め、陵を築かせ給ひしが、その形状船に似たるを以て船形と稱しまた帆丘ともいひ、のち本納に轉訛せりと。和名抄、長柄郡柏原郷(一に柏原ともいふ)の内にして、明治二十二年町制施行の際、上古に復し、帆丘町と稱せしが、明治三十九年本納町と改稱す。(本納城)土氣城主酒井氏の屬將黒熊景吉の據りし所。永祿年中、景吉陰に里見氏に通じ主家を滅さんとして成らず自及して被殺す。(稱神社)大字本納に鎮座。縣社。祭神、弟橘比賣命。景行天皇四十年

ホンノ——ホンマ

西南岸に位し、露領時代にはホントケツと呼ばれし漁業部落たりし處。陸地に近く北上する對馬暖流の影響をうけ冬季水結せざるため我が領土となりし後急に發展し人口約一八・五千を數ふ。大正四年以來海岸の平磯を利用し南北に延長約八百米の防波堤築造せられ、北日本汽船會社の本斗・麻内線、近海郵船會社の青森・小樽・惠須坂線の定期汽船の來往あり、また陸上は鐵道西海岸線及び社線内幌炭礦鐵道の起點となり交通商業榮ゆ。市街の東方高臺の中央に本斗神社・公會堂あり周圍は公園となり眺望に富む。鐵道西海岸線は本斗驛(大正九年設置)より北に走りて遠節(大正九年設置)・南阿幸(昭和十一年設置)・阿幸(大正九年設置)・南麻内(昭和十一年設置)・麻内・知根平(共到大正九年設置)の各驛を置き、本斗海岸支線は本斗驛より濱本斗貨物驛(昭和十年設置)に至り、内幌鐵道は南に延びて本町内に吐根保驛(昭和六年開業)を置く。

【本斗町】 熊本縣天草郡にありし村。昭和十年本村及び本渡町を廢し本渡町を新設す。

【本渡町】 熊本縣肥後國天草郡天草下島の東北部。下島と上島の間に横ばる巾二一八米の本渡瀬戸の北口を占め東西に細長し。西部、中部は山岳重疊し南境に込岳(八八〇米)聳ゆ。西南部に發する町山口川は中央北偏を貫流して西に流れ島原灣に注ぐ。下流沿岸及び海岸

日本武尊東征の際海上にて風波激しきにより、紀弟橘比賣命海に入りて難を救ひ給ふ。尊徳之を哀悼せられ一祠を建て給ひしを以て創めとす。神位は元慶八年正五位上に叙せられ、古來上總國五大社の一たりき。例祭、陰曆八月十三日。〔萩生祖傳母の墓〕 本町萩の澤にあり、祖傳は嘉應萩生方庵の子して、延寶元年方庵、故ありて江戸を追はれて此地に來る。時に祖傳十四歳、父に従ひ居ること十二年、のち父教されて江戸に歸りしが母は延寶八年三月の地に客死せるを以て之を其の澤に葬り神を立つ。

【本島村】 埼玉縣武蔵國大里郡の南部。荒川の南岸にあり。南は比企郡と隣す。全村平地にて農業・養蠶行はれ繭・小麥を主産し、特産物には生絹あり。鐵道四方に通じ、北は武川村を経て深谷町方面に通じ、武川村内の社線秩父鐵道武川驛に近し。この地は和名抄、男妾郡幡々郷の地にして、高山氏發祥の地として知らる。高山氏は本姓桓武平氏、秩父氏より出づ。秩父重弘の子重能を祖とし、ここに在名を稱せしもの。もと本田・高山の二村なりしが、明治二十二年合併して各一字をとり本島村と名づく。

【豊平】 北海道天鹽國中川郡中川村の大字。省線宗谷本線の豊平驛(大正十一年設置)あり。

【社】 臺灣高雄州潮州郡にある舊社。シタウ駐在所の北方約一

は平地をなす。海岸には淺灘連る。米・甘藷・繭・蔬菜・麥・蠶種・果實等の農産の外、工産額大にして繭糸・醬油・木製品・酒類・被服類・菓子・金屬製品・味噌・賣藥等を産し仔牛馬・豚仔・生鶏・鶏卵・屠畜等及び木炭・薪炭・木材等の産もあり。特産物に樟油・「う」にあり。交通の中心をなし鐵道は北・西・南の三方に通じて其の會合點に繁華發達し、上島・下島兩島へバスの往來頻繁なり。また本渡港は本郡に於ける唯一の良港にて近海各地へ汽船の便よし。この地は和名抄、天草郡天草郷の内にして、舊天草郡役所のありし所。もと町山口村と云ひしが、明治三十一年に町制を布き、本渡町と改稱し、昭和十年には本斗村を合併す。いまた天草支廳・稅務署・大藏省預金部出張所・區裁判所・熊本供託局出張所・熊本警察出張所・縣立検査所天草支所・天草中學校・本渡高等女學校・天草農學校等あり。(本斗城) 天草氏の築城にして、天正の末に廢す。また本村に三宅藤兵衛重利なるもの墓あり、吉村支丹一揆の時、この地に屯し一揆を破りし地なり。〔町山口諏訪神社〕 大字町山口に鎮座。郡社。祭神、健甕名方神。例祭、十一月一日。

【先斗町】 東京都(三二〇〇頁)

【本道寺村】 山形縣羽前郡西村山の西北部。左澤町の西北

汗牛の地點に全戸集團し、約二三〇年前に形成されたるバイワツ族の恒春上層に屬する高砂族の部落。戸數二一、人口一八(昭和十一年調査)。

【本別町】 北海道十勝國十勝支廳中川郡の東部。池田町の北に接し利別川下流々城地方を占む。北は足寄・西足寄二村に界す。面積四四〇・三七方町。東・西・北の三周は三三四百米の海蝕崖地起伏せり、中央を利別川が蛇行南流し、本別・ヒヤベツ等の支流を合せ、爲に豐潤なる流域面積甚だ廣大なり。本支流三川の合流地點に市街發達す。米・甜菜・亞麻・燕麥・馬鈴薯等の農産も少からず。畜製粉業興る。畜産・林産も少からず。省線網走本線利別川に沿ひ中央部を貫通し男足・本別・仙美里の三驛(何れも明治四十三年設置)あり。明治十三年本津村戸長役場の管轄に屬せしが、當時土人の外冬季鹿獲する者往來するに過ぎず、明治四十四年本津村を置き、昭和八年町制を布く。警察署・軍馬補充隊十勝支隊あり。(本別山溪) 本別驛後方一帯を云ふ。本別川の上流右岸には義經山の秀峯、一の谷・靜山、左岸には辨慶洞・壇の浦等の奇勝あり、溪流その間を走り、綠樹鬱蒼として美觀を添へ、辨慶洞には觀音像を安置す。溪中の岩石に屏風岩・古代文字岩等の名あり。附近諏訪山は展望の雄大を以て名高し。(本別神社) 大字本別に鎮座。郷

約一六町。西及び北は東田川郡に接す。面積一一・七二方町。北境には月山(一九二四米)・湯殿山(一五〇四米)、西南境には赤見堂巖(一四四六米)・石見堂巖(一二八六米)、南境には大明寺山(八六五米)聳え、全村概ね山地をなす。寒河江川は北境及び西境より發源する水を集めて村の南部を東流す。耕地少し。繭・米・薪炭を産し、月山に養蠶場あり、其の設備よく整ふ。道路は村の中部を東南より西北に通じ、社線三山電氣鐵道の終點同澤驛へは東南約一〇町。車馬の便あり。人口密度は一方町に付一三人に過ぎず。寒河江の狭中なる名邑にして、月山の正南麓に當り、もと保土打と稱せしが、のち本道寺と改む。本道寺口は大永五年、羽黑衆徒林光坊の開きしもの。

【本名村】 福島縣岩代國大沼郡の西部。只見川左岸の地を占め、北及び西北は新潟縣に接す。面積六八・六三方町。鶴後山脈の東南斜面に屬し、西北境に日尊倉山(二二六二米)・鶴ヶ森山(一三二五米)聳え、東南方に傾斜し、全村山地をなす。露來澤は西北境に發源し村の中部を東南に流れ只見川に合す。只見川は東南境を東北に流る。米・繭・木炭等を産す。道路は只見川に沿ひて通ずるも交通は一般に便ならず。本村は川口村と共に組合村をなし、役場を川口村に置く。

【本中小屋】 青森縣乳沼

【本町】 大阪の町名。現今東區本町、一丁目より四丁目に至る。東横堀川に架せる本町橋より西へ通じ、北は安土町、南は米屋町(現今南本町)に隣接す。今宮心中・中一・本町や新物店の若い衆は、女とも見えず男なりけり、女子交りの針仕事、つい一針が永き世の、縁の端縫しとけなく、尻も結ばぬ縁、結びかかるうたてさよ

ホンベツ

ホンベツ

二つに分割れば似たりや似たり葉子花
ホンミヤオ 本宮尾炭礦

ホンムカ 奔無加 北海道北見國常呂

ホンメ 本梅村 京都府丹波國南桑田

本梅村の西方四軒餘にあり、南は大阪府豊能郡に界す。西部及び東部の三方は山地にして、其の中央低地帯を國部川の支流たる本梅川流れ地形北方に開く。但し北部も小丘陵地並び、恰も南北に細長き一小盆地をなし、本梅川の水源地たり。四周の山地は多く古生層より成り、中央低地帯たる各地は沖積平地なり。従つて耕地面積は比較的多く、米の産に富む。また林業も行はるが、本村の特産は寒天製造なり。寒天は氣候稍々寒冷なる山間地帯に産し、南桑より大阪府下の北攝津地方山地に廣く發達す。本村の寒天製造は、京都府下一二の産地に數へらる。交通は、龜岡町より攝州池田に至る府道通じ、兩地間の交通的要所たり。本村はもと東加舎と稱せしものにして、中世、山城法性寺内親皇院領の莊園となる。

ホンメ 本目 北海道後志支度島牧郡
にありし行。明治三十九年に東島牧村と改稱。

ホンモク 本牧 横濱市中區に屬する町名。元は本牧村と稱し横濱村に關する

一漁村にて、宮原・十二天・上臺・臺・箕輪下・天徳寺・原・和田・箕輪・大島・臺山・溝坂・大久保・池田・矢・牛込・八王寺・下里・眞福寺・肥前・荒井・長久保・間門・一ノ谷・向・二ノ谷・三ノ谷・大谷戸・八王寺等の小字に分た。明治三十四年横濱市に編入され、ついで大震災後大横濱市の實現と共に中區に屬せり。地は東京灣に突出する本牧岬の部分にて、その北方に横濱港を築す。四一五〇米の丘陵性臺地と、その間の千代崎川等の沖積平野と海岸砂浜を占め、全體的には横濱市の良好なる住宅地域に屬す。十二天は横濱港口に時つ陸繋されし小岩峯にて古くより近海航行の船隻されし小岩なり。麓には本牧町の鎮守本牧神社が祀らる。その附近に寧ろ外國に名高き遊樂地區にて、その南方に續く砂浜は開ける本牧海水浴場にして、夏季は私立・公立の海水浴場設立せられ諸施設整備す。本牧岬の地帯は青松繁茂する丘陵地にて一ノ谷・二ノ谷・三ノ谷等の小谷に切斷され、丘陵と谷を含みて風光よく、特に三ノ谷の三溪園は個人私有の庭園を公開し横濱市の一名勝たり。沿岸一帯は極めて遼淺にて、冬は海苔をとる粗業が一面に植五られ、沿岸の砂浜地帯は海苔乾場に利用さる。また打の砂中は淺網・蛤の産多く潮干狩の頃はまた賑ふ。市の中心より間門に至る電車軌道は本牧町内を横斷し、また市營自動車便あり。もと横濱

下のトンネル開通以前は、物質は山手町の急坂を上下するため本牧相場と稱し、特別に物價高かりしが、今は交通も極めて便となり、平地は殆ど商家住宅に占めらる。平坦なる臺上には女子師範・横濱第三中學等あり。

ホンモシリ 奔茂尻 省編製本線の一驛(大正二年設置)。北海道石狩國空知郡青別村にあり。

ホンリョー 本良面 朝鮮全羅南道羅州郡の北端。羅州邑の北方約一六軒、東と北は長城郡の林谷・東化・森谷の三面に、西は咸平郡月也面に隣接す。全南平野の一部にて、北東境部と西北部とは低き山地あるも、面内概ね平坦にして、榮山江支流なる黃龍江は東境を南流し、その支流は西部を南流し、田畑よく拓く。農産には米・麥・棉あり、臥の製鐵行はる。松汀・靈光道路、松汀・長城道路へ通ずる等外道路あり交通不便ならず。

マ

マーシャル 群島 Marshall Is.

我が南洋委任統治地の東端に位し、北緯四度三〇分—一五度、東經一六五—一七五度の赤道太平洋上にあり。總面積は僅に一七〇方軒に過ぎざれど、島數三二、更に八六七の岩礁あり。これ等は凸面を北方に向け西北—東南に走る二列の風狀列島より成る。東北列は日出を意味し、ウタガリ列島、西南列は日没を意味せるウタガリ列島と呼ばれ、いづれも珊瑚礁島なるも、極式的環礁として、ウタガリ列島のエニウエタツ島、ビキニ島、ロンゴラツ島、ロンギラツ島、ウトロツ島、チエモ島、ワオツエ島、マルエラツ島、アルノ島、ミレ高等を算へ、ウタガリ列島にては、クニウエニ島、ウタガリ島、アイリングラツ島、カールト島(群島の最大島、面積八方軒)、エゴン島等挙げらる。年平均気温は二八度、熱帯に於ける小島なれば、各月の較差より夜晝の較差一層大にして、年降水量は二、五〇〇耗内外、多雨なるが、毎日驟雨として車軸を流すごとく沛然として至るを常とし、一日數回または終日降雨するは稀にして、マリアナ群島方面と異なり颱風の襲來を受くること

マーシ——マイサ

も稀なり。群島の發見は我が南洋三群島中最古とされ、略ぼ一五〇〇年代と口傳に傳ふるが、確實なるは一七八一年イギリス船長マーシャルの探検を嚆矢とし、群島名もこれに依る。然るに十九世紀後半に至りてハンブルグに本店を有するマター商會がドイツ政府の保護指導に依り本群島の主島カールト島等を會長と協商して占領し、一八八八年イギリス・ドイツ兩國協約の結果、カールト群島をイギリス領、カールト・アールの二群島をドイツ領と決定し、オナベ政廳の下にカールト支置置かれたり。大正三年九月、十月の交、我が海軍に占領され、同年我が委任統治地となり、パウオのコロム島に置かれし南洋廳の下に、カールト島のコロニーにカールト支置置けられ、この群島を統治す。住民の大部分はカナカ土人にして、キリスト教を奉ずる者多く、生産は椰子の栽培の他未だ見るべきものなく、貝類の養殖、鮪・鮪の漁業有望視さる。

マイカワ 舞川村

より來り村の西境及び南境をなして市邊し、沿岸に耕地拓く。村の生業は農を主とし、米・麥・大豆・小豆・馬鈴薯等を産す。道路は村の中部及び南部を東西に通じ、西方東北線平泉驛は約一〇軒あり。村内の鐵道山は古へ鍛冶が刀劍を造りし跡なり。源將軍が東夷を征討せし時、都の刀工を召下して愛に住はしめ、その子孫は秀衡の代まで相續き、本村大字舞草及び平泉を本據とせり。平泉の阿彌陀堂の燭臺を造りしは舞草森房なる名刀工にして、實に此地は奥羽刀工の發祥地たり。舞草の舞草神社は延喜神名帳の古社にして、文徳實錄に仁壽二年授位と見ゆ。

マイキン 埋金山

じ濱名湖口は鐵橋を築し、舞草驛(明治廿一年設置)は東陽郡原村にあり、辨天島驛(明治廿九年設置)は村の西方辨天島に置く。牡蠣・淺網の特産あり。古くは和名抄、數智郡島郷の内なるべし。傳ふる所に依れば中世の舞草驛はこの地ならんといふ。されど舞草驛は明應の地變に漂没せしもの如く、甚だ疑はし。西に浮ぶ辨天島は白砂青松の佳境にして遊藝遊樂に適し、殊に遼淺なるを以て夏は海水浴場開かれ遊客を以て擁養し、海道有数の勝地たり。長くも明治天皇には、明治元年東京行幸、同年京都還幸、同二年東京御再幸、同十一年北陸東海御巡幸の數度御小休遊ばされ、いま明治天皇御坂御小休所として指定史蹟たり。丹波興作侍夜の小室御「ヤチの」新居、今切、舟に召せし、始召せの、始々濱松まで、舞草三里ナ爾染見附の泊と聞けば、誰も惜しまぬ鶴の財布の袋井や、藤栗毛・三中、ほどなく運沼、つば井むらを打過、舞草の驛にいたる。舞草より麓井へ海上一里、これより麓井まで空里の海上、乗合ぶねにうちのりわたる、げにも旅中のきさんじは、船中おもひの、獲談高岸にかたり合、わらひののしり打唄じゆくほどに、頓てなればわたりて乗合の人々も囁きたげれ、めい／＼梅ごりに討をもたげていれりをするもあり、又この風景に見とれて、只もくねんとするもあり(岐佐神社)郷社。祭神、製具尾

マイコ 舞子

マイサカ 舞坂

マイサカ 舞坂

より分岐する北陸道は此地を過ぎ湖北を縦貫して教賀に入る。これに沿ひて市街地発達す。省線東海道本線は西南方より来りて此地にて東折し米原驛(明治廿二年設置)より北方へは省線北陸本線を分つ。また社線近江鐵道の電車は此處まで延長して東海・北陸の急行列車と接続することとなり、湖東を通ずる各主要の交通線は多くここに集る外、東日本各地と表日本各地とをつなぐ本邦有数の交通要地となれり。もと入江村といひしが、大正十二年町制施行の際現名に改む。朝妻入江に臨み、近江三港の一にして北國街道の一驛たり。大字磯前は朝妻入江と琵琶湖とを隔れる半島形の地に於て和歌の名所なり。萬葉・三・磯のまき榜きたみ行けば近海海八十の浪にたつさばに鳴く 高市連黒人 朝妻 (筑摩神社) 大字朝妻鎮に鎮座。祭神、大市比賣尊。一に大御食津神・倉稻魂神・大倉神とす。三座なるにより筑摩三所大明神とも稱せらる。仁壽二年に從五位下を授けらる。吉野時代に領主京極氏の、江戸時代に彦根藩主井伊氏累代の崇敬あり。例祭、五月八日、有名な筑摩祭(一に鎮祭)はこれなり。(青岸寺)曹洞宗。もと不動山米泉寺と稱し後に不動山と改稱。一時寛政せしも慶安三年に僧栗津の努力にて復興す。(青岸寺庭園)指定名勝。當寺三世興欣が香取氏に命じて江戸前期に作らしめしものと傳へらる。枯山

水庭にして空池を設け石橋を架け蓬萊島を作りて松を植ふたり。築山・池畔に多く石を組み園路に石を疊み特殊の技巧を凝せり。園後の山腹に松・孟宗竹等ありて背景をなす。江戸時代より著名にして特色を有するものなり。(藥師堂)上多良にあり。眞宗大谷派。享和年次治平不詳。本尊、藥師如來坐像(木造、鎌倉時代作)一軀は圓寶なり。

マイバライ 社 臺灣新竹州竹東郡にある神社。上坪溪右岸支流マイバライ溪右岸の地にあり、標高六〇〇—七〇〇米の地に在り。アマヤル族に屬する高砂族の部落なり。順路は新竹市より竹東を経て至るを便とす。昭和十二年末の戸口は戸數五二、人口二九八。

マイフクヘ 埋伏坪社 臺灣新竹州東勢郡にある神社。大安溪左岸の地にあり、標高約五〇〇米の地に在り。高砂族の部落にしてアマヤル族に屬す。戸口は戸數五一、人口二四八(昭和十二年末現在)。

マイヤ 米谷町 宮城縣前園登米郡の東部。登米町の北に隣り、東は本吉郡に接す。志津川地塊の西部に在り、南端には斥饒神(三四〇米)をばじめ山地運りて西北方に傾斜し、西北部には高麗神山(二七〇米)聳え、又又川は西北部を西南に貫流し北用上川に合す。北用上川は町の西境を南流し、沿岸に耕地拓く。町の生業は農業を主とし米・蕎麥・木炭を産

す。本吉街道は町の中部を東西に通じ、東方の志津川河へバスの便あり。また西郡街道は町の西北部を東北に貫通す。社線北陸道の米谷渡水驛は市街地の對岸渡水村にあり。明治廿六年町制を布く。この地は仙臺の公族、高泉氏の采邑にして、米谷城は米谷修理の居りし所、のち高泉氏ここに居城せり。

マイ前 前山 本曾山脈南部の一峯。惠那山の北西方約六軒。岐阜縣惠那郡中津町の東端。東側は落合村に互る。標高一八五一米、山體は花崗岩より成る。

マイ前 前山 神樂島尻郡慶良間列島の一。列島の東端に在り淺高敷村に屬す。東北より西南に長く周圍約八軒。東北にハテ島・仲島等浮ぶ。島内全部灌木叢生し其頂は圓錐形を成し高さ約一三六米。部落は東岸に形成せられ住民多く漁業に従事し、畑には番薯を作る。東北の島嶼との間は低潮に干出する石花礁より成るを以て、高潮にあらざれば小舟も通せず。

マイ前 前山 朝鮮忠清南道天安郡にある砂金山。鎮區は稷山面と成歎面とに跨り、安城川支流の謂ゆる稷山砂金帯に在り。昭和十年には金一九、七九六瓦、銀四三、四六五(この總價額六萬餘圓)を産出し、同年六月米の従業員は八三人とす。

マイカタ 前方 長崎縣北松浦郡にありし村。大正十五年に外二箇村と〇二方針。北境の發見村界を基川川西流して海に注ぎ沿岸に廣き氾濫原を展開し耕地多し。南境に岩盤登山脈の堆積チセヌプリ岳(一一三五米)聳え、南半はその斜面に屬するも北方に傾き平野に移る。基川支流の數川は山中を北流す。米・馬鈴薯・大豆・小豆・蕎麥等を産す。海岸は砂濱平滑にて墾殖なきも地方道南北に貫きて岩内町・泊村を連ねバスの便あり。省線岩内線は東西に通じ前田驛(大正元年設置)を置く。もと中野川と蘇志川との間の地區なりしが、のち梨野舞納及び靉似、老古美の一部を合し、明治廿九年靉似村を加へ前田村となす。

マイ前 前山 秋田縣羽後郡北秋田郡の東南部。米内澤町の東南、阿仁合町の西に隣り、東は鹿角郡・仙北郡に接す。地は東西に長く、面積二九四・九一方軒の大村。奥羽山脈の西斜面に屬し、東境には柴倉嶺(一一八〇米)、北境には小柴倉(一〇一〇米)・高島帽子(七六四米)、南境には森吉山(一四五四米)聳え、全村概ね山地をなす。小又川は東境に發源して村の中部を西流し大河仁川に合す。大河仁川は西部を北流し沿岸に耕地拓く。米・木炭・木材を産す。省線阿仁合線の桂瀬・阿仁前田の二驛(共に昭和十年設置)あり、北方の奥羽本線鷹巣驛・南方の阿仁合町へバスの便あり。(森吉神社)大字森吉に鎮座。祭神、大己貴命。桓武天皇の御代に坂上田村麿が蝦夷討伐の爲に奥

合併し小値賀村を建つ。マイゴ 前郷 省線矢島線の一驛(大正十一年設置)。秋田縣山形郡東瀬澤村大字前郷にあり。

マイサワ 前澤 岩手縣陸奥國豊津郡の南端。北上川の右岸。陸奥街道に沿ひ一箇町と水澤町との中間にあり。地勢上、西部は臺地・東部低地の二つに分つ。西部臺地は豊津川を以て區分せる南部洪積層地帯の一部に屬し、臺地の南部丘陵地帯を除きては本町に於ける須要農耕地として利用せらるれど、表土は概ね堆積土の厚層より成る。東部低地は北上川沿岸の沖積地にして北上川支流の白鳥川・太郎ヶ澤川等の流域と共に水田地帯を構成す。この沖積地は北上川の河床に沿ふ低位沖積地と鐵道沿線の臺沖積地の二つに分る。而して臺沖積地は附近洪積層地帯の流下沈積せられたるものにて地味一般に良好ならず。全町戸數一二二一を職業別に見るに、農六五九、商二四六、工一三八、公務自由九一、交通四三、其他四四(昭和十二年)。産物に米(一〇、七二九石)・蕎麥(五、〇六六石)・大豆(一、二九石)・白菜等あり、外に瓦(七〇、二七圓)の工業あり。交通は東北本線前澤驛(明治廿二年設置)あり、またバス四方に通ず。古くは安倍氏時代に頼朝の八男白鳥八郎行任この地の白鳥に住すといひ、次に清原

州へ下向し、當地に於て神勅を得て大國丸と稱する賊を討つを得たり、依りて田村磨、當社を創祀すと傳ふ。例祭、陰曆四月八日。

マイ前 前山 香川縣讚岐國木田郡の北部。平井町の西方に接し、北は古高松村に、南は十河村、西は川添村に界す。東北部には百米餘の小丘起伏する外は全村低平なる高松平野の一部を占め土地平坦、中央を東南方より西北方にかけて新川の中流貫流し灌漑の便よろし。従つて地味肥沃なれば耕作よく行はれ米・蕎麥・粟及び蘋果・果實の産少からず。新川左岸に沿ひて縣道通じ西北約一二軒にて高松村に至る。また社線高松電氣鐵道の高田・東前田・西前田・水田等の各驛あり。古くは和名抄、山田郡宮所郷の内なるべし。(八幡神社)大字西前田に鎮座。祭神、品陀和氣命・帶中日子命・息長帯姫命。永平六年の創祀と傳ふ。例祭、九月二十五日。

マイタヤシキ 前田屋敷 青森縣南津輕郡光田寺村の大字。省線黒石線の前田屋敷驛(昭和十年設置)を置く。

マイツエ 前津江村 大分縣豊後國日田郡の西部。日田町の南方約八軒にあり、西北より東南にやや長き山村にして、西と西北は福岡縣八女郡及び浮羽郡に界す。全村山岳重疊し西境には熊渡山(九六〇米)・權現嶺(御前嶺)一二二一米(種迦ヶ嶺)一二三一米等の高峯屹

武則の領内となる。平泉藩時代には本町は平泉の郊外として秀衡の臣野井高直の陣場なりきといふ。源頼朝以後は葛西清重の治下に入り其後は柏山伊勢守家時代の領地となり天正十八年に至る。その居館前澤館の跡は現在の物見グラウンドなり。藩時代は伊達政宗の孫宗家が領主となりしが入部の途中卒し領地を右上げらる。宗家没後は三澤氏の領地となり子孫相承り明治維新に至る。明治天皇、明治九年奥羽御巡幸の際、同十四年山形・秋田・北海道行幸の際に御小休あらせらる。(大澤)墨染橋といひ富町南部、前澤驛より十二丁餘の所にあり。嘉祥元年四月、眞言宗の碩徳南宮坊の植栽と傳ふ。安永九年の記録によれば周圍五丈五尺、枝條の延長南北十六間、東西廿間餘の大樹なりきと。今は二丈餘、枝條低く垂れ南に五間餘延ぶ。(五百羅漢堂)富町の西岩寺境内にあり。同寺九世不白禪師は享和年間に五百羅漢建立を發願し諸國を勧進して卑身京都に往復、一體づつ運び文化二年に漸く出来せり。八間に三間の堂宇に安置し五百體完備す。

【前澤村】富山縣越中郡下新川郡の西部。三日市町の南に接す。東より西へ二〇〇米餘の山地ながらに傾斜し、西部に平地開け水田多し。農業を主とし、米の産多く、黒部西瓜の特産あり。工業これに次ぎ、林業・牧畜も多少の産額あり。省線北陸本線三日市驛に最も近く、國道によ

立し、南境には渡瀬(一五〇米)・石...

あり、米・麥・蕎麥・野菜等の産多く生...

あり、米・麥・蕎麥・野菜等の産多く生...

あり、米・麥・蕎麥・野菜等の産多く生...

る。寛永九年稲葉丹後守正勝に賜はり子...

る。寛永九年稲葉丹後守正勝に賜はり子...

全く相似たり。されど利根川の浸蝕は強...

全く相似たり。されど利根川の浸蝕は強...

路(共に昭和三年設置)を設け、衛生市に選...

あり、米・麥・蕎麥・野菜等の産多く生...

る。寛永九年稲葉丹後守正勝に賜はり子...

全く相似たり。されど利根川の浸蝕は強...

したため製練の改良を叫ぶるに至り、明治三年前橋藩にては西洋人を招き岩神村に地をトシ西洋式機械製練を興めたり。これ我邦に於ける機械製練の濫觴とす。

〔東照宮〕 前橋公園内に在り。主祭神、徳川家康。配祀神、菅原道真・木之花之依久夜忠實命。日子香能魂命。徳御雷命。前橋藩松平氏代々崇敬の社なり。慶應三年に現社地に遷座。〔八幡宮〕 縣社。祭神、品陀和氣命。在原業平の商業重、石清水八幡を勧誘すと傳ふ。酒井・松平兩城主の崇敬厚し。朱印領十五石、例祭九月十五日。〔東福寺〕 芳町に在り。新義真言宗豊山派。酒井忠世殿橋城主たりし時、この地密宗の寺院なきたり。寛永十三年勢多郡川崎村歡喜院を移せしものなり。寺實に青銅製あり。大門入口に巻雲獅子馬頭觀音の文様の石碑あり。〔妙安寺〕 立川町に在り。眞宗大谷派。天福元年成徳坊下總領馬郡森戸村一之谷に創建し、天正八年寺を川越に移せしも、慶長六年川越城主酒井重忠が前橋に轉封せらるるに及び、その招きに依りて當地に來りて本寺を建つ。〔龍海院〕 紅雲町に在り。曹洞宗。是寺と號す。三河岡崎城主松平清康が享祿三年元旦に左手に是の字を握る夢を見、龍溪寺院外和尙に占はしむ。和尙、是の字は分つて日下人となりこれ天下を掌握する瑞祥なりと云ひしかば清康深く之を喜び、和尙のために龍海院を建立し是寺と稱す。

の酒井正親をして同院を外護せしめしが、慶長六年酒井重忠が前橋城に移封せらるるや一寺を創し舊領の寺號を移す。本寺これなり。もと城北の岩神の地に在りしが萬治元年災上せしため今の地に再建す。寺内に酒井氏累代の墓あり。

〔眞岡支廳〕 樺太七支廳の一。樺太南西部の眞岡・野田二郡の地を管す。東は豊榮支廳、豊原市、南は大泊・本斗兩支廳に、北は久春内支廳にそれぞれ隣接し西は間宮海峽に臨む。面積二四九〇方尺。眞岡郡は眞岡町と廣地・蘭泊・清水の三村に、野田郡は小倉登呂村・野田町に分れ、支廳は眞岡町に設かる。樺太山脈の主軸は東境北部に杜門岳(二二〇〇米)・留多加岳(七五六米)を起し、これよりや西南に向ひて中央を南方に連り、留多

も豊原秀吉に領地を没收さる。〔志登神社〕 大字志登に鎮座。縣社。祭神、豊玉姫命・彦火・出見命外三柱。式内社。元祿三年、國守黒田忠之三十石を寄す。例祭、三月七日。

〔眞岡支廳〕 樺太七支廳の一。樺太南西部の眞岡・野田二郡の地を管す。東は豊榮支廳、豊原市、南は大泊・本斗兩支廳に、北は久春内支廳にそれぞれ隣接し西は間宮海峽に臨む。面積二四九〇方尺。眞岡郡は眞岡町と廣地・蘭泊・清水の三村に、野田郡は小倉登呂村・野田町に分れ、支廳は眞岡町に設かる。樺太山脈の主軸は東境北部に杜門岳(二二〇〇米)・留多加岳(七五六米)を起し、これよりや西南に向ひて中央を南方に連り、留多

と見え、マヘトはこれより轉訛せしものなるべし。山岳・下切は何れも前渡の支郷とす。

〔眞岡支廳〕 樺太七支廳の一。樺太南西部の眞岡・野田二郡の地を管す。東は豊榮支廳、豊原市、南は大泊・本斗兩支廳に、北は久春内支廳にそれぞれ隣接し西は間宮海峽に臨む。面積二四九〇方尺。眞岡郡は眞岡町と廣地・蘭泊・清水の三村に、野田郡は小倉登呂村・野田町に分れ、支廳は眞岡町に設かる。樺太山脈の主軸は東境北部に杜門岳(二二〇〇米)・留多加岳(七五六米)を起し、これよりや西南に向ひて中央を南方に連り、留多

山(二五三〇米)の東北の裾野にあり。村の北東部は依久平の盆地底に在り且つ千曲川の地積せる扇状地なり。この裾野と盆地底との境が、即ち水田と畑地になし得るところにて、また湧泉に恵まれ、前山村の主要部落が位置す。湧泉は七〇〇米の高度に規則正しく配列さる、これは山麓一帯を蓋ひて殆ど水平に堆積せる洪積最上部の黄色粘土質層が其の滲水層を決定するに由る。村は普通畑作以外に養蠶も多く、また特徴ある養蠶は佐久平盆地底の湧泉を持つ水田に副業として發達し、繭の飼料と相俟つて盛大にして、本村にても次第に此の傾向に従ふ。平地は湧水のため乾燥期の夏も水に潤むこと少き好條件の耕地あれども、山を昇るに従ひ次第に畑作・牧畜・林産を加味せる山村となる。この地は甲州の名家たる小宮山氏の居りし所にして、東鑑・建曆三年、信濃國住人、一村小次郎近村・徳山次郎とある徳山は小宮山氏にして武田氏に屬す。〔眞詳寺〕 曹洞宗。洞源山と號す。前山城主伴野左衛門佐貞、祖父光利、父光信祖傳のため本寺を創建し佛光圓明禪師を請じて開山とす。永祿中、武田信玄寺領百貫文を附し、慶安中、小諸城主仙石氏また同領の寺領を附す。同年中、徳川家光朱印十五石を附す。

〔眞岡支廳〕 樺太七支廳の一。樺太南西部の眞岡・野田二郡の地を管す。東は豊榮支廳、豊原市、南は大泊・本斗兩支廳に、北は久春内支廳にそれぞれ隣接し西は間宮海峽に臨む。面積二四九〇方尺。眞岡郡は眞岡町と廣地・蘭泊・清水の三村に、野田郡は小倉登呂村・野田町に分れ、支廳は眞岡町に設かる。樺太山脈の主軸は東境北部に杜門岳(二二〇〇米)・留多加岳(七五六米)を起し、これよりや西南に向ひて中央を南方に連り、留多

〔眞岡支廳〕 樺太七支廳の一。樺太南西部の眞岡・野田二郡の地を管す。東は豊榮支廳、豊原市、南は大泊・本斗兩支廳に、北は久春内支廳にそれぞれ隣接し西は間宮海峽に臨む。面積二四九〇方尺。眞岡郡は眞岡町と廣地・蘭泊・清水の三村に、野田郡は小倉登呂村・野田町に分れ、支廳は眞岡町に設かる。樺太山脈の主軸は東境北部に杜門岳(二二〇〇米)・留多加岳(七五六米)を起し、これよりや西南に向ひて中央を南方に連り、留多

〔眞岡支廳〕 樺太七支廳の一。樺太南西部の眞岡・野田二郡の地を管す。東は豊榮支廳、豊原市、南は大泊・本斗兩支廳に、北は久春内支廳にそれぞれ隣接し西は間宮海峽に臨む。面積二四九〇方尺。眞岡郡は眞岡町と廣地・蘭泊・清水の三村に、野田郡は小倉登呂村・野田町に分れ、支廳は眞岡町に設かる。樺太山脈の主軸は東境北部に杜門岳(二二〇〇米)・留多加岳(七五六米)を起し、これよりや西南に向ひて中央を南方に連り、留多

マオカ——マカネ

會社の青森・小樽・恵須取線の定期航路に當り、その他の汽船また寄港して西岸有数の貨物集散地たり。北真岡郡附近の荒貝は漁場として聞え、鮭・鱒・鱈等の漁獲多く、また東方艦艇を越えて豊原市に通ずる道路は此處より發す。町内に真岡支廳・農事試験所分場・中學校・女學校等あり。人口約一萬九千。

【真岡炭礦】福岡縣田川郡にある石炭山。鐵區は赤田村と後藤寺町とに跨りて七二萬餘坪。岡崎共同會社の經營にて昭和十一年には粉炭八、九九四噸、切込炭二、一四二噸、粗炭八、五六七噸（この總價額九萬餘圓）を産出し、同年六月末の鐵夫数は三〇七人とす。

【真岡海岸支線】樺太鐵道の一。真岡郡真岡町内を走る。西海岸線真岡驛より分岐し真岡驛に至る一・八軒の貨物線にして省線と連帶運輸をなす。

【マオロシ】馬下 新潟縣中蒲原郡川東村の大字。省線磐越西線の馬下驛（明治四十三年設置）あり。

【マカ】社 臺灣高雄州旗山郡にある蕃社。濁口溪右岸地方の山地にあり、標高約六五〇米、高砂族の部落にして、マカイ族に屬す。一般には下三社蕃の稱あり、戸數五九、人口二六五（昭和十二年末現在）。

【マカキ】離が島 歌枕。宮城縣宮城郡豊盛町の東方海上十餘町、豊盛灣内、天通崎の北方に浮ぶ一孤嶼。古今集の歌

に「わかせこを都にやりて豊盛の嶺の島のまつぞ戀しき」とあり、枕草子の「島は」の條にも「松の浦島（松島）、離が島」と號稱されて、早くより歌枕として知らる。芭蕉の奥の細道にも「豊盛の浦に入相の嶺を聞く。五月雨の強いささか晴れて、夕月夜かすかに、離が島も程近し」とあり。島より形の梅花に似たる俊潔なる梅花貝を産す。

【マカザヤサヤ】社 臺灣高雄州旗山郡の蕃社。隆寮南溪・隆寮北溪の合流點近くにあり、標高約七百米の地。高砂族の部落にして、パイワン族に屬す。戸數一〇二、人口四一六（昭和十二年末現在）を有す。

【マカジーヘン】社 臺灣臺中州郡高砂郡にある蕃社。高砂族の部落にして、アマヤル族に屬す。北合歡山の西方に位し、標高一五〇〇米あり。昭和十二年末の戸口は戸數一一、人口七四あり。臺中より埔里街を経て至るを便とす。

【マカタ】馬湯 省線山陰本線の一驛（明治四十一年設置）。鳥根縣八東郡竹矢村にあり。

【マカタミナト】馬湯港 山陰本線の貨物驛（昭和五年設置）。鳥根縣八東郡竹矢村馬湯にあり。

【マカウツ】社 臺灣高雄州旗山郡にある蕃社。高砂族の部落、アマヤル族、ツアアン族及びツォナ族カナア族の住地。アマヤル族は戸數二八、人口二二三、

ツォナ族は戸數二三、人口一一六（昭和十二年末現在）を有す。

【マカトシ】馬家屯會 關東州金州民政署管區の南西部。西隣の北部は金州會、南部は南山會にて、南は金州地峽部の東南側に穿入せる大遼灣の支灣に面す。北東境上に大和尚山（六六四米）峙ちその山脚西方に延び北中部は山地なるも、南半部は概ね平坦にて耕地よく拓け、高粱・大豆・落花生・野菜等を産す。滿鐵連京線の金州驛に近く、道路また金州に通じ交通不便ならず。大和尚山は風景の佳と寺觀多きとにより關東州第一の名山と稱せられ、大黒山・大鉢山・老虎山・東山等の別稱あり。隋の煬帝の高句麗遠征に際しその將、來説兒は水軍を率ゐて此山城を攻略し、ついで唐の太宗の高句麗征伐にもその將の張亮これを攻陥せし處にて、山中の唐王殿（石鼓寺）は太宗の病を養ひし寺なりとも傳へらる。

【マカナジ】社 臺灣臺中州郡高砂郡にある蕃社。高砂族の部落にしてアマヤル族に屬す。白姑山の東南麓、北港溪右岸の地にあり、標高約一千米。戸數二一、人口一一一（昭和十二年末現在）を有す。臺中市より埔里街を経て至るを便とす。アマヤル族として山嶺深き蕃社にして、新竹州下のカナロー蕃はこのマカナローを發祥地とすと云ふ。

【マカネ】眞金町 岡山縣備中國古備郡の東南隅。岡山市の西方約六軒に位し

MIKK

高松町の南に接し、東は御津郡、南及び西は都窪郡に界す。面積三・三九方軒。岡山平野に屬し、地勢概ね平坦肥沃にして耕地大いに拓く。米・麥・粟・藁・柿等を産す。山陽街道は東西に貫通し岡山市にパス通す。また社線中國鐵道は中央を走り吉備津驛（明治廿七年設置）あり。町名は津村一宮村（御津郡）との境にある吉備中山が古今・二〇「まがねふく吉備の中山帯にせる細谷川の音のさやけ」とあるに因み眞金と命名せるものとす。昭和四年に町制實施。官幣中社吉備津神社の所在地。明治四十三年、明治天皇、岡山行幸、本町の宮田に於て大演習の講評を御聽きあらせらる。いま、明治天皇御金御小休所及び御講評所として指定史蹟たり。江戸末期の國學者、藤井高尙（贈正五位）は此地の人なり。（吉備津神社）官幣中社。祭神、大吉備津彦命。創立年代詳かならず。神階は承和十四年四位下、同十五年に從四位上、仁壽二年四品に進み官社に列せられ封戸を給さる。天安元年三品を授け、貞觀元年二品、元慶三年一品を授けらる。延喜の制に名神大社に列し、備中の一宮たり。江戸時代末印百六十石に減せらる。本殿・拜殿は共に國寶にて世に吉備津造と稱せらる。例祭十月十八日。特殊神事は松城神事・豊饗祭・御饗佛祭等。（眞金一里塚）指定史蹟。山陽街道の兩側に相對し、北家に里松・南家に櫻のれも現に生育し、一里塚

【眞壁】古くは白壁と稱せり。清孝天皇の御説（白壁王）を後代に傳ふるため白壁と稱し、のち二字に修して白壁とせざるものなるべし。延暦四年に詔ありて光仁天皇の御説（白壁王）を避くるため白壁郡を眞壁郡と改稱せり。文徳實錄の齊衡三年紀に眞壁郡名はじめて見ゆ。和名抄は萬加倍と註し、神代・眞壁・長貴・伴部・大坂・大村・伊講の七郷を管す。近世、新治郡の一部を合して郡城擴張す。

【眞壁町】茨城縣常陸國眞壁郡の東部。筑波山の北麓にて東南は新治郡と隣す。町の東南部は筑波山の東北斜面にて森林あり。西北部は平地開けて棚田南流す。農業行はれて米・小麥・大豆を産し、煙草の産も多し。また製糸及び酒・醬油の醸造行はる。縣道よく發達し家落はその集合點たる北部に發達す。社線筑波鐵道は中部を北走し眞壁驛（大正七年設置）あり。古くは和名抄、眞壁郡眞壁郷の地にて町名は蓋し其遺稱とす。古く眞壁郡家の所在地にて今なほ古瓦を出す。中世、大掾長幹これに居し眞壁氏を稱す。子孫相承けのち佐竹氏に屬す。尊攘の志士にて徳川齊昭の雪冤に盡力せし權任蔵（爵從四位）は此地の人。（八柱神社）大字境世に眞壁。郷社。俗に境世の聖天と稱するは明治維新まで聖天の像安置されし爲ならん。江戸中期の代表的建築物。

【眞壁】下野國（栃木縣）の古地名。和名抄に河内郡眞壁郷あり、その地今の河内

郡内ならんも詳かならず。

【眞壁】上野國（群馬縣）の古地名。和名抄に勢多郡眞壁郷あり、萬加倍と訓す。その地今の勢多郡北橋村の邊に當る。

【眞壁村】沖繩縣琉球國島尻郡の南西部。糸満町の南方にてこれと高嶺村を隔て、西は海に面す。北方の那覇市へ約一二軒なり。地は東西に長く面積一〇方軒餘。隆起珊瑚礁より成る臺地に東北には八重瀨岳の南につづき、やや高さも其他は概ね平坦にして所々に丘阜あるのみ。農業を主とし、甘藷・甘蔗の産多く糖業また行はる。縣道糸満・那覇に通じ、縣營鐵道の糸満・高嶺驛にも遠からず。村内に眞壁宮（眞壁寺）あり。往昔眞壁按司の三人兄弟に格る磐石と彌陀・樂師・觀音の三像を奉安せし處といひ、應永午年の文字を存する梵鐘あり。

【マカミ】眞上 攝津國（大阪府）の古地名。和名抄に島上郡眞上郷あり。末加美と訓す、その地今の大阪市東成區の内ならんか。

マカミ

眞神原 奈良縣高市郡眞神原村の島形山の麓。眞神原にも作る。蘇我馬子の誓みし飛鳥寺（法興寺）の初めて建てられし地。いま飛鳥大佛のある一字は法興寺の塔頭安居院の一部なりといふ。

【マカリ】望理 播磨國（兵庫縣）の古地名。和名抄に眞古郡望理郷あり、その地今の加古郡八幡村・神野村の邊に當る。風土記の望理里とあるも此地なり。

【マカリカネ】勾金村 福岡縣筑前國田川郡の東北部。香春町の東に接し、東部は京都郡に界す。東境には南北に山脈が走り、北端に際子ヶ岳（四二七米）そびえて西に延ぶる山脚が北境を限り、西北隅の香春岳の東斜面と對し、其間に彦山川の一支西南流して香春町に入る。東境の山脈の中央南端には飯嶽（大坂山、五七三米）そびえて、山脚は西北方に延び、中央部に嶺があり、その北・西・南の山麓に僅に低地を見る。西南部には臺地あり。米・粟・麥・薪炭等を産す。また富村の地は筑豊炭田の一部にて多くの石

として完全に舊態を存す。（舊原成親墓）土壇上に古塔の殘骸あり。もとありし十三重石塔はいま神奈川縣大磯町の安田別邸内に移され、別に明治四十三年建立の九層石塔あり、此地は昔の有木の別所にて、治承元年平家討滅の密謀露はれ成親ここに配流、幽囚中、清盛、妹尾兼康に命じ殺害せしめしこと平家物語に見ゆ。成親の居りしと云はるる向來寺の舊址は附近の山中に残存し山麓の普連寺に位牌あり。（榮西禪師誕生地）松坂の老木數株繁茂し、樹間に一小庵あり。榮西は古徳津宮神官賀陽藤原守貞政の曾孫にて、永治元年この地に生れ、嘗て入宋し、建仁寺の開山たり。

【眞壁】茨城縣十四郡の一。常陸國の西部。東より南は西茨城郡・新治郡・筑波郡と隣し、西は結城郡、北は栃木縣芳賀郡と接す。東境には筑波山・加波山等連り、その西には臺地ありて中央を南流する小貝川、西境を南流する鬼怒川の本支流の流域には平地開け、農業行はれて米・麥・煙草等を産し、所々に梨・柿等の果實を出す。また織物・足袋・綿等の製造をなす所多し。縣道よく發達し、省線水戸線は北部を横断して下館町にて眞岡線を分岐して西部を南走し、東部の山麓には社線筑波鐵道走す。郡内に下館・眞壁・下妻・關本の四町、二十七箇村を含む

マカヘ——マカリ

Table with 5 columns: 山名, 鐵區, 所在地, 産額, 備考. Rows include 赤飛, 香原, 中津, 本宮, 宮尾, 三井田川.

マカリ

炭鑛區を存す、當村に關聯ある主なる炭鑛は別表の如し(産額昭和十年の年産、重は重要鑛山、準は準重要鑛山)。北部には東西に走る縣道ありて香春町の市街地に至り之より南に延ぶる縣道は本村西部を貫く。西部には社線小倉鐵道走りて...

マキ

いまの與謝村の邊に當る。同村の大字に金屋あり、これ蓋し縣名に因るものなるべし。
マカリカワ 曲川村 佐賀縣 肥前國西松浦郡の南部。有田町の西方約一軒に位し、西及び南は長崎縣北松浦郡及び東彼杵郡にそれぞれ界す。西方約一軒半に至れば佐賀市の東北部地域内に...

マキ

マカリドリ 曲通 新潟縣 西蒲原郡にありし村。明治三十九年、他の二村と合し、月海村を建つ。
マカリフチ 曲淵 省線北見線の一驛(大正十一年設置)。北海道北見國宗谷郡稚内町にあり。
マカワ 馬川村 秋田縣羽後國南秋田郡の北部。五城目町に南接す。村の西部と東部は丘陵をなし、中央部は平坦にして、馬場川が中央部を西北方に...

マキ

マキ 摩氣村 京都府丹波國船井郡の西南部。國部町の西南に接し西は多紀郡に界す。全村町とて山岳起伏するも西北端には三國嶽(五〇八米)、南部中央には胎金寺山(四二二米)等聳え、總じて西と南に高く東北部に低し。胎金寺山の東西兩麓を流るる河川は村の中央を東北方へ貫きて流れ北部にて兩者相合し國部町に入る。東部には東部に發して西北流し東北折して國部町に入る小河川あり。各河川の沿岸には低地開け田畑發達す。米産多く藁・麥もあり、工業・林産も多し。胎金寺山西麓に河川に沿ひて走る縣道ありて國部町へバスを通す。...

【牧村】 新潟縣越後國東頸城郡の西南部。保倉川一支の飯田川の上流に沿ひ、南は牧峠・伏野峠等八〇〇米前後の山脈を境に長野縣信濃國下水内郡に、西はその支脈を以て中頸城郡に隣接す。東部・南部に連なせる山脈はいづれも西北へ長く山脈を向け、飯田川を西北へ源流す。全村高原性丘陵にて低地に乏しきも、中央より西部河岸にかけて田地よく開け米の産多く副業に兼行はる。西部には頸城油田ありて石油を産し集積ために稠密なり。なほ牧鑛山のほかに宇津佐鑛山(石油)あり、鑛區は本村及び斐里・小黒の二村に跨り、九十萬三千坪、日本石油會社の經營にて昭和十年より事業を開始せるも、...

【牧村】 石川縣加賀國能美郡の西部。小松町の西北に接し、西は安宅町を挟みて日本海に面す。西南部に五〇米足らずの砂丘あり、中央を梯川西北へ貫流す。土地澁ね平坦なれば水田開け米を主産す。副業として兼行はる。小松・安宅兩町間の縣道通じバスの便あり。省線北陸本線小松驛へ約二軒。古くは和名抄、能美郡能美郷の内とす。...

【牧村】 岐阜縣美濃國安八郡の中東部。大垣市の東南約三軒。掛漕川に跨る南北に長き地を占め、面積約三・六方軒。掛漕川の氾濫原中に位し、地極めて低平、岡川は東方の長良川と村の南境を限る水路によりて相通じ、城内灌溉水利の便よし。耕地は田畑半ばし約二〇〇ヘクタールあり、米・麥の産多く、また牛馬の特産を以て著はる。大垣市との間にバス通じ、交通便なり。...

【牧村】 廣島縣備後國神石郡の西北部。西は甲奴郡に界し、北は福水村、東は草木村、南は田頭村に接す。面積六・五七方軒。地形は二等邊三角形に近く、福水村と甲奴郡に面したる西北斜面を南北に連る山脈あり。海抜七〇〇米内外なり。村はその斜面に屬し地勢一般に高厚状を呈す。東南に小耕地を有し附近は牧場地をなし、他の大部は山林に蔽はる。米・麥・藁・牛・馬・薪炭・酒類等を産す。福水村より福山市及び甲奴郡上下町・比婆郡東城町等に至る自動車の便あり。福水村・草木村・田頭村と組合村をなし、牧村に役場を置く。...

【牧村】 新潟縣越後國東頸城郡の西南部。保倉川一支の飯田川の上流に沿ひ、南は牧峠・伏野峠等八〇〇米前後の山脈を境に長野縣信濃國下水内郡に、西はその支脈を以て中頸城郡に隣接す。東部・南部に連なせる山脈はいづれも西北へ長く山脈を向け、飯田川を西北へ源流す。全村高原性丘陵にて低地に乏しきも、中央より西部河岸にかけて田地よく開け米の産多く副業に兼行はる。西部には頸城油田ありて石油を産し集積ために稠密なり。なほ牧鑛山のほかに宇津佐鑛山(石油)あり、鑛區は本村及び斐里・小黒の二村に跨り、九十萬三千坪、日本石油會社の經營にて昭和十年より事業を開始せるも、...

【牧村】 石川縣加賀國能美郡の西部。小松町の西北に接し、西は安宅町を挟みて日本海に面す。西南部に五〇米足らずの砂丘あり、中央を梯川西北へ貫流す。土地澁ね平坦なれば水田開け米を主産す。副業として兼行はる。小松・安宅兩町間の縣道通じバスの便あり。省線北陸本線小松驛へ約二軒。古くは和名抄、能美郡能美郷の内とす。...

【牧村】 岐阜縣美濃國安八郡の中東部。大垣市の東南約三軒。掛漕川に跨る南北に長き地を占め、面積約三・六方軒。掛漕川の氾濫原中に位し、地極めて低平、岡川は東方の長良川と村の南境を限る水路によりて相通じ、城内灌溉水利の便よし。耕地は田畑半ばし約二〇〇ヘクタールあり、米・麥の産多く、また牛馬の特産を以て著はる。大垣市との間にバス通じ、交通便なり。...

【牧村】 廣島縣備後國神石郡の西北部。西は甲奴郡に界し、北は福水村、東は草木村、南は田頭村に接す。面積六・五七方軒。地形は二等邊三角形に近く、福水村と甲奴郡に面したる西北斜面を南北に連る山脈あり。海抜七〇〇米内外なり。村はその斜面に屬し地勢一般に高厚状を呈す。東南に小耕地を有し附近は牧場地をなし、他の大部は山林に蔽はる。米・麥・藁・牛・馬・薪炭・酒類等を産す。福水村より福山市及び甲奴郡上下町・比婆郡東城町等に至る自動車の便あり。福水村・草木村・田頭村と組合村をなし、牧村に役場を置く。...

【牧村】 廣島縣備後國神石郡の西北部。西は甲奴郡に界し、北は福水村、東は草木村、南は田頭村に接す。面積六・五七方軒。地形は二等邊三角形に近く、福水村と甲奴郡に面したる西北斜面を南北に連る山脈あり。海抜七〇〇米内外なり。村はその斜面に屬し地勢一般に高厚状を呈す。東南に小耕地を有し附近は牧場地をなし、他の大部は山林に蔽はる。米・麥・藁・牛・馬・薪炭・酒類等を産す。福水村より福山市及び甲奴郡上下町・比婆郡東城町等に至る自動車の便あり。福水村・草木村・田頭村と組合村をなし、牧村に役場を置く。...

マキ

マキ

マキ

變遷を物語るものなり。横島の自然的發生は右の如くなるも、之が歴史的發生は明瞭を缺く。されど村内に残る修徳遺跡の地名は此地の發達古きを教ふ。弘安年間、南郡西大寺興聖書院、當時宇治藩の屬々流失するを救ふ、附近に古くより行はれし細代(點を漁獲する方法)禁斷の官符を得たり。當時細代を業とせし横島人の生活救済の一助にと、此地に布を晒す業を始めしこと古書に見ゆ。宇治の急流にて水魚(小鮎)を捕り禁裡に奉りし事は延喜式にも明かなり。故に恐らく、古くは漁撈を以て業とせし者の故地ならん。また横島は宇治川に沿ふ風光の地なりしかば古く貴人の別荘のありし處。またその地が宇治川に沿ひ、且つ宇治に接近せるため古來戦亂の巷となりし事あり。いま水田の中に城址あり。永正年間、弘中兵部なる者の居所と傳ふ。元龜三年、將軍足利義昭は織田信長の恩誼を忘れ、兵を擧げて信長を除かんとしてこの城に據りしが、敗れて河内に走り、足利將軍ここに滅ぶ。

マキノヤマ 横山村

高知縣土佐國香美郡の東北部。横山川に添ふ山村。東は石立・行者・赤城尾等の高峻なる山岳を以て徳島縣に隣り、南は五位ヶ森の連嶺を以て安藝郡に接し、北は東北・西南に走る四國山脈の一連峰によりて境せられ、西は物部川を以て在所村に界す。面積一七二方軒餘の廣き地積を占むるも人口は僅少。

口移薄にて密度は一方軒につき四六人、我國平均一八一人の四分の一に過ぎず。南北兩端は東北より西南に走る連嶺聳立して高峻なる地形をなし何れも中央に向ひて傾斜し縱谷をつくる。各山脚を洗ふ溪流の水を集めて横山川は西南に貫流し西部に於て北方より来る久保川と合して物部川となり西南に流る。全村森林よく繁茂し林産に富む。西部の主邑大栲を中心として東南方及び横山川に沿うて林用軌道を通ず。また縣道は縱横に通じパスの便あり。横山は一に被山に作る。また大字仙頭は東富にも作り、南路志に據ればもと小田田といひ、東富は元來東職の名なりしを氏號に轉じのち村名となる。幕末の勤王家小松勇造(勤從五位)は此地の人なり。(勤王公士方神社) 大字大栲に鎮座。神社、奇日方命。もと公士方大明神と稱す。例祭十一月八日。大明神など稱す。例祭十一月八日。

マキノハタ 横山

上越國境清水山塊の一角。清水峠最高點(四四八米)の北方約八軒、群馬縣利根郡水上村と新潟縣南魚沼郡上田村との境上に峙つ。標高約一九六〇米。北嶺に牛ヶ岳(一九六二米)、北西嶺に朝引山(一九三二米)聳え、南嶺は朝引山(一九〇〇米)、朝日岳(一八二〇米)を経て、清水峠最高點に達す。山は緩傾斜をなして高原狀を呈し、南面は美しき針葉樹林にて掩はる。山頂には長方形の小池あり。登山は南方の朝日岳方より北方に通ず。

マキヤマ 牧山村

岡山縣備前國御津郡の東部。旭川の西岸に位し、南は牧石村を隔てて岡山市に對し、西は野谷村に接し、東と北は川を挟みて赤磐郡に對す。面積一四・四二方軒。西部と南部は地勢高く、南境に金山(五〇〇米)聳ゆ。河岸に平地ありて耕地を拓く。山地は概ね山林に蔽はる。米・麥・柿・栗・薄等を得す。社縣中國鐵道を貫通し牧山驛(大正元年設置)を置く。また縣道西部に通じ、近隣にパスの便あり。

マキヤマ 眞木山

畿日本紀、聖武天皇の天平十七年四月に、伊賀國眞木山に大山火事ありて數日燄火せざりし記事あり。その地いま三重縣伊賀國阿山郡玉瀧村の大字眞木の地なるべし。

マキヨセ 横寄山

關東山脈の一峯。八王子市の北西方約二八軒にあり。東面は東京府西多摩郡横原村に、西面は山梨縣北都留郡原村に屬す。標高一八八・一米。山頂は草原にして、西方に讀く三頭山(一五二七米)・大菩薩連嶺の眺望あり。

マクシユン 社

臺灣新竹州竹東郡にある神社。高砂族の部落にしてアマヤル族中のマヨコアン番に屬す。油羅溪右岸の栗樹山より加那桃山に至る稜線以東にあり、標高約三五〇米。新竹市より竹東街を経て至るを便とす。戸數二一、人口九一(昭和十二年末現在)。

面より縱走して行はる。夏のキャンプ、冬のスキーに通ず。

マキハナ 横鼻山

九州山脈市原山塊の一角。市原山とは南西約一〇軒、小川川の上流地を隔てて相對す。宮崎縣西臼杵郡椎葉村と東臼杵郡南郷村との境上に峙ち標高一二八九米。山體鬱蒼たる森林に掩はる。南方の鞍部に横鼻峠の山路通じ、北嶺に三方岳(四七六米)嶺く。

マキノリ 巻堀村

岩手縣陸中國岩手郡の中部。東部には北上山脈縱走して飯野山の餘脈北西方に延び、西部には南北に走る丘陵あり、北上川はこの間を北より南に貫流す。また松川は丘陵の西を南流し本村の南に北上川と落合ふ。本村の東部、北上山地方は花崗岩地帯にして腐植質壤土より成り、北上兩岸の臺地は洪積地帯にして腐植質をなし〇・三〇・六米にして淡赤褐色の壤土に達す。北上河岸の沖積層はその發源地帯第三紀層の風化物を選搬し、之に火山灰及び花崗岩地帯の影響を受け礫母等を土壌中に混じて壤土を主とし、河床に近く砂質壤土を造り腐植質に乏し。住民の七割は農業に従事し、産物の主なるものは米(四千斤)・麥(千斤)・大豆(千四百斤)・甘藷(二十三萬貫目)其他、畜産・林産・工業等にありては、馬の現在頭數四百頭を越え年々八十頭の仔馬を産し、用材・木炭等何れも約三萬圓、醬油の産額に二百石を越ゆ。交通は陸羽街道が村の中西部

マクス 眞葛ヶ原

京都市東山區の東山の麓にて、祇園(八坂神社)の東、高臺寺の北、知恩院の境内より南の邊を往昔は眞葛ヶ原と稱せり。この地はいま圓山公園となり、その名残を東大谷の西の邊に留めて眞葛ヶ原といひ、いま京都市の野外音楽堂建てらる。また池大兼堂の碑あり。好色一代男、むかひし山の妻もかばり、長明寺もこゝへひけ、川原おもての石垣、慈儀法師のよまれし眞葛ヶ原といふ所迄も、遠つづきて、我輩は唯御上家の女中と、浪屋が腰懸にしばらと居て、遠國と違つて、是は、それと見らる。

マクタ 馬來田

成務天皇の朝、國邊を定め給ひし國。正しくはワマガタといふべきなり。位置は今の上總國の中と見られぬ。ち郡となりて筑前郡と稱す。近世に至り筑東・筑西の二郡に分けしが、のち合して筑前郡に復せり。明治三十年四月附近の二郡を合して君津郡と稱す。

馬來田村

千葉縣上總國君津郡の東北端。久留里町の北方にて、間に小櫃村を挟み、東は市原郡と隣す。概ね丘陵地に於て森林多く、西部は北流する小櫃川流域の平地にて、水田多く米を主産し、他に麥・粟・蕎麥を産す。縣道は西部を縱走し、之より分れて東走するものは市原郡に通ず。省線久留里線は西部を南走し馬來田

を南北に通じ省線東北本線の好摩驛(明治廿一年設置)あり、省線花輪線これに接續す。蝦夷館所々に在り、また土器・石器の散布せるより考察して先住民族の居住せしは明かなるも、大和民族の移住せし年代は微溥すべきものなし。口碑に依れば前九年・後三年の役の頃らしく、七百年以前に開拓されたもの如し。明治維新前は南部氏の領地にして沼宮内代官に屬せり。(飯野山) ヒラミッド形をなして東南方に美容を現し、山麓には一面鈴蘭の絨氈を布きたるが如く、仲春より初夏に至るの候、覆都たる芳香に陶酔せしむ。(明治天皇御聖蹟) 明治九年車駕東巡、七月八日本村御通過の際、工藤愛親の家に留はせらる。同十四年東巡北巡の初八月廿一日再び同家に留はせらる。今その前庭に駐蹕の碑建て。

マキミネ 横峰

省線日ノ影線の一驛(昭和十二年設置)。宮崎縣西臼杵郡七折村にあり。(横峰) ↓北方村(宮崎縣東臼杵郡)

マキムク 横向

奈良縣大和國磯城郡の中部。初瀬町の西に隣り、東西に細長き村なり。東境に巻向山(五六七米)聳えて東半はその西斜面地を占め、西半は大和盆地南部の一部を占め、西隅を初瀬川が西北流す。米・粟・麥を産す。低地の東部には南北に貫通する縣道及び省線櫻井線ありて柳本驛(北方約一軒)に近く南北にパスの便あり。

マクナマ 莫男

因幡國(鳥取縣)の古地名。日本後紀、平城天皇の大和三年六月の條に「省・因幡國八上郡莫男驛、智頭郡道傍驛、馬各二匹、以て不豫。大路一乗用希也」と見ゆ。その地いま評ならざるも、大路に縁らずとあれば、美作國より因幡國に至る道路にして、莫男驛はいま八頭郡八東村の邊なるべし。大字夜谷は莫男の轉訛せるものか。

マクニ 眞國村

和歌山縣紀伊國那賀郡の中央南部。貴志川一支の天野川に跨り、東野上町の東約二軒にあり。ほぼ四角形の山村にして西部や北方へ突出す。北部には西境の南山(四七七米)より東方に連る山地あり。南境には上ノ城山(四四二米)より東に續く連山あり。中央の堀谷を天野川が西流す。南山の北麓には本村の西北部を貫きて西流する貴志川の一支流あり。河谷にやや耕地發達し米・粟・柑橘等を出し外に林産物あり。道路・部落共に河谷に沿ひ社線野上電線の終點に近く(四方四軒餘)パスを通ず。

原神社。大字西川に鎮座。祭神、菅原道真・大山祇命。明徳三年に河野四郎通安の伊佐郡郡管院に移建せし天満宮を、其子、通正この地に更に勧請すと。鳥津氏の崇敬あり。元禄十六年再興。

マサキ 満崎 愛媛縣宇摩郡にありし村。明治二十八年に天満・善崎の二箇村に分立す。

マサコ 眞砂村 鳥根縣石見國美濃郡の西部。高津川支流の匹見川の上流山中に位し、西北は豊川村を挟みて益田町に對す。北は東嶺通村、西南は鹿足郡に界す。東西兩境を山脈南北に連りて各々海拔六〇〇米に近し、地勢やや中央に傾く。南境赤石山(五八七米)の北麓を匹見川西流して穀谷を展く。沿岸と北郡低地に耕地拓く。東部は芝蕪地なるも他に概ね山林なり。米・蕎麥・木炭・酒等を産す。益田町へ自動車の便あり。此地古くは和名抄、美濃郡茂郷の内か。(最島神社)大字馬谷に鎮座。祭神、多岐都比賣命・多紀理比賣命・狭衣比賣命。相殿神、稻田比賣命外二神。足利直冬、馬谷村城山に據きし際、安藝國國幣社最島神社の分靈を勧請、のち里人この地に遷せりと傳ふ。例祭、十月二十四日。

マサトマリ 政治 北海道後志支庁郡都那にありし村。昭和八年に郡都那に編入す。

マサナカ 正中 瀨島縣河沼郡にありし村。大正十年に野洲町に編入す。

聯合家の根據地たり。李朝三世太宗の時昌原郡を置き邑城を内城里に築き、のち十一世中宗王の時、現今の昌原邑に移せり。而して今日の舊馬山浦の出現せるは李朝中世以後に屬す。即ち十八世顯宗王の時、慶尙道に大同法を施行するに従ひて附近十數郡の貢米格納庫(漕倉と稱す)多く設けられ、海汀の置設はその影を失ひ、公館民家悉く棟を連ね繁盛を極めたるを以て、之を馬山浦と稱し、従來の馬山浦は山浦里または舊江と呼ぶに至る。李朝光武二年(明治三十二年)五月、此地を以て開港場となし、各國居留地制布かれ、日本領事館また設けらるるに及び内地人の居住する者多きを加ふるに至る。明治三十九年、領事館を理事館と改め、内地人居留民團を設立し、同四十三年日韓合併と共に理事館を廢して馬山府廳を置き、大正三年四月府制を實施し、今日に及ぶ。(馬山公園)市街の中央、山寄りにあり、馬山灣の風光を一眸に收め、眺望絶佳なり。境内に馬山神社(無格社、祭神、天照大神)を奉祀し、春は櫻の名所たり。(寶鏡山)斗眼山・荒神山・還津山または公神堂山とも稱し、舊馬山の西部にあり。新羅時代に合浦縣城を築きし址なり。山腹に小祠あり神功皇后遠征の勲、此處に於て應神天皇御降誕あらせられしを祠りしとの口碑殘る。(蒙古井戸)寶鏡山の麓にあり、元の忽必烈が東寇の際、兵を率ゐて合浦城に駐屯し、軍費用

マサノリ 正則 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に外二箇村と共に廢され美和村を置く。

マサル 眞里 省線松浦線の一驛(昭和六年設置)。長崎縣北松浦郡佐々村にあり。

マサン 馬山 朝鮮平安北道定州郡の東南部。郡邑定州の東方約一五軒。西北境には五峰山(三八一米)・延香山(二二二米)等聳え、南境には龍巖山・天鳳山(二五九米)・七嶽山(三六五米)等相連なり、北東境は大寧江支流の長水潭江によりて博川郡と境を劃す。沿岸一帯は土地低平にして地味肥え農業に適す。農産物の主なるものに米・大豆・大小豆等あり。鐵道京義本線は南境近く東西に通じ、古邑驛(葛山地面内)ありて、之より三等道路にて納清亭と結び、納清亭よりは義州街道によりて東方の博川、西方の定州に通ず。納清亭は邑色にして長水潭江右岸に位し燈塔の特産と風光勝れたるを以て著はる。

【馬山府】 朝鮮慶尙南道の中南部に位置する港市。釜山府の西約四五軒。北及び北西は昌原郡西面、西南は同郡龜山面に圍まれ、東は鎮海灣の支灣なる馬山灣に臨む。南北に長く約五・五軒、東西は約三軒あり、面積約一〇平方軒。人口三萬餘。開港場たり。北・西・南の三面山を以て圍み、北境には舞鶴山、西境には大谷山あり、その麓に海岸に沿ひ南北に長

き平地ひらげ、市街地これに據る。海委は屈曲に乏しく、北部に月ノ浦海水浴場あり、灣内には猪島(一名、美和島)を泛ぶ。空気の清淨、氣候の溫和に加へて風光明媚なるを以て、朝鮮第一の健康地と稱へらる。その氣象要素を摘記するに平均氣温一年を通じて一三・八度、八月二六・六度、一月一・三度、降水量一四五六兆なり。城内の耕地面積約二〇〇ヘクタール、而して田は一三〇ヘクタール、うち約七割は二毛作行はれ、米・麥・大豆・蔬菜等を産し、果樹栽培に造し桃・梨・葡萄・柿等を出す。畜産に牛乳・山羊乳・鶏卵等あり。水質と氣候の良好なるため醸造に適し清酒の産額一二七萬圓(昭和十年、以下準之)に達し、品質の優良と醸造高とに於て全鮮第一位を占め朝鮮の酒と稱せらる。其他、製糖(一三四萬圓)・焼酎並に再製酒(八一萬圓)・朝鮮酒(一五萬圓)・醬油(一二萬圓)・木製品(一〇萬圓)・裁縫品(九萬圓)・金屬製品(五萬圓)・船舶(四萬圓)等の工業あり。近海漁業盛にて統着を經て此地に集り、更に鐵道により鮮滿の奥地に輸送せらるるもの多く、魚市場一ヶ年の賣上高は一八萬餘、五萬三千圓(石首魚・鱈・太刀魚・鱈・鯖・鯛・烏賊・海魚等)に上る。製鹽また行はれ、一ヶ年製鹽量一七四萬斤、二萬餘圓あり。貿易額は昭和十一年に於て輸出一、一七六萬圓、輸入五八〇萬圓にて、前年の移入四八六萬圓、

として穿たる井戸の一と傳ふ。(月影臺) 南部、月影洞の海岸にあり。新羅の碩備祖致遠(孤雲)の遺蹟にして、文昌公祖先生遺蹟あり。(馬山城址) 市内西面(慶尙南道昌原郡) 【馬山灣】 朝鮮慶尙南道の南岸、鎮海灣の支灣。南に開口し北へ灣入すること八軒餘、幅は二一四軒あり。灣口に小毛島、灣内に猪島浮ぶ。西岸に馬山府あり。 【馬山】 ↓馬山(朝鮮) マジ 馬路村 鳥根縣石見國通摩郡の北海岸。西は海里村を隔てて温泉津町に對し、日本海に北面す。東は大國村に接す。面積四・四方軒。西南境には山地連なるも地勢北方に傾斜し、村内濠れ平地なり。土地肥沃にして耕作に適す。海岸線は出入に富み琴ヶ濱深く灣入す。海岸には漁業繁盛あり。牛糞・牛糞の村にして米・蕎麥・醬油・酒・蠶・銅等を産す。省線山陰本線は村心を貫通し馬路驛(大正七年設置)を置く。本村は明治二十四年に明治村の一部を分割して設けらる。なほ海濱の琴ヶ濱は白砂青松の景勝地として知らる。

マシキ 益城 萬葉集に郡名早く見え、また續紀實錄元年紀にもその名見ゆ。和名抄は萬志岐と註し富麻・子按・加西・坂本・益城・麻部・富神・宅部の八郷を管す。鎌倉時代に益城上部・益東郡の名も見ゆれど

も二郡としたる確記なし。明治の初めに至りこれを上下二郡に分つ。 【益城】 肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に益城郡益城郷あり、その地今の下益城郡内ならんも詳かならず。 マシケ 増毛 【増毛町】 北海道天鹽國留萌支廳増毛郡一部。支廳の南海岸に位し、留萌町の南に接す。西は日本海に臨み南は濱益郡、東は空知支廳と界す。面積三六九・七五方軒。東南を山脈に圍まれ岩別岳(一四九一米)・雄冬山(一八八八米)等屹立し東南は高峻を結み徐々西北海岸に向ひて傾く。海岸線は小屈曲あり。葦葦藪れ海岸に集りて漁業を營む。信砂・岩別等々の諸川西北流して海に注ぐ。河口平野には耕地拓け、附近に牧場散在す。増毛港は岩別河口東部岬角に農漁業の根據地として完成なる築港設備を以て發展し、燈臺を有す。鱈・鮭・昆布・鱈の漁獲多くまた馬鈴薯・大豆・穀類・製菓を産す。省線留萌本線、留萌町より海岸を南走し倉庫・増毛の二驛(共に大正十年設置)を置く。また海上は近海及び内國航路の定期船を有す。郡名はアイヌ語マシケイ(島の多い)より出でしといふ。水産業が主産業にして、鱈の漁獲及びその加工品の産額多く、漁港は昭和三年十二月に完成し、昭和七年港内の浚渫も行はれ、近年はまた水田・果樹園が増加し、植林も行はるるに至る。町内に税務署、

移出九四〇萬圓、輸入三萬圓、輸出六萬圓に比し、格段の進展を示せり。鐵道全南部線は海岸に沿うて通じ、舊馬山(明治四十三年設置)・馬山(明治四十一年設置)あり。馬山驛よりは更に北走して北馬山驛(大正十二年設置)を經、吾州に通じ、また統管・昌寧・馬金山温泉等へバスを出し、市内にも舊馬山・馬山間にバスの便あり。海上は釜山・三九津、統管(三〇津、鎮海へ一八津あり、大阪商船會社・朝鮮郵船會社等の沿海航路の寄港地となる外、沿岸各港へ發動機船の便あり。鎮海へ一時間、統管へ四時間半、釜山へ五時間半にて達す。市域は北部の舊馬山と中部以南の馬山とに分たれ、舊馬山は舊時の合浦と稱せし地にて、いま朝鮮人都落をなし、新市街と事實上別箇の市街地を形成す。府内の主要なる官公署は府廳・税關出張所・昌原郡廳・稅務署・釜山地方法院支廳・道立醫院・刑務所・穀物検査所等にして、其他、中學・高女・商業の各公立學校、殖産銀行支店、朝鮮商業銀行支店、金融組合・馬山水産會社・馬山汽船會社・大阪商船出張所・馬山總務工場・日本商業會社出張所等あり。また南部は増成地にして、馬山重砲兵隊駐置し、この地は新羅時代に骨浦縣を置き、その城址は今なほ寶鏡山に遺れり。高麗時代に入り合浦縣と改め東南道兵馬節度使を併置す。高麗朝二十四世元宗王の時、謂ゆる元寇の役には蒙古及び高麗

警察署、區裁判所、増毛燈臺、増毛港防波堤に燈塔あり。増毛港防波堤のは昭和四年設置にて、不動紅光、光達距離六哩、増毛燈臺は明治二十三年設置にて不動白光、光達距離一八哩。(最島神社) 祭神、市嶋鳥媛命。文化年間の創立。例祭、七月十五日。(洞邊寺) 眞宗大谷派。支龍山と號す。安政五年、本山僧僧齊聖寺德善、松前郡福山寺全寺掛所國師淨支寺を本山掛所に引直し、洪洞をして境内に洞邊坊を創めしむ。明治十一年永壽町に、同二十九年現地に再移す。 【増毛郡】 ↓増毛町

マシロ 益子町 栃木縣下野國芳賀郡の東南部。南の一部は茨城郡西茨城郡と隣す。八溝山脈西斜面の一部を占め、東境に雨卷山(五三三米)・足尾山(四三三米)・町内に高館山(三〇二米)あり。西部は平地開け小貝川南流し、農業行はれ米・麥・烟草・蔬菜を主産し、特産物として陶器(益子焼)を産す。また商業も盛なり。縣道四方に通じ、西は眞岡町と宇都宮市方面に通ず。省線眞岡線は西部を北走して益子驛(大正二年設置)を置く。當町内には金銀銅重石、或は滿傳の鐵區幾多ありと何れも振はず、僅に雨卷(益子)・益子(金銀銅重石)・高館(金銀銅重石)の三嶺山が昭和十年頃より事業を開始せるに過ぎず。明治二十七年に町制を布く。城内に益子城あり。康平年間、紀權守正隆の始めて築きたるものとす。爾來世々世

マシヤ

マシヤ 大字大羽は宇都宮朝綱の退居したる地にて其古跡あり。〔朝綱神社〕上大羽に鎮座。村社。祭神、味耜高彥根命・大己貴命・壽永年中、下野國主宇都宮朝綱の勳蹟に創ると云ふ。本殿は圓寶。例祭、十月九日。〔西明寺〕新義真言宗豊山派。獨結山善門院と號す。正暦元年に花山法皇の御草創と傳ふ。本尊十一面觀世音立像(傳行基作)。樓門は圓寶なり。坂東三十三所第二十番札所。御詠歌「さいみやうじちかひをこに尋ねれば終の住ひは西とこそ聞けし」。〔地藏院(附阿彌陀寺)〕大羽にあり。新義真言宗豊山派。開創は宇都宮朝綱入道寂心。文化年中に地藏院は炎上せしも、本尊阿彌陀堂は無事。境内に阿彌陀寺あり。

マシヤン

マシヤン 臺灣花蓮港臨玉里郡にある蕃社。カツパナ山の西方マヤラス溪下流地方にあり、標高約一二〇〇米の地。高砂族の部落にして、アモン族に屬す。戸數一六、人口一四八(昭和十二年末現在)。

マシヤン

マシヤン 臺灣高雄州潮州郡にある蕃社。南大武山の西北方にあり、海拔約六〇〇米の地にあり、高砂族の部落にして、種族はバイラン族に屬す。戸口は戸數三七、人口一七五を有す(昭和十二年末現在)。潮州驛より下車して入山するを便とする。

マシヤン

マシヤン 臺灣台中州新高部にある蕃社。高砂族の部落にして、

マシヤ

延喜式。和名抄に各々郡名見え、末志豆と註す。書紀、景行紀には焼津に作り、古事記には焼道と見ゆ。初は夜成豆と稱へしを、燒の字を忌みて益の字を充て、更に末志と謂はしにあらざるか。和名抄は西刀、澤會、朝夷、飽波、八田、物部、益頭、高橋、小河、新居の十郷を置き、延喜式には益都郡傳馬五疋と載す。近世は益津に改めて明治に至り、同二十九年に志太郡に入りて郡名を失ふ。〔益頭〕駿河國(靜岡縣)の古地名。和名抄に志太郡益頭郷あり、その地今の志太郡西益津村の邊なるべく、中世は益頭庄と稱せし地。

マシヤ

マシヤ 味舌村 大阪府攝津國三島郡の南部。安成川の右岸に沿ひ、南側は大阪市の東北隅に殆ど接す。全村地形低平にして一畑沃野拓け、東南境に沿ひて神崎川支流の安成川が貫き流す。西北方より来る一丈は中央を貫き東南境に至り安成川と合す。米・麥の外に工業・畜産あり。西北側には村境に並行して縣道走り、省線東海道本線および社線京阪電氣鐵道新大阪線が中部を横斷し、後者に正倉驛(昭和三年設置)あり。

マシヤ

マシヤ 益田 飛騨國(岐阜縣)の古地名。和名抄に益田郡益田郷あり、万之田と訓す。その地今の益田郡萩原町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 山形縣最上郡八向村の大字。省線陸羽西線の山形驛(大正二年設置)あり。

マシヤ

マシヤ 升形 山形縣最上郡八向村の大字。省線陸羽西線の山形驛(大正二年設置)あり。

マシヤ

マシヤ 升形 山形縣最上郡八向村の大字。省線陸羽西線の山形驛(大正二年設置)あり。

マシヤ

マシヤ 升形 山形縣最上郡八向村の大字。省線陸羽西線の山形驛(大正二年設置)あり。

マシヤ

マシヤ 升形 山形縣最上郡八向村の大字。省線陸羽西線の山形驛(大正二年設置)あり。

マシヤ

マシヤ 升形 山形縣最上郡八向村の大字。省線陸羽西線の山形驛(大正二年設置)あり。

マシヤ

マシヤ 升形 山形縣最上郡八向村の大字。省線陸羽西線の山形驛(大正二年設置)あり。

マシヤ

アモン族の中、群蕃に屬す。郡大湊右岸の地にあり、標高約一五七〇米の高地にあり。戸數七、人口一〇八、順路は集々線水櫃坑より至るを便とする。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

郡の東北部。善光寺平の中部、犀川と千曲川の合流する中洲に位す。村は全く兩川の氾濫原にありて長野市より東南約四軒。千曲川を隔てて上高井郡川田村に接す。村名の眞島は兩川の合流に當る故なり。川中島の古戦場の中心は村に南接する小島田村字八幡原なれども本村も亦その一部なり。現在に於ては氾濫原のこの低地が蔬菜栽培に好適の流紋岩崩壊土壌なるを以て、長野市・須坂町(上高井郡)等の需要地を控へ、園藝作物に著しき農産上の特徴を發揮す。此地は和名抄、更級郡以介郷の内にして、東鑑、文治二年の條に善光寺領、河原・馬島・村山・吉野とある四村は馬島即ち眞島なり。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

マシヤ 眞島 美作國(岡山縣)の古地名。和名抄に眞島郡眞島郷あり、その地今の眞庭郡久世町・落合町の邊に當る。

マシヤ

北にやや長き盆地状の平坦面あり、鳥嶺川これを灌漑し、南部を西より東へ侵入蛇曲流する頸江に合流す。米・麥・豆類・棉花・大麻・繭等の農産ある外、西部に未老嶺山ありて金・銀・銅・鉛・鋅を産出す。中部を鳥嶺川に沿ひて開慶・向州間に一帯道路走りバス通す。中部の新規里に故母城址あり、三國時代の築造に傳り、高さ二米餘、周圍一・三軒に餘り、層々崩壊せるもほぼ其遺構を窺ふを得べし、俗に鎮南園と稱す。東南の戸西南面との界にも三隣時代の築造になれる山城址あり。

マシヤ

マシヤ 萬壽 岡山縣都窪郡にありし村。昭和二年に外一町一村と共に廢し倉敷町を設く。倉敷町のうち市制を布く。

マシヤ

マシヤ 益生 三重縣桑名郡にありし村。昭和八年に桑名町に入り、桑名町は昭和十二年に市制を布く。

マシヤ

マシヤ 鱈浦 省線調布線の一驛(大正十三年設置)。北海道北見國網走郡網走町にあり。

マシヤ

西境には米山(五九一米)聳ゆ。中央には赤谷川が西南流し沿岸の低地に耕地發達せり。米・麥を産す。社線朝倉軌道の終點杷木驛が西南約二軒にありてバスを通す。富村と寶珠山村とに鐵道が跨りて重要嶺山たる寶珠山炭礦あり(寶珠山村参照)。

マシヤ

マシヤ 眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

マシヤ 眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

マシヤ 眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

マシヤ 眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

マシヤ 眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

マシヤ 眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

マシヤ 眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

マシヤ 眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

マシヤ 眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

増戸村 東京府武蔵國西多摩郡の東南部。五日市町の東隣にて、秋川に沿ひ、南は南多摩郡の一部と隣す。面積六・五七方軒の小村。北端・南境共に低き山地をなし、中部は東流する秋川流域の平地にて養蠶行はれ繭を産す、他に米を産す。府道は五日市町に通じ社線五日市線また之に沿ひ、武蔵増戸驛(大正十四年設置)を設く。村内に鎌倉公方基氏の伯母、瑞雲尼の開基せる瑞雲寺あり、また大字横澤に鎌倉時代以来武家に崇敬せられし大慈願寺あり。(稱代遺泉)秋川の流れに臨める臺地にあり。加熟番用、アルカリ性泉。(大慈願寺)大字横澤にあり。新義真言宗豊山派。金色山古評院と號す。開基は源頼朝、開山は澄秀。建久二年の創建と傳ふ。もと山城院三寶院に屬し、天正十八年豊臣秀吉は寺領二十五石を寄進す。本尊大日如来。傳阿彌陀如来(木造、鎌倉時代作)坐像一軀は國寶なり。

マシヤ

マシヤ 眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

マシヤ 眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

マシヤ 眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

マシヤ

眞菅村 奈良縣大和國高市郡の北端。眞庭町の西北に接し、東部中央は今井町に隣り、東北部と北部は磯城郡に圍まれ、西北部は北葛城郡高田町に界する南北に細長き村なり。東南端には眞庭山(一九九米)聳え、その西北斜面は本部に屬す。其他は地形低平にて曾我川が眞庭山西麓を北流し南方より来る支流を合せて西境に出で之に沿ひて北上す。米・麥・繭を産し實業の産額多し。中央を東西に縣道及び省線櫻井線が横斷し、金橋驛(四方約〇・五軒)・眞庭驛(東方約一軒)に近し。また八木町・櫻井町(磯城郡)・今井町等にバスを通す。この地は和名抄、十市郡雲梯郷の内なり。大字曾我は蘇我氏の祖先の居りし處といふ。

傾斜す。嶺ヶ石川は村の中南部を西方に貫通し、沿岸に耕地拓く。米・大豆・麥・馬鈴薯を産す。道路は村の略中南部を東西に通す。省線釜石線柏木平・磐梯(以上大正四年設置)・寛谷前(大正十三年設置)の各線を通く。この地は阿曾沼氏の一門、磐梯氏の居りし所にして、村内に増澤城あり。磐梯氏は慶長年中、主君を除かんとして、牧野の職あり。

マスタ 万須田 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に外三箇村と共に廢され富田村を置く。

マスタ 沙田 豊田郡(廣島縣)マスタ 益田

【益田郡】 岐阜縣十八郡の一。飛騨國の南部。北は古城郡に、東は長野縣西筑摩郡、南は惠那郡・加茂郡と武儀郡に、西は郡上郡に界す。東部に日本アルプス飛騨山脈南走し、鎌ヶ峰(二、二二一米)・三國山(一、六一一米)あり、何れも噴出岩より成る。その上には乗鞍火山脈走り、東北境には乗鞍岳(三、〇二六米)、東部に御岳(三、〇六三米)聳ゆ。西部は飛騨高原に屬し、西北には川上岳(一、六二五米)あり、この附近は日本海側と太平洋側の分水嶺をなす。益田川(飛騨川)は乗鞍岳に源を發し、秋神川・青屋川を集め、宮崎の南にて南折し、小坂川・山之口川・輪川を入れて、山地を切り入り曲流をなして南流す。この峡谷をなす部分には中山七里と稱して絶景をなす。また西部の川上岳より

は馬瀬川發源し、南端の金山町附近にて益田川に合流す。乗鞍の山麓は滑かな原野をなし、千町ヶ原・神立原・子原ありてスキー場にして、また牧場たり。飛騨山脈には火山脈通する爲め温泉も多く御岳の嶽ノ湯・下呂温泉・大洞温泉等あり。本郡は殆ど山地なれば農耕地少く、養蠶を營む。山地は薪材を切り、牧場營まれ、農産物の産多し。高根村には馬を産す。農産物は川の流域の米・麥、林産に木材・薪炭・竹材等あり。嶺山も高根嶺山・大倉嶺山には金・銀・銅を産出す。交通路は主として河谷に沿うて見られ、益田街道は益田川に沿ひ、信州街道は高山より益田川の谷を縦て野麥峠(一、六七二米)を越え大野原を下り長野縣に入る。鐵道は省線高山本線が益田街道に平行し、嶺石・下呂・福島寺・萩原・小坂の諸駅を置き、木材の移出盛んなり。和名抄には萬之田と註し、益田・秋秀の二部に分かつ。延喜式「詔注曰、割大野郡、置益田郡」とあり、古くはマスタと誤り近世はマスタと讀む。行政上、萩原町・小坂町及び下呂町の外八箇村に分つ。舊郡役所は萩原町に置かれ、下呂町はその温泉の涌出の爲め、中山七里の景勝と相俟つて温泉町として發達す。

【益田町】 鳥根縣石見國美濃郡の北部。益田川・高津川二川の合流沖積平野上に位置し、北及び西は吉田町、東は豊川村に接す。面積四・七〇平方町。地形南北に

細長く、北部と南部に盆地存するも中央は益田川西流して肥沃なる平地なり。市街は河岸に沿うて東西に延び、交通及び經濟上の要地なり。省線山陰本線の石見益田驛に近し。農産・清酒・醬油・木炭等の工産物多く、米・麥・家畜類これに次ぐ。高津町へバス通す。明治二十二年に町制を布く。古くは益田郷に作り、和名抄に美濃郡益田郷と見ゆ。山陰道の驛次として發達し、中世は益田氏の居邑たり。益田氏は三隅の福屋氏の一族にて石州の名族なり。弘治二年に益田無常は毛利氏に降り、その子孫毛利氏の年寄となる。(善光寺庭園)指定史蹟・名勝。大字築羽にあり。築羽天石神社の東約四〇〇米、正和三年に龍門土原和尚の創建にて、もと崇徳寺と稱す。庭は雪舟の作と傳ふるが、享保十四年、堂は火災を蒙り、改更を經し部分あり。庭園は書院の南より佛殿の後に互りに山に倚りし西南向の泉水庭にて、山脚に小池あり、池畔は石を積み、中央に島を置き脚を作り石橋を架す。丘の斜面に處々つづじを刈込物に仕立て、上方高所に柱を植ゑ、園の周圍に竹藪を繞らす。景趣清雅なる泉水庭として佳姿を有す。境内本堂前の左側に領主益田越中守宗兼の墓あり、また東門外に雪舟灰塚あり、遺骸を茶匙に付せる場所にて、「南東風雪舟塔大師師」の碑あり。(築羽天石神社)神社。祭神、天石尊・伊弉諾神・伊弉冉神外

【益田川】 飛騨川上流の稱。↓飛騨川【益田】 近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に淺井郡益田郷あり、末須太と誤す。その地今の東淺井郡竹生村に當り、大字益田は郷の遺稱なるべし。【益田】 石見國(鳥根縣)の古地名。和名抄に美濃郡益田郷あり、末須太と誤す。その地今の美濃郡益田町・安田村・北仙道村・東仙道村・豊川村・吉田町の邊に當る。

マスタ 増田

【増田町】 宮城縣陸前國名取郡の東部。仙臺市の南約八軒、岩沼町の北方七軒。東は岡上町に接す。仙臺平野の中南部に位置し、土地平坦にして川は北境及び南部を各東流し、灌溉水利の便ありて地味肥沃なり。米・麥・蔬菜を産す。道路は中部を南北に通じ、仙臺市及び岩沼町へは自動車の便あり。東北本線増田驛(明治二十一年設置)を置く。明治二十九年に町制を布く。明治天皇、明治九年、奥羽御巡幸の際、同十四年、山形・秋田及び北海道行幸の際等にこの地に御小休あらせられ、いま明治天皇増田御小休所御講水として指定史蹟たり。この地は舊奥州街道の信田宿にして、伊達家累世の家臣たる増田氏の起りし處。【増田町】 秋田縣陸前國平鹿郡の南部。南は岩瀬川とその支流なる成瀬川を隔て

【増田町】 千葉縣上總國山武郡の南部。大網町の東南隅、南は長生郡と隣す。九十九里濱沿岸平地の一部を占め農業行はれて麥・米を産し養蠶・養鶏も盛なり。縣道は大網町に通じ、同町に省線房総東線大網驛ありてバスを通す。大字柿餅は松平家忠日記に、天正二十年、上總國にて十五郷四十七石を知行すとある日録に、「と谷かきもち、さげはうし……」とある地なり。【増田村】 山梨縣甲斐國南五郎郡の東北隅。富士川の右岸、飯綱町の北に接し、南は中五郎郡に、東部の一部は富士川を以て西八代郡に界す。西部・西南部は赤石の一支脈なる城山(一、〇二〇米)・八町山(一、五二二米)等の山裾を占め、東半部は平野にて甲斐盆地の西南隅を扼す。平地には農業盛にして特に蕎麥は産額・品質共に縣下第一の成績を挙げ、特産物に粘蕎麥あり。東部を南北に貫通する縣道

マスタ 眞妻村

は駿河より甲府と信州に至る主要路にて粟津は沿道に多くバスの便あり。また之に沿ひて甲府より来る社線山梨電線あり長澤新町・長澤・青柳の三驛を置く。此邊は近世専ら大井庄と稱せし地なり。(天神社) 大字天神中條組に属す。神社。祭神、菅原道真。江戸時代黒印一石餘を有せり。例祭、十一月三日。(最勝寺) 古義眞言宗。最勝山と號す。天平年間の本創と傳へ、弘仁年間、三論宗より現宗に改む。本尊觀世音。(昌福寺) 日蓮宗。壽命山と號す。開基は日全。龜川の妙祥加持は靈驗ありとて有名。(南明寺) 曹洞宗。補陀山と號す。大井彈正少輔明春の創建、同山は明時菅原。延享二年火災に罹り一部を焼失す。本尊、聖觀世音。天正十一年徳川家康奈良田温泉に詣せし時、本寺に數日滞在せし事あり。(明王寺) 新義眞言宗智山派。金剛山と號す。寶龜年間、儀丹行圓、不動明王を感得して開創すと傳ふ。薬師如来立像(木造)一尊は國寶なり。

マスタ 眞妻村

【眞妻村】 和歌山縣紀伊國日高郡の中部。印南町の東北約四・

地勢郡に接す。面積一四・三六方町。東は海抜約四七〇米にて西方に傾斜し、東部は山地をなすも、西部は横手盆地の東南隅を占め、成瀬川と皆瀬川の扇状地に位置す。成瀬川は東南方より來り、南境を西流し、南方より來る皆瀬川に合し、西北に流る。米・林産を産し、酒・醬油等の醸造行はる。横手盆地に於ける市場の一にして、野菜・魚類・衣服等の交易行はる。重要嶺山たる吉乃嶺山(鐵道は金銀銅鉛亜鉛硫化鐵)の鐵道は横手盆地成瀬川と當町とに跨る(西成瀬川の項参照)。道路は西部を略し南北に通じ、西北方の奥羽本線十文字驛へ約二軒、北方の横手町へは約一・五軒、各バスの便あり。人口密度は一方軒につき五六八人にして稠密なり。明治二十七年に町制を布く。此地は和名抄、平鹿郡大井郷の内なるべく、稻庭街道・手倉街道・淺舞街道の集點に當る。増田城址は往古は土肥相模道近の居りて小野寺氏に屬し、慶長年中、最上家より城代を置かれ、佐竹氏入郡の初めは岩城忠次眞跡の居城たり。元和八年に破却さる。此處は戊辰の役に仙臺藩の陣地となり、官軍と鋒を交へたり。江戸末期の經世家、山中新十郎(附從五位)は此地の人。また的山はまた眞人山に作り、菅原武則の舊城址にして、全山松樹に蔽はれ、奇岩その間に起伏し山下に皆瀬川流れ風景佳なり。【増田村】 山梨縣甲斐國東八代郡の東部。

信吹川の左岸。甲府市の東南方約五軒。甲府盆地東南部の平地を占め面積〇・九一方軒に過ぎず。村内澁水田にして米を主産し蕎麥を副産す。村道により一直線に甲府市に至る捷徑あり。省線中央本線石和驛、身延線の甲府南口驛に何れへも五・六軒を隔つ。この地は南八代村・北八代村・岡村・高家村と共に組合村をなし、役場を南八代村に置く。和名抄、八代郡長江郷の内にして、近世は小石和筋に屬す。

【増田町】 千葉縣上總國山武郡の南部。大網町の東南隅、南は長生郡と隣す。九十九里濱沿岸平地の一部を占め農業行はれて麥・米を産し養蠶・養鶏も盛なり。縣道は大網町に通じ、同町に省線房総東線大網驛ありてバスを通す。大字柿餅は松平家忠日記に、天正二十年、上總國にて十五郷四十七石を知行すとある日録に、「と谷かきもち、さげはうし……」とある地なり。【増田村】 山梨縣甲斐國南五郎郡の東北隅。富士川の右岸、飯綱町の北に接し、南は中五郎郡に、東部の一部は富士川を以て西八代郡に界す。西部・西南部は赤石の一支脈なる城山(一、〇二〇米)・八町山(一、五二二米)等の山裾を占め、東半部は平野にて甲斐盆地の西南隅を扼す。平地には農業盛にして特に蕎麥は産額・品質共に縣下第一の成績を挙げ、特産物に粘蕎麥あり。東部を南北に貫通する縣道

【眞妻村】 和歌山縣紀伊國日高郡の中部。印南町の東北約四・

五軒にあり、切目川の源流地に跨る山村にして東西に細長し。南方八軒餘に南部町、西方約一〇軒には御坊町あり。南北兩境及び東境は山脈を以て圍まれ、山脈は東半に高くして七百餘米を有し西方に次第に低下す。北境西端に眞妻山(五二四米)聳え、南境の中央西側には行者山(四二三米)あり。切目川は東境に發して中央南側を西南流す。河谷に沿ひてやや耕地を見、米・藁・柑橘を産す。山地は木材・薪炭を供給し、東部は川また國有林に屬す。河川に沿ひて縣道通じ御坊町・印南町・南部町へ各々バスを過す。

マズミ 眞住 鳥取縣日野郡にありし村。大正二年に根雨村と共に廢され根雨町を置く。

マスワ 益和 愛知縣海部郡にありし村。明治三十九年に外四箇村と共に廢され神守村を置く。

マセ 眞瀨村 茨城縣常陸國筑波郡の西部。谷田町の西北隣にて、小貝川に沿ひ、西は新城市と隣す。東南部は低き臺地をなし、西北部の小貝川附近には沼田ありて米等を産す。また織物の製造行はる。縣道は谷田町に通ずるもの及び西部を縱走するものあり。此地古くは和名抄、河内郡島名郷の内なるべし。

マゼ 馬瀬村 岐阜縣飛騨國益田郡の西南隅。高山市の南方約三〇軒。南北に細長き村にして、北は大野郡清見村・宮村に、東は同郡山之口村と郡内川西村・

古地名。和名抄に那須郡全倉郷あり、その地は今の那須郡の内ならんも詳かならず。
マタノ 又野 神奈川縣津久井郡にありし村。大正十四年に中野町・大井村三ヶ木村と共に廢し中野町を置く。
マタノ 俣野 神奈川縣鎌倉郡にありし村。大正四年に外二箇村と共に合し大正村を置く。

マタラ 馬渡島 佐賀縣東松浦半島の西北海上にあり。半島の最北端の波戸岬より西々北方約七軒の距離にあり。北方は壹岐海峡を隔てて壹岐島と相對す。東西三軒、南北二軒、面積約四方軒にて縣下に於ける最大島なり。最高點は島の西端にて約二四〇米を算す。海岸は多く斷崖をなし僅かに東南に沙濱海岸が見らるのみなるも、附近は漁利に富む。舊幕時代より天主教徒の移り來る者多く、今なほ新村として殘存し、全島民の約三分の二を占むるといはれ、他の部落とは全く風俗を異にす。

マタラオ 斑尾山 野尻湖の東岸に峙ち、長野縣上水内郡信濃尻村・柏原村・三木村・下水内郡永田村と新潟縣中頸城郡登喜村の境界上に跨る。標高三八二米、山體は斑石安山岩より成り、山妻不完全なる圓錐形をなす。曾てこの山一大破裂をなし、その西部を破壊し、その碎片の大塊は山下に累積せるも、小なるものは遠く飛散し、湖邊の小丘をつ

下呂町に、南は上原村に、西は郡上郡東村・奥明方村に隣る。北境は日本海と太平洋兩斜面の分水嶺をなし、石英斑岩より成りて、美濃山地北部に當る。北境には川上岳聳ゆ。東境は馬瀬川と益田川の谷の境をなし、東部には佛尾山(一一三九米)、南部には八尾山(一一〇〇米)連なり。馬瀬川は北隣の清見村に發し南流して流入曲流をなす。本村の産業はあまり振はず、農業は馬瀬川の谷にのみ行はれ、産物は僅に見られ、林業は盛んなり。主産物は木材・薪炭にして、芝草は特産物なり。山村なれば交通は殊に不便にして益田川の谷へは、運坂峠・鈴越峠・日和田峠・栲坂より出づ。省線高山本線萩原驛に近し。此地は鎌倉時代頃までは郡上郡の内に屬し、室町時代には馬瀬郷として見ゆ。江戸時代は高山藩に屬し、次いで幕領たり。馬瀬の名は、昔、馬瀬川は橋なく、川を過すに馬に乗つて瀬を越せしに因むといふ。

は中世の彌彦庄の内とす。
マセ 麻西面 朝鮮黄海道新溪郡の西部。新溪面に西隣し、西は瑞興郡梅陽面、南は平山郡寶山面に接す。東北—西南に長く約一八軒、幅は平均五軒あり。北—西—南の三面は山に圍まれ、西境には山(五七六米)、西北境には春光山、南境には嶺山(三七一米)聳え、漸次東方に低夷す。東部には禮成江蛇曲流し、北部にて支石川を、中部にて急洛川を更に南部にて新溪川を合せ南流し、流域に平地の見えるべきものあり。但し土質・氣候の關係上、稻作は殆ど行はれず、畑作農業は卓絶す。大豆・大麻・雜穀・椎茸等を産し、また牛金山嶺山より砂金を、急洛川流域より銀を出す。東北部を南川・新溪・遼安を結ぶ二等道路は南北に走り、中部には急洛川に沿うて京義本線新幕驛(瑞興郡禾回面)に至る道路通じてバスの便あり。主邑銀店里は西側に位置し市場あり、山間の一中心を成す。

マセ 間瀬村 新潟縣越後國西蒲原郡の西海岸。寺泊町の北方約六軒。背後に西山丘陵の北端をなす彌彦山・多寶山等六〇〇米前後の丘陵を負ひ、西は斷崖崖によりて海に面す。海岸は岩石・角片に富む。村内散れ山林にて平地に乏しく村民は漁業、運送業に従事するもの多し。郡中主要なる漁業地なり。南部に間瀬銅山あるも廢坑となる。省線越後線巻驛へ約九軒、縣道通じバスの便あり。この地

くり、その中央に生ぜし水溜は野尻湖なり。北方の特岳、南西方の舟岳山は共に寄生火山とせらる。山頂に藥師の石祠あり、石佛十二體を安置す。山麓の野尻湖畔は遊樂に適し、別荘地をなし、またスケートにも適す。
マチイ 町居村 青森縣陸奥國津輕郡の西部。弘前市の東約一〇軒。面積三・一五方軒の小村。津輕平野の東南部に位置し、地勢東南部に高く西北方に傾斜し、西北部は平坦なり。村民の生業は農業を主とし、その九割を占む。米作はその約七割、他は草果栽培に従事す。社線弘前線道平賀驛(大光寺村)へ西北約二・五軒にあり、交通便なり。村名はこの地、津輕藩祖爲信の傳、町居飛鳥の系色たりしに因むといふ。

マチキタ 町北村 福島縣岩代國北會津郡の西北部。若松市の北に接す。面積六・〇三方軒。會津盆地に屬し土地概ね平坦なり。湯川は西部を北流す。米・藁・大豆・蔬菜等を産す。道路は東部及び西部を南北に通じ、若松市と北方の鹽川町(郡部)へはバスの便あり。省線磐越西線會津若松驛(明治三十二年設置)を置く。人口密度は一方軒につき七四三人なり。明治二十六年に榮和村を二分して高野村と本村とを置く。
マチダ 町田 東京府武藏國南多摩郡の東部。境川の東岸にあり。西は川を隔てて

高座郡と相對す。東部は多摩丘陵の一部をなし、西部は境川流域の平地にて米・藁・藪を産す。府道よく發達し、南部はその集合點にて、主要産業たる原町田あり。省線横濱線は南部を西北に走り原町田驛(明治四十二年設置)を置き、社線小田原急行鐵道これに接続し玉川學園前驛(昭和四年設置)、新原町田驛(昭和二年設置)の二驛を置き、新原町田驛よりは江ノ島線を分岐す。古くより地方中心城市にて市場繁華として發達せしものにて、道幅の廣きはその原形を保存せるもの。月の一・六日は市日にて、四邊の發賣地帯より藪・生糸を集め、日用品・農具等の取引今なほ盛に行はる。郵便局の東南市場裏の古着市場は特別の建築物内に於て行はるる特色あるものなり。高ヶ坂には原住民居住の遺跡發見され、考古學研究竝に見學のため來訪する者多し。大正二年に町制を布く。大字本町田の字井出澤は建武二年七月、北條二郎時行の信州より鎌倉に攻入りし時、足利直義の拒ぎし謂ゆる井出澤古戰場の地なるべし。
【町田】 神奈川縣橋本郡にありし村。大正十二年に洞田町と改稱、洞田町は同十四年鶴見町と合併し鶴見町と稱せしも、昭和二年横濱市に編入し鶴見區をなし、その町名となる。

井部に昇す。筑紫平野の北部を占め、全村概ね地形低平にして、東部に小石原川南流す。全村耕地よく發達して米産多く藁も産す。北部には縣道走りて甘木町へ通ず。
マタン 馬太鞍 臺灣總督府鐵道臺東線の一驛(大正二年設置)。花蓮港廳鳳林區馬太鞍にあり。
マタキ 眞瀨村 岩手縣陸奥國西磐井郡の東部。一關町の東南に隣り、東北は北上川を隔てて東磐井郡に、西南は宮城縣に接す。面積五六・四八方軒。地勢は東南部に高く、西北部に傾斜し、磐井川は西北境を東北に流れて北上川に合し沿岸に耕地拓く。北上川は東北境を先行しつづ東南に流る。村の生業は農を主とし、米・藁・大豆・藪等を産す。陸羽街道は村の西部を南北に通じ、一關町へはバスの便あり。省線大船渡線眞瀨驛(大正十四年設置)を置く。明治維新に至るまで田村領に屬する數箇の小村なりしが明治廿二年町村制實施の際、之を合併して眞瀨村と稱し以て現在に至る。(明治天皇御聖蹟)眞瀨郡落字の場に、明治九年及び同十四年御聖蹟の際に於ける御野立所あり。
マタクマ 全隈 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に那珂郡全隈郷あり、その地、今は東茨城郡に入り、山根村の邊に當る。
マタクラ 全倉 下野國(栃木縣)の

馬田村 福岡縣筑前國朝倉郡の西部。甘木町の西南に接し、西南部に三

末多(國) 成務天皇の朝、國造を定め給ひし國々の中に、竺志末多國あり。一説にその位置を筑前國の夜須郡(いま朝倉郡の中)の馬田郷に擬す。しかし國造本紀の一本には竺志末多國ありてその位置を肥前國の三根郡(いま三疊基郡の中)の末多郷に充つる説あり。何れとも定め難し。

マチノ 町野村 石川縣能登國鳳至郡の東北部。能登半島の北岸に位置し東部は珠洲郡に昇し、東方約九軒に飯田町(珠

沢郡)あり。村内山岳多く、四周に高し。即ち東隅には東立山(四六九米)聳立して東南部一帯の山地をなし、東立山より西方へ一丘陵連りて東北境を劃し尖端に水山(四〇五米)屹立して日本海に臨む。西境にも中央に緩傾斜する小丘陵が東南より西北に連りて村境を限る。中央には町野川ありて屈曲しつづ西北流して日本海に注ぎ沿岸に低地開く。米・藁・藪等を産す。中央に東西に横斷する縣道ありて自動車を通ず。本村は明治四十一年、西町・岩倉の二村と共に合して置けるもの。この地は柳田村・神野村と共に和名抄、鳳至郡特野郷の地。日本後紀に特野驛とあるは大字東瀨の邊なるべし。(石倉比古神社)西時代に鎮座。郷社。祭神天手力男命・岩戸別命外敷神。式内社。例祭、八月一日。

マチヤ——マツウ

マチヤ 酒屋 武蔵國(東京府)の古地名。和名抄に都筑郡店屋郷あり、その地名の由来は都筑郡南村の邊に當り、延喜兵部省式に武蔵國店屋郷馬十疋とあるも此地なり。

マチヤマダチ 町山口

熊本縣天草郡にありし村。明治三十一年本該町と改め、昭和十年本町と本戸村を廢し、その區域を以て新たに本該町を置く。

マチョー 麻長面

朝鮮京畿道利川郡の西北部。利川面の西南に隣り、西は龍仁郡、西北は廣州郡と界す。東西七軒餘、南北約一〇軒あり。中部以北は丘陵地を成し、北境に羊角山(三八一米)、雪峰山(三九四米)、東北部に猪鳴山等あり、西南部また山地にして南西境に乾芝山(四一〇米)聳ゆるも、中部を西北へ東南に流流する漢江の支流なる福河川の流域に平地やや拓く。米・麥・大豆・棉等を産し、牛豚の飼育並に養蠶行はる。中部に社線京東鐵道水線通じ午川驛・標榜驛(共に昭和五年設置)あり。水原・利川間の一等道路これと並走してバス道じ、交通便なり。

マツ 末島

朝鮮全羅北道の西部なる海上、古群山群島の一島。群山港を距る西々南三七軒餘。行政上、沃海郡末島に屬す。島は西北へ東南に稍長く約二軒あり、周圍は概ね海岸をなし、東部に於て百米前後の標高を示すも西方に低夷す。西南岸の小灣入に漁地あり。その北に末

マツイシノ

松井庄村 兵部縣南多可郡の西北部。杉原川に跨りて中町の西北に接し、西は神崎郡に界す。西境には六〇〇—一〇〇〇米の山脈南北に連り西北隅に千々峰(一〇〇六米)を起す。東部には杉原川が南流して沿岸には稍々平野を發達し、東北部には河川の東に妙見山(六九三米)聳ゆる。低地は田畑よく拓けて米・麥・豆類・蔬菜・花卉・食用農産・蔞子・果實・製茶等の農産物及び凍蕪・蔞子・豆類・蠶・蠶製品・木製品等の外、鶏卵・養蠶魚類を産す。東部の河谷には標高が南北に通じ中町へ出づ。村内に標高約四十二萬坪を有する岩峯山あり、金銀銅鉛鋅鉛山にして、昭和十年より事業を開始す。此地は和名抄、多可郡美都郡の内なり。中世は松井莊と云ひ、後白河院御領たり。

マツイワ

松岩村 宮城縣陸前國本吉郡の北部。氣仙沼町の南に接し、西端は岩手縣に境し、東は氣仙沼港に面

マツウラ

松浦 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡松浦郷あり、今の鹿島郡波崎町・矢田郡村・若松村の邊に當る。

マツウメ

松梅村 佐賀縣肥前國佐賀郡の北部。嘉瀬川の上流の川上川の左岸に沿ひ佐賀市の北方約八軒にあり。西は小城郡に、東は神埼郡に界す。北・東・西の三面は山岳を以て圍まれ東南隅に金山(五〇二米)あり、村内山岳地にして山間に平地を點在す。西境に沿ひて川上川が南流す。米・麥・豆を産す。西部に縣道が發見し、佐賀市及び附近町村に自動車便あり。〔天浦神社〕大字松浦に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。例祭、八月二十五日。

マツエ

松江 東京府南葛飾郡にありし町。昭和七年に東京市に入り、江戸川區の一部

マツウ

マツウ——マツエ

マツエ

松江 東京府南葛飾郡にありし町。昭和七年に東京市に入り、江戸川區の一部

マツウ

マツウ——マツエ

マツエ

松江 東京府南葛飾郡にありし町。昭和七年に東京市に入り、江戸川區の一部

マツウ

マツウ——マツエ

マツエ

松江 東京府南葛飾郡にありし町。昭和七年に東京市に入り、江戸川區の一部

マツウ

マツウ——マツエ

マツエ

松江 東京府南葛飾郡にありし町。昭和七年に東京市に入り、江戸川區の一部

マツウ

マツウ——マツエ

マツエ

松江 東京府南葛飾郡にありし町。昭和七年に東京市に入り、江戸川區の一部

マツウ

マツウ——マツエ

マツエ

III

鳴命を祀る。天平神護元年神封四戸を充て奉り、延喜の制、小社に列し、のち本國(播磨)の二宮と稱せられたる地方の名詞。例祭、十月十七日。

マツイタ

松井田村 群馬縣上野國碓氷郡の南部。碓氷川に沿ひ、妙義山の東北麓にあり。川沿ひに農業行はれて米・麥を産し養蠶も行はる。中山道は町の中央を西走し、葉落はこれに沿ひて發達す。東方の安中町と西南方の妙義町(北甘樂郡)へはバスを通す。省線信越本線は西部を西北に走り、松井田驛(明治十八年設置)を置く。この地は和名抄、碓氷郡石馬郷の内なるべく、舊中山道の松枝驛のありし所。〔松井田城〕大字新堀にあり。碓氷峠の險を扼す。戰國の時安中氏の據りしも永祿六年二月、武田信玄の爲に陥れらる。天正十年澁川一益に屬せしめ、のち北條氏の有となす。秀吉の小田原征伐の時、上杉登勢・前田利家・酒田忠尚等率り攻む。守將大道寺政家固守す。京軍持久の策を立つるに及び、城遂に陥す。(不動寺)松井田にあり。新義真言宗本山派。龍本山松井田院。寛元元年に源頼朝の開創。慶安元年徳川家光朱印八十九石六斗を附す。寛文六年堂宇焼失せしも幕府の支援にて復す。

マツウメ

松梅村 佐賀縣肥前國佐賀郡の北部。嘉瀬川の上流の川上川の左岸に沿ひ佐賀市の北方約八軒にあり。西は小城郡に、東は神埼郡に界す。北・東・西の三面は山岳を以て圍まれ東南隅に金山(五〇二米)あり、村内山岳地にして山間に平地を點在す。西境に沿ひて川上川が南流す。米・麥・豆を産す。西部に縣道が發見し、佐賀市及び附近町村に自動車便あり。〔天浦神社〕大字松浦に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。例祭、八月二十五日。

マツウラ

松浦 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡松浦郷あり、今の鹿島郡波崎町・矢田郡村・若松村の邊に當る。

マツウメ

松梅村 佐賀縣肥前國佐賀郡の北部。嘉瀬川の上流の川上川の左岸に沿ひ佐賀市の北方約八軒にあり。西は小城郡に、東は神埼郡に界す。北・東・西の三面は山岳を以て圍まれ東南隅に金山(五〇二米)あり、村内山岳地にして山間に平地を點在す。西境に沿ひて川上川が南流す。米・麥・豆を産す。西部に縣道が發見し、佐賀市及び附近町村に自動車便あり。〔天浦神社〕大字松浦に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。例祭、八月二十五日。

マツウラ

松浦 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡松浦郷あり、今の鹿島郡波崎町・矢田郡村・若松村の邊に當る。

マツウメ

松梅村 佐賀縣肥前國佐賀郡の北部。嘉瀬川の上流の川上川の左岸に沿ひ佐賀市の北方約八軒にあり。西は小城郡に、東は神埼郡に界す。北・東・西の三面は山岳を以て圍まれ東南隅に金山(五〇二米)あり、村内山岳地にして山間に平地を點在す。西境に沿ひて川上川が南流す。米・麥・豆を産す。西部に縣道が發見し、佐賀市及び附近町村に自動車便あり。〔天浦神社〕大字松浦に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。例祭、八月二十五日。

マツウラ

松浦 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡松浦郷あり、今の鹿島郡波崎町・矢田郡村・若松村の邊に當る。

マツウメ

松梅村 佐賀縣肥前國佐賀郡の北部。嘉瀬川の上流の川上川の左岸に沿ひ佐賀市の北方約八軒にあり。西は小城郡に、東は神埼郡に界す。北・東・西の三面は山岳を以て圍まれ東南隅に金山(五〇二米)あり、村内山岳地にして山間に平地を點在す。西境に沿ひて川上川が南流す。米・麥・豆を産す。西部に縣道が發見し、佐賀市及び附近町村に自動車便あり。〔天浦神社〕大字松浦に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。例祭、八月二十五日。

マツウラ

松浦 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡松浦郷あり、今の鹿島郡波崎町・矢田郡村・若松村の邊に當る。

マツウメ

松梅村 佐賀縣肥前國佐賀郡の北部。嘉瀬川の上流の川上川の左岸に沿ひ佐賀市の北方約八軒にあり。西は小城郡に、東は神埼郡に界す。北・東・西の三面は山岳を以て圍まれ東南隅に金山(五〇二米)あり、村内山岳地にして山間に平地を點在す。西境に沿ひて川上川が南流す。米・麥・豆を産す。西部に縣道が發見し、佐賀市及び附近町村に自動車便あり。〔天浦神社〕大字松浦に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。例祭、八月二十五日。

マツウラ

松浦 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡松浦郷あり、今の鹿島郡波崎町・矢田郡村・若松村の邊に當る。

マツウメ

松梅村 佐賀縣肥前國佐賀郡の北部。嘉瀬川の上流の川上川の左岸に沿ひ佐賀市の北方約八軒にあり。西は小城郡に、東は神埼郡に界す。北・東・西の三面は山岳を以て圍まれ東南隅に金山(五〇二米)あり、村内山岳地にして山間に平地を點在す。西境に沿ひて川上川が南流す。米・麥・豆を産す。西部に縣道が發見し、佐賀市及び附近町村に自動車便あり。〔天浦神社〕大字松浦に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。例祭、八月二十五日。

マツウラ

松浦 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡松浦郷あり、今の鹿島郡波崎町・矢田郡村・若松村の邊に當る。

マツウメ

松梅村 佐賀縣肥前國佐賀郡の北部。嘉瀬川の上流の川上川の左岸に沿ひ佐賀市の北方約八軒にあり。西は小城郡に、東は神埼郡に界す。北・東・西の三面は山岳を以て圍まれ東南隅に金山(五〇二米)あり、村内山岳地にして山間に平地を點在す。西境に沿ひて川上川が南流す。米・麥・豆を産す。西部に縣道が發見し、佐賀市及び附近町村に自動車便あり。〔天浦神社〕大字松浦に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。例祭、八月二十五日。

マツウラ

松浦 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡松浦郷あり、今の鹿島郡波崎町・矢田郡村・若松村の邊に當る。

マツウメ

松梅村 佐賀縣肥前國佐賀郡の北部。嘉瀬川の上流の川上川の左岸に沿ひ佐賀市の北方約八軒にあり。西は小城郡に、東は神埼郡に界す。北・東・西の三面は山岳を以て圍まれ東南隅に金山(五〇二米)あり、村内山岳地にして山間に平地を點在す。西境に沿ひて川上川が南流す。米・麥・豆を産す。西部に縣道が發見し、佐賀市及び附近町村に自動車便あり。〔天浦神社〕大字松浦に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。例祭、八月二十五日。

マツウラ

松浦 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡松浦郷あり、今の鹿島郡波崎町・矢田郡村・若松村の邊に當る。

マツウメ

松梅村 佐賀縣肥前國佐賀郡の北部。嘉瀬川の上流の川上川の左岸に沿ひ佐賀市の北方約八軒にあり。西は小城郡に、東は神埼郡に界す。北・東・西の三面は山岳を以て圍まれ東南隅に金山(五〇二米)あり、村内山岳地にして山間に平地を點在す。西境に沿ひて川上川が南流す。米・麥・豆を産す。西部に縣道が發見し、佐賀市及び附近町村に自動車便あり。〔天浦神社〕大字松浦に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。例祭、八月二十五日。

マツウラ

松浦 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に鹿島郡松浦郷あり、今の鹿島郡波崎町・矢田郡村・若松村の邊に當る。

マツウメ

松梅村 佐賀縣肥前國佐賀郡の北部。嘉瀬川の上流の川上川の左岸に沿ひ佐賀市の北方約八軒にあり。西は小城郡に、東は神埼郡に界す。北・東・西の三面は山岳を以て圍まれ東南隅に金山(五〇二米)あり、村内山岳地にして山間に平地を點在す。西境に沿ひて川上川が南流す。米・麥・豆を産す。西部に縣道が發見し、佐賀市及び附近町村に自動車便あり。〔天浦神社〕大字松浦に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。例祭、八月二十五日。

岡、林産一、〇〇四圓（昭和十年）の順位となる。工業としては製絲業第一として職工五四九、生産額八六八、七六二圓、醸造業七一、二五六圓、印刷業四三〇、四二八圓等を主とし、工業都市としては顯著ならざるも山陰地方としては屈指たり。市は宍道湖・中海の湖上交通の起點たるのみならず、河港松江は松江大橋下流數町の繁華をもち日本一河港の稱あり、常に五百噸級の貨客船數十隻繋留し、日本海各港に勿論、北鮮・大連方面の物資を集散す。本市の陸上交通は省線山陰本線の松江驛（明治四十一年設置）ありて京都・下關に通じ、米子を經由して伯備線は岡山に至り、木次線によりて廣島に達す。宍道湖北岸を經て今市・大社に通じ出雲大社と松江の風光觀客は之を利用す。松江の風光を大觀するには市の北方なる嵩山の眺望を第一とす。嵩山は市より約四軒、三〇〇米の高度を持ち、右に伯耆大山がコニア式火山をなし、眼下に中海が鏡の如く横ばり中に大根島あり、夜見濱の砂嘴長く延び、遠く美保園を眺め、左顧すれば水郷松江と宍道湖あり。宍道湖中、松江に近く津島あり。近時は大阪松江間、松江豊後間の航空路を開かんとし、大橋川畔に松江陸上飛行場敷定地が決定せられ、交通上の一期を劃せんとし、これは有事の際に於ける山陰地方に於ける軍事的意味重大と言はざるを得ず。此地は前記の如く堀尾氏以來

の城下町にして、堀尾氏に寛永十年三代にして副將、京極高次これに代りしが同十四年高次卒してまた副將なく、翌年松平直政は信州松本より移封せられ十八萬六千石を食み、十代二百廿四年間松平氏の居城たり。明治四年七月廢藩、一旦縣を置きしが十一月廢して島根縣に入り、同二十二年四月市制を布く。昭和九年津田村を編入す。（松江港）大橋川に在り。東西約四一八米にして岸壁には五百噸級の船隻繋ぎけとなり、宍道湖・中海の連絡をなすのみならず、境港を經て豊後・朝鮮等の物資を集散す。起工は昭和三年にして竣功は同七年なり。（大橋）宍道湖より流出する大橋川を横きりて南北に架せられたる橋にして白湯本町と末次本町とを連ぬ。長さ一四〇米、幅一〇米の大橋にて、唐銅製寶珠は瀬田唐橋に、橋脚は京都の三條大橋に擬せしものなり。（床山）市の南端に在る小丘にして堀尾吉晴墳より松江に登り、床山に臨して湖山の形勢を相せし處と傳ふ。市水道配水池、明治二十七八年戦役記念銅佛其他の記念碑あり、附近に放牧局あり。（天神池）天神町に在り。宍道湖に臨み盛夏納涼に絶好の地なり。園内に天宮宮廬座し七月二十四・五日の祭禮は甚だ賑ふ。（松江城址）城山公園（指定史蹟）堀尾山に在り。もと千島城（末次城）と稱し、慶長十六年堀尾吉晴富田城より來りて築きしもの。京極氏を嗣て、寛永十五

年松平直政移封せられ子孫相繼で明治維新に至る。藩廢存す。天守閣は慶長當時の遺構と云ひ、基礎東西二二米、南北二〇米、高さ二七米の五層樓にして、國寶に指定せらる。いま城址は城山公園と稱し、大正天皇東宮に在はせし時、行啓御泊遊ばされし興雲閣・松江神社・松江城碑・西南之役雲石隱戰功記念碑・末原雲海作藩祖松平直政大坂夏の陣初陣の傳等あり。（修善館）松江藩の藩廳。寶曆八年創立、初め文明館といひ、文久三年新築移轉して修善館と稱す。（須賀郡久神社）西茶町に鎮座。縣社。主祭神、伊弉冉尊・素戔鳴尊。配祀神、連玉之男命・事解之男命・菊理媛尊。出雲風土記所載の須賀郡久社に充てらる。されど中世は熊野權現と稱され、社地も屢々移轉し、延寶中、現地に建立す。國守松平氏の産土神たり。例祭、十月九日。（田原神社）奥谷町の丘陵に鎮座。縣社。天見原根命・武甕槌命・經津主命・經大神を祀る。境内楓樹に富み、また櫻・藤・薔薇等も多し。（松江神社）殿町に鎮座。縣社。祭神、松平直政。配祀神、徳川家康。直政は家康の孫、出雲・隠岐を領して八十五萬石たり。直政、後鳥羽上皇御火葬所の荒廢せるを嘆き新たに祠宇を造營し、また出雲大社を改造して靈境の尊嚴を無窮に傳へ、能く民衆を起し公益を計る。寛文六年築。年六十六。大正天皇東宮に在せし時、山陰行啓ありて特旨を以て從三

位を贈らせ給ふ。明治八年、舊藩士等首唱してその遺徳を後世に傳へんとし新たに地を相して一社を創建し、樂山神社と稱せしもの。松江城山に移し松江神社と改稱。明治十三年縣社に列す。（寶豆紀神社）須賀町に鎮座。縣社。祭神下光比賣命。相殿神天照大神・豐受比賣命。合祀神大山咋命・木之花佐久夜比賣命。倭姫命。もと今の地より南約一丁餘なる宇寶豆紀藩の山畑の小祠に鎮座ありしが寛文六年現社地に神殿を造營す。明治初年縣社に列し、のち縣社に昇格す。（寶布神社）和田見町に鎮座。縣社。祭神、速秋津比賣神・五十猛命・大屋津姫命。狐津姫命。古く白湯明神又は橋姫社と稱す。延喜の制式内小社に列し意宇郡四十八座の一たり。攝末社、和田津見神社外八社。（阿波波比神社）外中原に鎮座。縣社。祭神、高皇產靈神・天照大神外三神。相殿、樂田別天皇命・帶中津日子天皇命外二神。出雲風土記に見ゆる阿波波比社と傳ふ。例祭、十月十九日。（須賀郡神社）寺町に鎮座。縣社。宇賀御魂神等六柱を祭る。江戸時代、松江藩主松平氏の尊崇篤く、藩の工所の御守神として崇められ、藩費にて社殿を造營修復し社費もまた藩より支出し、その取扱は他社と異なるものありき。（山代神社）古志原に鎮座。縣社。祭神、山代日子命。式内社。往昔は神名龜山の半腹なる高の森に坐し高森大明神といひしといふ。例祭

十月九日。（圓成寺）榮町の小丘に在り。臨濟宗妙心寺派。慶長年中、堀尾忠晴富田邸の城安寺を島根郡安井に移し、妙心寺大光圓照禪師を開山となし、龍翔山瑞應寺と改め累代の廟所となす。寛永十年忠晴の卒後、更に此地に移し忠晴の法號をとり現寺號とす。西國巡禮三十四箇所の靈場を安置す。境内に堀尾忠晴の墓あり、丈餘の五輪塔にして、圓成寺神儀寛永十癸酉の文字刻まる。（月照寺）外中原町に在り。淨土宗。歡喜山。本尊阿彌陀如来を安置す。もと洞雲寺といひ洞林なりしが寛慶し、寛文中、松平直政の生母月照院の菩提の爲に建立し聖光山月照寺と稱し生蓮社長樂上人を開山となす。直政の歿後、嗣隆父の志を嗣ぎ寛文六年建立し山號を現號に改む。（普門院）北田町に在り。天台宗。もと市外川津村にありて藩主堀尾吉晴の祈願所たりしも、寛永中、松平氏封を襲ぐに及びここに移る。門内左方に芭蕉堂あり、堂の後に觀月庵と稱する茶室ありて松平不昧公の屋々訪れし所と云ふ。（ヘレン舊居）北田町に在り。もと舊藩の家中屋敷にして玄關・庭園・庫裏等舊態を遺存す。小泉八雲（ラフカディオ・ヘルン）の住せし所にて隣地に記念館あり。小泉八雲は一八五〇年（嘉永三年）ギリシャのサンタマウラ島に生る。父は英國軍醫にして、母はギリシャ人なり。英國に在學中、運動中に誤りて左眼失明し、二十歳の時渡米、新聞

記者となりニエーオキアンズに移り、タイムス・アモクワットの文學部主筆となる。明治二十三年書肆の依頼に應じ、日本紀行を稿すべく來朝せしが、我國の文化の意外に複雑にして根柢深きを見て一時的滞在の豫定を變じ、内地に住して日本研究に従事せんと決し、同年九月、松江中學校英語教師となりて赴任、松江の人小泉節子と結婚し、長男生るるに及びて日本に歸化し小泉八雲と稱す。同廿七年九月狭心症にて歿す。年六十五。此の間、松江中學校第五高等學校・東京帝國大學・早稻田大學等の講師を勤め、傍ら日本文化の研究に没頭し、翻譯・評論・小説・隨筆・紀行等、各方面に渉る作品あり、客觀的敘事の文より主觀的敘情の文に移り日本の古書よりの翻譯と稱せる奇談・怪談多し。著書は、異文學叢書・東の國より・雲の日本・日本雜錄・日本・怪談等頗る多数に亘る。（權兵衛松山）樂山燒初期の名稱。延寶五年、出雲松江の城主松平綱隆が長門萩の陶工、倉崎權兵衛を招いて、樂山に窯を築き萩燒風の陶器を作りしに始るといふ。（松江運動場）↓法吉村（島根縣八東郡）（松江競馬場）↓乃木村（島根縣八東郡）

は濃尾平野の中部に位し、主として砂地より成る。本村は輪中地域にて松枝輪中と呼ばれ、現今は木曾川の改修工事の爲に水害は殆どなし。本輪中は北部は柳津村を含み加納輪中に、西部は足近輪中、南部は正木輪中に隣る。砂地の關係上、平野には桑畑多し、その間に田圃が點綴す。産物は米・麥・野菜が主にして養蠶も盛なり。富有柿の産も多し。木曾川に面する輪中堤には竹々鼻街道が南走し、西部には僅かに社線竹々鼻街道が通じ、門間（大正十年設置）を置く。本村は古くより發展し、田代の地は神風抄に尾張國內宮田代御所と見え、鎌倉頃も同様に見ゆ。北及び喬島御所、又は高島御所と呼ばれ、長池附近は中世は松枝保と稱せらる。室町時代は門間庄の地にして江戸時代は小領分立せり。木曾川は松枝村に出でて景勝の地をなし、ここを四季の里と云ふ。中濃平野に於ける觀光地にして、春は特に來遊する者多し。

月山（九五四米）聳え、西南方に傾斜す。全村概し山地をなし、松川は西南端に、赤川は西北端に發源して村の中部を各東流す。村の東部は盆地をなして平坦なり。村の西北部には我國第一の硫黃山たる松尾嶺山あり。同嶺山の従業員は合計二六四四人にて、村の人口九二七人（昭和十年）の約三分の一を占め、尙ほ將來増加の傾向にあり。本村は松尾嶺山によりて立つと言ふも過言にあらず。村の生業には此他、農業・林業等ありて米・大豆・味噌・蕎麥・木材・木炭等を産す。津輕街道は村の東北部を斜走し、東北本線沼宮内驛及び東南方の同線好摩驛へバスを通ず。省線花輪線岩手松尾驛（大正十五年設置）を置く。（松尾嶺山）松尾村内に茶臼山東麓に鐵區約七十六萬坪を有す。鐵區の地質は輝石安山岩・流紋岩及び第三紀層に屬する凝灰岩・粗粒鐵層等より成り、鐵床は硫黄及び黑色酸化鐵礦とす。松尾鐵業會社の發行にて、昭和十年には硫黄四九、一四九萬噸（價額三〇九萬餘圓）、酸化鐵礦二五一、四四八萬噸（價額一五二萬餘圓）を出し、同年に於ける硫黄産額にては本邦の第一位たり。また同年六月末の鐵込数は一、四〇三人なり。（松尾町）千葉縣上總國山武郡の東北部。東は横芝町と隣す。西半は丘陵地にて森林あり。東半は九十九里濱沿岸平地の一部をなして沼田多く米を主産す。その他繭・鶏・麥を産す。町民の九割は農業に

マツオ

従事し商工業の見るべきものなきも、附近に米産多きと、町内に縣外移出を取扱ふ米商あるため縣下有数の米穀集散地たり。縣道は丘陵の麓を東北に走り横芝町に入る。省線徳武本線これに沿ひ中央に松尾驛(明治卅一年設置)を置く。その他九十九里濱海岸に通ずる縣道ありてバスを通ず。此地は和名抄、武射郡片野郷の内にして、慶應二年、遠州掛川藩主太田氏この地に封ぜられ、主従八百戸を具して此地に轉住せし爲、一時版圖を極めしことあるも、廢藩後の主従皆東京に出で或は歸郷せしため再び元の農村落に歸せり。明治三十一年、町となる。附近は海水浴場として知らる。

【松尾村】長野縣信濃國下伊那郡の中部。飯田市の東南約二軒にして天龍川の右岸に臨む。村の北地は松川の浸蝕谷あり。村は松川と天龍川の合流點に位置し、北は松川を隔て飯田市、西は郡村、南は龍丘村にして、天龍川を挟みて東は下久堅村と對す。村は天龍川が伊那谷に形成せる段丘上に位置し、河岸より四二〇米にて第一段丘、五〇〇米にて第二段丘と漸次地をなす。斯くして松川が西方木曾山より發し、東西の方向に天龍川岸の幾多の段丘に浸蝕せし謂ゆる田切の地形をなす。村内には城と稱する部落あり、また八幡社と言ふ古社あり。この前者は第一段丘、後者は第二段丘の段丘崖上に位置する景勝地なり。往時これを利用して城

MAHO

この松尾山の上であり、兩軍を等分に敗下し、キヤスチングゲートを持ちし如き地位にあり、この小早川の向背によりて兩軍の運命を決する事になりしは、地勢の奇す軍略上の特性なりき。東軍の家康は、豫て小早川秀秋の内應の約あるを待みありしが、戦過めども小早川の陣營容易に向背を示さざるため、家康は大いに焦慮し、空銃を小早川の陣に向ひて放ち、漸く小早川の決心を早め、これによりて西陣の左翼を攻撃せしめ、大勝の近因を作れり。

【松尾村】三重縣伊勢國飯南郡の東北。花岡町を挟んで松阪市の西にあり。東西に稍細長く、西端は三角形の尖端状をなす。西半は西方に聳ゆる朝日山(七五七米)の東斜面をなし、山麓は中部にて臺地状をなしてゆる。東部は低平なる伊勢平野の一部をなす。東南隅に小丘あり。東南部には一河川が東北流し花岡町に入りて其の西部を掠め、再び本村東北部に流れ入り東北流して松江村を過ぎ松阪市に入る。純農村にして住民二九二二人中、九割五分は農耕に従事して生計を立て。産物は米・麥・野菜・蠶を主とし、近年は果樹の栽培盛んにして松尾桃・松尾蜜柑の産額高まり將來を有望視する。東南部には和歌山街道が松阪市より延びて通過し、自動車の便あり。(松尾神社)大字立野に鎮座。神社、大山神、一に松尾明神と云ひ、式内立野神社に充

マツオカ

間、異域より漕流の觀音を洞窟に祀りに始り、貞和十年、大元明州の東陵水興奉朝、鑛を此地に止め、靈力により洞窟前の洞水の湧るを得て堂舎を建立す。本尊、四面馬頭觀音像。東陵水興師師像(木造)一軀は國寶。

【松尾嶺山】東米良村(宮崎縣)マツオカ 松丘村(千葉縣) 國津郡の東部。久留里町の南隣にて小櫃川に沿ふ。全村丘陵地に森林多し、中部はその場合に小櫃川北流し、流域の狭き平地には農業行はれ米・麥を産し、蠶・鶏卵の産も多し。縣道川沿ひに通じて北は久留里町、南は鴨川町方面に通ず。省線久留里線の平山驛・上松松丘驛(共に昭和十一年設置)あり。この地は中古、神薙莊龜山郷と稱せし地にして、大字廣岡には千本城址あり、里見氏の家臣、東平安守の居城なりとも、里見梅王丸の母の兄弟が城きて之に居りしとも云ひ、天正十八年、豊臣氏東征の時、城廢す。大字大戸見に登城址あり、里見氏の時、天文二十年二條若狭守初めて之を城く、大野山城守・大野駿河守相尋いで之に居りしが、同じく豊臣氏東征の時、城陥り、駿河守自盡す。また此地に三本松陣屋址あり、松平大和守陣屋を設け、代官を置き房總中の封十五萬石を管せしめしが、明治の初め廢す。(大原神社)大字平山に鎮座。神社、天兒屋根命・天太玉命。古來地方の崇敬篤く、例祭には附近

マツオ

Table with 4 columns: 嶺山名, 嶺區所, 在, 地. Rows include 高代田, 千代田, 中代田, 松岡町, 南中郷村, 磯原町, 松岡町, 高萩町, 黒前村, 楯形村.

五十數箇村より參詣すといふ。例祭、八月十五日。【松岡嶺山】山田村(秋田縣雄勝郡)【松岡町】茨城縣常陸國多賀郡の中部。太平洋に臨み、南は高萩町と隣す。阿武隈山脈東斜面の一部を占め、西端は約六〇〇米にて東方に傾斜し、東流する關根川下流には平地ありて農業行はれ、米・麥を産す。また特産物には梅あり。中部には常勢栗田の手製炭坑あり。陸前濱街道は東部を北走し、省線常勢線また之に沿ひ、南隣高萩町の高萩驛に出づるに便なり。本町内或は他町村に跨りて幾多の石炭産區あれども松岡町に關する主なる炭産は左の如し(産額昭和十年の年産、重は重要嶺山、準は準重要嶺山)。但し詳細は高萩炭産に就きては高萩町を、千代田炭産に就きては千代田炭産を、中郷炭産に就きては中郷炭産を見よ。此地は和名抄、多河郡多河郷の内にて、大字手綱は清和源氏、佐竹氏の族、この地に手綱氏を稱し、萬葉集第七卷に「遠妻し高にありせば知らずとも手綱の濱の尋ね來なまし」とあるは此地なり。天文地理の大家

たる長久保源五郎(贈從四位)は本村の出身者たり。【松岡町】福井縣越前國吉田郡の中部。九頭龍川の左岸。福井市の東北約六軒。勝山街道に沿ひて發達せる街村にて、九頭龍川谷口を扼す。東西に細長く東南部に二百米前後の丘陵あり、九頭龍川は北部を西流し流域は土地平坦なり。町は農業地として榮え絹織物を主産し、酒その他の工業及び農産これに次ぎ、水産・林産・畜産業も多少行はる。東西に此線京都電燈越前電氣線貫通し、觀音町・松岡の二驛(共に大正三年設置)を置く。縣道また之に並走し北より來る一條を合す。昭和五年に町制を布く。町内の榮神社を延喜式坂井郡の榮神社なりといふも不詳。此地は正保二年、國主忠昌、その次男中務大輔昌勝に五萬石を分賜し、邸を置きし地。享保二年、昌勝の嫡子内匠頭昌平は本宗昌親の讓を受けて綱昌と改名し、松岡邸はその弟中務大輔昌平に給ふ。然るに綱昌事を以て除封、廿五萬石の封を隱居昌親に賜ふ。昌親改名して吉品といひ、昌平の弟吉邦を養嗣として寶永七年讓國し、享保六年卒す。よりに昌平に本

MAHO

つる説あり。古來領主の崇敬篤きものあり。例祭、二月十一日。【松尾】京都府葛野郡にありし村。大正六年、京都市に編入す。【松尾村】香川縣讚岐國大川郡の中部。津田町の東南に當り、東は丹生、譽水の二村に、西は富田村に、北は鶴羽村に、南は五名村に界す。讃岐山脈北斜面の地を占め、三五百米餘の山岳起伏して山地をなし、僅に西部中央に低地ありて農耕を營む。西南山地より津田川その源を發して北流す。山地は荒地多し。用材・薪炭等を出し、低地よりは米・麥を産す。中央部をほぼ東西に縣道通り、西方の長尾町へバス通す。此地は和名抄、讚川郡藤原郷の内なるべく、延喜式に讚岐の驛路を引田・松本・三路と載す、この松本は本村の地か。【松尾村】熊本縣肥後國鹿野郡の西部。坪井川の河口右岸に位し、島原海灣に臨む。東は高橋町を隔てて熊本市なり。金峰火山麓の西南斜面にして、東北端に金峰山(六六六米)聳え、山麓數條、西・南・東南に出づるも、白川より分流し南端を劃して海に入る坪井川沿岸と海岸とに平地をなす。米・麥等を産す。河口に百貫石港あり。良港ならざるも、熊本市に出入の海運は皆船舶を此に繋留す。百貫石より熊本市へバス及び社線熊本電氣軌道線の電車あり。(雲巖寺)大字平山にあり。曹洞宗。寶華山と號す。天平寛字年

マツキ——マツサ

之に合し平地多し。地味肥沃にして農業を主とす。牧畜・工業物・行はる。米・蕎麥・木材・木炭・酒・醤油・家畜等を産す。省線山陰本線の渡利驛・黒松驛に近く自動車便有り。もと松山村・下松山村の二村に分れしが、昭和九年に合併して松川村と名づく。(大飯彦神社) 村社。祭神、大飯彦三熊大人・豊受姫神。式内社。例祭、十二月三日。

マツギシ

省線徳武本線の一驛(明治三十年設置)にして、成田線に接続す。千葉縣銚子市にあり。

マツク

眞繼 丹波國(兵庫縣)の古地名。和名抄に多紀郡眞繼郷あり、その地名の多紀郡岡住村の邊に當る。

マツクサ

松草 省線山田線の一驛(昭和五年設置)。岩手縣下閉伊郡門馬村にあり。

マツクラ

松倉 湯川町(北海道渡島支庁)の松倉鎮山あり。

【松倉鎮山】 湯川町(北海道渡島支庁)の松倉鎮山あり。富山縣越中下新川郡の西南部にあり。早月川右岸に沿ひ、西及び南は中新川郡に界す。魚津町の東南約四野に當り。東部・南部に山地を負ひ西北へ傾斜す。早月川は西境を峡谷をなし西北流し、角川村内に發し北流し魚津町より海に入る。耕作地は西北部にあるのみ。他は概ね森林をなす。農業を主産業とし、米を主産す。また用材・木炭を産す。魚津町より縣道來り、村内の北山温泉との間にバス通す。富村内に鎮區三五萬坪を有する。

五三三

松ヶ島より住民を此地に移し、尙ほ新たに舊居城近江日野より住民を招致し、また度會郡大湊の海邊民を移住せしめ、城下町を形成せり。松阪の地は古代、汎く「イヒ」と稱せしを此時に松阪と名附く。

この城の經濟的地位を見るに、南伊勢平野の中央に位し、此の平野は惣田川・雲出川の三角洲により伊勢海に地積せる海岸平野なり。西部は堀坂山(七五七米)・海峯(八二〇米)南北に連り、其の延長は鈴鹿山脈に續く。從つて堀坂山・海峯の東麓は鈴鹿山脈の東邊階層崖に連続するものにて、鈴鹿川・雲出川が其間を侵蝕し、東西の階層崖による地塊運動も加味され分断せしものと思はる。斯くして南伊勢平野は幅約一六キロを以て伊勢灣に並行する地域にして、米・蕎麥を主作物とし、西部山麓に於て桑畑・茶畑化され、また江戸時代より茶種の出産地として著聞す。城址は阪内川の河岸の小丘陵にあり三層に疊を設け全面積二町七反餘、現在は松阪公園となり其の舊型を留む。町名に日野町・湊町ありて城下町發達當時の人口集中を偲ぶ。海上との連絡は松阪港による。此港は阪内川の三角洲大川地先に新に埋立により築港が完成せしもの、舊時は大川・高町屋が利用せられ、いま中心主要市街より松阪電車にて大口に達す。松阪港は南伊勢に於ける唯一の良港にて内務省指定港灣となり、木材・薪炭等を移出し(昭和九年移出高二五七萬圓)

マツサカ

松坂 三重縣の中部。縣廳の所在地津市と神宮の所在地宇治山田市との中間にあり。東は飯沼郡朝見村・西黒部村に接し、東南は徳田村、南は花園町、西北は松江村を境とし、東北は伊勢灣に臨む。市の西北を阪内川流れ、其の河岸に沿ひて舊城址龜甲山(鶴城、また蒲城)あり。天正十三、四年頃、蒲生氏郷の築城以來の城下町なり。氏郷、先住地なる一志郡

マツサカ

松坂 愛知縣藤豆郡にありし村。明治廿九年豊岡村と共に廢し豊坂村を置く。

マツサカ

松坂 徳島縣阿波國板野郡の西部。東は板野町に、西は大山村に、南は榮村に界し、北は香川縣に隣す。北には高さ數百米の山岳重疊して南に傾斜す。南は

砂糖・織物・メイヤス・蠟油等を移入(移入高三八六萬圓)す。市の主産物たる綿織物は古來松阪織と稱し、正絹堅牢を以て名ありしも、時勢の變遷に依り近時品質一變し、多く無地物を産す。近時に於て綿織物以外に、生絲・絹織物・人絹織物・綿糸等の織造工業行はれ、其の年産額一六二・五萬圓に達す。其他、金属工業・飲食料工業・雜工業を加へ工業都市として發展を來せり。工場地帯は市の東部より南部の舊市の郊外に位置す。主要工場には松阪木綿・織物防染・關西製糸・徳川紡績等あり、以上の職工數のみにて三九〇〇人に達す。更に男女對人口數に就きて見るに、女の男より超過する。一三、三〇〇人(昭和十年)にて、松阪市が織造工業都市たる色彩を人口上にも示す。市の教育的施設には工業・商業・高女等の中等學校あり。國學の大家本居宣長の遺跡として松阪公園内に鈴屋あり、天明年間建設の書齋を始め其の母屋の全部を留む。本居神社は古來時鳥の名所として知らるる四五百坪にあり。小丘上に位し、縣社として高平田寛鳳と合祀す。舊の舊宅は松阪市魚町にあり。市の特産に松阪萬古焼・笹川縮あり。また附近山地の牧牛は此地に集散され、松阪牛肉として東京・大阪・名古屋に出荷さる。市は古來參宮街道の一驛たりしが、いま省線參宮線通じて松阪・徳和の二驛(共に明治二十六年設置)あり、東京より宇治山田行

マツサ——マツサ

の列車直通して此地を過ぎ、これと並走する松阪參宮堂行電線ありて花園驛(昭和五年設置)設けられ、松阪驛よりは一志郡八幡村に向ひて省線名松線を分ち、東には松阪松阪電氣鐵道を出し、平生町(大正元年設置)・茶與町(昭和三年設置)を経て大口に達し、交通至便なり。此地古代、イヒと稱せし地なりしが、大化の國郡制定の際に、飯高の地に屬し、中世には神領地となり、のち北畠國司の治下に屬し、元龜元年に至り、その臣淵田長助始めて四五萬坪を城を築く。天正十六年、蒲生氏郷は一志郡松ヶ島より來り、住民をこの地に移し、前封地なる近江日野より商民を招致し、また度會郡大海の海邊民を移住せしめ、市街を形成せり。天正十八年、氏郷は會津に移封され、同十九年服部安女正一忠、關白秀次の命に依り松阪城主となり、文祿四年、古田兵部少輔重勝これを領す。慶長十一年、重勝の病歿するや弟古田大膳大夫重治の領となり、天和五年徳川頼宣の管轄に屬し、維新後廢藩置縣に及び度會縣の所轄となりしが、明治九年、度會縣を廢して三重縣に屬し、同二十二年市町村制の實施と共に町制を施行す。その後、大正十三年隣村鈴止村を合し、同十三年港村を二分して東六大字を分縣合併せしため地域人口額に増加し、また大口港を移して松阪港と改稱し、港灣修築事業成りて益々繁盛に赴けり。昭和六年隣接神戸村を合

併するに及び、地積人口共に都市的資格を具ふるに至りしを以て、同八年に二月市制を實施す。好色一代女・六・我古市を立のき流れとなり道筋、松坂に行て旗籠屋の人待女となりて妻は心まかせの樂妻して八つさがりより身を將へ所からの伊勢白粉變は正直のかうべに油を付、天の岩戸の小開より出女の面しろく、と見せて、講參の通し馬を引込是播磨の旦那、それは他後のおつれさきと其國里を、ひとり見違へる事なく其所言葉をつかひうれしがる湯掛はや宵朝の極めもなく。

二坪あり松阪公園に接す。(本居宣長墓)指定史蹟。本居神社境内に在り。宣長生前この地を卜し、歿後門人等これを建立、遺命により墓標には松標の二株を植ふ。前に「本居宣長墓」と誌せし石を建て、宣長の自筆なり。(本居宣長舊宅(鈴屋舎)指定史蹟。松阪公園の南隅、豊勝の地に在り。もと宣長の生地、魚町にありしが明治四十二年當地に移す。自作像・稿本及び居常愛玩の古物等存す。宣長は享保十五年五月七日松阪の商家に生る。幼名は富之助。幼より讀書を好み、強記絶倫にて漢籍・漢曲を學び、母の勤めによりて都に上り、武川寺順法眼に就き醫術を修め、その間、儒學を堀山に學ぶ。宣長、京に在りし時、百人一首改觀抄を見て始めて契沖の説を知り、のち實茂眞淵の「冠辭考」を讀みて思慕の念切なるものあり、たまたま眞淵の松阪に寄りし時宣長志を告げ師弟の約を結ぶ。宣長は眞淵の言に動きされ、翌年三十五歳の時始めて「古事記傳」の稿を起し、六十九歳に至りて稿成る。この間、寛政六年六十五歳の時、領主松州侯に召されて古文・古歌を講し、また京に上りて中山大納言その他の公卿に延喜式・萬葉集を講じ、爲めに國學の振興著し。著書に、古事記傳・古今通・石上私淑言・すげがさ日記・眞淵考・國號考・神代正語・鈴屋集、其他三十餘篇あり。宣長書齋に赤き紐に通せし小鈴三十六を懸け置き、之を鳴らして

書を遺りしにより家業を鈴の屋と稱す。享和元年九月二十九日、七十二歳を以て歿し、明治十六年に正四位を、同三十八年従三位を贈らる。(八雲神社) 松阪日野町に鎮座。祭神、健甕須佐之男命。傳に依るに、貞觀十二年に伊勢國松ヶ島町に勸請せしものと云ふ。例祭、陰曆八月十三日。(松坂神社) 殿町に鎮座。祭神、豐田別命・宇遲魂命・建速素戔嗚命・少彥名命・大國主命等六柱を合祀す。延喜の制、國幣の小社に列す。領主蒲生・服部・吉田等の諸氏及び江戸時代には紀州の徳川氏篤く崇敬せり。例祭、四月十五日。(御野神社) 大字松坂に鎮座。祭神、建速須佐之男命・市杵島彥命・豊津彥命・應神天皇等九柱。本社に伊勢神宮の御野の地に發遣せし社にして、舊領主紀州徳川氏崇敬を致せり。例祭、九月十七日。(南龍神社) 松阪殿町に鎮座。無格社。祭神、徳川頼宣。明治八年創立。(龍松寺) 松阪中町にあり。眞言宗。通稱は同寺。三津正信、二見ヶ浦にて觀音像を給ひて出家し、龍松と號し、天平勝寶二年に當寺を創建せりと傳ふ。同寺版と稱する龍天壽の墨帖を藏す。(御敬寺) 新町に在り。淨土宗。本居家累代の墓所に、宣長の眞墓は花園町山室山に在るも、墓碑は當寺内にも在り。墓石に高岳院石上道啓居士・圓明院清室惠施大師と刻す、即ち夫妻の法名なり。其後に春庭の墓あり、明堂院通元道永居士・雅勝院淑和慧厚大師と刻す。共に指定史蹟たり。春庭は宣長の長子、幼名を健藏、のち健孝と改む。若くして眼疾を病み、廿二歳にして竟に失明せり。廿三歳京に上りて鍼法を學び、九年歸りて鍼醫となる。幼より父の側に在りて和漢の學を修め、中年に明を失ひし後も苦學懈らず、河の八橋、河の通路等の名著あり。文政十一年十一月歿。年六十六。大正十三年に正五位を贈らる。

士・雅勝院淑和慧厚大師と刻す。共に指定史蹟たり。春庭は宣長の長子、幼名を健藏、のち健孝と改む。若くして眼疾を病み、廿二歳にして竟に失明せり。廿三歳京に上りて鍼法を學び、九年歸りて鍼醫となる。幼より父の側に在りて和漢の學を修め、中年に明を失ひし後も苦學懈らず、河の八橋、河の通路等の名著あり。文政十一年十一月歿。年六十六。大正十三年に正五位を贈らる。【松阪電氣鐵道】 私設鐵道。松阪市及び三重縣飯南郡内を走る。省線參宮線松阪驛(松阪市)より分岐し、花園驛(花園町)、射和驛(射和村)などの諸驛を経て大石驛(大石村)に至る二〇・二軒及び平生町(松阪市)より分岐して大口驛(松阪市)に至る二・八軒を含む。なほ花園驛にて社線參宮急行電線と接続す。動力は電氣・蒸氣、軌間〇・七六二米にして、省線と連帶運輸をなす。

【松阪電氣鐵道】 私設鐵道。松阪市及び三重縣飯南郡内を走る。省線參宮線松阪驛(松阪市)より分岐し、花園驛(花園町)、射和驛(射和村)などの諸驛を経て大石驛(大石村)に至る二〇・二軒及び平生町(松阪市)より分岐して大口驛(松阪市)に至る二・八軒を含む。なほ花園驛にて社線參宮急行電線と接続す。動力は電氣・蒸氣、軌間〇・七六二米にして、省線と連帶運輸をなす。【松崎村】 岩手縣陸前國氣仙郡の東南部。高田町の東方、盛町の南方、各約七軒。東南部は太平洋に突出し、南に門の濱灣を抱き、北は大船渡灣の灣口を扼す。地勢西北部に高く、北境に飛定山(五五〇米)、西境に箱根山(四四七米)聳えて東南方に傾斜し、山地海岸に迫る。海岸は圓ゆる三陸のヤス式海岸の一部をなす。村の生業は農業・水産業を主とし、米・麥・林檎、梨の農産物及び柔魚・鰯・鮎・昆布等を産し、また木炭の産あり。道路には村の中部を東西に通ずるもの及び東部海岸を南北に通ずるものあり、高田町へはバスの便あり。省線大船渡線細浦驛(昭和八年設置)を設く。(基石海岸) 指定名勝。宇大濱の海岸。巖き砂岩と積り真岩との互層より成れる白雲紀の段丘が海蝕を受けて生じたる海岸風景地なり。鳥嶺・斷崖・洞窟・洞門・沙洲・水道等の奇景に富む。殊に地層の割目(節理及び斷層)と海蝕との關係を標式的に表せるもの多きは本海岸の特色とする所。(筒ヶ崎角岩岩壁) 指定天然記念物。宇西館にあり。白雲紀の頁岩・砂岩互層を貫ける水成岩脈にて、露出部の大きさは長九・五米、幅〇・四米に及ぶ。角岩は水成岩脈をなすこと認め得るよりこの岩脈は學術上重要視せらる。

【松崎村】 岩手縣陸前國氣仙郡の東南部。高田町の東方、盛町の南方、各約七軒。東南部は太平洋に突出し、南に門の濱灣を抱き、北は大船渡灣の灣口を扼す。地勢西北部に高く、北境に飛定山(五五〇米)、西境に箱根山(四四七米)聳えて東南方に傾斜し、山地海岸に迫る。海岸は圓ゆる三陸のヤス式海岸の一部をなす。村の生業は農業・水産業を主とし、米・麥・林檎、梨の農産物及び柔魚・鰯・鮎・昆布等を産し、また木炭の産あり。道路には村の中部を東西に通ずるもの及び東部海岸を南北に通ずるものあり、高田町へはバスの便あり。省線大船渡線細浦驛(昭和八年設置)を設く。(基石海岸) 指定名勝。宇大濱の海岸。巖き砂岩と積り真岩との互層より成れる白雲紀の段丘が海蝕を受けて生じたる海岸風景地なり。鳥嶺・斷崖・洞窟・洞門・沙洲・水道等の奇景に富む。殊に地層の割目(節理及び斷層)と海蝕との關係を標式的に表せるもの多きは本海岸の特色とする所。(筒ヶ崎角岩岩壁) 指定天然記念物。宇西館にあり。白雲紀の頁岩・砂岩互層を貫ける水成岩脈にて、露出部の大きさは長九・五米、幅〇・四米に及ぶ。角岩は水成岩脈をなすこと認め得るよりこの岩脈は學術上重要視せらる。【松崎村】 岩手縣陸前國氣仙郡の東南部。高田町の東方、盛町の南方、各約七軒。東南部は太平洋に突出し、南に門の濱灣を抱き、北は大船渡灣の灣口を扼す。地勢西北部に高く、北境に飛定山(五五〇米)、西境に箱根山(四四七米)聳えて東南方に傾斜し、山地海岸に迫る。海岸は圓ゆる三陸のヤス式海岸の一部をなす。村の生業は農業・水産業を主とし、米・麥・林檎、梨の農産物及び柔魚・鰯・鮎・昆布等を産し、また木炭の産あり。道路には村の中部を東西に通ずるもの及び東部海岸を南北に通ずるものあり、高田町へはバスの便あり。省線大船渡線細浦驛(昭和八年設置)を設く。(基石海岸) 指定名勝。宇大濱の海岸。巖き砂岩と積り真岩との互層より成れる白雲紀の段丘が海蝕を受けて生じたる海岸風景地なり。鳥嶺・斷崖・洞窟・洞門・沙洲・水道等の奇景に富む。殊に地層の割目(節理及び斷層)と海蝕との關係を標式的に表せるもの多きは本海岸の特色とする所。(筒ヶ崎角岩岩壁) 指定天然記念物。宇西館にあり。白雲紀の頁岩・砂岩互層を貫ける水成岩脈にて、露出部の大きさは長九・五米、幅〇・四米に及ぶ。角岩は水成岩脈をなすこと認め得るよりこの岩脈は學術上重要視せらる。

麻村の東端に至る間の海岸にして、針長石英粗面岩・石英安山岩・輝石安山岩及び凝灰岩を主體とし、地質圖傳の頗る複雑多様なるに加へて伊豆半島中、波濤最も激甚なる部分に屬し、太平洋岸線に見る膠着を作成せるものなり。本海岸は風景上及び地質上、堂ヶ島・波勝・石廊崎の三海岸の三部に分つを適當とす。堂ヶ島海岸は白色の浮石質凝灰岩より成れる波蝕海岸にして、岩上に松樹茂り鳥列の間靜かなる江灣を抱き大小の島嶼その附近に散點せり。天窓洞の如き特色ある洞窟あり、其の南なる波勝海岸は大部分淡青灰色の石英安山岩より成り、北部には暗灰色の集塊凝灰岩現はれ、その前者より岩質堅硬なるため波勝崎・雲見淺間崎間に雄大無比の大絶壁をなし、其の一部赤褐色を呈する部分を波勝赤壁と云ひ堂中の王座を占む。附近に千貫門の大洞門あり景趣を添ふ。南部の石廊崎海岸は大部分が暗黒色の輝石安山岩質の集塊凝灰岩より成り、石廊崎の大岩壁、養掛島の奇巖、手石彌陀窟の奇勝等その間にあり、また針長石英粗面岩・輝石安山岩・トウキ安山岩等の諸岩交雜し諸種の岩脈これを貫きて鳥嶺・小灣の出入多く、變化に富める海岸風景を構成せり。松崎以南、波勝崎に至る間の上には翠松の影を碧波に滴すあり、岩石の赭色と相俟つて色彩交雜の美を醸む。彌陀窟・辨天鳥附近の松林また大いに景趣を添ふるを見る。

【伊都上神社】 宇宮内に鎮座。郷社。祭神、積羽八重事代主命。もと三鳥宮・上之神社と稱す。式内社に充つる説あり。古來那賀郷の總社と稱され、武家・武將崇敬せりと傳ふ。例祭、十一月四日。(下之神社) 宇松崎に鎮座。郷社。祭神、赤火火出見尊・住吉三柱大神。式内伊都下神社に充つる説あり。鎌倉時代より有勢の神社として著はれ、爾來領主・奉行の崇敬篤く、江戸時代には社領五石を有せり。一名、石火宮・唐大明神。【松崎村】 鳥取縣伯耆國東伯耆郡の東部。東部海岸の東南部に在り、北は合人村、南は東郷村に挟まれたる小村なり。面積〇・二九方軒。地は湖畔平野上に存して平坦肥沃、米の産額多し。湖畔に松崎温泉の湧出あり、無色透明の鹽類泉にして且つ風光明媚の地なれば訪客絶えず。省線山陰本線の松崎驛(明治三十七年設置)は東郷村の地籍に在り。山名氏入部の時に治所を置きし地なり。いま東郷村と組合村をなし、役場を本村に置く。【マツサト】 松里村 山梨縣甲斐國東山梨郡の中部。笛吹川上流左岸に沿ひ、鹽山町の西北に接す。ほぼ南北に狭長にて北より東境にかけては千米餘の山脈連互し、西境を南流する笛吹川の谷に急斜す。西南部は扇狀地開け、桑・米等の耕作に適す。養蠶を主とし、桑・桑の産額最も多く、次いで米・麥等の農産あり。笛吹川流域には發電所多く縣下第一の發電地帯に屬す。鹽山町より縣道來リバスの便あり。省線中央本線鹽山驛へ約三軒なり。此地は和名抄、山梨郡於曾部の内。【餘部嶺山】 嶺は松里村と玉宮村とに跨りて一四萬餘坪、嶺頂は金銀鉛鐵にて重要嶺山たり。昭和十年には金銀三六八噸(その價額約四萬九千圓)を産し、同年六月末の領土数は四十五人。(松尾神社) 郷社。祭神、大山咋命・足仲彦尊外四神。式内社。堂行天皇四十一一年の創建といふ。例祭、八月十五日。(惠林寺) 大字松里にあり。臨濟宗妙心寺派。乾徳山と號す。開創は出羽守藤原道隆、開山は參宮國師。天正十年に織田氏の軍に燒かれ、天正十三年に徳川家康は墳墓をして再興せしめし、明治三十八年再び炎上、爾後再建して寺觀漸く恢復す。四脚門・太刀・銘末國長、柄杓卷太刀、短刀(銘備州長船繪光、應安二年八月日)は國寶。境内には武田不動尊・武田信玄廟所あり。信玄の死後、天正四年四月その遺骨をここに葬り、靈屋建立せられしも天正十年兵火に罹り鳥有に歸す。今の廟は寶永二年御澤吉保の造営に係る。(放光寺) 大字楠木ノ内にあり。新義眞言宗智山派。高橋山と號す。寶曆御郡の開創と傳ふ。初め萩原郷高橋にありしが、建久二年、現地に遷す。天正年間には織田氏の兵燹に罹り悉く鳥有に歸せしも再建す。本尊、木造大日如來坐像一軀。護摩堂本尊不動明王立像(木造)一軀・愛染明王坐像(木造)

【伊都上神社】 宇宮内に鎮座。郷社。祭神、積羽八重事代主命。もと三鳥宮・上之神社と稱す。式内社に充つる説あり。古來那賀郷の總社と稱され、武家・武將崇敬せりと傳ふ。例祭、十一月四日。(下之神社) 宇松崎に鎮座。郷社。祭神、赤火火出見尊・住吉三柱大神。式内伊都下神社に充つる説あり。鎌倉時代より有勢の神社として著はれ、爾來領主・奉行の崇敬篤く、江戸時代には社領五石を有せり。一名、石火宮・唐大明神。【松崎村】 鳥取縣伯耆國東伯耆郡の東部。東部海岸の東南部に在り、北は合人村、南は東郷村に挟まれたる小村なり。面積〇・二九方軒。地は湖畔平野上に存して平坦肥沃、米の産額多し。湖畔に松崎温泉の湧出あり、無色透明の鹽類泉にして且つ風光明媚の地なれば訪客絶えず。省線山陰本線の松崎驛(明治三十七年設置)は東郷村の地籍に在り。山名氏入部の時に治所を置きし地なり。いま東郷村と組合村をなし、役場を本村に置く。【マツサト】 松里村 山梨縣甲斐國東山梨郡の中部。笛吹川上流左岸に沿ひ、鹽山町の西北に接す。ほぼ南北に狭長にて北より東境にかけては千米餘の山脈連互し、西境を南流する笛吹川の谷に急斜す。西南部は扇狀地開け、桑・米等の耕作に適す。養蠶を主とし、桑・桑の産額最も多く、次いで米・麥等の農産あり。笛吹川流域には發電所多く縣下第一の發電地帯に屬す。鹽山町より縣道來リバスの便あり。省線中央本線鹽山驛へ約三軒なり。此地は和名抄、山梨郡於曾部の内。【餘部嶺山】 嶺は松里村と玉宮村とに跨りて一四萬餘坪、嶺頂は金銀鉛鐵にて重要嶺山たり。昭和十年には金銀三六八噸(その價額約四萬九千圓)を産し、同年六月末の領土数は四十五人。(松尾神社) 郷社。祭神、大山咋命・足仲彦尊外四神。式内社。堂行天皇四十一一年の創建といふ。例祭、八月十五日。(惠林寺) 大字松里にあり。臨濟宗妙心寺派。乾徳山と號す。開創は出羽守藤原道隆、開山は參宮國師。天正十年に織田氏の軍に燒かれ、天正十三年に徳川家康は墳墓をして再興せしめし、明治三十八年再び炎上、爾後再建して寺觀漸く恢復す。四脚門・太刀・銘末國長、柄杓卷太刀、短刀(銘備州長船繪光、應安二年八月日)は國寶。境内には武田不動尊・武田信玄廟所あり。信玄の死後、天正四年四月その遺骨をここに葬り、靈屋建立せられしも天正十年兵火に罹り鳥有に歸す。今の廟は寶永二年御澤吉保の造営に係る。(放光寺) 大字楠木ノ内にあり。新義眞言宗智山派。高橋山と號す。寶曆御郡の開創と傳ふ。初め萩原郷高橋にありしが、建久二年、現地に遷す。天正年間には織田氏の兵燹に罹り悉く鳥有に歸せしも再建す。本尊、木造大日如來坐像一軀。護摩堂本尊不動明王立像(木造)一軀・愛染明王坐像(木造)

【松崎村】 岩手縣陸前國氣仙郡の東南部。高田町の東方、盛町の南方、各約七軒。東南部は太平洋に突出し、南に門の濱灣を抱き、北は大船渡灣の灣口を扼す。地勢西北部に高く、北境に飛定山(五五〇米)、西境に箱根山(四四七米)聳えて東南方に傾斜し、山地海岸に迫る。海岸は圓ゆる三陸のヤス式海岸の一部をなす。村の生業は農業・水産業を主とし、米・麥・林檎、梨の農産物及び柔魚・鰯・鮎・昆布等を産し、また木炭の産あり。道路には村の中部を東西に通ずるもの及び東部海岸を南北に通ずるものあり、高田町へはバスの便あり。省線大船渡線細浦驛(昭和八年設置)を設く。(基石海岸) 指定名勝。宇大濱の海岸。巖き砂岩と積り真岩との互層より成れる白雲紀の段丘が海蝕を受けて生じたる海岸風景地なり。鳥嶺・斷崖・洞窟・洞門・沙洲・水道等の奇景に富む。殊に地層の割目(節理及び斷層)と海蝕との關係を標式的に表せるもの多きは本海岸の特色とする所。(筒ヶ崎角岩岩壁) 指定天然記念物。宇西館にあり。白雲紀の頁岩・砂岩互層を貫ける水成岩脈にて、露出部の大きさは長九・五米、幅〇・四米に及ぶ。角岩は水成岩脈をなすこと認め得るよりこの岩脈は學術上重要視せらる。【松崎村】 岩手縣陸前國氣仙郡の東南部。高田町の東方、盛町の南方、各約七軒。東南部は太平洋に突出し、南に門の濱灣を抱き、北は大船渡灣の灣口を扼す。地勢西北部に高く、北境に飛定山(五五〇米)、西境に箱根山(四四七米)聳えて東南方に傾斜し、山地海岸に迫る。海岸は圓ゆる三陸のヤス式海岸の一部をなす。村の生業は農業・水産業を主とし、米・麥・林檎、梨の農産物及び柔魚・鰯・鮎・昆布等を産し、また木炭の産あり。道路には村の中部を東西に通ずるもの及び東部海岸を南北に通ずるものあり、高田町へはバスの便あり。省線大船渡線細浦驛(昭和八年設置)を設く。(基石海岸) 指定名勝。宇大濱の海岸。巖き砂岩と積り真岩との互層より成れる白雲紀の段丘が海蝕を受けて生じたる海岸風景地なり。鳥嶺・斷崖・洞窟・洞門・沙洲・水道等の奇景に富む。殊に地層の割目(節理及び斷層)と海蝕との關係を標式的に表せるもの多きは本海岸の特色とする所。(筒ヶ崎角岩岩壁) 指定天然記念物。宇西館にあり。白雲紀の頁岩・砂岩互層を貫ける水成岩脈にて、露出部の大きさは長九・五米、幅〇・四米に及ぶ。角岩は水成岩脈をなすこと認め得るよりこの岩脈は學術上重要視せらる。

【松崎村】 岩手縣陸前國氣仙郡の東南部。高田町の東方、盛町の南方、各約七軒。東南部は太平洋に突出し、南に門の濱灣を抱き、北は大船渡灣の灣口を扼す。地勢西北部に高く、北境に飛定山(五五〇米)、西境に箱根山(四四七米)聳えて東南方に傾斜し、山地海岸に迫る。海岸は圓ゆる三陸のヤス式海岸の一部をなす。村の生業は農業・水産業を主とし、米・麥・林檎、梨の農産物及び柔魚・鰯・鮎・昆布等を産し、また木炭の産あり。道路には村の中部を東西に通ずるもの及び東部海岸を南北に通ずるものあり、高田町へはバスの便あり。省線大船渡線細浦驛(昭和八年設置)を設く。(基石海岸) 指定名勝。宇大濱の海岸。巖き砂岩と積り真岩との互層より成れる白雲紀の段丘が海蝕を受けて生じたる海岸風景地なり。鳥嶺・斷崖・洞窟・洞門・沙洲・水道等の奇景に富む。殊に地層の割目(節理及び斷層)と海蝕との關係を標式的に表せるもの多きは本海岸の特色とする所。(筒ヶ崎角岩岩壁) 指定天然記念物。宇西館にあり。白雲紀の頁岩・砂岩互層を貫ける水成岩脈にて、露出部の大きさは長九・五米、幅〇・四米に及ぶ。角岩は水成岩脈をなすこと認め得るよりこの岩脈は學術上重要視せらる。

【松崎村】 岩手縣陸前國氣仙郡の東南部。高田町の東方、盛町の南方、各約七軒。東南部は太平洋に突出し、南に門の濱灣を抱き、北は大船渡灣の灣口を扼す。地勢西北部に高く、北境に飛定山(五五〇米)、西境に箱根山(四四七米)聳えて東南方に傾斜し、山地海岸に迫る。海岸は圓ゆる三陸のヤス式海岸の一部をなす。村の生業は農業・水産業を主とし、米・麥・林檎、梨の農産物及び柔魚・鰯・鮎・昆布等を産し、また木炭の産あり。道路には村の中部を東西に通ずるもの及び東部海岸を南北に通ずるものあり、高田町へはバスの便あり。省線大船渡線細浦驛(昭和八年設置)を設く。(基石海岸) 指定名勝。宇大濱の海岸。巖き砂岩と積り真岩との互層より成れる白雲紀の段丘が海蝕を受けて生じたる海岸風景地なり。鳥嶺・斷崖・洞窟・洞門・沙洲・水道等の奇景に富む。殊に地層の割目(節理及び斷層)と海蝕との關係を標式的に表せるもの多きは本海岸の特色とする所。(筒ヶ崎角岩岩壁) 指定天然記念物。宇西館にあり。白雲紀の頁岩・砂岩互層を貫ける水成岩脈にて、露出部の大きさは長九・五米、幅〇・四米に及ぶ。角岩は水成岩脈をなすこと認め得るよりこの岩脈は學術上重要視せらる。

【松崎村】 岩手縣陸前國氣仙郡の東南部。高田町の東方、盛町の南方、各約七軒。東南部は太平洋に突出し、南に門の濱灣を抱き、北は大船渡灣の灣口を扼す。地勢西北部に高く、北境に飛定山(五五〇米)、西境に箱根山(四四七米)聳えて東南方に傾斜し、山地海岸に迫る。海岸は圓ゆる三陸のヤス式海岸の一部をなす。村の生業は農業・水産業を主とし、米・麥・林檎、梨の農産物及び柔魚・鰯・鮎・昆布等を産し、また木炭の産あり。道路には村の中部を東西に通ずるもの及び東部海岸を南北に通ずるものあり、高田町へはバスの便あり。省線大船渡線細浦驛(昭和八年設置)を設く。(基石海岸) 指定名勝。宇大濱の海岸。巖き砂岩と積り真岩との互層より成れる白雲紀の段丘が海蝕を受けて生じたる海岸風景地なり。鳥嶺・斷崖・洞窟・洞門・沙洲・水道等の奇景に富む。殊に地層の割目(節理及び斷層)と海蝕との關係を標式的に表せるもの多きは本海岸の特色とする所。(筒ヶ崎角岩岩壁) 指定天然記念物。宇西館にあり。白雲紀の頁岩・砂岩互層を貫ける水成岩脈にて、露出部の大きさは長九・五米、幅〇・四米に及ぶ。角岩は水成岩脈をなすこと認め得るよりこの岩脈は學術上重要視せらる。

【松崎村】 岩手縣陸前國氣仙郡の東南部。高田町の東方、盛町の南方、各約七軒。東南部は太平洋に突出し、南に門の濱灣を抱き、北は大船渡灣の灣口を扼す。地勢西北部に高く、北境に飛定山(五五〇米)、西境に箱根山(四四七米)聳えて東南方に傾斜し、山地海岸に迫る。海岸は圓ゆる三陸のヤス式海岸の一部をなす。村の生業は農業・水産業を主とし、米・麥・林檎、梨の農産物及び柔魚・鰯・鮎・昆布等を産し、また木炭の産あり。道路には村の中部を東西に通ずるもの及び東部海岸を南北に通ずるものあり、高田町へはバスの便あり。省線大船渡線細浦驛(昭和八年設置)を設く。(基石海岸) 指定名勝。宇大濱の海岸。巖き砂岩と積り真岩との互層より成れる白雲紀の段丘が海蝕を受けて生じたる海岸風景地なり。鳥嶺・斷崖・洞窟・洞門・沙洲・水道等の奇景に富む。殊に地層の割目(節理及び斷層)と海蝕との關係を標式的に表せるもの多きは本海岸の特色とする所。(筒ヶ崎角岩岩壁) 指定天然記念物。宇西館にあり。白雲紀の頁岩・砂岩互層を貫ける水成岩脈にて、露出部の大きさは長九・五米、幅〇・四米に及ぶ。角岩は水成岩脈をなすこと認め得るよりこの岩脈は學術上重要視せらる。

に貫流す。東部山麓には湖沼あり。村の生業は農を主とし米を産す。近年、山地には苹果栽培せられ、十年後には相當産額に達せんとす。道路は村の東北部を斜走し、省線五能線五所川原驛及び北方の金木町へはバスの便あり。

【松島町】宮城縣陸前國宮城郡の北端。北は志田郡の品井沼の沼澤地に至り、東は桃生郡に接し、鳴瀬川東北部を掠めて石巻港に入る。西は尾鹿の森山(一〇九米)一帯の山地を以て黒川郡に隣り、西南の一部が利府村に接する外、南は松島灣に臨む。城内丘陵起伏して平地に乏しく品井沼の附近の吉田川より引水して谷間に水田を拓く。省線東北本線通過して松島驛(明治二十三年設置)・品井沼驛(昭和七年設置)を置き、松島電車は此處より發して松島海岸に至り、宮城電線は仙臺市より鹽釜を経て本町に入り海岸近く松島公園驛を置き、松島電車と交又して石巻方面に走る。海面には鹽釜方面に鹽釜島の發着あり交通至便なり。大字松島は松島海岸と通稱し松島の驛の中心をなす所。瑞巖寺・五大堂・聖澤亭その他の名蹟や徳園・旅館等の集合する所、四時觀光客を以て賑ふ。松島の驛を南に見る北方の富山(一六・八米)及び海岸の北にある新富山は松島の展望最佳なり。この地古くは高城保と稱せし地、明治に至り高城本郷村はじめ十村を合して松島村を建て、昭和三年町制を布く。(瑞巖寺)

本松島にあり。一に松嶋寺。臨濟宗妙心寺派。青龍山と號す。天長五年、圓仁この地に天台の一寺を創し延福寺と號せるに由來す。鎌倉時代に禪院となし松島山圓福寺と改號、慶長九年に瑞巖圓福寺と改め今に至る。昔は伊達家一門の優遇を蒙り法威大いに振ひし。維新後寺運一時衰へ、明治九年六月聖駕東北巡幸の御時富山を所在所に充て給ひ、御下賜金の事あり、爾來寺運漸く舊に復す。本堂・御成門・中門・庫裡・廻廊は國寶。(五大堂)

本松島にあり。瑞巖寺内附屬堂。延暦二十年坂上田村麿の創建。當初尾沙門堂と稱へし。のち五大堂と改稱、慶長五年伊達政宗夢告により紀州の良匠鶴右衛門等をして本堂を再建、現在に至る。堂は國寶。本尊五大明王。
【松島電車】私設鐵道。宮城縣宮城郡松島町にあり。東北本線松島驛より分岐し松島高城を経て松島海岸に至る三・七軒。省線と運送連絡をなし、動力は電氣、軌間は一・〇六七米とす。
【松島】指定名勝。松島は古來日本三景の一といはれ、宮城縣の松島灣の一帯をいふ。即ち宮城郡七ヶ濱村宇御殿崎突角より桃生郡宮戸村波島(瑞島)の南端を経て鳴瀬川の右岸に至る間の海面及び島嶼を含む。東西約一四軒、南北約一二軒、約三〇軒に亘る出入多き海岸線を形成し灣内には二百六十餘の大小の島々が千姿萬態の風趣を現はす。灣口を扼する最大

の島を宮戸島とす。その最高點は大高森(大鷹森)にて一〇五・八米、その西に續きて寒風澤島、海水浴場を以て名高き桂島・馬放島が東西に並列し、その南方には多聞山の一角及び花田半島突出す。これ等諸島の内側は松島灣と鹽釜灣とに分れ、鹽釜の良港發達す。松島灣の北邊には富山(一六・八米)の丘陵峙ち、西方は四〇一五〇米の丘陵地が蓋か西方の仙臺附近の丘陵地に連続す。松島灣の北東方大塚附近にて石巻に達する野蒜運河に達なり、鹽釜の南方より阿武隈河口を結ぶ貞山堀に續く。松島町は灣の西岸に發達し、社線宮城電線は仙臺市に起り、灣内にある鹽釜・浪田・松島を結び、東方石巻港に延び、松島電車は東北本線の松島驛に發し松島海岸に至る。なほ仙臺市との間にはバスも運轉し、鹽釜灣内の鹽釜港よりは灣内に入るに運賃船の航路ありて陸海の交通至便なり。松島の諸島は白色がかりし凝灰質の砂岩・頁岩の水成層にて奇岩の上には名の如く枝振りよき古松あり。月によく雲に美しく、四季とリどりの眺めは正に天下の名勝とし、謂ゆる日本三景の一の名を辱しめず。これを觀賞せんには東側宮戸島の最高點大高森灣の東南側七ヶ濱村の多聞山、灣の北側富山の頂上、灣の西側扇谷の山上等にて、これら古來松島の四大觀としてその聲名は廣く人に知られ、近時松島町の北に更に新富山の眺望を加ふ。詩人は八景

あり。和名抄に板野郡松島崎(萬部之萬と誤す)とあるは本村の邊とす。此地は天永五年、攝政忠實の封戸にして、京都北野天滿宮に寄進せし由、古書に見ゆ。(観治屋原のせんだん)指定天然記念物。観治屋原松島神社境内に接する高地にあり。石櫓を繞らし、根元より一米餘上にて主幹は六本に分れ、その中、斜に東方に向ひて高く出づるものは主幹の延長部と見られ、他の五本は横に出で屈曲して四方に伸び、樹形をして奇異ならしむ。根元の周囲約九米、主幹分岐部の直下即ち地上一米餘に於ける周囲約五米六、せんだんの巨樹として有数なるもの。(瑞蓮寺)大字引野にあり。一に安樂寺。眞言宗高野派。瑞蓮山と號す。四國八十八箇所第六番札所。本尊聖母如來坐像は弘法大師の作なり。昔は温泉あり、よつて温泉山とも名づけしが、今は温泉なし。慶長三年米地十石を領せり。御歌歌「かりの世に知行争ふ無益なり安樂國の守護を望めよ」

として梅浦早春・鹽釜暮烟・霞浦歸雁・江藤殘花・雄鳥夕照・瑞巖晚鐘・松島秋月・竹浦夜雨を擧ぐ。松島の美は自然の靈美に加ふるに人工の美をもつてし、歴史的感興を加へて更に深きものあり。臨濟宗の靈利瑞巖寺を始め、文祿の昔、伏見桃山に豊臣秀吉の建てし伊達政宗がここに移して月見の御殿と稱せし觀瀾亭その他坂上田村麿が東征の際建立せりと傳ふる五大堂、傳説に名高き紅蓮尼の古蹟、三交の松等、旅情を思むるもの少からず。遊覽船は鹽釜・松島の双方より隨時に出で大小數百の鳥の間を繞つてその眺をほしよまにすを得。松島灣の成因を考察するに、仙臺附近に發達する青葉山・八木山の一帯と同様なる臺地が河流の浸蝕によりて樹枝状の谷に貫かれ、それが多くの斷崖と地盤の拗曲とを伴ひて沈降し、謂はゆる沈降谷となりしものなり。谷と谷の間は海上に突出して或は長岬となり、或は數百の小島となりて浮ぶに至る。海波は更に島間に石門を穿ち、斷崖を生じ、地層の硬軟、斷崖等によりて種々の奇勝を生ぜしものと思はる。灣内は海岸の出入複雑にて風波の憂は少なきも、比較的浅く大船巨舶は入るに適せず。灣内には沙魚・鱈・鱈・石魚・墨鯛・鰻等の魚類多く、近年牡蠣の養殖盛んに行はる。沿岸及び島の各地には和洋の旅館・料亭・徳園地・劇場・貸別荘等あり、四時觀光の客を集す。松島の

方の名車馬(定期船の便あり)。(松島炭田)松島を中心とする炭田。崎戸炭田の延長にて、古第三紀層に屬する西彼岸層群と松島層群とより成る。松島層群は最上部は始新統、最下部は漸新統にて、炭層は其間に介在し凡そ九層あれど、探掘の價値あるものは四層にて、厚さは凡そ一・五—二米なり。いま松島炭田中の主要なるものは松島・東松島の二炭礦とす。(松島炭礦)礦區は松島村内三八五萬餘坪、地質は第三紀層の砂岩・頁岩の互層より成り、其間に九條の炭層あれど、現在は下部の三層を採掘す。昭和十年には塊炭四・七、一五、粉炭一六、九九三、粗炭一七、八八一、この總價額二十三萬餘圓)を出す。當炭礦は寛政年間發見、天保年間の開採にて、古くは上層のみ採掘せしが、後年に至り深部に良好なる炭層あるを發見し、助水作業の完成と共に大正初期より大發展を遂げ、大正末期の如きは従業員四千人を以て數へられ松島炭田の代表的炭礦たり。長崎へは二三運、佐世保へは二〇運、云はば脚下に松島港といふ良港を控へ股盛を極めしが其後漸次衰へ、今日にては従業員三百人に足らざる状態となり、僅かに準重要礦山の列に止る。現在は松島炭礦會社發行。(東松島炭礦)村内に礦區三一萬餘坪を有し、松島炭礦よりは遙かに遅れて開採せられ、率る近年世に出でたるものなるが、産額に於て近年松島炭礦を凌駕する

伊達物語には「わかみかど六十餘箇の中に鹽竈といふところに似たる所なかりけり」と徵實し、鎌倉時代に至るも旅客の紀行中に松島の名によりてその景観を味へるもの見當らず。慶長九年伊達政宗の松島の五大堂を修築し、また瑞巖寺を管分觀瀾亭に移すに及び、松島の名俄然大に擧る。元祿の頃、芭蕉翁此處に來遊し「抑こふりたれど、松島は扶桑第一の好風にして凡河庭湖・西湖を恥ぢず……千早嶽大山津見のなせるわざにや造化の天工いづれの人か筆をふるひ詞を盡さん云々」と奥の細道に述ぶ。「松島やあ松島や松島や」の句は作者不詳なれど、その驛の口筆を絶するを見るに足る。

【松島】山梨縣中巨摩郡にありし村。昭和二年、外一村と共に數島村となる。
【松島村】徳島縣阿波國板野郡の西部。東は大山村に、西は御所村に界し、南は名西郡に、北は香川縣に隣す。北は讃岐山脈東部の南斜面にありて高嶺數百米の山岳重疊して南に傾斜す。南部は吉野川左岸の低平なる沖積地と山麓下に發達せる段丘の地とを占め、従つて農耕よく行はれて米・麥・粟等の産多し。近年桑畑の増加を見つゝあれば養蠶・製糸業は益々盛んになる事と思はる。平地の中央を徳安街道東西に貫通し、西方の池田町及び南方麻植郡牛島村にバスを通す。省線観瀾谷街道の観瀾原驛(大正十三年設置)

あり。和名抄に板野郡松島崎(萬部之萬と誤す)とあるは本村の邊とす。此地は天永五年、攝政忠實の封戸にして、京都北野天滿宮に寄進せし由、古書に見ゆ。(観治屋原のせんだん)指定天然記念物。観治屋原松島神社境内に接する高地にあり。石櫓を繞らし、根元より一米餘上にて主幹は六本に分れ、その中、斜に東方に向ひて高く出づるものは主幹の延長部と見られ、他の五本は横に出で屈曲して四方に伸び、樹形をして奇異ならしむ。根元の周囲約九米、主幹分岐部の直下即ち地上一米餘に於ける周囲約五米六、せんだんの巨樹として有数なるもの。(瑞蓮寺)大字引野にあり。一に安樂寺。眞言宗高野派。瑞蓮山と號す。四國八十八箇所第六番札所。本尊聖母如來坐像は弘法大師の作なり。昔は温泉あり、よつて温泉山とも名づけしが、今は温泉なし。慶長三年米地十石を領せり。御歌歌「かりの世に知行争ふ無益なり安樂國の守護を望めよ」

【松島村】長崎縣肥前國西彼岸郡、西彼岸半島の西方海上に浮ぶ松島を占む。東は約一・五軒の瀬戸を隔てて瀬戸町及び其の前面に横はる福島に對す。中央に遠見嶽聳え南岸は斷崖をなし北岸は小岬數多突出して嶺々複雑なり。東北岸に釜ノ浦帯ありて瀟地をなす。本島は炭山によりて其名著はれ、山ノ神・嶺下・西泊等の炭坑あり。釜ノ浦より瀬戸町及び東北

に至れり。昭和十年には塊炭三、四七〇、粉炭二九、七〇三、粗炭六、二〇〇、燧石八、六二三、この總價額三一萬餘圓)を出す。瑞巖會社の發行にて、同年六月末の礦夫數六二一人とす。
マツシロ 松代町 長野縣信濃國埴科郡の東北部、千曲川の右岸に位し、長野市を距る南東約十二軒。善光寺平の東縁をなす須坂・松代を運る斷崖層に當る。町はこの斷崖層浸蝕谷の一扇狀地の末端に位置するを以て、地勢北に傾斜し町内に一の丘陵を見ず。面積僅に一・五六方軒、長野縣の町村中最小、而も密度は一一方軒に就き四八五一人にて縣下最大なり(昭和十年)。この浸蝕谷は北北西に開け、三方山に圍まれ、中に皆神山(六七九米)孤立し、象山(四八七米)の一丘は松代町に向ひて峙ち、神山川・關屋川この谷の水を集めて千曲川に入る。谷の中には松代町を中心とし、北より寺尾・東條・豊榮・西條・清野の五箇村これを圍む。觀瀾谷街道は北國街道(國道)の屋代より分れ本町を経て須坂方面に走り、町の北端にて長野に向ふ縣道松代街道を岐ち、南方地蔵峠を經て上田方面に出づる縣道(舊北國街道)もある道線にして利用されず。僅に谷街道に沿ひて長野電鐵河東線の屋代驛より來りて松代驛(大正十一年設置)を置くのみ。本町は眞田氏十萬石の舊城下町として發達せるもの、戰國時代、武田信玄の麾下山本勘助の關張

マツシ——マツタ

し海津城を控へ北信第一の要害地として知らる。幕末天保年間には藩主幸貫老中となり外國係となるや、藩士佐久間修理(象山)を登用し大に對外雄略を行ひ、文武學校等を興して大に士氣の鼓舞に力めしが、維新後廢藩置縣となるや、地は北國街道の要衝を離れ居る關係上、北信の政治上の中心を幸光寺所在地たる長野村に奪はれ町勢衰へざりき。されば早く信州特有の産業たる製絲業に着手し、一時は須坂と並び製絲工業地として著はれしも、近年は悉微振はず、其他の産業の見るべきものなき本町としては、ただ養蠶の道程を辿るの外なし。町民は須く奮起して衛生の途を講ずべきなり。併し本町には幸貫をはじめ歴代の藩主に英傑あり、藩士には佐久間象山をはじめ藤原山・山寺常山等の傑物を出し、其他諸位を受けし長谷川深美等あり。また藩學兵制士官學校及び佐久間象山の感化を受け陸海軍人に有爲の人材を出せしこと紛からず、陸軍の牧野毅、海軍の伊東義五郎・富岡定泰・鹿野勇之進等なり。此地は古く和名抄の埴科郡美多郷の中に、のち海津里ともいふ。武田氏の時、海津城を營し、のち待城・松城とも稱せしが、元和八年高田信之上田城より移り、其の孫信房の時現時の如く松代と改めたり。〔海津城〕川中島城ともいふ。天文廿二年武田信玄が山本勘助に命じて築かしめし所。天正年間、武田氏滅亡後、織田信

長の有に歸し、養長可(蘭丸の兄)をして此の城を守らしめしが、久しからずして信長歿し、上杉景勝の領下となり、景勝の會津に移るや田丸直昌これを守り、今迄土庫なりし本丸を改めて石城とす。關ヶ原役後、徳川家康は養長可の末弟忠政を此地に封ず。この頃、海津を改め待城とす。慶長八年家康の子松平忠輝此處を領し待城を松城と改む。元和二年忠輝除封の後松平忠昌・酒井忠勝相次ぎて居城し、元和八年高田伊豆守信之(信幸)上田城より移りてより子孫相承げ、明治維新に至り城廢し、本丸の地のみ眞田家の新に歸し今遊園地となる。本城はもと千曲川を以て外濠とせしが、洪水の爲に屋敷を被りしを以て、のち河邊を現在の如く北に移す。(象山神社)竹山町にあり。縣社。祭神、佐久間修理。昭和十三年鎮座。境内は有樂町にある修理誕生地に設けられたる遊園地に接す。修理は象山と號し、幕末の親國家として其名世に聞えしが、門下の吉田松陰渡米を企てたる罪に處して松代に禁錮され、のち赦され京師に上り大に尊皇愛國の議を賞する間に進め、元治元年刺客の手に入る。憲法發布の際、藤田東湖・吉田松陰と共に正四位を贈らる。例祭、四月十一日・十月十一日。(祝神社)伊勢町にあり。郷社。祭神、生魂神・健甕名方命・八坂刀賣命。往昔英多郷開拓の時(勸誘せられしものと傳ふ。例祭十月九日。(大英寺)表榮

町にあり。淨土宗。皓月山と號す。眞田信之の開基。開山は靜譽和尚。元和八年信之松代に移るに及び現地に移る。現堂は信之の夫人大蓮院の靈屋を修繕して本堂となしたるもの。(大林寺)石切町にあり。曹洞宗。甲斐國惠雲院末、雲松山と號す。天正年間、眞田昌幸上田城主たりし時に一寺を建立、惠雲院の松山和尚を請ひて開山とす。初め大輪寺と稱し現地に移るに及び大林寺に改む。(長國寺)田町にあり。曹洞宗。眞田山と號す。開山は光運和尚。眞田氏歴代の菩提所としてまた富國曹洞宗の總録として其名著はる。享保以來數度の回祿に罹り、現堂は明治十九年の再建。(蓮華寺)御安町にあり。日蓮宗。久龍山蓮華院海津寺と號す。日蓮の弟子蓮華院日蓮、己の家を捨てて寺となせしもの、日蓮佐渡に流され、のち赦されて歸る途に此地に宿れりといふ。もと海津城の地にありしを海津城築造の時現地に移り蓮華寺と稱す。境内に近年有志者により建てられたる佐久間象山及び其の子信次郎の墓あり。〔マツスカ〕松塚(マツカ) 奈良縣北葛城郡にありし村。昭和二年高田町に編入す。〔マツタ〕松田 陸奥國(福島縣岩代國)の古地名。和名抄に白河郡松田郷あり、その地今の西白河郡釜子村・小野田村の邊に當る。延喜式の松田郷もこれなり。〔マツダ〕松田町 神奈川相模國足柄上郡の東南部。酒匂川の東北岸にあり。

東の一部は中部と隣す。中部以北は丹波山地南端の一部をなし約五〇〇米あり。南部は酒匂川流域平地の一部にして、甘藷・大豆等を産し養蠶も行はる。縣道は東方の中部栗野町より來り、町の南部を過ぎて南走し、足柄下郡小田原町に通ず。築港もこの縣道に沿ひて南部に發達す。省線御殿場線は南部を西走し松田驛(明治二十二年設置)を置き、社線小田原(明治二十二年設置)を置き、社線小田原(昭和二年設置)を置く。この地は和名抄、足上郡高家郷の地なるべく、もと郡役所ありし所にして、明治四十二年町制を布く。秀郷流、波多野氏の一族、この地に松田氏を稱せり。治承四年十月、波多野右馬允義當はこの地に自殺せり。(松田神社)大字松田徳領に鎮座。郷社。祭神、日本武尊。式内社。例祭、七月三十一日。〔マツダイ〕松代村 新潟縣越後國東頸城郡の東北部。澁海川に沿ふ。北は刈羽郡に、東は中魚沼郡に界す。村内丘陵起伏し、澁海川は西南より東北へ曲流しつづつ村内を貫き南より一支流を合す。農産を主生業とし米・蕎麥を産し、酒の醸造盛んなり。丘陵は概ね山林・荒地なり。村内を南北・東西に貫通する縣道西部にて交錯し、其處に築港最も稠密なり。東の築港時を越えて中魚沼郡十日町へ約二軒、之より省線十日町線及び社線飯山線道の便あり。

マツイラ 松平村

三河國東加茂郡の南部。岡崎市の北方一〇軒。北は盛岡村に、東は下山村に、南は額田郡常磐村・岩津町に、西は西加茂郡高橋村に接す。花崗岩より成る三河山地中にありて、高度はあまり高からず平坦性を有し、東部には地塔山(六八三米・六所山(六〇六米)あり。東北より西南にかけては巴川流れ矢作川に合流す。交通路は巴川に沿うては東北足助町へ足助街道通じ、西部よりは學母街道が至る。産業はあまり振はず、農耕地は川の流域のみに見られ、山地にも僅かづつの耕地あり。墾墾は散村をなす。明治三十九年、本村及び志賀村・小川村の各一回を以て豊榮村の大字岩谷・下平を除ける部分と、種樺村の大字則定・霧山を除ける部分とを以て新に松平村を建つ。徳川氏祖先の居住せし所にて、同地の淨土宗高月院に松平親氏・奉親父子の墓あり。大字大給は大給松平氏の苗字地なり。松平親忠の二男兼元ここに居り始めて大給と稱しその子親正、額田郡岩津村大字細川の地に移り、子孫繁衍して諸侯に列するもの五家に及ぶ。(六所神社)大字東宮口字六所山に鎮座。縣社。祭神、猿田彦神・事野國守長狭神・岐神。松平親氏が豐能明神を勧請せし社。古來徳川氏の崇敬社にして、江戸時代末印領百六十二石七斗を有す。一に六所大明神といふ。例祭、九月十九日。

マツタカ 松高村

熊本縣肥後國八代郡の西部。八代町の北に接し八代河に面す。地形極めて平坦にして沃野連なり。米・麥作を主とし西風・南風・蘭風等の特産あり。省線鹿兒島本線八代驛は東南方約二軒半にありてバスを通ず。本村は今より凡そ二百五十年前は八代城下の邊茫たる蒼海なりしが、明暦年間以後數回に互り埋築したる新地なり。もと松崎・高子原の二村に分れしが、合併して各一字を取りて松高村と名づく。

計、前アレ待乳山の眺望、奇絶く、金龍山上一圓の雪だ、ハハア金波樓と二態が横でめりやすを奏する聲風に聞ゆ、物部連伊香色雄命の孫、仁徳天皇の朝、國造に定めたまふ記事、國造本紀に見ゆが、その位置詳かならず。大體九州地方と思はるるも、同地方の郡郷にはこれに擬すべきもの見當らず。或はこれは并尊國の誤字にて、肥前國の基津郡(いま三養基郡の中)の邊ならんとの説あり。

す。東部河岸に沿ひ縣道貫通し、對岸を走る省線十日町線の越後岩澤驛に近し。本村は明治戊辰の役その戰場となりし地なり。往時より獨立の一村なりしもの如く分合の形跡認め難し。

マツチャマ 赤打山・眞土山

萬葉集にある地名。また信土山・又打山にも作る。奈良縣宇智郡和歌山縣伊都郡との境にある伊都郡岡田村の大字眞土の邊にあたる。萬葉・一、麻雲よし紀人ともしも亦打山行き來と見らむ紀人ともしも 調音淡海。

マツツカ 松塚村

新潟縣越後國北蒲原郡の西部。日本海に臨む。中條町の西南方凡そ六軒。海岸に沿ふ數條の砂丘群を占むる細長き地帯にて、落堀川時中央を横断し海に注ぐ。墾墾は南北二群に分れて何れも砂丘上に發達す。城内は概ね山林・畑地にして水田は少なし。漁業を主生業とし、養蠶・蔬菜栽培も行はる。道路は砂丘上を縱走する外、新發田町へ無道至りバスを通ず。

マツツカ 松戸町

千葉縣下總國東葛飾郡の西南部。江戸川の東岸にて、西は川を隔てて東京市葛飾區と相對す。東部には低き丘陵地あるも西部は平地にして米を主産し、他に麥・蕎麥を産す。陸前濱街道は北部を東北に走り、主要産業はこれに沿ひて街村的に發達す。省線常磐線また之れに沿ひ、松戸驛(明治二十九年設置)を置く。汽車の他、東京上野驛との間に省線電車ありて交通便なり。東京市内及び南方市川市にバスを通ず。江戸川は水運の便多し。舊郡役所の所在地にして區裁判所・警察署・供託所・陸軍工兵學校・同教導隊・千葉高等商業學校・東京農商務學校・高等女學校等あり。松戸は延喜式馬津驛の遺蹟なり。近世、江戸幕府の時に市川宿と同じく御香所を設け、松戸金町の關と稱し水戸街道を押へたり。また將軍家が小金田邊の時に使用する駁舎設けらる。昭和八年に明村を併せ、同十三年には八柱村を編入して町域を増大せり。明治天皇、明治十七年、文化旅行幸の際この地に御小休あらせらる。(二十世紀聖原樹)指定天然記念物。明治二十一年の栽植にかかり、同三十六年に青梨の優秀なる品種として二十世紀と命名せられ

マツタ——マツト

マツト——マツノ

たり。鳥取・岡山・奈良・新潟等諸縣下に多く栽培さるる二十世紀の原樹なり。

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

するを以て、北部の交通は便利なり。東

北に長く約五軒、幅は平均二軒あり、面

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

マツノ——マツハ

後國東東城郡の東南部。東より南へかけ

十川の上松葉川の流域の地を占め、面

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

【松任町】 石川縣加賀國石川郡の西北部。金澤市の西南方約六

マツハ——マツホ

大阪鐵道は中部を横断し河内松原郡(大正十一年設置)あり。反正天皇の皇居、丹比樂齋宮は大字上田の廣幡社の邊ならんといふ。宮は反正天皇の元年十月より五年正月、天皇の崩御に至るまでの皇居なり。吉野時代この地に松原城ありしと云ふもその証明ならず。延元三年閏七月、因徒この城に立籠り、南軍和田正興・橋本正茂等これを攻め破るといふ。大字阿保は阿保親王(平城天皇の皇子)の居館の地なりといふ。本村と高野村とに互り大塚古墳あり、いま史蹟に指定さる。高野村

【松原村】和歌山縣紀伊國日高郡の西部。御坊町の西に接し紀伊水道に臨む。全村地低平にして、中央を一河川南流し東南部の日高川河口に合す。南部一帯の海岸は遠淺の砂濱にして、その濱ノ瀬海岸は近時海水浴の好適地として知らる。米・蠶・柑橘の農産、綿織物等の工業及び水産等あり。御坊町に接するため交通の便よく、南部及び中部には御坊町より西北に走る鐵道ありて自動車通す。

【松原】伯耆國(鳥取縣)の古地名。延喜兵部省式に松原縣名見え藤原馬五正、久米郡に傳馬五正と見ゆ。縣名と郡名とを對照して松原縣の久米郡の中なるを知る。その縣は山陰道の大路に當り、いま東伯郡下北條村の邊なるべし。同村の大字に米里あり、いまマサトと訓するも、本来はマイサトにして、訓里の轉訛なるべし。

マツマエ

【松原村】岡山縣備前中國川上郡の東部。高梁町(上房郡)の西北約四軒に位し成羽町の東北に接す。東及び北は高倉村、西は宇治村に連る。面積二・二一方軒。東境に高村山(五五四米)あり。村内の地勢概ね山地にて平地乏しく、山間に所々耕作を行ふ。一般に養蠶盛んにして蠶の産額は米に次ぐ。山林地に大部分を占められ、木炭・薪材を産す。山間の僻地にて交通不便なり。この地古くは和名抄、下道郡近似郷の内なり。

【松原】香川県大川郡にありし村。明治四十三年に白鳥本町と改稱す。

【松原村】長崎縣肥前國東彼杵郡の中央。大村灣の東岸。多良岳火山の西麓に位し、地形東西に細長し。全村殆ど多良岳火山の噴出熔岩たる玄武岩の臺地より成り、西方大村灣に向ひ傾斜す。村の中央に聳立つ鉢巻山(三三五米)あり、其の東方に野岳の窪池ありて臺地の灌溉用池となる。南・北兩端に小川ありて水田開け、玄武岩臺地も亦よく耕作され農耕を村の主業とす。大村灣沿岸の松原附近は大村屬地の北限をなす所、豊瀬火口湖より出づる那川の流りし扇狀地なり。粟落は海岸の國道に沿ふ松原を主邑とし臺地の上に農耕集落存在す。省線大村線の松原驛(明治三十一年設置)あり同驛より約五町の八幡神社の標は高さ二十間・幹圍二丈七尺に達する巨樹なり。

マツヒサ

抄に宇土郡林原郷あり、林は松の誤なるべし。その地宇土郡宇土町の邊か。

【松原村】岡山縣備前國備前郡の東部。大里郡と隣す。南境より東境にかけては丘陵あるも他は平地にて農産・養蠶行はれ米・麥・蠶を産す。縣道は兒玉町及び北方本庄町に通じ、省線八高線は中部を西北に走りて松久驛(昭和八年設置)を置く。この地は和名抄、那珂郡那珂郷の地なるべく、近世は松久庄(那珂郡全部この庄に屬す)に屬す。東漢・元暦元年八月の條に、武藏國住人甘糟野次與忠とある甘糟氏の舊地か。大字古郡は古へ郡家のありし所なるべし。(題義神社)縣社。祭神、柳御氣野命・熊野玉命。延喜式の題義神社は當社なるべし。享保八年、正一位に叙せられ、地頭より神領千五百坪寄進あり。例祭、十月十五日。

【松原】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄に宇土郡林原郷あり、林は松の誤なるべし。その地宇土郡宇土町の邊か。

マツフチ

岡山徳宗の代より京都仁和寺の末寺となり寺號を現在の如く改む。

【松原村】兵庫縣淡路國三原郡の西北部。淡路町の東北に接して播磨灘に面し北は津名郡に界す。北部には小丘陵あれど他は概ね地形平坦にて、南部を大日川が西北流し河口近くにて東境より西流する細流を合せ、淡路町の村境より播磨灘に注ぐ。東部の北半に湖沼散在す。西岸一帯は平直なる砂濱をなし松帆浦と稱し、千松原を積みて風を呼び濤を起す絶好の佳境なり。米・麥・蠶・蔬菜・花卉・食用農産・果實等の農産及び瓦・錫・木製品・醬油・双物・靴等の外、蠶製品・養蠶・水産製造物・蠶等の産もあり。二條の縣道が中央を並行して東西にあり、西部に於て兩者相合して淡路に入る。北部の縣道より分岐して北方津名郡内に至る縣道あり。社線淡路鐵道守野驛(東方一軒餘)へバスを通す。附近町村と共に要港地帯の一部を占む。村名はもと倭文松尾山の

マツモト

【松本市】長野縣五市の一。松本平の東邊に位す。信濃中央分水山地の西側に發源して市の東部を南流する女鳥羽川は西に折れて市の東部を南北の二區に分ち、市の西邊に於て同じく市の南部を西流する薄川・田川の二川を併せ、また木曾山

【松原】和歌山縣紀伊國日高郡の西部。御坊町の西に接し紀伊水道に臨む。全村地低平にして、中央を一河川南流し東南部の日高川河口に合す。南部一帯の海岸は遠淺の砂濱にして、その濱ノ瀬海岸は近時海水浴の好適地として知らる。米・蠶・柑橘の農産、綿織物等の工業及び水産等あり。御坊町に接するため交通の便よく、南部及び中部には御坊町より西北に走る鐵道ありて自動車通す。

マツホ

より成地寺を此地に移せしより松尾と稱せしを訛りしものといふ。大字瑞井は安寧天皇の皇子師木津日子命の御子知都美命の淡路之御井宮のありし處といふ。應神天皇以降この宮に屢々行幸ありしことと史記に散見す。記・中・一子、知都美命者皇孫淡路之御井宮(鹿野松原)指定名勝。大字筒飯野にあり。瀬戸内海に臨み、西方並に小豆島に連り、北端は美濃なる五色濱に接し、南端は雁來岬の突角を望む。東西の延長三軒。松は概ね黒松にて點々として砂上に散在し、枝は四方に擴がり姿勢頗る美しく、幹圍の大なるものは約三・九米に達す。

マツマエ

【松前郡】北海道渡島國渡島支庁の南端。支庁管内五郡の一。渡島半島の南端を占め、津輕海峡に南面す。西北は檜山郡、東北は上磯郡に接す。面積四八三・四七方軒。郡内に福山町外五箇村を含む。北端を東西に通互する山脈と、郡の中央を南北に亘るとの二分水嶺を有し、北部・中央部の地勢極めて高峻にして稍東南・西南海岸に向ひて傾斜す。知内川は北部山中に發して東流し、大鳴津・小鳴津・茂草等の諸川は中央山地に發して西流す。及部川・福島川は南流して津輕海峡に注ぐ。諸川の河口に小平地を有すれど、村内概ね山地にして森林に蔽はる。諸川の流域及び海岸に耕地拓げ、米・馬鈴薯・甜菜・麥類等を産すれども、主要なるは漁業なり。福山町を始め本郡の諸村は内地人移住開拓の最初の地にして新潟松前三千軒と稱せられし時代より商港・漁港として發達す。今は商業・交通方面は前館市に奪はれたるも、なほ本道的主要漁業地たるの地位を保つ。鮭・鱈・昆布・柔魚・鰻等の漁獲は總額約二二五萬圓に達す。林産物また豊富なり。準地方道は海岸附近に通じ、近隣及び木古内驛へバスの便あり。海上は福山・福島二港より函館港に汽船の便を有す。

マツモト

【松本市】長野縣五市の一。松本平の東邊に位す。信濃中央分水山地の西側に發源して市の東部を南流する女鳥羽川は西に折れて市の東部を南北の二區に分ち、市の西邊に於て同じく市の南部を西流する薄川・田川の二川を併せ、また木曾山

マツモト

【松本市】長野縣五市の一。松本平の東邊に位す。信濃中央分水山地の西側に發源して市の東部を南流する女鳥羽川は西に折れて市の東部を南北の二區に分ち、市の西邊に於て同じく市の南部を西流する薄川・田川の二川を併せ、また木曾山

マツモト

【松本市】長野縣五市の一。松本平の東邊に位す。信濃中央分水山地の西側に發源して市の東部を南流する女鳥羽川は西に折れて市の東部を南北の二區に分ち、市の西邊に於て同じく市の南部を西流する薄川・田川の二川を併せ、また木曾山

マツモ——マツモ

松本平の消費地を控へ相當榮えしが、信濃の自然に好適せる養蠶製絲の業起り、いまは産業都市としてその勢隆々たるものあり。試に最近の統計によりて市の産業状態を検せん。

Table with 2 columns: 生産額及び百分比 (前年比) and 計. Rows include 農産物, 畜産物, 林産物, 工業物, 水産物, 雑産物, 計.

即ち此表の通り本市生産額一千百萬圓中の大宗を占むるは蠶繭にして、總額の六割二分五厘に當り、これに次ぐを工業の三割三分とす。以上を合計すれば實に總額の九割五分五厘を占む。而して本市の桑園は三、一八三反にして牧園高二七、七九一貫、價額一七、三三九圓なり。蠶の取引高は昭和十年には三三、二五七五貫、價額一、七三一、〇一三圓に達し、蠶繭製造高は六一七、七三九圓に至り、最近五箇年の平均は百萬圓を下らざる有様なり。生絲は僅少の産地あれども殆ど全部は機械製絲にて其額二一四、三〇〇貫に上り、價額にして七百萬圓を突破す。更に生絲を除く工業の主なるも

五四六

のは菓子類の約九十一萬圓、足袋の約四十萬圓、木製品の約四十萬圓、醤油の約二十四萬圓、清酒の約二十萬圓とす。次に農産として米の七、〇七二石、二〇二、七〇七圓をばじめとして、國産農産物の七九、八七三圓、麥の二二、四二〇圓、食用農産物の二一、四三四圓とす。畜産・林産・礦産には見るべきものなし。本市は戸田氏六萬石の舊城下町として發達したる南信の首邑にして、而も明治の初には筑摩縣廳を置かれし所、北信地方の主邑たる長野と常に競争的地位にあり、また富市が往昔信濃の國府の所在地にして一國の殆ど中央に在るより、長野縣廳の移轉問題の如きも、曾ては當地を疑がせ、縣會の問題たりしこと屢々なりき。よりて縣當局は巨費を投じて信濃中央分水山脈に馬車を通ずる新道(二線路と稱す)を開き南北兩信の交通を易からしめ以てこの問題の中和を謀れり。然るに其後に備へ井藤の開通あり、歩兵第五十師隊の宿成地となり、官立高等學校の富市に設けらるるに及びていつか移轉問題は終熄し、今日にては本市は長野縣に於ける文化の中心を以て甘んずるに至れり。試に本市に存在する教育施設を挙げれば前記の高等學校をはじめ縣立に女子師範學校・中學校(二校)・高等女學校(二校)・官學校等あり、市立に女子職業學校・夜間中學校・青年學校(二校)、私立には松本商業學校・松本簿記學校・筑波女學校

(二校)・松本理學學校等あり、この外、大正十四年に設置せられたる縣警の大體技場は市の北部より本郷村の地籍に互りて設けられ、その廣さ二〇ヘクタール、また市内の北馬場には市警の大プールあり、東西八五米、南北一八米ありて、水陸兩種の運動競技の施設完備す。師範學校はもと本市の舊藩校の跡にありしが、明治十九年の師範教育令の改正の際縣廳所在地に移りたるを以て、女子師範學校の新設せらるるやこれを本市に置く。以上の學校のほか市内にある諸官公舎として市役所をはじめ普通の都市に共通なる裁判所・税務署・刑務署・警察署は云ふまでもなく、松本警備司令部をはじめ各種の軍衙、農林省の蠶業試験場松本支場・中央氣象臺松本測候所・松本森林署・高崎地方專賣局松本出張所・縣工業試験場・縣畜畜場等あり。金融機關には日本銀行・勸業銀行の松本支店をはじめ信託銀行・其他、安田・八二・信濃・長野貯蓄等の諸銀行の支店あり、信用組合・手形交換所と相俟ちて金融の圓滑を圖る。近時登山熱の熾となるや、本市は日本北アルプスの稱ある飛騨山脈登山の基地として登山家の最も親み深き所なり。本市の地はもと國府のありし所なるを以てまた信府の稱あり。隣接せる本郷・岡田二村と共に和名抄の幸大郷の内なり。鎌倉時代に小笠原長清此國の守護となり本市の地に據る。居館は本市の西南部の邊なる

べし。永正の頃、島立右近、城を現在の地に營み深志城とも松本城ともいふ。小笠原氏は長く此地を領せしが、戰國の頃より屋敷領主を替へ、江戸時代に至り、享保十一年以後戸田氏ここに治し子孫相承けて明治維新に至る。慶應義塾の時一時松本縣と稱せしが、久しからずして筑摩縣の管下となる。明治九年筑摩縣の廢止と共に長野縣の管下となり、大正十四年南信の松本村を併合して今日に至る。本市出身の人物としては、兵學家の長沼謙吉、軍人としては福島安正、教育行政家として辻新次、銀行家として小松壽一、其他、爵位を受けし水利家等々力孫一郎、勳王家の山本貞一郎等あり。(明治天皇御蹟)行在所の所在地は村社四柱神社境内にありて公會堂の地。明治十三年六月、明治天皇山梨・三重・京都一府二縣御巡幸の際、廿四日舊神道事務分局を在所となし給ひ、翌日松本裁判所・師範學校・開智學校等に行幸せられ、裁判所にては訟廳を、師範學校にては生徒の授業を、開智學校にては地方物産等々それぞれ天覽あらせられ、これ等は何れも史蹟に指定せらる。行在所は惜しくも明治廿一年焼失、その址に大正天皇御大典記念として市公會堂が建てられたり。(城山公園)市の西北端にある城山にあり。室町時代の頃、大奥氏の居りし處。のち小笠原氏も城を置く。その址に存す。山頂には樹多き遊覽の地なり。

マツモ——マツヤ

松本平に突出せるを以て隆盛住地なり。(飛行場) 笹部にあり。大正十三年民間飛行家長谷川清登後授會の市に寄附せるもの。(松本城) 指定史蹟。市の略ぼ中央、北深志にあり。深志城ともいふ。永正元年、小笠原氏の支族島立右近の築きしところ、のち武田氏の時に石川光長更に規模を擴張し、石垣を築き濠を掘り殿舎を經營し天主閣を造立す。寛永年間、松平直政の時、辰巳橋・月見橋等を造營す。天保年間、天主閣以下を修理し今日に至りて城廢せしが天主・小天主・渡り橋・辰巳橋・月見橋は史蹟に指定され、やがて國寶に列す。慶長十八年、貞慶の子秀政、飯田城より移る。爾後元和三年戸田康長、寛永十年松平直政、同十五年堀田正盛、同十九年水野忠清を経て享保十一年再び戸田康長の裔戸田光盛明石より來り六萬石を食み世襲して明治維新に至る。(清城址) 諸にあり。田川と奈良井川とに挟まれたる地に舊址あり。四方水堀を繞らし、約一八〇米平方の平城。守護小笠原氏が能永より永正の初まで約九十年居城の地。深志城に移りて城廢す。(崇教館) 九ノ内にあり。舊藩校。寛政五年に松平(戸田)光行の創立。明治三年に學館と改稱。廢藩の際廢止し一時長野縣師範學校の敷地となる。いま女子職業學校の所在地。(筑摩神社) 大字筑摩にあり。縣社。祭神、豐田別尊・氣長足姫

尊外三柱。國府八幡とも稱す。安藝・筑摩兩郡六百六社の總社にして國府の舊址に當るといふ。本殿は延暦年間(桓守府將軍藤原利仁の造營、中世は神宮寺もありきといふ。大永年間廢す。天文年間、武田・小笠原の兵燹に罹り伽藍一切島存に歸す。爾後歴代領主の崇敬厚し。例祭は八月十一日なるも、前夜宵祭には薄川の磯にて打揚ぐる火花の下に士民遠近より集りて酒宴を催しこれを觀賞す。俗に燈籠祭と稱す。(岡宮神社) 大字北深志に鎮座。祭神、豐田別尊・健甕名方命・伊弉那美命。もとの地方の一大湖水なりしとき、湖中の岡阜に諏訪大神を勧請したるに創まると傳ふ。松本城主代々深く崇敬す。例祭、五月二十二日。(五社) 賽馬場にあり。郷社。片宮・今宮・共武社・淑慎社・陽谷社の五社をいふ。通稱、陽谷社。何れも藩主戸田家の祖神を祀れるものにして家臣一同の氏神とす。(深志神社) 大字南深志に鎮座。祭神、健甕名方命・菅原道真。信濃國守護職小笠原信濃守貞宗深く崇敬し神殿を改造すと傳ふ。例祭、七月二十四日。(福樂寺) 南深志町本町五丁目にあり。眞宗本派本願寺派。北林山と號す。親鸞上人の弟子海野廣事坊の開基。文祿二年島立村粟林より移る。初め本町一丁目にありしが慶安年間説教に罹り、のち水野氏の時現地に移りて再建。(寶榮寺) 安原町にあり。眞宗大谷派。開基は三浦

寛次郎義忠(法名明忠)。永久二年、常陸國下妻に一字を創せしにばじり、のち領主水野準人正忠清これを菩提所とす。水野氏松本移封の時隨ひ來り、寛永十九年寶榮寺を建て享保年間現地に移る。本尊阿彌陀如來。

【松本】 長野縣東筑摩郡にありし村。大正十四年松本市に編入す。【松本平】 長野縣の松本・大町等を含む山間盆地。日本北アルプスの東麓にあり。この盆地は謂はゆる糸魚川・靜岡大層層線による階段地帯の一部をなし、盆地の水は略ぼ中央に集り、犀川となりて信濃中央分水山脈に先行性の流路を作りて善光寺平に流出す。これら諸川の山麓に於ける堆積地は大小層狀地の複合より成り、澗溝可憐の低地は水田となり、その他は桑園と森林原野に占められ、殊に桑園多し。松本市はこの盆地の文化・經濟の中心にて、北部の中部の穂高、南部の鹽尻も亦地方の中心たり。中央本線は諏訪より來りて本官谷に向ひ、篠ノ井線は鹽尻より駛れ松本を経て長野に向ひ、大糸南線は松本と大町を結び、大町と糸魚川を結ぶ大糸北線は目下工事中なり。而して松本は日本北アルプス登山の根據地なり。松本平より諏訪盆地へは鹽尻峠越、木曾谷へは島居峠越、伊那谷へは善知島峠越、善光寺平へは刈谷原峠・猿馬場峠越、上田盆地へは保羅寺峠越、飛騨國へは野麥峠越にてそれぞれ通す。

マツヤ

【松本電氣鐵道】 社線。電車。長野縣松本市及び東筑摩郡内を走る。省線篠ノ井線の松本驛より西南方島々(波多村)に至る一五・七軒と、松本驛より松本市を通りて本郷村淺間温泉に至る五・二軒、計二〇・九軒。省線と連絡運輸す。【松本】 讚岐國(香川縣)の古地名。延喜式に松本見と稱し馬四疋とあり。式の記載の順序より見れば大川郡の内なるべく、松尾村大字田面の邊か。【松本村】 大分縣豊後國直入郡の南部。玉來町の西に接し阿蘇山の東麓に位置す。全村極めて緩き傾斜地をなし東に低し。北部には玉來川が屈曲しつつ東流す。河川沿岸に耕地折げ米・麥・蕎麥を産するも村内山林廣し。縣道が中央を貫きて東西に走りバスの往來盛なり。此地古くは和名抄、直入郡直入郷の内とす。【松本】 松屋。長門國(山口縣)の古地名。和名抄に厚狭郡松室郷あり、萬郡也と訓すれば室の字誤なること明なり。その地今の厚狭郡玉喜村の邊にして、大字松屋はその遺稱なり。【マツヤ】 松合町。熊本縣肥後國宇土郡宇土半島東部の南岸。八代海に面す。北境には大泉の五〇〇米以下の山脈が東西に連りて南方へ傾斜し八代海岸に終る。沿岸には僅少なる低地點在す。水産豊かにして特に海老の産多し。また醤油の特産あり。海岸に沿ひて縣道が東西に走り、約四軒東方の省線鹿児島本線

松橋(ハス通)を越す。縣道の中央に市街地あり。大正五年に町制を布く。藩政時代は細川侯の治下にあり、宇土郡松山手水徳庄屋の支配を受けた。

マツヤ

松山

【松山町】宮城縣陸前國志田郡の東部。三本木町の東方約一〇軒。東北は鳴瀬川を隔てて遠田郡に接す。陸前平野の南部大松澤丘陵の北斜面をなし、西南境に高寺山(一四〇米)聳え、北方に傾斜す。東北半部は土地平坦なり。鳴瀬川は北境をなして東南に流る。米・麥・藁・木炭・馬等を産す。道路は中部を西北より東南に通じ、西北方の古川町へは自動車の便あり。省線東北本線松山町驛(明治四十一年設置)を置く。明治二十三年に町となる。

この地は中世、本郡の鹿島臺村及び遠田郡南郷村・不動堂村と共に松山郷と稱せし地にして、寛永年中まではその郡屬を明にせざりしが、同十七年、檢地の時より志田郡に屬するに至ると。こゝは伊達氏極北の藩屏にして大崎・葛西の二強藩と相接し、而も此地が山海兩道の交會を扼するを以て中央の要害に推されたり。文治の役に源頼朝こゝを過ぎ、天文五年の古川役、天正十六年の大崎役共に此地を以て伊達氏出入の門戸となせり。【松山城】傳によれば初め遠藤出羽高康の居りし所にして、その石川大和昭光、尋で古内匠重直、慶長八年には茂庭則貞良元が移りて以來相繼いで居りし。

古墳三ノ丸は遠藤氏の祖、文皇上人の居りし遺址といふ。【多摩津神社】大字千石に鎮座。舊稱、羽黒山大權現。祭神、倉稻魂命・大山祇命外二柱。寛治年中、義家東夷征伐の際、鎌倉五郎景政創祀す。松山郷十五箇村の總鎮守。例祭、陰曆三月・六月十五日。

【松山村】福島縣岩代國耶麻郡の中部。喜多方町の西北に接す。面積、八・〇四方軒。地勢は東北部に稍高きも概ね平坦にして會津盆地に屬す。押切川は西部を南流す。米・藁・大豆・麥等を産す。道路は中部を南北に通じ、喜多方町へ自動車の便あり。

【松山町】埼玉縣武蔵國比企郡の東北部。北は大里郡と隣る。東境附近は丘陵地をなすも他は殆ど平地にて荒川支流の市ノ川流る。農業・養蠶行はれて米・麥・繭を産し、また清酒の製造行はる。縣道よく發達し、北方熊谷市、南方川越市、東方北足立郡鴻巣町・吹上町等に至りバス通す。主要産業はこれら縣道の集合點に發達す。社線東武鐵道東上線は南部を西北に走り、武州松山驛(大正十二年設置)を置く。郡の首邑にして、舊郡役所のありし所なり。往時は城下町なりしが、天正年中、松山藩城の後、今の所に家屋をなせり。松山城は今は川を隔てたる西吉見村にあり。本町は江戸より中山道熊谷町及び西上州への往還、人馬輻立の驛道にして、或は八王子の千人同心も常に此處

にかかりて日光へ通せり。【箭弓稻荷神社】大字松山に鎮座。祭神、保食命・もと箭弓稻荷社といひ、俗に松山の稻荷と稱す。古來、領主太田・上田・松平・島田等の諸氏崇敬し陸地を寄す。例祭、十月五日。

【松山町】奈良縣大和國宇陀郡の西部。四周は神戶村に取圍まれ南北に稍長く面積僅に〇・一七方軒の小町にして、神戶村の東部を北流する宇陀川の一支流が町の西部を流れ全境殆ど市街地をなすも米の産あり。また商業行はる。市街地の中央を縣道貫通し、東方の宇太町方面と西方の磯城郡櫻井町方面とを結び、バスあり。郡の首邑にして、郡役所を置けり。松山城址あり。初め多賀秀種(堀秀政の弟)此地に封ぜられ二萬石を領す。その子秀家は關ヶ原の役に西軍に屬し除封せらる。福島正親(正則の弟)代りて三萬石を賜はりしが元和元年に除封。磯田信雄、更に五萬石を食みて子孫こゝに住す。元禄八年、伊豆守信武に至り、丹波國柏原に移り、城跡に廢す。江戸中丹波の本新家、森野藤助(贈從五位)及び江戸末期の勤王家、林口吉郎(贈正五位)は本町の人。【松山山口關門】指定史蹟。下茶にあり。舊松山城西の山口門にして警備の南に位す。橋形をなし、正面の柱間十三尺五寸、軒の高さ十二尺三寸、兩圓開の左右に袖垣を附したる藥門なり。江戸時代初期の建築に屬し舊位置を保つ。

【松山町】香川縣讚岐國讚岐郡の北部。東は香川郡と界し、西北は瀬戸内海に臨む。坂出町の東方約六軒。南北及び東西の村境に沿うて高さ三―四百米の山脈連互して聳え、中央部には白峯・兒嶺が隆起して起伏に富む。西南部及び海岸に面せる所は平野をなして耕地拓く。丘陵地もよく開墾せられ米・麥・繭を産するほか柑橘・除蟲菊の特産あり。海岸には鹽田ありて製鹽盛なり。西方の坂出町へ村道通じてバスの便あり。村内白峯の國府臺よりカンカン石を出す。一に磐石といふ。古銅石安山岩の一種、讚岐岩にて、打てば響音を發する故この名あり。本岩は黒色緻密、貝殻狀開口を示し、板狀に割離する石目を有す。此地は王城村と共に古くは和名抄、阿野郡松山郷(萬郡也萬と誤す)の内とす。崇徳上皇の御陵白峯院あるを以て夙に世に著はる。大字高屋の高屋城は正平年中に細川清氏の手りし所にして、細川頼之これを攻略すといふ。また村内に櫻兒ヶ池あり。高さ三一

城下町の關門として奇奇なる遺構なり。【森野養蠶園】指定史蹟。本町及び神戶村に亘る。【神戶村】

【松山】島根縣那賀郡にありし村。昭和九年、下松山村と共に廢し、その區域を以て松川村を置く。

【松山】岡山縣上房郡にありし村。昭和四年、高梁町と共に廢し、その地域を以て新に高梁町を置く。

【松山村】香川縣讚岐國讚岐郡の北部。東は香川郡と界し、西北は瀬戸内海に臨む。坂出町の東方約六軒。南北及び東西の村境に沿うて高さ三―四百米の山脈連互して聳え、中央部には白峯・兒嶺が隆起して起伏に富む。西南部及び海岸に面せる所は平野をなして耕地拓く。丘陵地もよく開墾せられ米・麥・繭を産するほか柑橘・除蟲菊の特産あり。海岸には鹽田ありて製鹽盛なり。西方の坂出町へ村道通じてバスの便あり。村内白峯の國府臺よりカンカン石を出す。一に磐石といふ。古銅石安山岩の一種、讚岐岩にて、打てば響音を發する故この名あり。本岩は黒色緻密、貝殻狀開口を示し、板狀に割離する石目を有す。此地は王城村と共に古くは和名抄、阿野郡松山郷(萬郡也萬と誤す)の内とす。崇徳上皇の御陵白峯院あるを以て夙に世に著はる。大字高屋の高屋城は正平年中に細川清氏の手りし所にして、細川頼之これを攻略すといふ。また村内に櫻兒ヶ池あり。高さ三一

米・稻九米、屬る壯觀なり。【白峰山】嶺の松山といふ。大字青海にあり。花崗岩質より成る國府臺岩臺地の一峯。花崗岩は開折されて山體は圓錐形をなし、頂上は稍平坦、斜面も傾斜緩かにして近時間帯せられ畑地化しつつあり。山頂に崇徳上皇の白峯院あるを以て知らる。山腹に四國第八十一番の靈場たる白峯寺あり。僧空海が弘仁六年に登山し、峯に寶珠を埋め圓伽非を稱すと。【白峯院】崇徳上皇の御陵。大字青海にあり。陵形方丘。上皇は保元の亂に當國に遷幸あり、長寛二年八月二十六日、上皇、讃岐國府(今の府中村大字讀ヶ岡の木丸殿)に崩御。九月十八日、遺體に遺して白峯寺の西北の地に火葬し奉りしも御拾骨の事なく、のち勅によりて御葬所を山陵と稱し奉り、その四周に障を築り、民間一兩戸を割きて御陵を守らしめたり。【神谷神社】大字神谷に鎮座。祭神、春日四神外一柱。式内小社。神位、貞觀十七年正五位上。本殿(建保七年造)は國寶。例祭、十月廿二日。【白峯寺】大字青海にあり。眞言宗御室派。洞林院と號す。四國通路第八十一番の靈場。貞觀二年、智證大師、國司紀夏井の請に應じこの山に上り、補陀落の香木を以て十願の千手觀音像を刻みたりと傳ふるも、伽藍は弘仁六年に創建せられ、弘法大師の開削と云はる。崇徳上皇長寛二年に崩御し給ひ當山の西北の地に葬り奉るや、近侍の僧

マツヤ—マツヤ

章實法印は國府讀ヶ岡なる木の丸殿の御所を遷し鎮座寺と稱し宸筆の御影を安置し奉り、法印は自ら別當として御書提を弔ひ奉る。後小松天皇、鎮座寺の勸願を賜ひ、國寶として現存す。永徳二年、他魚の災に罹りて什寶は鳥有に歸せしも、のち松平頼重、堂宇を修葺し更に寺領五十石を加へしにより舊寺領六十石に合せ百十石たり。堂宇は崇徳殿に擬し、庭前には左近の櫓・右近の橋を築す。明治二年に勅使下向、同十一年、鎮座寺を改めて白峯神社と稱へ金刀比羅宮の攝社とせられしが同廿一年に現狀に改め佛廟に復す。寺寶には歴代の勸請に係るもの及び藩主の寄進せるもの等數多あり。

【松山市】愛媛縣の中央部。伊豫第一の平野たる道後平野(松山平野)の北部に位す。松山平野は南に四國山脈、北に高麗山地の間に略ぼ三角形をなし底邊を伊豫灘に向け、中央部を重信川が東西に流路を取り、四國に於ける四大平野の一なり。平野の南境は中央裂線の大構造線が通じ川上―原町線、森松―郡中線が明瞭なる階層を示す。北境は内帯に屬する花崗岩質の高麗山地が數多の複雑なる階層により地域となり、境線出入あり。斯くの如く松山平野は中央裂線に於て楔形に陥没したる地域にして、階層地塊の小丘が島狀に平野中に残存し過去の島たるを思はしむ。即ち星岡(七五米)・勝山(一三二米)・大峯ヶ臺(一三四米)・大山寺

(一七二米)・辨天山(一三〇米)なり。本市は前記山脈を利用せる謂ゆる平山城と見るべき松山城の城下町として發達せしものにして、廣大なる松山平野を背後地とす。平野は殆ど水田化せるため米・麥の産物に多く、また伊豫餅は平野一圓に製られ久留米餅と共に著聞す。斯くて松山城下町は古來これ等の集積地として、また平野鎮濟の中心として發達す。近年に於ては高麗半島山地部の肉牛の一移出地となり、また綿絲・綿布・製紙等の製造工業の中心地として活況を呈す。本市は勝山を中心として濠を繞らし、内濠には歩兵第二十二聯隊・縣廳・師範學校等あり。なほ松山警備區司令部の所在地たり。その周圍には町家・武家屋敷の舊型家屋が立並ぶ。市の南部より一軒にして松山驛あり。町家の周圍は明治時代以後に成る公街・學校地帯を形成し、南部より東郊に互り縣立高女・刑務所、東郊に松山高等學校および商業・中學・農學校等の中等學校あり。また東郊約二軒に道後湯之町あり、道後温泉として古來その名著はれ、關西の一名泉として、阪神・北九州人士の保養地として榮ゆ。松山城下町は海岸より約五軒内陸に位置するため、その外港として大崎ヶ臺と衣山の兩丘陵間の隘路を通じ三津濱町に達す。但し平直なる砂濱海岸なるにより近代汽船の寄港地としては不適當となり、北部約

二軒、大山寺の山が海中に没せんとする高濱に築港が行はれ、こゝを外港となすに至れり。高濱港は大坂商船別府行の定期航路の寄港地として道後の保養客に便し、更に字品・尾道等とも連絡をとる。本市は省線讚岐本線の松山驛(昭和二年設置)を置き、同線によりて内海臨岸の諸町村とも連絡し、更に今治・多度津・丸龜・坂出・高松に急行を利用し、宇野連絡船により岡山に達するを最短期間として阪神に連絡す。高松驛よりはまた省營バスの豫土線を分岐し、市内には一番町通・立花町の二線(共に昭和九年設置)あり。また高濱へは社線伊豫鐵道の高濱橋河原線通じ、市内に衣山町・江戸町(共に昭和二年設置)・古町・松山市(共に明治二十一年設置)・伊豫立花(明治二十六年設置)の五驛あり。同鐵道の松山郡中線は松山市驛より分岐し土居田驛(昭和五年設置)を置く。かく交通の要衝たるのみならず、文教・政治・經濟に於ても名實共に伊豫の中心都市たり。本市の特産品の産額に伊豫餅二〇〇萬反、捺染二〇〇萬反、綿布類二〇〇萬圓、紡績綿糸二九〇萬圓、美術竹細工三〇萬圓、和紙五〇萬圓、伊豫蜜柑二五〇萬圓とす。このうち伊豫餅は、文化の頃、温泉郡今出村の健屋カナ女の創案にて日本最古の木綿餅なり。明治時代には本市を中心とせる地方の主要物産たりしも、近時産額やや減少す。【松山城】堀ノ内町勝山にあり。加

マトー——マトカ

嶺(一九四二米)・頭流山(二三〇九米)・徳山(一五〇六米)・龍山(一五九八米)・摩天嶺等を起し、遂に日本海岸に至りて熄む。頭流山附近にて東北より西南の方向をとる小長白山脈と交り、更に西南方へ赴き嶺山脈を起す。連峰は何れも白頭山の噴出に伴る新火山岩より成る。この山脈は北半に於て鴨綠江・圖們江の二大水系を分つ一大分水嶺を成す。

マトー 麻豆街 臺灣臺南州會文郡一街四庄の一。郡の西北部に位置す。東は官田庄、西は佳里街、北は下營庄、南は曾文溪を隔てて新化郡善化・安定の兩庄にそれぞれ隣接す。管内は概ね平地にして地勢は東より西に傾斜す。土地肥沃、近年は嘉南大圳の完成と共に灌漑の便また良好となりしを以て、元來農を以て立つ本街の農業は著しく改良進歩の跡を示しつつあり。本街に於ける産業中大宗をなすは農業にして、米・甘蔗・甘藷・蔬菜・落花生・豆類等を主産し年約二百萬の生産額を示す。其他、文具・襪物・芭蕉・白柚・蓮藕・鳳梨・斗桶・マンゴ一等の果實生産あり。殊に文具は麻豆文具として島の内外に喧傳せられ、内地に移出せらるるもの多し。農家に於ては、副業的に水牛・黄牛・豚・山羊等を飼養し年生産額少からず。工業の主なるものは製糖業を首とし製油・麵類・磚瓦類・醬油・紙摺精米を挙げ得べく、其生産額は大にして、他へ移出せらるるもの多し。

五三三

上記の如く本街は農業を第一とし其他の産業も著しく活況を呈するを以て、金融状況も甚だ活潑にして、臺灣商工銀行・信用組合等の金融機關も繁忙なり。また通信力の點に於ても他街に比し活潑なるを以て、麻豆・地蔵に三等郵便局の設置を見たり。一般文化施設に於ては、初等教育機關に小學校一、公學校四、分教場一を有し、一般社會教化機關として圖書館・共榮會麻豆分會・青年團・少年團・國語講習所・部落振興會等設けられてその活躍著し。本街内に於ける交通は甚だ便利にして、總督府鐵道縱貫線は街區域内を通過せざるも、香子田驛より明治製糖會社社線を派だし、本街内を東西に貫通して西隣なる佳里街に達するあり。之に並行して大道路を有し、また他に大小道路は隨所に發達し自動車の運行甚だ盛なるにより管内貨客の運送に大に便す。本街地方に漢民族の足跡の及びしは甚だ古く、清の雍正十二年には麻豆堡なる一堡建てられたり(區域はいま麻豆街の大字麻豆・北營寮・大山脚・埤頭・寮子寮・溝子境・磚子井・安業・謝厝寮及び官田庄の大字西庄とす)。麻豆はもと麻豆と書し、今は再び麻豆に改めらる。麻豆とは往時此地方に占居せる平埔蕃族のモアタワ社に宛てたる近音譯字のあり。モアタワ社の根據地は今の麻豆街の地に於て、西紀一六〇〇年代に、和蘭人により、附近の番人は教化を受け、教會堂及び學校

が建設せられたりと云ふ。當時はマツマウ(Matun)と稱せられたり。のち鄭氏の據するや開屯の地となり、漸次に漢族の足跡を及し、乾隆廿九年に成りし臺灣府志(續修)には既に麻豆街の名見ゆ。また同書に「個風港は三支に分る、西南を麻豆港となす」とあるを見れば、本街は往時急水溪によりて一港を形成せられたるもの如し。本街の名物なる文具は本街に於て栽培の起源古く、康熙四十一年、文具なる者清國より抽苗を移入し之を栽植せしが、のち麻豆堡の住人、その苗の分與を得て試植せしに、その實は甘蔗の速度の佳味を有せしにより、世人の珍重するところとなり、該種は文具なる果名を以て有名となりと云ふ。麻豆堡は我が領臺後引續き行政區劃の一として採用せられたるが、大正九年十月一日、地方制度大改正に際し、同堡の中の九庄(現大字)及び佳里興堡の中の三庄(現大字)を合して麻豆街を建て、臺南州會文郡の管下に屬せしめたり。大字寮子寮・溝子境・磚子井・安業・謝厝寮の地はもと一帯の溪埔地なりし地なり。

マトー 麻豆街 臺灣臺南州會文郡の西部。水原邑の西南約二二軒。南陽半島の中を占め、北は女帝街、南が建設せられたりと云ふ。當時はマツマウ(Matun)と稱せられたり。のち鄭氏の據するや開屯の地となり、漸次に漢族の足跡を及し、乾隆廿九年に成りし臺灣府志(續修)には既に麻豆街の名見ゆ。また同書に「個風港は三支に分る、西南を麻豆港となす」とあるを見れば、本街は往時急水溪によりて一港を形成せられたるもの如し。本街の名物なる文具は本街に於て栽培の起源古く、康熙四十一年、文具なる者清國より抽苗を移入し之を栽植せしが、のち麻豆堡の住人、その苗の分與を得て試植せしに、その實は甘蔗の速度の佳味を有せしにより、世人の珍重するところとなり、該種は文具なる果名を以て有名となりと云ふ。麻豆堡は我が領臺後引續き行政區劃の一として採用せられたるが、大正九年十月一日、地方制度大改正に際し、同堡の中の九庄(現大字)及び佳里興堡の中の三庄(現大字)を合して麻豆街を建て、臺南州會文郡の管下に屬せしめたり。大字寮子寮・溝子境・磚子井・安業・謝厝寮の地はもと一帯の溪埔地なりし地なり。

マトエ 社 臺灣新竹州竹東郡にある番社。高砂族の部落にして種族はアタムル族に屬す。郡内の横屏山西側にあり、標高約四六〇—九二〇米を有す。昭和十二年末の戸口は戸數八七、人口三七〇あり、順路は新竹市より竹東街を経て至る便利とす。

物・鶏卵・畜製品等もあり。頭流及び社山陽電氣鐵道中央を横斷し神戸市・姫路市へ自動車を通す。的形山あり、的形は圓形の嶺にして、その山容よりこの名起りしものといふ。大字頭流の舊稱を韓泊といふ。本朝文粹・二・意見十二箇條「山陽・西海・南海三道舟船海行之程、白・樓生泊・至・韓泊一日行、自・韓泊・至・魚住泊一日行」(淡神社) 大字小坂に鎮座。尊神、素戔鳴命・大歲大神。もと大歲社と稱す。國內神名帳に明神の小社とす。古來當村の氏神たり。例祭、十月十五日。

マトヤ 的矢

【的矢村】 三重縣志摩郡中部の東海岸。的矢灣中部の南北兩岸に亘る地を占む。全村丘陵地をなし海岸の地形やや複雑にして灣中に渡鹿野島ありて本村に屬す。天然の良港にして風波の際船の避難所となる。土地に生産力少く、爲に村民は種々なる生業に従事し、千種萬種なれど、全戸數三二六中、農業九四、工業三八、商業五四、水産業五三、自由業一三、交通業二四、其他五〇あり。北方の島羽港へ定期バスの便あり。此地は和名抄、答志郡伊豫郡の内なり。

必ず誰をこの灣に避く。湯背の青峰山(三三六米)は安業崎の燈臺と共に村人の好目標とす。灣内漁業行はれ、殊に鮪の産多く、これを採る海女の活動は、この地方一帯の特色として著名なり。

マトカ 眞中村 秋田縣羽後國北秋田郡の中部。大館町の西方約五軒。地勢西南部に高く、東北方に傾斜し、西部は山地をなすも、東部は大館盆地に屬して平坦なり。米代川は北境を西流す。引欠川は中部を西北に流れ、西北境に於て米代川に合す。米を産す。道路は東南より

東境約二〇〇米の丘陵にて、東南部の小稍平地をなす。農業行はれて米麥を産す。縣道は東部を縱走し、東北方の鹿沼町、南方の粉木市へ通す。(眞名子嶺山) 當村内に約四〇萬坪の嶺を有する湯滝山。昭和十年の試掘に於て、金屬錳銻八三二種(價額一萬七千餘圓)を産出して一躍重要礦山に列す。同年六月末の嶺夫數は三十四人なり。

に赴けり。眞鶴附近は海水浴場として知らる。(貴船神社) 郡社。祭神、大己貴命。寛平年間の創立と傳ふ。社地は海に臨み、近く眞鶴港と相對し、景勝に富む。例祭、七月六日。

【眞鶴】 神奈川縣足柄下郡眞鶴町附近より東南に約三軒突出せる小半島にて、相模灣と古濱の入江とを分つ。嶺根火山より積り岩より成り、高からざるも全半島丘陵性にして、尖端は三ツ石と稱する數箇の岩石が侵蝕に耐へて海中に残存し、頗る奇勝をなす。その内側の一區は御料林にて、鬱葱たる處女林は斧鉞を知らず、疎に楠の老樹の多きことと氣候の溫暖を示すものなり。藤澤より熱海に至る廣義の湘南地方海岸に於て、最も特色ある出入の變化を興ふる地域なり。海軍の無線電信局と航空燈臺とを置く。

【眞鶴】 高砂族の部落にしてアマヤル族に屬する種族の住地。大深石原の地にあり、標高五五〇米。順路は登原方面より入山するを便利とす。昭和十二年末の戸數三二、人口一二八。

【眞鶴】 茨城縣常陸國新治郡の南部。土浦町の北隣にあり。東南部は霞ヶ浦に臨む。北部は低き臺地をなすも、南部は標高下流平地の一部にして農業行はれ、米を主産し他に小麦・大麦を産す。また製材・製糸・製糖等の工業行はる。陣前街道は中央を北走し、粟栗は山腹を引き、北部は岡中平野に屬し岡府川西南流して眞野灣に注ぐ。西北岸の南半は山地迫りて海崖をなし、北半は岡府川の地積による砂濱なり。聚落は平野及び海岸に散在し、新町はその中心部落をなす。佐渡味噌・乳製品・製材等の工業頗る多し。農産これに次ぎ、米を主とし甘藷その他の蔬菜・副産物の産あり。漁業・牧畜・林業も行はる。縣道は新町部落を中心に西海岸・南海岸と岡中平野とを結ぶ數條ありて、小水・赤泊・夷・相川の諸港へはづれもバスの便あり、また海路船後へ至る身の便あり。村内に石器時代遺蹟及び古墳の散在せるありて、先史時代既に開發されし處ならんも、文獻の微すべきは大化改新以後に屬す。大化改新により民衆の國造を廢して國府を置くや此地は佐渡國府の所在地となる。佐渡は初め一國一郡(鎌太)なりしが養老五年鎌太を削ぎて加茂・羽茂の二郡を置置するや鎌太郡衙を此地に置き、豊臣氏が治府を鶴子(津根町)に移すまで實に九百六十餘年間一國の首府たりしと共に亦實に文化の中心地たり。されば和名抄佐渡國二十二郷の内、大目・竹田・鎌太の三郷は凡そ本村の地に當り、往時より戸口の稠密なりしを知るべし。また天平十三年の詔勅により國分寺建立せられ、其後、妙宣寺・世尊寺・太運寺の他村より移建せらるゝありて信仰上の中心地となる。鎌倉幕府に至り相模國海老名氏の一

これに沿ひて南部に發達す。省線警務線東部を東北に走るも村内に譯なく、社線筑波線は南部を西走して眞鶴驛(大正七年設置)を置く。大字木田余に城址あり。信田庄司轉純の子、純宗(伊勢守)の築くといふ。天文二十三年小田氏治、菅谷勝貞をして純宗を土浦に誘殺せしむ。天正元年太田三樂等、小田城を陥るるに及び氏治走りてこれに入る。同六年堀原政景これを陥れ氏治逃走す。已にしてこれを復し、奪てこれを失ふ。また此地は元治元年水滸天狗黨の亂の際、田中胤廣等此地に入りて人家を焚き財物を掠めしも藩兵の守備あるを見て北走す。(八坂神社) 大字天王前に鎮座。郡社。祭神、素戔之男命。古來領主の崇敬篤く、近世除地四石三斗九升を有せり。

マナヘシマ 眞鶴島村

岡山縣備前國小田郡の南部。笠岡町の南方。瀬戸内海に横る群島の一個。眞鶴島一島より成り、北木島の東南に並ぶ。面積三・一八平方町。附近島嶼多く、西北には北木島を隔てて白石・高・神ノ島あり、西方數軒に小飛鳥・大飛鳥等散在す。風光の美に加ふるに附近は鮭網・鯛網の本場にして毎年五月頃より鮭船籠笠岡町より毎日仕立らる。村内は漁獲物の外、海岸の平地に麥を産し、一般に養蠶行はる。島内概ね臺地にて山林繁茂す。笠岡町及び多度津港に汽船の便あり。瀬戸内海國立公園の一部をなす。

マニワ 眞庭郡

岡山縣十九郡の一。美作國の西北隅に位し、北は鳥取縣東伯・日野二郡に、西は阿智郡に、南は御津郡、東は吉田・久米二郡に接す。面積八二五・七六平方町。郡内郡山・久世・落合三町外十四箇村を含む。旭川上流の流域地を占めて、四周は山地に圍繞せらる。北部には中國山脈の分水嶺並互し、伯耆大山(一七一三米)・上蒜山(一一〇〇米)・毛無山(一一六四米)・入道山(一〇四〇米)の高峯相重りて、高嶺を極め諸川の發源地をなす。旭川は西北山地に發して中部を南流し、東西山地より日水・本庄・新庄・備中等の諸支流を合し、廣大なる流域を作る。沿岸平地は本部の稲妻なる耕作地域をなし米・麥・蕎麥を産す。中央部の新庄川・備中川の清流に合する處に小盆地ありて勝山町・久世町及び善合町等の郡邑發達し、古來、山陰・山陽間の交通・商業の衝に當る。山地は概ね山林地帯にして、葡萄・柿・梨等果樹の栽培盛んなり。養蠶・醸造一般に發達し、鹽・酒類・海苔及び木炭等を産出す。省線新線と出雲街道は中部を貫き、前者の美作道分・美作善合・久世・中國山その他の諸驛を有し、バス陸部諸邑に通ず。

マヌタ 満田

武藏國(東京府)の古地名。和名抄に花原郡満田郷あり、その地今評かならざるも、凡そ今の東京市浦田區龜上町の邊ならんか。

マヌル 眞野

岡山縣備前國相馬郡の東部。鹿島町の南に隣り、原町の北方約五軒、東は太平洋に面す。阿武隈山地の東斜面に屬し、地勢西部に高く東方に傾斜して海岸に段丘をつくる。眞野川は北境を東流して太平洋に注ぎ、沿岸に耕地拓く。米・蕎麥・生魚の産あり。陣前街道は中部を南北に通じ、鹿島町と原町へはバスの便あり。此地の島嶼は一に鳥濱と稱せし地。(日吉神社) 大字江連に鎮座。郡社。祭神、大山咋命。合祀、飯田彦命・熊野神社。北高瀬家は靈山城にありしが城の爲に敗れ、將下桑折元家等雲山の山王大權現の御神體を當地に勧請す、これ當社なりと傳ふ。眼病に靈驗ありとして參詣する者多し。例祭、四月二十七日。(男山八幡神社) 大字寺内に鎮座。郡社。祭神、健甕名方神・息長足命命を祀る。相馬藩主黒田の崇敬社たり。

【眞野】 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に久慈郡眞野郷あり、その地は今の那珂郡上野村の邊か。

【眞野村】 新潟縣佐渡國佐渡郡の西部。眞野灣東南岸を占む。東南部・西南部には前佐渡山脈の諸峯並互し、北及び西へ

眞、本岡右馬允忠は佐渡の守護を命ぜられ、曾孫眞野は今の河原田町に住し、其弟宗忠は本村眞野城に居りしが、其後本岡氏の一族各地に占據し、殊に眞野城の本岡氏の所領は殆ど國の半部に及びしかば、世呼んで中國殿と稱へ一族十三地頭の盟主として威を振ふ。承久三年七月執權北條義時、順徳上皇を當國に遷し奉る。御在島二十二年の間、城主本岡山城兵衛尉宗宣預り奉る。文永八年執權北條時宗、日蓮上人を當國に遷し新徳村と二宮村市に置く、遠藤盛遠の裔なる爲盛日蓮に歸依して阿彌坊日得と稱し深夜密かに食を遺りてその危難を救ふ、妙宣寺は日得の開基と傳へ、大字に阿彌坊の名を存す。正中二年十二月、日野表朝朝配流せられ、眞野城主これを監す、居ること七年、執權北條高時は從從順天皇を隱岐に遷し奉るに及び城主山城をして御を斬らしむ。朝の一子阿新丸は父の仇を報じて遁る。諸曲横風はこの願末を演ぶ。天正十七年六月上杉景勝、北佐野の地頭と力を賜せ一國を平定してその領邑となす。南軍は實に眞野・吉岡・眞手(以上本眞野村の内)・羽茂・大野等とす。當時眞野城主本岡信濃守高遠は二十九ヶ村を領し、吉岡城主の本岡遠江守正方は吉岡一ヶ村、眞手城主足立兵衛正義任は眞手(本村大字豊田)外二ヶ村を領せり。豊臣氏天下を統一するや豊野の封を會津に移す、これ眞野西三川村の砂金山及び鶴子

眞山(深根町)を直轄せんと爲めなりしならん。徳川氏は佐渡を以て直轄の地とし治府を相川に移せしめ、本村は漸く行政の中心を離れたるも、遂後に到る公道たる小水・赤泊に通ずるの故を以て戸口は却て増加するの結果を生ぜり。明治二十二年に村制施行、いま新町・眞野・吉岡・名古屋・大川・國分寺・竹田・阿彌坊・長石・四日町・金丸・豊田・菅谷・津島・下黒山・靜子の十六大字に分れ、役場を新町に置く。(順徳天皇火葬所) 大字眞野字林にあり。天皇は佐渡御在島二十二年の歲、仁治三年九月聖壽四十六歳を以て登遐あらせらる。よつて御遺骸をこの地に火葬し奉り陵を築き、眞野御陵と稱せしが、明治二十二年、御陵を京都府愛宕郡大原村大字勝林院に御治定になり、爾來「順徳天皇火葬所」と公稱せらるるに至る。慶内山陵修補に先づ二十年、延寶七年佐渡奉行菅根吉正は周圍に陵を築り、土手を築き門を建つる等大いに修補し奉り。明治七年十一月初めて守了を置き守衛し以て今日に至る。(眞野宮) 大字眞野にあり。縣社。順徳天皇を主神とし、菅原道雄・日野資清を配祀す。順徳天皇は承久の變に佐渡國に遷幸せられ、同地黒木御所にて二十餘年の春秋を送らせ給ひ、仁治三年崩御せらる。帝に仕へ奉りし池野藤人權頭資純は山陵を營み、國分寺をしてこれを管せしめ、尊像を彫みて國分寺末、眞野寺に奉安し御靈を祀

る。明治七年、明治天皇特別の恩召を以てその尊像を攝津國官幣中社水無瀨宮に遷祀し奉らる。然るに島民同天皇の御徳を追慕し奉りて、朝廷に請ひて御廟を賜はり、眞野寺の故地に神祠を營む。これ當社の創建なり。翌九年五月順徳天皇遺愛の菅公像・日野資清の像を配祀す。同十一年車駕北陸を廻幸し給ふや、御使御差遣ありて御代拜せしめ給ふ。近年社殿の改築成る。(徳ヶ浦) 大字豊田の海崖をいふ。眞野灣を一時に収め得て風光絶佳、水は淺く大船の出入を許さざるも、往昔は岡府(眞野村大字竹田)の要津なりしもの如し。順徳天皇の佐渡御遷幸の際に御上陸あらせられ、隱岐に御遷幸なりし後鳥羽上皇の御身の上を思召されて「いささらは瀧うつ波にこと問はんおきのかたには何事かある」と詠み給ひし處なり。名稱もこの故事より起ると云ひ、一説に國府の浦の轉訛なりともいふ。また「思ひきや雲の上をばよそに見て眞野の入江に朽ちばてん」との御歌もこの處を詠給へるもの。いま海近く小高き處に御上陸記念碑を建つ。尙この地は大正五年七月、皇太子殿下が佐渡へ行啓あらせられし時にも、御上陸遊ばされし處にてその記念碑あり。上皇は承久三年七月二十日京都を發し北陸道を経て越後寺泊より富國に渡らせ給ひ、眞野村の國分寺を行在所と定め給へるものなるも、御着船の日評ならず。(堂所行宮址) 大字眞

野にあり、御火葬所を築る六軒の山中にあり。上皇この處にましめて専ら佛果を願ひ召され、また此堂にて崩御あらせらるゝ傳ふ。上皇御遺愛の太郎移も枯死し、皇陵記に載する「都忘れ」の白菊も今は絶えて無し。御製「いかにして契りおきけん白菊を都忘れと名づくにもうし」

引田氏の奉養せしものか。上杉氏の崇敬社。俗稱、引田明神。例祭、陰曆九月九日。(大目神社) 大字吉岡に鎮座。村社。祭神、大己貴命、或は大宮實神と云ふ。初め羽茂郡尾村に鎮座ありしを徳治二年に吉岡地頭本間道江守吉岡地内に移し、後また現地に轉す。(佐渡國分寺塔跡) 指定史蹟。大字國分寺京ヶ峰にあり。天平十三年の詔勅により創建されし國分寺の遺蹟にして、現在の國分寺の西方、金堂・講堂・廂廊、並に塔跡に擬定すべき地點に礎石を有し、奈良時代の古瓦を發見せり。堀の礎石の存するは稀有のこととさる。(國分寺) 大字國分寺にあり。新義真言宗智山派。誓王山と號す。天平年間、聖武天皇勅願の諸國分寺の一。正安年間雷火に炎上し、享祿二年再び同様に罹る。承久三年順德上皇の行在所に充てらる。本尊は木造藥師如来坐像にて國寶。(世尊寺(國府遺蹟)) 大字竹田にあり。本門宗。合法久住山大覺世尊寺、俗に法久山と號す。開基は遠藤四郎盛國にして、順德上皇の冥福を祈るため上皇の御齋佛神像を安置し一字を建つるに始まると云ひ、畑野村西方にありしが、弘安中、木村大智四日町字西浦田に移り、天正十年泉澤小四郎その城址を寄附して現地に移す。(大願寺) 大字四日町にあり。時宗。貞和元年の開基。もと府中橋本の道場と稱し、文龜の頃より月並蓮歌の會あり、六十坊を有せし

大寺なりしも天正の兵亂に寺坊焼失し表戸八本、内陣及び前札のみ災を免る、慶長十四年大久保石見守再建、當時二十代信願上人は藤澤山清淨光寺二十代となり元祿九年十月寂。(太運寺) 大字竹田にあり。曹洞宗。享徳元年地頭本間信濃守長信創立、初め金澤村貝塚にありて法久寺と號せしが、その子高康は永正三年に現地に移し寺號を改む。境内に春日惣次郎の墓あり、惣次郎は武田家の老臣高坂彈正の甥にて、主家滅後は佐渡に連れ當時羅漢堂にありて、彈正の遺著甲陽軍鑑を増訂し四十歳の頃病歿す。また惣次郎の携へ來れる未開紅と名付る梅ありしが今はなし。(妙宣寺) 大字阿佛坊にあり。蓮華王山と號す。日蓮上人新徳村家原にありし時、密かに食を饋り危難を救ひし遠藤爲盛(日得)の舊蹟なり。爲盛は順德上皇に奉侍せる北面の武士(爲盛は遠藤武者遠藤四郎の孫、故ありて流罪せられ新徳村に居るといひ、又遠藤の弟なりといふ)にて、上皇の崩後入道し陛下に心養に服すること三十年、時の人阿佛坊と稱ふ。その妻は右衛門督局の侍女にして局と共に尼となり、千日尼といひしが、後夫妻共に上人を保護し、上人も深く二人を敬愛され、慈母の再生かと嘆賞せし謂ゆる中老僧の一人なり。その子九郎盛綱(日蓮)も上人に歸依し、弘安元年父子相謀りその宅を捨て寺となす、即ち妙宣寺なり。初め新徳村にありしが舊

曆元年豊田城主本間泰昌、これを居城の傍ヤセガ平に移し、天文中に至りその子孫なる高嶺また田園を寄附し、現地に移せり。弘安以降、阿佛坊と稱し來りしが天正十七年に現寺號に改む。古來北陸道七箇國法華の棟梁と稱され、寛文中、身延・池上・中山三寺の輪番所となり、明治十一年に獨立し本山に定めらる。境内に日野表朝の墓あり、また五重塔(文政八年三月起工、機梁相川茂三右衛門)は國寶。(應石堂) 大字豊田にあり。文永十一年三月、日蓮上人救免歸會の折、豊田字豊屋崎の八兵衛の門徒にありし石に腰懸け、弟子、檀那に辭別ありし舊蹟にて昭和三年に小堂を建てしが、明治三十八年に世尊寺境内に移し、大正十年更に舊跡地附近なる今の地に轉す。(一杯清水) 大字豊田字長阪にあり。日朝上人、日蓮の救免狀を携へ小木より國中に入る途中この地に到りしに晴湯き氣息被れて聲出でず、杖にて地を突きしに清水忽ち湧出し、これを飲みて心脾爽快なるを得たりと。(石他の梅) 大字眞野にあり。もと式部長吉の宅跡にあり、長吉は順德上皇御運幸の際奉仕せる駕輿了の後裔なりと。その樹幹目通り五尺餘、高さ二十餘尺、花は單瓣にて色淡紅、根幹は石を抱き枝葉四方に繁茂し梅世の名木なり。【眞野遺蹟】 新潟縣佐渡島西岸の大瀧。一に二見瀧ともいふ。北に淺ヶ鼻、南に田切瀧が平出してその口を扼す。瀧は

南西に面し、灣入約四渡、闊約三・五渡、水深は中央二〇尋内外にて、水底砂礫多く、國府川灣の東より注入す。南または西の風の強き時は碇泊安全ならず。また灣内所々に險岩暗礁あり。灣頭には河原田町・澤根町等あり。【眞野村】 遊覽縣近江國遊覽郡の中部。堅田町の北に接し琵琶湖の西岸に臨む。西部は比叡山脈東麓の山地にて高さ約二〇〇米あるも東方琵琶湖岸に向ひて低下し、眞野川中央を東に貫流し堅田町に入りて湖に注ぐ。對岸約一軒餘を隔てて野洲川三角洲の突出あり。農業を主として米・麥・桑葉・繭・雜用作物・茶等を産す。湖畔に沿ひて縣道貫貫し、其西に社線江若鐵道走りて眞野驛(大正十三年設置)あり。この地はもと眞野郷と云へり。夫木・二八に「からさきやならの山にあらねとも小柱なみよる眞野の秋かせ 師俊」とあり。(神田神社) 大字眞野に鎮座。祭神、志國尊命・天押命日子命。式内社。嵯峨天皇弘仁年間和珙等の創建にかゝる。例祭、十月十日。【眞野】 讀城國(香川縣)の古地名。和名抄に那珂郡眞野郷あり、萬乃と訓す。その地今の仲多度郡神野村邊に當る。【マハシ】 馬橋村 千葉縣下總國東葛飾郡の西部。小金町の西南にて、江戸川の東岸にあり。北は流山町と境す小村なり。全村平地にて、附近一帯に廣く沼田

の一部をなし米を主産す。其他に麥・蕎麥を産す。陳前濱街道は東部を東北に走り聚落はこれに沿ひて發達す。江戸川沿ひには、縣道北走して流山町に通ず。省線常磐線は濱街道に沿ひて走り、馬橋驛(明治三十一年設置)を置く。同驛より社線流山鐵道分岐して小金町を経て流山町に通ず。この地は小金町の域内にして、常陸街道の驛路に當る。(眞滿寺) 臨濟宗大徳寺派。法王山と號す。建長五年千葉頼胤、鎌倉極樂寺の良慶を請じて小金の地(いま小金町)に大日蓮を建立し、良胤の時千番に移し、足利氏藩の時に山城天龍寺の古天を請じて中興開山となし眞滿寺と稱す。徳川家康寺領七十石の朱印を附す。明治四十一年火災あり、近年その一部復興す。金剛力士立像二軀は鎌倉末期の作にて國寶。中氣除不動祭・唐檢供養行はるるを以て著る。【マハトア】 社 臺灣新竹州大湖郡の舊社。高砂族の部落にして、種族はアマヤル族に屬す。汝水溪支流の地方にて、標高四二〇米・九〇〇米の地にあり、苗栗より大湖を経て至るを便とす。昭和十二年末現在の戸數二一、人口二二九あり。

【マハラ】 眞原岡 文徳天皇の田邑陵所在地の丘。山城國(京都府)葛野郡田邑郷にあり、初め眞原岡と稱へしも、のち田邑郷名によりて田邑陵と稱へ奉る。いま京都市右京區太秦中野町にあり。【マヒル】 眞畫山脈 秋田縣横手盆地の東方にある山脈。奥羽山脈の一部を作るものにて、栗駒火山と駒ヶ岳火山との間をほぼ南北に走る。山脈の大部分は主として第三紀層より構成せられ、處々に火山岩と花崗岩の露出あり。その西斜面は断層によりて切断されし断層崖によりて西方の盆地に臨み、明治二十九年、陸羽地震の際にはこれとほぼ平行して走る龜裂を生じ、之はその後もなほ活動し、謂ゆる活断層として知らる。【マヒルハ】 社 臺灣新竹州大湖郡の舊社。大安溪左岸の地、標高六六〇米にあり。高砂族の部落にして種族はアマヤル族に屬す。臺中州豊原方面より至るを便利とす。昭和十二年末、戸數四九、人口二九四を有す。

【マフチ】 馬淵村 遊覽縣近江國蒲生郡の西部。八幡町の南方約四軒餘にありて日野川の右岸に沿ふ。東北隅に二〇〇米餘の瓶割山あり。また東南部は細長く東南方へ突出して、その尖部部に雪野山(三〇九米)あれど其他は概ね土地低平にして一望沃野開け、南境に沿ひて日野川が屈曲しつゝ、西北流す。農業を主産とし米・麥・桑種等を産す。中山道が西北部を東北より西南に横断し之と交又して走る縣道數條あり。各道路は概ね自動車に往來あり、省線東海道本線近江八幡驛にも近く(西北方一軒餘)交通便なり。中世に佐々木氏の一族この地に馬淵氏を稱す。大字馬淵に木村重成の遺蹟を傳ふ。重成ここに生るとも、重成の室重成の大坂城にて討死後この地に奉り一子を生み、後自殺すともいふ。(八幡社) 大字馬淵に鎮座。村社。祭神、豊田別命。天武天皇御宇の創建と云ふ。本殿は國寶。例祭、五月三日。(觀音堂) 大字馬淵にあり。宗派なし。草創年次は不詳。本尊聖觀音立像(木造)一軀は國寶。(西來寺) 大字千僧供にあり。天台宗眞盛派。開基は僧眞盛。天正年間兵火に罹り、一時中絶せしも、寶永七年に僧眞祐再興す。阿彌陀如来像(木造)一軀は國寶。(福壽寺) 大字馬淵にあり。黄檗宗。巖山と號す。淳和天皇の勅願にて創建、元龜年間兵災に罹り大正二年に焼失せしも、同八年再建せらる。千手觀音立像(木造)一軀は國

マリヤナ—マリユ

が環石安山岩なるは、富士火山脈と連絡あるを暗示す。島の高度もその面積に比し大にして...

産物の凡そ九九%はサイパン・タニアン兩島に栽培せられ、南洋興産会社の經營にかかると...

Table with 2 columns: Product Name (e.g., マニオカ, パイン) and Quantity/Value (e.g., 1000, 2000).

マリヤナ群島主要産物(昭和十年)
マニオカ 1000
糖 2000
...

マリヤナ海溝
マリヤナ群島の外側を風状に走る海溝にして、餘り大ならざれど極めて深し...

三六三

マル

砂族部落にて、アマヤル族のマリコアン等に属す。その祖は濠洲高郡マリコアンに出づと云はれ、この地方一帯の蕃社はマリコアン蕃の稱あり、最近に山脚地帯に移住、又は他社に移轉す。

丸

丸山 日光の群馬縣側にある湖にて、菅沼と大尾沼の間に在り。行政上は群馬縣利根郡片品村に属す。即ち菅沼の水が八丁流となりてこの沼に瀉下し、別に湯澤の水と共にここに注ぎ、西より大尾沼を経て大瀧川となりて持水し片品川に注ぐ。高度一四〇三米に在り、面積〇・一四四方軒にて、湖岸線延長一・九軒。最深所は西南隅にありて深度一九・六米。昭和五年に上毛電力會社が大尾沼との境界に堰堤を築き、湯水期に貯水する爲この沼の水位は二〇米も昇り、面積は以前の約三倍となり、周囲の山林は枯死せり。透明度は五・六米にて、水温は夏季二〇度、表面より急に降り底層は八度、冬は結氷下にても深層は五度にて、これ湯水が注入するためなり。

丸

丸川 千葉縣安房郡安房郡の中郡。全村丘陵地にて森林多く、中央はその標合にて丸川南流す。南部には川沿ひに狭き平地ありて米を主産し、他に蕎麥・粟・トモト・ヒースあり。縣道川沿ひに通じ、東は鴨川町方面、南は千倉町方面に通ず。東南方四軒の南三原村内に省線房越西線南三原驛を置きバスを通ず。この地はもともと編み物と稱せしが、明治三十三年に丸村と改稱。和名抄、朝夷郡編み物の地に於て、東郷・治承四年九月の條に源朝朝、安房郡丸御前を遣見し、九五郎信俊は案内者たる由見ゆ、これこの地の豪族にして、保元物語にも丸丸の名見ゆ。(石堂寺)天台宗。長安山と號す。神龜三年に行基の創建と傳ふ。中興開山は定辨。文明十八年、安上のち再興す。本尊、十一面觀音立像一軀(木造、俗稱厄除觀音)および本堂は國寶なり。

丸

丸岡町 福井縣越前郡坂井郡のほぼ中央。福井市の東北約一軒。越前平野の東邊に在るを以て城内地低平なり。今に専ら人糞物の産地として著名なるも...

マルカ

マルカ

丸

丸

丸

丸

丸

丸

マルホ——マルヤ

一帯の山脈が連りて全村傾斜地をなし中...

マルモリ 丸森町 宮城縣磐城國伊...

マルマツ 丸松 省線天鹽線の一驛...

マルモリ 丸守村 福島縣岩代國安...

マルヤマ 丸山 只見川の右岸に富り、福島縣...

マルヤマ

丸山町 北海道石狩國石狩支庁札幌郡...

マルヤマヒガシ 岡山東村 福井...

マレットツバ 社 臺灣臺中州龍高...

マロ 万呂村 和歌山縣紀伊國西牟婁...

マワシ 眞和志村 神戶縣磯城郡...

マルヤ——マワシ

コアツ・ホホノキ・イタヤカヘデ・ヤチ...

拓植の緒に就くや、國土經營の三柱を撰...

北に走り福井市・丸岡町間バス通じ交通...

丸山町 北海道石狩國石狩支庁札幌郡...

マンカ—マンシ

慶長十年以前の創建。世人、聖現寺の舊...

マンカ 萬華 臺灣總督府鐵道...

マンケ 萬頃 朝鮮全羅北道金堤郡の西北部...

マンケ 萬頃 朝鮮全羅北道金堤郡の西北部...

三六八

東北に富士山を見晴し、富士見三景の一...

マンシ 萬字 省線室蘭線の一。石狩國空知...

マンシ 萬字 省線室蘭線の一。石狩國空知...

マンシ 萬字 省線室蘭線の一。石狩國空知...

マンシ 萬字 省線室蘭線の一。石狩國空知...

マンシ—マンタ

治産に是を有す。庄下産業の主なるもの...

マンシ 萬石浦 宮城縣牡鹿郡石...

マンシ 萬石浦 宮城縣牡鹿郡石...

マンシ 萬石浦 宮城縣牡鹿郡石...

マンシ 萬石浦 宮城縣牡鹿郡石...

マンシ 萬石浦 宮城縣牡鹿郡石...

マンセ 萬聖 朝鮮全羅南道...

マンセ 萬聖 朝鮮全羅南道...

マンタ 萬太郎山 一に...

マンタ 萬太郎山 一に...

三六九

マンタ—マンリ

と稱する丘陵にある墓地附近の傾斜面に...

マンニチ 満日 新潟縣中蒲原郡に...

マンネン 萬年 大分縣玖珠郡に...

マンネンチヨ 萬年町 新潟縣...

【萬年町】 大阪の町名。現今東區谷町六...

マンノ 満濃池 香川県讃岐...

マンノサワ 萬能澤 北海道...

マンバ

は金銀銅なるが昭和十年には金銀二、...

マンバ 万場町 群馬縣上野國多野...

【萬年町】 大阪の町名。現今東區谷町六...

マンノ 満濃池 香川県讃岐...

マンノサワ 萬能澤 北海道...

マンホ

は品位は平均三五—四五...

マンホ 満浦 朝鮮總督府鐵道...

【満浦本線】 朝鮮總督府鐵道...

マンリ 萬里庄 臺灣臺北州基隆郡...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

MANHO

蹟多々あり、また硫黄山もあれど主なる...

字位記及び北新にあたる。和滿三年に元...

三

【三村】 茨城縣常陸國新治郡の東部。高...

【見島】 島取縣東伯・西伯二郡の界...

【御崎】 島取縣東伯・西伯二郡の界...

【美合】 愛知縣額田郡にありし村。昭和...

【美合】 愛知縣額田郡にありし村。昭和...

【美合】 愛知縣額田郡にありし村。昭和...

【美合】 愛知縣額田郡にありし村。昭和...

【美合】 愛知縣額田郡にありし村。昭和...

三

三年に岡崎市に編入、村名を失ふ。

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

三

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

三

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

【美合村】 香川県讃岐國綾歌郡の南部...

中條の北邊坊あり、一條より五條までの東に京外條坊の區域を存せしが、いま北

大同五年皇室より五重塔・長廊の寄進あり。歴朝の尊信厚く平安初頭に寺門隆盛

僧許運に勅して一百の僧を度し、除病延命を祈願せしめられたり。依つて觀感の餘

なほ佛足石とその後に佛足石歌碑あり、天平勝寶元年文屋眞人智努王の亡夫人

べく、日本後紀に「大同三年、廣徳登國風至郡三井大市・特野・珠洲六箇郡、以

【三井】 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に高岡郡三井郷あり、今の高岡郡新居

北走し、一は東北に横切りて朝倉郡甘木町に達す。古くは御井郡に作る。名稱は

【三井】 石川縣能登國風至郡の中部。風至山中の一部を占め河原田川の水源を

ミイ

ミイ

ななし部は概ね内陸にあり。銀水村は海濱に築港を施して小良港をなせり。低地は農業に適して水田よく拓け、米産多...

坑・鑛山會社の發展につれ三井關係の従業員増加し、三井により衣食する者多し。蓋し親は農業、子供は三井勤務なるが如し。...

南北約二二軒の地域とす。炭層を包蔵する地質は全部第三紀層にして、主として花崗岩質青白粗粒の砂岩より成り、上部に至るに従ひ頁岩・變岩の累層を交へ、...

むる要因の一とすべし(昭和十年に一〇〇萬噸以上を産出したる炭礦は別表の如し)。なほ出水量多きことも當炭田の特徵の一とす。...

最も古けれども今は振はず、萬田・四ツ山は現在最も殷盛なり。而して三池炭礦の全區域が所在する市町村は大牟田市を中心に、三池郡にては三池町・三池町・玉川村外二箇村、熊本縣に入りては玉名郡の荒尾町、外六箇村とす。...

三池町は、大牟田の發展と反比例に衰へぬ。下りて昭和四年大牟田は南隣の三川町を併合する事により熊本縣と境を接するに至りしが、かくの如き大發展は、勿論三池炭田の優秀な根本因とするも、三池炭礦が石炭の豊富なるを利用し、...

三池町は、大牟田の發展と反比例に衰へぬ。下りて昭和四年大牟田は南隣の三川町を併合する事により熊本縣と境を接するに至りしが、かくの如き大發展は、勿論三池炭田の優秀な根本因とするも、三池炭礦が石炭の豊富なるを利用し、...

國西村山部の東部。寒河江町の北方約三軒。谷地町の西南約四軒。面積三・三五方軒。山形盆地に屬し、全村平坦にして寒河江川は南部を東流す。米・蕎麥・草履表を産す。...

また地帯に接し立地す。濱野頭頂の濱ノ畔を本村の主色とし、北方の柏、南部の海岸等は何れも牛島・牛漁の繁華の主なるものなり。濱ノ畔は五島航路の寄港地たり。三井船はもと美彌良久に作る。即ち肥前風土記に、直喜島(中略)遺唐使、從此發到美彌良久之濱云々とあり、上代遺唐使の船の寄港地なり。また横日本後紀、承和四年遺唐三箇船、共指松浦郡曼樂塔發行云々とあり曼樂に作る。萬葉には美彌良久と記載す。何れも上代交通の要津として知られし所なり。

ミイリ 三入村

東島縣安藝國安佐郡の東北部。可部町の東北に連りて南北に細長く延び、北は山縣郡に、東南は高田郡に昇し、東に大林村、西に鈴張村・龜山村と接す。面積三〇・五方軒。北に龜前坊山(七八九米)・冠山(七三六米)・堂床山(八六〇米)聳立して郡界をなし、南に白木山(八九〇米)聳ゆ。村は此の兩山地の間に存し、北部・南部は地勢高峻なるも、中央部に傾く。太田川の一支流中央山間を貫流して沿岸に良耕地を拓けり。他の大部は山林地なり。米・麥・蕎麥・清酒・薪炭・牛等を産す。縣道中央を貫通し、吉田町(高田郡)・可部町にパスの便あり。省線備後線下深川驛に約六軒あり。高松城址あり、熊谷直實の孫直時、安藝・石見の目代となり、安南・安北を領せり。三世を経て宗直に至り南朝に應じ足利氏の爲に征伐せられ、義隆の時歿す。

ミウチ 三内村

愛媛縣伊豫國温泉郡の東南部。東は周桑郡に、南は上浮穴郡に接す。石堤山脈に属する峻峻なる山地を占め、南には石堤山・風嶺その他の高峯連立して北にその山脚を伸し、深山幽谷重疊す。石堤山北麓附近より重信川が發源し溪流を集めて西北隅に流下す。流域に稍々狭長なる平地を開き、耕作を行ふ外は、殆ど平地なし。米・麥・蕎麥を産し、山地は林産物を出す。重要嶺山なる千原嶺(銅硫化鐵山)の本峰は、周桑郡櫻樹村にあれども嶺區は富村にも訪がり昭和十年には銅鐵四〇・六萬、銅硫化鐵鐵一、四四二・八萬を産す(千原嶺山多照)。北部には國道通じ松山市に連絡す。パスの便あり。(安國寺)臨濟宗妙心寺派。高松山と號す。足利直義建立の安國寺の一。

ミウマヤ 三瓶村

青森縣三浦郡の東南部より南方に三浦半島。神奈川縣の東南部より南方

に突出する牛島。東に東京灣、西に相模灣を分ち、南東部は浦賀水道を距てて房總半島に對す。行政的には三浦郡の全部一市十三町村なるが、地形的には鎌倉郡に属する鎌倉町の低地と、横濱市に属する金澤の低地を結ぶ線以南に限るべきなり。牛島郡を構成する基盤岩石は即ち三浦層に属する凝灰質砂岩・頁岩等にして、中央部に於ては蛇紋岩等の火山岩の侵入を認む。これ等の岩石は東西、或は西北・東南の方向に走る多くの連断層線に切断され、北部の地塊が南部の地塊上に衝上して極めて複雑なる構造を示す。この構造線はまた地形的にも明かに追跡し得らるるものにて、牛島を横断する數箇の地塊・地溝を數ふることを得。即ち北部西岸の返子より田越川に沿ひて東岸の横須賀に至り、更に東南に彎曲して浦賀に至り、細長き浦賀灣を形成する地溝と、前者にほぼ並行して葉山一色より下山川に沿ひ牛島を横断して平作川に沿ひて久里ヶ濱に出て、久里ヶ濱の灣入を生ずるもの等あり。上記の兩地溝に挟まれて二〇〇米内外の二子山・島山地塊山脈があり、葉山・久里ヶ濱地溝を距て、三浦半島に於て最も高き二五〇米内外の大楠山山脈が連立す。更にその南方には一帯地溝を界として武山山脈があり、その南方は低平なる三崎の隆起海岸平野なり。三浦半島はその先端が二つに分れて觀音崎と三崎半島となる。兩突出は

共に四〇—五〇米の平坦なる臺地狀を呈し、三浦層の侵蝕面上に宮田層の若き海成層を載せたる隆起海岸臺地とも稱すべしものにて、若き海成層は隆起後の侵蝕復活により相當に河谷發達するも、なほ原形面に廣く殘存す。三浦半島の海岸線をみるに一般に出入が極めて著し。東京灣に面しては金澤の大江、箱崎岬を界とする長浦灣、横須賀軍港の灣入、勝力崎の突出あり、浦賀水道に面しては浦賀灣、久里ヶ濱灣等の灣入とそれを分つ千代ヶ崎・千駄ヶ崎等あり。三崎半島は小出入特に多く、三崎の漁港を初めとし油壺・小網代・初聲・小田和等の灣入ありて城ヶ島はその南端に附著す。それより北部の相模灣岸は多少の出入あるも、多くは風狀の砂濱にして返子・鎌倉・由比ヶ濱はその主なるものなり。上記多くの灣入は地盤沈降により河口に海水の侵入を許す沈降谷なり。なほ大正十二年關東大震災に際しては一般に一米内外の隆起の跡を殘す。三浦半島は南方海上に突出し黒潮の影響を受けて冬は暖かく夏は涼し。風光も極めて明媚にて名所舊跡にも富む。京濱に近き關係と交通路の發達につれて遊覽保養地帯として近年著しき發展を示す。省線横須賀線は大船より分岐し鎌倉・返子に至り、返子—横須賀の連溝に沿うて牛島を横断、横須賀軍港の地す。湘南電鐵は横濱より南下して牛島の東岸、金澤・横須賀・浦賀を連ね、金澤

より支線を分ちて返子を結ぶ。なほ自動車道は到る處よく發達し、乗合自動車は遊覽客・地方人の運搬に完備す。釣りの灣入の内部には重要な都市發達し、また到る處海水浴場の設けあり。金澤は古跡とし、遺蹟は飛行場として知らる。横須賀市は軍港町としてその南方の走水・浦賀・久里ヶ濱は古跡として或は港として遊覽の客絶たず。觀音崎・劍ヶ崎・城ヶ島には燈臺あり、三崎は漁港として其名を知らる。相模灣に面する小灣入は遊樂避暑地として知られ、御用邸を始め貴顯名士の別荘甚だ多し。鎌倉・返子・葉山はいふまでもなく古跡とし、名勝地とし、別荘地として榮え、その南方の西浦・長井・初聲も交通路の發達と共にその風土の勝れる點より前者に劣らず發展を期待さる。特に初聲は最近御用邸の建設が過み、その西方の油壺は東京帝大の臨海實驗所の所在地として、また三浦尋寸の古跡として知らる。三浦半島一帯は東京灣要地帯とす。

【三浦郡】神奈川縣相模國の東南部。三浦半島の西半及び南部を占む。神奈川縣十郡の一。東は横須賀市、北は横濱市及び鎌倉郡の一部と隣す。全郡丘陵地にて森林多く、丘陵間を流るる小流の附近のみ狭き平地をなす。平地には農業行はれ米・麥・甘藷・馬鈴薯・大豆等を産す。海岸は出入多く、相模灣岸の南部は殊に小灣、小島多し。また浦賀水道沿岸には

北端に觀音崎、南端に劍ヶ崎あり。觀音崎の南には良港浦賀あり。北部の返子町・葉山町の海岸及び南端の三崎町附近は海水浴場或は保養地として名高く、三崎町は漁港として發達し、水産多し。丘陵間に縣道よく發達し、省線横須賀線は鎌倉郡より來りて北部を東走し横須賀市に通す。また社線湘南電鐵返子線は横濱市より來りて返子町に終る。その他パスの便も多し。郡内には浦賀・葉山・返子・三崎・長井・大楠の六町外四ヶ村を含む。古くは御油郡(書記持統紀)。和名抄また御浦に作り美字良と註し田津・御浦・水郷・御崎・安藝五郷を管す。東鑑は三浦に作り、爾後兩縣に作りしが、元祿以後は三浦を以て今日に至る。

【三浦村】長崎縣肥前國東彼杵郡の南端。大村灣の灣頭東側に在り。東は北高米郡と境し、南は東大川の下流出口に達す。全村殆んど丘陵性山地より成る。地質は大部分は第三紀層にして、中央の丘陵性山地は多くは玄武岩の噴出地なり。其の主なるものは中央の日岳、南部の伊賀峯等なるも最高の日岳は高約二六〇米に過ぎず。丘陵の末端は海岸に迫る所多く、其の間に小川あり、若干の水田の分布地域たり。南方東大川の北岸には稍々耕地開け本村の農耕地帯をなす。また玄武岩の小丘山並は耕されて畑地となる。南より西方に互り大村灣に臨み、漁舟的繁華名たる先網代・舟津等あるも漁業は言ふに足らず、殆んど農耕地なり。本地域は北方鈴田川、東方本明川、南方東大川、西方大村灣により圍まるる一地域に

て但馬三河野(昭和四年設置)あり。古くは三河野に作り、和名抄に城野郡三河野の名見ゆ。中世は一に鎌田莊と呼び、いまた大字に鎌田の名存す。大字法華寺は但馬國分尼寺のありし處。(久々比神社)大字下宮に鎮座。村社。祭神、久久延命。式内社。例祭、九月十六日。(文常寺)大字鎌田にあり。古義眞言宗。沿革不詳。本尊聖觀音立像(木造)は國寶。

三重

【三重村】 秋田縣羽後國平鹿郡の南部。淺井町の東南に接し、西南は皆瀬川を隔て雄勝郡に接す。横手盆地の南部に位置し全村概ね平坦にして、皆瀬川は西南境を西流す。農業殊に米作を主とし果樹・養蠶を副業とし全村これに従ふ。外に工業・林産あるも概ぼす。近年はまた蔬菜園藝も播種しつつあり。道路は中部を西北より東南に通じ、東南方の省線東北本線は文字驛へ約二軒。社線横越線淺井驛へは約三・五軒。各バスを通ず。村名はアイヌ語のミエ即ち平和なる處の意とも云ふが、日折・十五野新田・上鍋倉の三大部落より成立するより三重と名づけしものなるべし。

【三重村】 栃木縣下野國足利郡の西部。足利市の西隣にて、渡良瀬川の北岸にあり。南は川を隔てて群馬縣山田郡と相對す。足尾山塊一支脈の南端を占め、東境・西境共に約二五〇米の山地をなし、中部より南部にかけては渡良瀬川流域の平地

開けて水田多く川沿ひには畑地あり。農業行はれて米・麥を産し、養蠶また昔ねく行はる。足利市に隣接して絹織物の製造盛なり。縣道は南部を東走して足利市に通じバスの便あり。養蠶はこれに沿ひて發達す。省線兩毛線また縣道に沿うて走り村内に驛なきも、足利市に近きを以て交通不便ならず。本村は明治廿六年、坂西村大字の五十部・今福・大岩を分割して新設せるものにして、和名抄、足利郡那賀郡の地なり。(大手権現)大字五十部にあり。祭神天手力雄命。往昔は平將門の手を祀りしと稱し、工女が祈れば機を織る手が上るといひ傳ふ。(最勝寺)大字大岩にあり。新義眞言宗聖山派。大岩山多聞院と號す。行基が毘沙門天王の夢託を得、此地に一字を創せし由來。寛文四年雷火の災に罹り堂宇焚上、寶曆十二年再建す。本堂は毘沙門、聖徳太子作圓浮輪金像と傳へ、信貴・鞍長と共に日本三禮の一と稱へらる。

【三重郡】 近畿地方の東部、伊勢湾に臨む。伊勢・伊賀・志摩三國の全部と紀伊の一部より成る。もと東海道に屬せしは又

一方軒の人口密度二〇一にて全國平均密度よりやや大なり。(地形) 縣の北半は背後に山地あり。美老山脈は傾斜地塊をなし本縣例は斜に岐阜縣に斷層崖をなし本縣との境をなす。西北に鈴鹿山脈あり伊勢海斜面と近江湖盆斜面との境界をなす。斷層崖をなして伊勢平野に臨む。鈴鹿山脈の南部は西方笠置山脈との間に斷層による伊賀盆地を形成す。この盆地の水は木津川となり京都盆地に出で淀川に注ぐ。縣の南半は備前川を境として北半の斷層山地塊とは全く性質を異にし、東西の走向を有つ紀伊山脈の東端をなす。備前川を境として南半は日本外帯山脈にして同川は實に中央裂谷なり。縣の西部紀伊山脈には高峻なる大臺ヶ原山(一六九五米)・國見山(二八三米)・池ノ木屋山(一三九五米)そびえ、準平原面を有つ。この山脈の東方延長は伊勢海口の谷志島・菅島等にして、愛知縣瀧美半島に上陸し、赤石山脈に連続す。此の外帯山地が伊勢湾の陥没によりて志摩半島を生じて瀕谷によりリアス海岸となるものなり。的矢・御座・五ヶ所・長島・尾鷲等の灣入これにして、更に其後の隆起沈降と海水の浸蝕とによりて浸蝕臺地を形成す。川は從つて紀伊山脈の從谷に沿ひ、のは長く備前川・宮川あり。中部以北は斷層崖によりて短く、雲出川・鈴鹿川あり。以上の諸川が西方より東流し、三角洲の發達より海岸平野を形成し伊勢平野

牛島莊國の紀勢東線が尾鷲港に通じ、省營自動車紀勢線にて七〇軒にて新宮に連絡す。參宮の爲に東京・島根間直通列車あり、大阪よりは社線大阪電軌・參宮急行電鐵が宇治山田に通ず。桑名よりも參宮急行電鐵伊勢線あり。其外、松坂を中心とする社線松坂電鐵、鳥羽より志摩賢島に通ずる社線志摩電鐵、參宮電鐵伊賀線等、觀光交通網は完備し之より分派せる支線と合して交通至便なり。紀伊半島

未以下の小丘陸續する。河川は凡て鈴鹿山脈に發して山脈を下り東南流して海に注ぐ。北部に朝明川あり、中部には海蔵川・三瀧川ありて下流は四日市に入る。南境には内帯川流れ其の下流は村界を離れて東流し、四日市の南部を経て海に入る。東南部には西南方より下流し来る鈴鹿川の下流入り来る。低地は田畑よく拓げ農産物多く、米・麥・粟・茶の産の外、養蠶もまた盛なり。四日市を中心として附近は綿織物を主とする工業行はる。郡内は宮洲原町・富野町・富田町の三町外二十四ヶ村を含み、特に宮洲原町は人口密度最も大きく、昭和十年に一方軒七六〇六人を算す。本郡の平均密度は三五〇人なり。交通よく發達し伊勢街道が東部を縱走し、四日市市にて之より散れ西北に向ひ員辨郡に至る縣道あり。中央西偏には巡見街道が南北に貫通し一道分れて東走し四日市市に至りて伊勢街道に連絡す。省線關西本線は東岸に沿ひて走り、また社線伊勢電氣鐵道が同じく桑名市より南走して東部を貫く。北部には之より分れて西北走し員辨郡に入る社線三岐鐵道あり。四日市市よりは西方山地に向ふ社線三重鐵道の湯ノ山線、西南走して内部村に至る社線三重鐵道本線、途中これより分れて西走し八王子に至る短線あり。古事紀、貴行天皇の段に三重村と見ゆるは、大體本郡の地と見るべく、書紀天武紀元年紀に天皇三重郡家に至ると見ゆ。

和名抄は美倍と註し、采女・河後・登即・柴田・刑部の五郷を管す。明治二十九年四月朝明郡を併せ、翌年に四日市市が獨立して以て今日に至る。

【三重郡】 三重縣十五郡の一。伊勢國の北部。鈴鹿山脈の東斜面より伊勢海に互る地域を占め、東岸中央に四日市市を圍む。西は山嶺を隔てて滋賀縣の愛知・神崎・蒲生・甲賀諸郡に界す。西境に南北に鈴鹿山脈連り釋迦ヶ嶽(一〇九二米)・御在所山(一一二〇米)・鎌ヶ嶽(一一五七米)等の諸峯聳ゆ。中央及び東部は概ね地形平坦なるも、南部には鎌ヶ嶽より延びる山脚が一〇〇米内外の丘陵となりて東南方へ長く連り、東北部にも一〇〇

【三重鐵道】 私設鐵道。四日市市及び三重縣三重郡に互る。社線參宮急行電鐵の諏訪驛より分岐し、中川原驛(常盤村)・櫻井(櫻井)などを經て湯ノ山驛(富野町)に至る一五・六軒、及び同じく諏訪驛より分岐し日永驛(日永村)などの數驛を經て伊勢八王子驛(四布村)にいたる五・一軒、また日永驛より内部驛(内部村)に至る三・九軒を含む。省線とは運送運輸をなし、動力は蒸氣・電氣併用、軌間は〇・七六二米とす。

【三重村】 京都府丹波國中部の南部。全村殆んど花崗岩の丘陵性山地に圍繞せられ、特に東方岩灘町に接する山地は東西

【三重村】 京都府丹波國中部の南部。全村殆んど花崗岩の丘陵性山地に圍繞せられ、特に東方岩灘町に接する山地は東西

【三重村】 京都府丹波國中部の南部。全村殆んど花崗岩の丘陵性山地に圍繞せられ、特に東方岩灘町に接する山地は東西

其珠は御木本氏の經營に係り、世界的感矢として産額亦多く、英廣洋に行はる。水産製造としては鯨筋・鰹の鹽乾等あり。工業は本縣産物の第一位を占め、綿糸・絹織物工業等が四日市附近に行はれ謂ゆる名古屋工業地域の延長と見られ、四日市の開港場たる亦あり。古來の織物にありては松坂・津・伊賀等にも産し、今も副業的のものとして行はる。(交通) 古來本縣は交通的には二種の原因によりて發達せり。一は名古屋・江戸の東部主要地と、奈良・京都・大阪の中央日本本都との兩政治中心地の中間的廊下の役割を演じ、一は日本國信仰の中心伊勢大廟による參詣路として開發せり。熱田より海路桑名に來る東海道は龜山・關を経て鈴鹿峠にて土山より大津に達す。奈良に向ふ大和路は伊賀より木津川を經て奈良に達す。更に縣道として津より西方鈴鹿山脈の青山峠を越し伊賀より紀伊に達す。龜山城は其の交通的要所として築造せられ、津は平野の中心として榮へ、桑名は關所を持つ木曾川水運起點として發達せり。鐵道開通以後、舊東海道並に大和街道に沿ひ名古屋より關西線が桑名・四日市・龜山・栢植・伊賀上野を經て奈良・大阪に通じ、その龜山より參宮線は宇治山田市を經て鳥羽へ開通せり。この國鐵を根幹として新植・草津間に草津線、松坂・伊勢津間に名松線、松坂・宇治山田間の相可口驛より熊野街道に沿ひ紀伊

【三重村】 京都府丹波國中部の南部。全村殆んど花崗岩の丘陵性山地に圍繞せられ、特に東方岩灘町に接する山地は東西

【三重村】 京都府丹波國中部の南部。全村殆んど花崗岩の丘陵性山地に圍繞せられ、特に東方岩灘町に接する山地は東西

【三重村】 京都府丹波國中部の南部。全村殆んど花崗岩の丘陵性山地に圍繞せられ、特に東方岩灘町に接する山地は東西

ミカケ 御神樂岳 越後山系 門火山群に属する一峯。新潟郡東蒲原郡西川村の南嶺にして、南面は福島縣大沼郡本名村に属す。標高一三八六米、山體火山岩より成る。山姿壯大にして往昔は山頂に伊佐美明神を安置せし故に信仰登山行はれしが、今は小祠もなし。山名の由来は山中に時々神樂の音を聞く故とも、また日光寺の僧覺道が社前にて神樂を奏せしに因るとも云ふ。

ミカケ 御影

【御影村】 北海道十勝支庁河西郡の西部。芽室村の西、清水町の南に隣接し、南は大正村に、西は日高山脈を以て日高支庁に界す。面積二一四・三一方軒。東部一帯は十勝川流域に屬し、芽室・美生・道山の諸支流灌溉して土地肥沃、耕地多し。西部は日高山脈東斜面にして芽室岳(一七五四米)等高峯の屹立をみるも餘々に東方に傾き平地に移る。畜産・米・馬鈴薯・蕎麥等の産多く、また馬・牛・鹿粉の産あり。省線根室本線北部を貫通し御影(明治四十年設置)を置く。本村は大正十年芽室村より分割獨立せるものにして、明治四十年、根室線の御影駅が置かれてより農家、來住者年々増加し、村勢の發展を見るに至り。

東へ緩傾斜し、御影川は北境を水無川となりて東流し、東境に沿ひ南流する釜無川に合す。村内西部は主として桑園、東部には水田開く。蕎麥の産額多く米、麥は之に次ぐ。南部を東走する道路により省線中央本線龍王驛へ約四軒。また西部を南北に貫走する道路は信州往還の一部をなす。本村は田之岡村と組合村をなし、役場を本村に置く。

【御影町】 兵庫縣津波郡の南部海岸。大阪湾に臨み、山田村を挟んで神戸市の東に隣り、東は魚崎町に接す。六甲山脈層下、住吉川扇状地に發達せる町にて、地形概ね平坦なれど北部に高し。南部に市街地發達す。謂ゆる灘中の扇指の大地にして、酒造家多く古來灘酒の名産地として世に著はれ、之に隣ある商工業及び労働を業とするもの多し。清酒の品類は菊正宗・白鶴・富久姫等三十有餘あり。外に樽類・木製品を産出し、味噌・履物等の産もあり。また背後の六甲山地より産出する花崗岩は御影石の名を以て知らる。市街は六甲斷層層下に發達せる住吉川の扇状地に位置し、土地高燥にして前面に攝津灘の白砂青松を望み、風光優れ、背後に六甲山塊を負ひ氣候の溫和なり。最近阪神兩都市の急激なる發展に伴ひ、この自然に恵まれたる環境は兩都市への通勤者の好住宅地として著しき進展をなせり。人口密度は一方軒に八一五四人を算し本郡中第一位なり

ミカサ 三笠・御笠

【三笠山】 また御笠山にも作る。奈良市の東部、春日神社の東にある山塊。高圓山と蹴草山との間に位置す。一に春日山といふ。古今、禰坂(天の原)よりさげみれば春日なる三笠の山にいでし月かも安宿仲廣。

【御笠(郡)】 筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に御笠郡御笠郷あり、その地今の筑紫那水城村・太宰府町の邊に當る。

地海に迫り、處々に些少の低地を見るのみ。村の南半は丘陵・臺地起伏するも東西兩岸には稍々廣き平野發達し、西部には勝木浦あり、香所ノ鼻南に突出して其西を圍み好箇地なり。東岸は砂洲廣し。米・蕎麥を始めとし工業・林産・水産共に多く、又畜産もあり。省線鹿兒島本線の折口驛は南方約一軒にあり。この地は山門院野田郷と稱せし地。本村はもと下出水村と稱せしが、大正十三年、三笠村と改稱せしもの。附近は鹿兒島縣鶴渡來地として指定天然記念物たり。大字江内には本水城あり、文治二年島津忠久、薩摩・大隅・日向三國の地頭職に封ぜられ家臣本田貞親をして當城を築かしむ。建久七年、貞親は當城に居り治所となす。忠久以降五代、氏久に至るまでの治所なりしが、氏久鹿兒島に移る。茲に於て一門島津忠氏を山門院の地頭となし治せしむ。忠氏はのち和泉氏と稱し、天文・文祿の頃まで續きしが、忠水に至り除封され、和泉氏亡ぶ。尋いで島津氏の直轄地となる。今の城址は陸田にして四方は沼田なり、東西に城門の址あり。

傾く。幾春別川東部山地に發して中央を西流し岩見澤町に出づ。中部以西の沿岸に平地存す。當村の地は石狩炭田の一部にて村内或は隣接の美瑛町に跨りて幾多の炭層あり。夾炭層は第三紀始新統乃至漸新統に屬し、稼行炭層は十枚枚ありて上部層は粘結し下部層は不粘結なるが、何れも優良なる煙青炭なり。當村に關聯ある主なる炭層は別表の如くにして何れも重要炭山に屬し、うち梶内炭層は明治初年の發見にて最も早く開かれ、次に奔別・幾春別とす。詳細は別掲の如くなるが、三井美瑛・三菱美瑛の兩炭層に就ては美瑛町を參照。斯くの如く本町は坑山町なるも、米・麥・大豆・馬鈴薯・亞麻・製麻・牛馬・木材等をも出し、その額少しとせず。省線函館本線の岩見澤驛より省線梶内線が河沿に通じまた南に支線を分岐して炭礦地を連ね、登野(大正二年設置、梶内本・梶内以上明治十五年設置)唐松(昭和四年設置)幾春別(明治二十一年設置)の諸驛あり。本村は明治三十九年市

來知村を三笠村と改稱せしもの。(唐松炭礦) 昭和十年には塊炭一二、二〇二二、粉炭三一、九三六、粗炭一、八二〇(この總價額約三〇〇萬圓)を産出し、同年六月末の總夫數は二三四人とす。鐵山名は三笠村大字幾春別唐松に因む。

【新梶内炭層】 昭和十年には塊炭八七、八九七、粉炭六五、六九二、粗炭五、三三七(この總價額約二〇〇萬圓)を産出し、同年六月末の總夫數は九四〇人とす。(梶内炭層) 夾炭層は第三紀の頁岩砂岩より成り、炭層は石狩炭田の上層群に位置し大小二十餘層あれど稼行炭層は凡そ八層とす。昭和十年には塊炭二〇四、八五〇、粉炭一八三、九九二、粗炭三八、三二五(この總價額約三二七萬圓)を産出し、同年六月末の總夫數は七五二人なり。當炭層は明治元年の發見にて明治十六年漸く採掘するに至りしが、而もなほ本道に於ては最も早く開かれた炭礦なるべし。始め開拓使廳により調査準備せられ引續き官業にて採掘せられ

しが、明治二十二年北海道炭礦汽船會社に拂下げられ以て今日に至る。鐵山名は三笠山村大字梶内に因るもの、また梶内はアイヌ語オロナイの轉訛にて大川の義なりといふ。(梶内炭層幾春別坑) 夾炭層は第三紀の頁岩砂岩より成り、炭層は石狩炭田の上層群に中心として多數あるも稼行炭層は凡そ八層とす。昭和十年には塊炭五四、四八一、粉炭四七、七〇六、粗炭二〇、四一一(この總價額七七萬餘圓)を産出す。當炭層は明治十八年農商務省の開坑する所、これ本道に於ては恐らく梶内炭層に次いで早く開坑されしものなるべし。明治二十二年北海道炭礦汽船會社の手に移り以て今日に至る。大正末年には七八八人の總夫居りしが、昭和十年六月末には三七八人なり。その盛衰思ふべし。鐵山名は三笠山村大字幾春別に因るもの。

ミカサ

【三笠】 臺灣花蓮港廳玉里庄の村。臺東線の三笠驛(大正六年設置)を置く。

ミカサヤマ

【三笠山】 北海道石狩國知支庁空知郡の東南部。岩見澤町の東、美瑛町の南に隣接する山村なり。面積三二五・六方軒。全村悉く夕張山脈中に屬し山岳地帯をなすも、稍々西方に

Table with 4 columns: 鐵山名, 鐵區所在地, 鐵區坪數, 産額. Lists iron mines like 唐松, 梶内, 梶内炭層, etc.

Table with 4 columns: 鐵山名, 鐵區所在地, 鐵區坪數, 産額. Lists iron mines like 三笠山, 三笠山, etc.

ミカシ—ミカタ

十五年の開坑なり。なほ鏡山名は三笠山村大字長春別字奔別に因るもの、また奔別はアイヌ語ボシエツの轉訛にして小川の義なりといふ。(彌生炭礦)昭和十年には境炭一〇三、五九七、粉炭八六、二七六、切込炭九、三九五、粗炭九、一九二(この總價額一、二八萬餘圓)を生出し、同年六月末の鏡夫数は八五四人とす。なほ鏡山名は三笠山村大字長春別字彌生に因るものとす。(連布山)海抜一四四米の丘陵にて、頂上より市來知、唐松、梶内太、岩見澤の市街を始め、遠く石狩平野を隔てて増毛の連峯を望み、また江別製紙工場の煙も見え、展望甚だ佳なり。(岡山の橋)長春別川を堰止せし大木門附近、水路に圍まる約三〇〇ヘクタールの堤に、樹齡約卅年を算する吉野一重櫻凡そ三百本植樹さる。(市來知の穀馬)市來知の市來知神社境内にあり。毎年九月四・五日の秋祭には盛大に行はれ、長春別、梶内の各炭山より見物人殺到す。この頃は西風・味風・玉蜀黍等の盛りにてこれ等の露店多く、見物人中には此等を目的とし来る者多敷なるにより、食ひ祭りとして知らる。

茶の産多し。縣道は所澤町及び北方の豊岡町に通じ、社線武蔵野線は東北部を西北に走り、狭山ヶ丘驛(大正四年設置)を置く。

す。明歴二年再建。例祭、十月十五日。(最明寺)大字春成にあり。古義真言宗。北條時頼坐像(木造)一軀は國寶。

歸依深く諸役免許の寺たり。寶曆九年五月一日院家地となる。世に養徳寺・西光寺・超勝寺・照嚴寺・明源寺・法雲寺・陽顯寺・唯稱寺・淨得寺と共に本寺を越前大谷浜の十院家寺と稱す。古へより福井東別院の座配役地として有名なり。寺實に行基作の釋迦如來木像、數如上人御影あり。

ミカズキ

【三日月町】兵庫縣播磨國佐用郡の東南部。千種川中流の一支流公文川に跨がり佐用町の東方三軒餘にあり。北及び東は栗栗郡に界し南は揖保郡に接す。北部の約五百米の山地が次第に高さを減じつつ南に延びて南部に移り西及び東南へ傾斜す。東境・西境にも夫々南北に連る丘陵あり。公文川は北方より来りて西部を南に貫き、東に發して東部を西南流する一川を西南隅にて合し大廣村に出づ。産物は米・蕎麥類・蔬菜・花卉・食用農産物・果實・海苔類・製茶・醤油・瓦・木製品・漆製品・双物・鶏卵、および沿岸漁獲物等なり。南部には作州街道及び省線新線通過し三日月驛(昭和九年設置)あり。この地は和名抄、佐用郡廣岡郷の地なり。元祿十二年森長俊の地に一萬五千方石を食み子孫傳封して王政維新に至る。昭和九年町制施行。(八幡神社)大字乃井野に鎮座。郷社。祭神、仲哀天皇、應神天皇、神功皇后。武内宿禰・武甕槌命・速須佐之男命等六柱を合祀す。天喜元年の勸請と傳へ、もと日四八幡宮と稱

を横切りて引佐郡氣賀町に達し、濱名湖の北岸を廻りて三河に至る街道は飯街道と稱し、舊時東海道の裏街道として濱名湖の今切の驛所を避けし婦女子の通行多かりき。今は全く淋れて松並樹のみが昔を物語る。臺地の東南端に當り神積平野との界に濱松市あり。

【三方村】福井縣越前國丹生郡の東北端。福井市の西南約五軒。北は西安居村、東は日野川を隔てて足羽郡、南は天津村、西は志津村に接す。西安居村と天津村東部の間の丘陵に小丘陵を有するのみにて全村殆ど平原なり。志津川は源を志津村大字平尾、清水畑の山中より發して本村に入り、北部を西に流れ大字清水尻に到り日野川に入る。物産としては全村殆ど田畑なるを以て米・粟・野菜の産多く、人相織物も次第に増加しつつあり。三留・砂谷の管笠また有名なり。村内に飯和田・三留・砂谷・竹生・田尻粉谷・朝宮・片箱・清水尻の八庄あり。大字竹生に式内神社あり。清水尻區には清水尻ノ城山あり。西安居村安田の地籍は朝倉の臣村野直東代の居城の地にして舊に安居の小富士と云ふ。大字飯和田は松野の産地にして和石と共に有名なり。蒲生街道は足羽郡より入り竹生區を経て志津村に至る。武生街道は足羽郡より本村に入り大字朝宮・砂谷を経て天津村に入る。共にパスの便あり。(廣善寺)砂谷に在り。眞宗大谷派。門徒四百五十戸、郡下唯一の大坊。行基菩薩の開闢するが文明年中蓮如上人に歸依して眞宗に轉じ松平侯の

【三方村】福井縣十一郡の一。若狭國の東端。若狭灣に臨み東方約四軒に敦賀市あり。南は滋賀縣高島郡に界す。略々W字形の郡にして東部は海岸に沿ひて稍々長く北へ延ぶ。東境には七七八百米程度の山脈が南北に連り、西境には東南より西北に延びる丘陵ありて尖端は海に突出して獅子崎となる。南境には東・西兩山脈より西北・東北にそれぞれ延びる山脈ありて郡境を劃し、兩者相合して一の山脈となり中央を北方へ連り北端は海岸平野に終る。中央の山脈の東には東境の山脈との間に耳川が西へ北流して沿岸平野を發達し北岸の三三一米の孤丘の西より海に注ぐ。孤丘は北に突出し黒崎となる。東境の山脈の北半は西麓が海に迫りて岩石海岸をなし松園・事代主崎等間に中央の山脈の西部は西麓の丘陵との間に平野を發達し、北部に連る三方湖・水月湖・菅湖・久々子湖・日向湖等の大湖が大部分の面積を占め、その北及び西は狭き丘陵に圍まれて日本海と隔てられ、水月湖の西北岸の梅文岳(三九五米)より一丘陵が西

ミカジマ

北方へ約七軒の長さに突出して先端は常神崎となり、兩岸屈曲多し。その約一軒四方海上に御神島が横はる。米・蕎麥・蕪等の農産物及び水産・林産あり。郡内は七ヶ村を含み、人口密度は一方軒八九人にして最も多きは南西郷村の二五七人なり(昭和十年)。丹後街道と省線小濱線が敦賀方面より来り北部を西走し、西部平野に出でて南に走り遠敷郡に出づ。丹後街道より分る部分的なる街道が諸處にあり。當地の方言にて湖を湯といふ。本郷には三湖あり故に三湯郷といひ、後傳じて三方となる。三代實録貞觀十年の條に郡名始めて見ゆ。和名抄は美加太と註し能登・彌美・餘戸・三方の五郷を管す。

【三方村】若狭國(福井縣)の古地名。和名郷に三方郡三方郷あり、その地今の三方郡八村・西田村の邊に當る。

【三方村】兵庫縣但馬國城崎郡の南部。豊岡町の西南約一〇軒にあり。東北は日高町に接し、東南及び南は美父郡に界し西は美父郡に隣る。西及び南境には山脈連なり西境は殊に高く、西北隅の蘇夫嶽は一〇七五米を示す。之等の山地は北方及び東方に傾斜し東北部に低地開く。朝來川の一支流が西北方より流れ来りて東北部を灌漑しつつ東流し、西境に發する一河川は中央を東流して之に合す。米・蕎麥の産多く蕎麥類・蔬菜・花卉・食用農産物・果實・大蕪・製茶等の農産及び竹製品・漆製品・双物・養殖魚類・鶏卵等を産す。また村内に約三十三萬坪の鹽田を有する金銀湖餘の鹽山あり、昭和十年より事業を開始す。東北部には縣道走り日高町に自動車通す。古くは三方郷に作り、和名抄に氣多郡三方郷と見え三加太と訓す。(隆國寺)曹洞宗。弘安三年創建、或は天正十五年の建立といふ。現に末寺十五箇寺を有す。

【三方村】但馬國(兵庫縣)の古地名。和名抄に美父郡三方郷あり、三加太と訓す。その地は凡そ今の美父郡日高村の邊に當る。

ミカタ

【三方村】鹿兒島縣大隅國大島郡の村。奄美大島の東岸に位し、東は四〇軒の彼方に喜界島を望む。名瀬町の南に隣り、もと同町と合して名瀬町と稱せしが、大正十一年十月いまの名瀬町の地を分ち町制施行せられ、同時に本村を建つ。蓋し名瀬町の三方を圍むによりて村名出づと

【三方村】兵庫縣播磨國栗原郡の北部。掛保川の源流地附近に跨り、朝來郡生野町の西方約九軒にありて、北は美父郡に界す。西・北および東北は一〇〇〇米以上の山脈によりて圍まれ、東南方及び南方へ傾斜す。北境には「無山(一三九米)あり。河川は北部及び西部を發して南流及び東南流し、共に東南部に發して貫きて流るる三方川に相合して掛保川の支流となる。米・蕎麥・蔬菜・花卉・食用農産物・果實・海苔類・製茶・醤油・漆製品等を産し、また沿岸漁業・水産養殖等行はる。三方川に沿ひて縣道通過し南方の山崎町へパスの便あり。和名抄に栗原郡三方郷と云ふは本村及び下三方村・繁盛村及び染河内村等に當る。(御形神社)縣社。祭神、葦原志許男神。嘗て大石良雄・赤松範長等の崇敬厚かりき。例祭、十月十日。

【三方村】鹿兒島縣大隅國大島郡の村。奄美大島の東岸に位し、東は四〇軒の彼方に喜界島を望む。名瀬町の南に隣り、もと同町と合して名瀬町と稱せしが、大正十一年十月いまの名瀬町の地を分ち町制施行せられ、同時に本村を建つ。蓋し名瀬町の三方を圍むによりて村名出づと

【三方村】鹿兒島縣大隅國大島郡の村。奄美大島の東岸に位し、東は四〇軒の彼方に喜界島を望む。名瀬町の南に隣り、もと同町と合して名瀬町と稱せしが、大正十一年十月いまの名瀬町の地を分ち町制施行せられ、同時に本村を建つ。蓋し名瀬町の三方を圍むによりて村名出づと

ミカタ—ミカタ

【三方村】若狭國(福井縣)の古地名。和名郷に三方郡三方郷あり、その地今の三方郡八村・西田村の邊に當る。

【三方村】兵庫縣但馬國城崎郡の南部。豊岡町の西南約一〇軒にあり。東北は日高町に接し、東南及び南は美父郡に界し西は美父郡に隣る。西及び南境には山脈連なり西境は殊に高く、西北隅の蘇夫嶽は一〇七五米を示す。之等の山地は北方及び東方に傾斜し東北部に低地開く。朝來川の一支流が西北方より流れ来りて東北部を灌漑しつつ東流し、西境に發する一河川は中央を東流して之に合す。米・蕎麥の産多く蕎麥類・蔬菜・花卉・食用農産物・果實・大蕪・製茶等の農産及び竹製品・漆製品・双物・養殖魚類・鶏卵等を産す。また村内に約三十三萬坪の鹽田を有する金銀湖餘の鹽山あり、昭和十年より事業を開始す。東北部には縣道走り日高町に自動車通す。古くは三方郷に作り、和名抄に氣多郡三方郷と見え三加太と訓す。(隆國寺)曹洞宗。弘安三年創建、或は天正十五年の建立といふ。現に末寺十五

【三方村】鹿兒島縣大隅國大島郡の村。奄美大島の東岸に位し、東は四〇軒の彼方に喜界島を望む。名瀬町の南に隣り、もと同町と合して名瀬町と稱せしが、大正十一年十月いまの名瀬町の地を分ち町制施行せられ、同時に本村を建つ。蓋し名瀬町の三方を圍むによりて村名出づと

【三方村】鹿兒島縣大隅國大島郡の村。奄美大島の東岸に位し、東は四〇軒の彼方に喜界島を望む。名瀬町の南に隣り、もと同町と合して名瀬町と稱せしが、大正十一年十月いまの名瀬町の地を分ち町制施行せられ、同時に本村を建つ。蓋し名瀬町の三方を圍むによりて村名出づと

云ふ。地勢、北部は山勢なれど海岸平地に田畑ひろく。農業を主産業とし米・麥・繭・甘蔗等を出し、縣立米麥原種場設けらる。製糖その他の工業行はれ、林産・水産にも見るべきものあり。縣道は龍郷村・住用村に通じ、島外へは名瀬町より汽船の便による。

ミカタ

美方郡 兵庫縣廿五郡の一。但馬國の西北部。日本海に臨み西北より東南に稍々長く、西は鳥取縣岩美郡に界す。郡内は山岳重疊して平地乏しく、殊に西南部は高くして扇ノ山・米ノ山・須賀ノ山・鉢伏山・瀧川山等一〇〇〇米以上の山岳重なり、東南端には蘇夫嶺(一〇七五米)・妙見山(一四二二米)等の高峯聳ゆ。中部には春來峠一帶の東北より西南に連る分水界あり、以東の水は矢田川となりて東北流し、城崎郡を経て日本海に注ぐ。以西の水は濱坂川となり北流して海に入り、河口沿岸に稍々平野開く。北岸は崖瀆をなすとこゝ多く中央に専門峠突出して其の西に諸峠あり。耕地よく發達して米・麥・繭・甘蔗・花卉・食用農産・果實・三鞭等の産あり。また木製品・蠶製品・双物・蠶糸・瓦・紙・醬油等の工業品を産出し、農家にては各戸に牛を飼育し養蠶行はれ、海岸には水産物を産す。郡内は村岡町・濱坂町・温泉町の三町外八ヶ村を含み、昭和十年の人口密度は一方軒八九人にて最も多きは濱坂町の二九八人なり。山脈は中央を東南より西北に走

り温泉町にて西南走し鳥取縣に入る。温泉町より濱坂川に沿ひ北走する縣道ありて濱坂町に出で、北部を横斷する縣道に連絡す。東部には矢田川に沿ひて東北走する縣道あり。省線山陰本線は北部を東西に貫く。本郡は明治二十九年七美郡・二方郡を合して新設せしもの。

ミカタ

隱形 武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄に榛澤郡隱形郷あり、その地の大里郡本郷村・用土村の邊に當る。ミカタハラ 三方原村 靜岡縣濱名郡の東北端。北に引佐郡都田村・中川村、東に小野口村・積志村、西南に吉野村、和地村あり。地は三方ヶ原の洪積臺地にあり、同春未だ進まざる廣漠たる平地にして、松林・畑地多く桑園・茶畑多し。また綿瓜・西瓜等を産す。社線濱松鐵道は村の中央を南北に通じ、南は濱松、北は奥山に至る。村内に都田・三方原の二驛(共に大正三年設置)を置く。西北部に根柢ノ松あり。戰史に名高き武田・徳川兩氏の三方ヶ原合戦の古戰場は村の東南部にあり。即ち武田信玄、西上の準備成り、元龜三年十月、甲・信の精銳一萬及び北條氏の援軍二千を率ゐて甲府を發し三方ヶ原を経て、東參河を掠めんとなす。徳川家康、急を畿田信長に告ぐ。信長、佐久間盛政・瀧川一益等兵三千を遣はし之を援けしむ。十二月、信玄、三方ヶ原に進み、家康は之を遮撃せんとして、兵一萬餘を率ゐる陣ヶ屋の北方に陣す。廿二日

ミカタ

兩軍大に此地に戦ふ。織田氏の援軍先づ破れ、次いで家康の軍潰ゆ。家康逃れて濱松城に退く。其夜、家康の軍、甲軍を夜襲して奇功を奏し、甲兵退却す。信玄亦退き、刑部に陣して越年す。翌天正元年正月、野田城を拔きしも、信玄病に罹り、長篠に守兵を止めて歸る。ミカツキ 三日月村 佐賀縣肥前國小城郡の東南部。嘉瀬川の右岸に位して小城町の東に隣り、東部及び東南部は佐賀郡に接す。北隅が高取山(四六九米)の南斜面をなす外、地形全般に平坦にして東端南部に沿ひて嘉瀬川が南流す。中央には村を東南に貫流して嘉瀬川に合する一川あり。米・麥その他の農産多し。四宮村を貫き一は東方へ、一は東南方へ、一は南方へ去る。南端に近く省線長崎本線久保田驛あり。それより分るる省線唐津線は西南部を西北走して西境眞近に小城驛あり。此地は和名抄、山城郡豐前郷の地にて大字三箇島里・嶋島里・久米里等あり、皆な古の郷里の里の遺稱。ミカド 三門 省線房總東線の一驛(明治三十六年設置)。千葉県夷隅郡長者町大字三門にあり。ミカノハラ 瓶原村 京都府山城國相樂郡の中部。聖武天皇孝仁宮の所在地たりし村にして、木津川河畔に位し、省線關西線加茂驛の北方二軒、後醍醐天皇笠置行在所たりし笠置山の西方約八軒の

言宗)あり。五重塔・文殊堂十一面觀音像等の國寶を藏す。(國分寺) 大字例幣天皇勳願の一圓一寺の國分寺として寺運盛なりしが、後世未く廢絶、近年に至り一草堂を再興、以て現在に及ぶ。寺邊に國分寺の古瓦等發見せらる。

ミカフ

三株山 阿武隈山脈の一峯。福島縣東白川郡宮本村の南東端。東南側は石城郡貝泊村に亙る。標高八四二米。山麓片麻岩より成る。北麓を鮫川南東流し、川に沿ひ御所街道走る。

ミカフ

御荷鉢山 關東山脈の一峯。高崎市の南西方約二〇軒。群馬縣多野郡日野村と方場町との境上に位す。東御荷鉢山(二四六米)・西御荷鉢山(二八六米)の二峯に分かれ、中間に投石峠最高點を置く。山體は地質學上名高き御荷鉢層より形成せらる。古書によれば今の西御鉢山は古の多胡の嶺ならんとあれど不詳。二峯の頂上にはそれぞれ不動石像を祀り、東御荷鉢山中には高さ五一六丈の不動の瀧かかる。山上よりの展望は極めて廣闊なり。登山は多く南麓方場町より行ふ。

ミカミ

三上 愛知縣三河國八名郡の西部。豊橋市の東北約五軒。豊川に跨る小村にて、北は賀茂村、東は石巻村、西は寶飯郡豊川町に隣接す。東部は洪積層の丘陵地より成り、標現山(七一米)あり。東北

ミカフ

ミカミ

よりは間川流れ、豊川に合流す。村の大部は豊川の沖積平野の一部分をなし、標現山の麓より南へと半呂用水が流る。本村は豊川を挟む地域にて、土壌は砂地をなし、水田には適せず、桑畑にて養蠶盛んなり。主要交通路は通過せざるも、別所街道・新街道に近く、鐵道は社線豊川鐵道豊川驛に近し。

ミカフ

滋賀縣近江國野洲郡の南部。野洲町の南に接し東は甲賀郡に界す。東部及び中部には小丘陵點在し、中央には三上山(四二八米)の孤丘あり。西端には野洲川が西北流し流域に平野開く。河川の沿岸と丘陵間の低地は田畑よく拓け農業を主産業とし、主産物は次の如き産物を示す。米(一六、二五八石)・二三八、七一〇石)・大豆(二、二六〇石)・一〇、一七〇石)・小麦(八五六石)・五、八八五石)・粟(一、七二六石)・一、七二二石)にして、特産物には整結メロン(一二三、八〇石)・一〇、二四七石)及び干芋(三、五五二石)・二、二二〇石)あり。縣道は中部を東南より西北に貫き、省線東海道本線の野洲驛(西北約一軒)へバスを通ず。古くは三上郷に作り、和名抄に野洲郡三上郷あり。中世は三上荘に作り、文治中内大臣實定これを領す。元祿十一年三月遠藤胤親この地に封ぜられ、一萬石を食み陣屋を置く。弘化二年四月、胤緒の時二千石を加へられ、城主格となり、子孫相傳じて明治維新に至り同三年四月、和

泉國古見に移さる。今上天皇大嘗祭には祭祀齋田となれり。(御上天社) 大字三上に鎮座。官幣中社。祭神、天御影命。孝靈天皇の元年中祭神三上山頂に降臨あり、然れども山頂は參拜に不便なりしを以て、のち相讓りて現地山下に遷し、内外本社を造營せりと。古くより地方名族たる御上院に祭祀され世に重きをなす。養老二年に社殿を修む儀あり、これ現在の宮地にして、これより平安初期を通じて神祇大に著はれ、朝廷の殊遇を蒙る。延喜の制、名神大社に列し、新年・月次・新嘗の官幣に預る。地方に於ける朝廷崇敬の大社として本國の一巨刹たり。天台本山たる延暦寺側の崇奉をうけ、本國に於ける他の名神と共に三十番神の一に入る。五月十四日の例祭の他に、特殊祭典に四月十五日の遷祀祭、七月十八日の影向祭、十月十四日の秋季古例祭あり。本殿・拜殿・樓門は何れも鎌倉時代の造營にて國寶に指定せられ、中にも本殿は入母屋造神社建築の模範たり。社費中、猶大(木造)一對は鎌倉時代の作にて國寶。(聖徳寺) 大字南郷にあり。天台宗。草創年代沿革不詳。本尊、阿彌陀如來坐像(木造、藤原期作)一軀は國寶。(宗泉寺) 大字妙光寺にあり。淨土宗。初め東光寺と號し、同村字東光寺にありしが、織田信長の兵燹により焼失、天正十六年に三上院河守政久、今の地に再建、源譽宗泉を請じて中興開山とし、現寺號を稱す。

地點にあり。村の北方は花崗岩、その南方は極度に變質せる古生層の山地より成り、木津川畔の地は洪積層又は沖積層より成る。洪積層の地域は水に乏しく畑地たりしを約七百年前備前縣上人により村の東端和東川上流より用水路を導き水田を開拓す。其の面積約百八十町歩に達す。木津川以南に本村の飛地法花寺野あり、もと孝仁宮の京城この邊まで及びし所、今日まで傳へて本村の域内とす。純農村にて米は其の主要物産なり。また山麓地帯に蜜柑を産す。此地は元明天皇以東藤原宮を設かれ、聖武天皇天平十三年孝仁宮を御造營の處なり。然るに造營僅か四年にて廢され、其の大輪殿は國分寺に給付し給ふ。孝仁宮の京城は明かならずと雖も、現在の寺址、即ち當時孝仁宮の宮址たるは疑なく、寺邊に遺る巨大なる礎石または古瓦類により其の廢墟たるを證し得べし。礎石附近は史蹟とし保存せられあり。本村は和名抄、木泉郷の地なり。また對岸加茂町は賀茂郷の地にて、孝仁宮の京城にて、當時その港市の地なりしならん。正保三年江戸幕府御幣使を復活するや、當地は其の例幣使所用地と定め、伊勢大廟及び日光東照宮の例幣使料を本村に仰ぎ引續き明治維新に至る。又地名例幣はその遺稱を傳ふるもの。大字例幣、登大路より山上八町の地に聖武天皇勳願、貞觀建立の瓦刹住持山寺(貞

藥師如來坐像(木造)一軀・毘沙門天立像(同)一軀・不動明王兩童子立像(同)三軀は國寶なり。

ミカフ

三上山 滋賀縣野洲郡三上村にあり。琵琶湖の南東方、野洲川の右岸に峙つ。標高四二八米。山麓富士に似たれば近江富士の稱あり。山は二峯に分れそれぞれ雄山・雌山と稱し山頂よりは比叡山・比良の連峯を望み眺望絶佳なり。西麓に御上神社、山腹に妙見堂あり。東海道名所記によれば、往昔この三上山に百足ありて瀧田橋の下に棲める靈神を殺さんとせしを、倭姫太秀禰ただ二矢にて馬妓を殺せしかば、その報に來使一つ、帛一匹、鐘一つを與へたりと。倭姫太の名これより出でしと云ふ。鐘は三井寺に奉りて今に有り。雲笠雨笠によれば、瀧田より三上山に至る五里餘ありて、土人に之を問へば倭姫山は瀧田より一里ばかりにある山にて、秀郷が射たるはこの山に棲みし由云ひ傳ふとあり。百足山本妙寺の縁起に假託せられて變遷せるもの如し。

ミカフ

備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に三上郡三上郷あり、その地、今の比婆郡本村の邊なるべし。

【三上】 備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に奴可郡三上郷あり、その地、今の比婆郡寄野村に當る。

ミカミ

【三神村】 福島縣磐城國西白河郡の東北隅。矢吹町の東に接し、北は岩瀬郡、東は阿武隈川を以て石川郡に境す。地は西北部と東南部に高く、丘陵をなし、阿武隈川は東境を北流し、その左岸は稍平坦なり。米・蕎麥を産す。道路は村の東南より西に通じ、西方矢吹町、東南方石川町へパスの便あり。大字三城目の鹽橋館は往古、伊藤大學なる人、大和より來りて住居せし所なりといふも、大和にあらずして近隣より來りしものなるべし。三城目の古刹永福寺は推古天皇の朝、僧慧慈の開基と傳ふ。

ミカメ

【三瓶町】 愛媛縣伊豫國西宇和郡の南部。東は東宇和郡に隣接し、西は宇和港に面す。四國山脈西端の海に沈む所に位し、山岳地より成り海岸に僅少の平地あり。氣候温暖なれば農業盛にして米・蕎麥・蕎麥等を産し山地よりは木材・木炭等の林産物を出さず。海岸はヨナス式海岸をなして屈曲に富み多数の港灣を有し、三瓶港は内務省指定港たり。河口には鳥嶋船渠として農産物の漁獲多し。水産業盛にて鰯・刺鰯・鯖等の漁獲多し。主要市街は奥池瀨の盡頭に開け、縣道その中心を南北に通じて南方宇和島市に至りパス通す。市街は最近工業を興し綿糸布の製造盛なり。また絹糸工業・水産物を飼はず、その内、卵を食せざりき。いま岩谷に平等寺あり。餘五將軍の草創にて境内なる藥師堂の藥師如來・勝土等は一に藤原時代の作といはる。寺内に牌子あり、表面に「鎮守府將軍平維茂當時開基南院殿華嚴普轉昌運東家大居士、裏面に「永延元年三月十五日示寂」の文字あり。また寺寶の法印には「貞治三」の年號刻まる。維茂の史實に就きては未だ詳ならず、されど多くの傳説本村に傳はる。【將軍杉】 指定天然記念物。幹圍三丈五尺に達す。樹勢壯大、杉の巨樹として有数のものなり。

【三川村】 和歌山縣紀伊國西牟婁郡の東部。日置川の上流に跡り、東は東牟婁郡に界す。日置町を距る東北約一三軒。北隣の富里村との間には一〇〇〇米を越ゆる峻峯東西に相並び、東には大塔山(一一二二米)・高尾山・大森山等聳えて東牟婁郡との境を限る。北境の山脈より山脈は西南に延び、中央に入道山・赤土森山・水垣内山等連り、西に牛田山等あり。北より來る日置川、東北部に源流する前ノ川、南より來る將軍川、其他の諸川は幾多の屈曲をなして村内を流れ、遂に村の西南に於て相會し西南流して川添村に入る。米・蕎麥・柑橘を多く産し、林産もまた多し。縣道西北方より山地を越えて西部に入り來るも交通概して便ならず。明治二十二年町村制實施以來は豊原村と組合村をなせしも、昭和四年豊原村を編入す。

【三川村】 廣島縣備後國世羅郡の東南隅。甲山町の東北に連り、北は甲奴郡、東は廣品郡、南は御調郡に界す。面積五四・九三平方軒。四周を山脈に圍繞せられ、村内概れ海拔五〇〇米内外の山地なり。蘆田川の上支二條、山間を迂流して東南に流る。中央に長き溪谷を作り、沿岸には耕地を拓けり。村の周圍は山林を繞らせり。農業盛んにて村民は概れ沿岸に墾墾せり。米・蕎麥・清酒・薪炭・木材・牛・馬等を産す。縣道を以て甲山町に通じ、近隣に自動車道の便あり。この地は和名抄、世羅郡桑原郷の内か。

【三川村】 廣島縣安藝國安佐郡の南部。南は原村を挟みて廣島市に對し、東は太田川を以て日田村に界す。北は川内村、西は安村に接す。面積二・一四平方軒。太田川東境を南流し、村はその流域平野上に位し、地勢極めて平坦肥沃、大部分は耕地に占めらる。農業・工業發達し、米・蕎麥・蠶桑・漆・漆の産多し。對岸日田村には省線備後線の安藝矢口驛あり。省線可部線は村内に古市橋驛(明治四十二年設置)を、省營バス廣瀨線は西部を貫通し中古市驛(昭和九年設置)を置く。可部町・廣島市に縣道通じパスの便あり。この地は和名、安藝郡橋良郷の内にして中世は北ノ庄と呼べり。

【三川】 福岡縣三池郡にありし村。大正元年に町となり、昭和四年同町を廢し、その區域を大牟田市に編入す。

【三川村】 佐賀縣前國三養基郡の西南部。久留米市の西南約五軒にあり。西及び西南は神埼郡に、東南及び東は福岡縣三浦郡城島町に界す。筑紫平野の中央を占むるため地極めて平坦にて筑後川支流の細流が南下して村を流し、南約半軒に西南流する筑後川の本流に入る。地味肥沃、水利の便よく農業に適し、米・蕎麥の産額多し、蕎麥も産す。主要里道東西に通じて久留米市及び佐賀市へ達す。この地は和名抄、三根郡物部郷の内なり。大字江見は明治七年二月の亂に熊本鎮臺の兵久留米より河を渡り、北茂安村を取り此處に至る。佐賀の士族、大舉して之を還撃し、鎮臺兵は久留米へ走れり。

【三河國】 東海道十五箇國の一。國內、豊橋・岡崎の二市及び北設楽・南設楽・八名・渥美・寶飯・東加茂・西加茂・頼田・碧海・幡豆の十郡を含み、愛知縣の管轄に屬す。この國は古く三川に作り、また參河とも書く。國造本紀には成務天皇の朝に參河の國造として知波夜命を定め給ひし穂國あり、こは國郡制定の時に郡となりて穂郡となり、のち奈良時代に至り地名は二字の美名を附けられし時、穂の音を延し寶飯とす。寶飯は平安時代の頃に至り何時しか轉訛して寶飯郡となる。この國の國府は寶飯郡國府村の地に置かる。寶飯郡が三河の東部に據がる大郡なりしことは、醍醐天皇の延喜三年八月に

地勢概れ高峻なるも、旭川の上流は新庄村に發して村心を東南に貫き、また支流本庄川は北部の山中に發して東流し沿岸に河谷低地開く。村内の大部は山林地に屬するも所々に原野を有す。耕地は河岸に拓け米・蕎麥を産し、また木炭・薪・酒類・柿等の産あり。出雲街道は旭川沿岸に通じ古く雲伯二國の交通路なりしが、今はパスを以て勝山町に連絡す。古くは美甘郷に作り、和名抄に眞島郡美甘郷とあるは本村及び新庄村の邊にして、中世は莊名に呼ぶ。

ミカワ

【三川】 北海道石狩國夕張郡山仁村の大字。省線室蘭本線の三川驛(明治三十年設置)を置く。

【三川村】 新潟縣越後國東蒲原郡の西北部。阿賀川の北岸に沿ひ、支流新谷川の流域を占む。北は飯盛山に續く六百一十米に及ぶ山脈連なり、北蒲原郡に界し、加治川との流域を分つ。新谷川は東より來り村内の諸水を兼ねて西南に流路をとり、南部を曲流する阿賀川に會す。河岸に僅かの各平野を見る外、村内山岳起伏し森林に富む。米・蕎麥その他穀類の耕作、或は養蠶・製炭を生業とし、新谷川本支流に沿ひて葉落散在す。宮村内、或は隣接の他村に跡りて金銀銅鉛鋅等鉛鐵及び石炭などの礦區存すれども多くは掘らず、但し北蒲原郡赤谷村に本據を有し宮村にも礦區の跡れる赤谷炭山は今な

は重要炭山にして昭和十年には石炭一、三七六萬を産す。また宮村内に鐵區七九萬餘坪を有する三川炭山あり、重要炭山にて鐵礦は金銀銅鉛鋅等なるが、昭和十年には金銀銅鉛八、九三五萬を産出す。鐵石は日立鐵山に送致して合併製鍊す。日本製業會社の稼行にて、十年六月末の鐵夫数は一三三人とす。南部を掠め通る省線磐越西線は村内に白崎驛(大正二年設置)を置き、若松街道は阿賀川に沿ひて貫通す。他に津川町より北蒲原郡新發田町に出づる一條の縣道南北に通じ省線赤谷線の終點赤谷驛へ北境より約四軒を隔つ。大字は白川・岩津・内川・行地・新谷・綱木・岡澤・古岐・中ノ澤の九にして、前三者はもと福島縣東蒲原郡に屬せしが明治十九年新潟縣北蒲原郡の村となりし後六者はもと新潟縣北蒲原郡の村なりしが、明治二十二年町村制實施に際し東蒲原郡に編入せられ、同時に六箇村合併して綱木村と稱す。此年に前三者も合併して三川村と稱せしが、同四十一年綱木・三川の兩村合併して新三川村を建つ。大字白川字白崎に御前ヶ鼻として龜殿の阿賀川に突出せる所あり。昔、餘五將軍平維茂が大字岩津字岩屋に隠居居たりしが或時病に臥す、夫人に「三月十五日の鶴鳴前に來れ、さなくば對面せし」といひ遣はす、夫人いまいの御前ヶ鼻まで通り來りしに鶴鳴く、かくて此處に投身すといふ。この傳説を傳へて古人、白崎にては

ミカワ

しが、天正十八年北條氏の滅亡後は豊臣秀吉は家康を關東に移して江戸に封じ、池田輝政を吉田に、田中吉政を同時封じ、若屋の水野氏のみ舊封を保持し、關ヶ原校終るや、徳川家康は田中吉政を久留米に、池田輝政を姫路にそれぞれ榮轉せしめしが、水野氏なほ舊封を維持す。ここに於て同時本多康重を、吉田に松平家清を、西尾に本多康俊を、作手(南設樂郡の内)に松平忠明を、田原に戸田重次を、伊保(西加茂郡の内)に丹羽氏水を、深溝(額田郡の内)に松平忠利を、それぞれ封す。爾後、國內の諸藩の廢置、轉封少からざりしが、明治維新の初めには、豊橋(舊名吉田)には大河内氏(七萬石)、西尾には松平氏(六萬石)、同時には本多氏(五萬石)、重原(奥州福島より移る)には板倉氏(二萬八千石)、刈原には土井氏(二萬三千石)、早稲には内藤氏(二萬石)、牛原(武蔵國郡より移る)には安部氏(二萬二千五百石)、田原には三宅氏(一萬二千石)、西端には本多氏(一萬五百石)、西大平には大河内氏(一萬石)の十藩あり。明治元年四月には參河裁判所が置かれ、三河のほか遠江・駿河をも管せしが、間もなくこれを廢して信濃に置かれたる伊奈縣に合併す。而して前記三河の十藩はいづれも明治四年七月一日に一縣となりしが、同年十一月には悉くこれを廢して額田縣を同時に置き、伊奈縣の廢止と共に三河

ミカワ

地方は全部額田縣の所管に移り、ここに額田縣は三河一國を管するほか尾張國の知多郡をも管するに至れり。明治五年十一月には額田縣を廢してこれを愛知縣に併せしを以て、三河一國は愛知縣の所管となりて今日に至る。同十三年五月、加茂郡を東西二郡に、設樂郡を南北二郡に分け、同三十九年八月よりは濃美郡の中より豊橋市獨立し、大正五年には同時市が額田郡の中より獨立し、今日の如く二市十郡となる。

ミカワ

【三河灣】愛知縣の西南、伊勢海に臨く一支灣。知多半島と橋豆の突出の間を北方に彎入し、刈谷附近に達する細長き海面にて、濃美半島の北岸に添ふ濃美灣と相對す。灣頭に佐久・日間賀等の小島あり。灣内には東方より矢作川、矢作古川が注入し、低平なる三角洲平野を形成し北端より堀川が注入す。北部を衣ヶ浦と稱し、沿岸は遠淺にて海水浴場發達す。三河灣の東岸には三河鐵道が通じ、碧海郡刈谷・高濱・大濱及び幡豆一色等の聚落を結び、西岸には東海道本線大府驛より武豐線を分ち、龜時・牛田・武豐の港市を結ぶ。沿岸には魚介の産多し。

ミカワ

【三木町】石川縣石川郡にありし町。昭和十年に金澤市に編入す。北陸本線の美川驛(明治三十一年設置)は金澤市美川に置かる。

ミカワ

【美川村】島根縣石見國那賀郡の中部西端。濱田町の南約八軒。東西約五軒、南北五・八軒、面積二九方軒餘。東南隅に池山(七一四米)聳え、その山腹は北に延びて五〇〇米臺の山を連ね、北・西・南の三境もまた三〇〇米臺の山に圍まれるも、東北部を流流する周布川流城に平地ひらく。また西部及び南部の山間小盆地に耕地著しく發達す。米・繭の農産ある外、用材・木炭を出すこと多し。河沿ひに道路通じ日本海岸の省線山本線周布驛へ出づるに便なり。此地はもと池山・大内の二村に分れしが昭和十年合併して美川村と名づく。和名抄、那賀郡周布郷の内なり。(八幡宮) 大字内村に鎮座。郡社。祭神、應神天皇・神功皇后大神。寛仁四年、本郡田橋村字宮ノ尾に創祀せりと傳ふ。例祭、十月十五日。

ミカワ

ミカワ

ミカワ

ミカワ

ミカワ

木山村、東南は津田村に各隣接す。面積二七・一三方軒。地形西北より東南に極めて細長く伸び、四周を山地に圍繞せらる。旭川支流なる備中川の貫流によりて中央部に平地を有し耕地拓くも、他は概ね四〇〇―六〇〇米の山地起伏して山林に蔽はる。米・麥・蕎麥及び木炭・干柿・高麗等を産す。富村と上房郡水田村とに隣接して水田農山あり。格魯鐵山にして、昭和十年には一〇〇畝を出せり、※水田村 縣道河津に通じ落合町・高梁町にバスの便あり。もと美原・關川の二村なりしが、明治三十七年合併して美川村と名づく。

【美川村】岡山縣備中國小田郡の東北部。矢掛町の北に連り、東は吉備郡に界す。西北は宇戸村、西は美山村、東南は三谷村に接す。面積二六・二八方軒。村内地勢概ね山地にて西北部と東南部に高く、東北山中より發して中央を南流する小田川一支流の沿岸は平地なり。耕地は流域平地に拓け、里道また川に沿うて通す。村の周圍は山林に圍まる。米・繭・麥の産多く、木炭・柿・薄荷等をも産す。矢掛町へは約四軒にして自動車の便あり。この地は和名抄、小田郡那賀郷のうちなり。隣村宇戸村に跨る鬼ヶ嶽は指定名勝なり。

【三木町】兵庫縣播磨國美祿郡の西部。合して美川區を建つ。省線常野線の三河島驛(明治廿八年設置)は美川區三河島町四丁目にあり。

【三木村】石川縣加賀國江沼郡の西部。牛ノ谷峠の北麓を占め、東北は大聖寺町に接し、西より南へかけて福井縣越前國坂井郡に界す。北越國境山脈の末端を占め村内概ね丘陵山に於て略西北へ傾斜し、西北部を西へ大聖寺川貫流し流域に小平野あり。平地には米産あり山地には林産多し。省線北陸本線と北陸道は共に東北より南端牛ノ谷峠を越えて越前に通じ、西北部山麓に沿ふ縣道もありて大聖寺町と外港の鹽屋港とを結びバスの便あり。省線北陸本線大聖寺驛(明治廿年設置)あり、社線温泉電軌と接続す。この地は和名抄、江沼郡長江郷の地にして、大字橋は中世立花宿と稱し、越前の細呂木より此を經由す。延喜式に朝倉驛といふも此なるべし。同國鑑記に「加賀國に至り立花といへる所に宿をかり侍りて、故立もさつきの後身なりけり我に宿かせ橋のさと」大字熊坂は東鑑・壽永三年、「池大納言沙汰八條院御領熊坂庄」とある地にして近世は四庄と稱せし地なり。

【三木町】兵庫縣播磨國美祿郡の西部。加古川支流の三木川に跨り明石市の北方約一四軒にあり。南部は丘陵をなし北部は廣き平野開けて三木川西南流し、その南岸に市街地發達し三木川畔の大邑をなす。米・麥・蕎麥・食用農産・蔬菜・花卉・果實及び醬油・度量衡器・木製品・紙製品・林産・繭等の産物あり。また町内鍛冶屋多く刃物を名産とす。一方軒の人口密度は昭和十年一四九八人を算し縣下第一にて郡の平均一九六人に比し著しく大なり。縣道は各方面へ通じ交通の中心をなし明石市へバス通す。警察署・氣象觀測所・高等女學校あり。もと別所氏の居城たり。(三木城) 赤松氏の庶流別所氏の別所安治は武略に富み、自立して東播磨を領し、その子長治、天正八年豊臣秀吉の攻圍を受け、城陥りて長治自刃す。始め織田信長の中國經營に着手するや、長治を以て先鋒となさんと欲して長治を誘ふ。よつて長治これに應ぜしに、信長は別に秀吉を以て將となし、以て長治に謀るところあらしむ。蓋し信長の意、長治は年なほ幼なるため秀吉の先鋒たらしめんとす。ここに於て長治その表裏あるを以て遂に叛せりといふ。長治の死するや廢城に歸す。(大宮八幡宮) 郡社。大字福井にあり。祭神、應神天皇外八柱。故に九社八幡の稱あり。天正年中創建。もと朱印七十五石五斗を有す。例祭、十月十六・十七日。もと散樂行はれしも近

ミキ

昔は宿禰あり、今宿の地名残り。また南部には岐阜と大垣とを結ぶ岐垣道通じ、岐垣市間の最短期間をなす。鐵道は北部に東海道本線僅に通じ大垣驛に近し。美濃路には舊儀行のバスを通ず。古くは和名抄に見ゆる安八郡長友郷の地と思はる。東北部は中世は世安庄と呼ばれ江戸時代は何れも大垣藩領なり。大字三塚はもと大井莊に屬し、大坊墳・はり原墳・石堂墳の三墳ある故、三塚と名付く。村の西なる興福寺の西の高き畑に古城址あり、種田信濃守は氏家ト全の旗下に天文の頃この城に居りしが、元龜二年石津郡太田にト全と共に討死し、ト全の二男氏家内膳行廣は種田の討死後、本城に率り住み一萬五千石を食み、天正十一年桑名に移る。大字加賀野は世安庄七箇村の中に、その城址は信長の森部合戦の頃、日比大三郎これを守ると。大字今宿はもと三塚の中なりしが、當所城主種田助之丞、家の字を忌み鎌比信長に請ひて今宿と改稱す。その古城址は種田助之丞が五百貫文を領して守りし地に助之丞は元龜二年に種田信濃守と共に戦死す。大字小野はもと二木莊に屬し長橋の跡あり、その古城址は横峯帯刀信隆の居城たり。澤渡は中世は佐渡と書かれ二木莊に屬せり。古來交通の要衝にして美濃路を扼する此の流は承久亂、關ヶ原役等に度々戰場たり、波領は運とも見え、萬石はもと江戸と稱せられし地なり。

ミキ

美吉 武藏國(埼玉縣)の古地名。和名抄に秩父郡美吉郷あり、その地の秩父郡内ならんも詳かならず。今この秩父郡内ならんも詳かならず。

ミキ

御木(國) 往昔筑紫にありし國。その位置は大凡今の筑後國三池郡の地に當る。釋日本紀卷十に筑後風土記を引用して國名につきての記事あり、昔倭木一株、那家の南に生ぜり。高さ九百七十丈、朝日の影は肥前國藤津郡の多良峯を蔽ひ、夕日の影は肥後國山鹿郡(いま鹿本郡の内)の莞瓜之山を蔽ふ。故にこの國を御木の國といひしが、後の人これを詠りて三毛といひたりといふ。後に郡名となり、和名抄に三毛郡とあるも、鎌倉時代の頃より三毛・三池を混用し、今は三池郡と書く。

ミキ

三岐田町 徳島縣阿波國海部郡の東部。日和佐町の東にあり。北は那賀郡に隣り、東は太平洋に臨む。四國山脈の東端の海に沈む地を占む。従つて百一二十米の山地廣く傾斜して東に緩傾斜し、その麓下に低平な耕地を拓く。海岸は出入り富み、由岐河を以て幾多の鰻入ありて良港をなす。耕地よりは米・麥・蕎麥等を産したる牧牛盛に行はる。池田は殊に盛にして魚類多く鯛・鯉・鮎その他の海産物等の漁獲高多し、その抽出し、加工業等盛なり。主要市街は由岐河に臨む西山麓にて北隣の福井村(那賀郡)に縣道出でて國道に連絡しバスを通ず。阪神・東山・山陽線の寄地にて海陸交通の便あり、大正二年大正村と改稱。

ミクニ

三國山脈 關東の北邊、群馬・新潟兩縣の縣境に聳ゆる山脈を稱す。近年開通せる上越線清水トンネルはほぼその中央を貫通す。御坂層等の水成岩類を貫く花崗岩・閃綠岩の大岩株が山地の大部分を構成し、御坂層は接觸變質を被りてホルンフェルスに變る。二〇〇〇米内外の高峯並列し、山深く交通不便のため近年まで世人の注意を惹かずしが、清水トンネルの開通と共に漸くこの山地に足を踏み入る登山者も多くなれり。北方には平嶽(二四〇米)・見嶽(一九二六米)・中ノ嶽(二〇八五米)・駒ヶ嶽(二〇〇二米)等の高峯あり、南方は利根川、北方は阿賀川支流の只見川の水源を成す。中央部は小澤嶽(一九四四米)・牛ヶ嶽(一九六二米)・朝日岳(一九二〇米)・茂倉岳(一九七八米)・谷川岳(一九六三米)等の高峯にして、朝日岳の西邊に一四四八米の清水越があり、この下を清水トンネルが通過す。更に西南部には萬太郎山(一九五四米)・仙ノ倉山(二〇二六米)・三國山(一六三六米)・稻包山(一五九八米)・白砂山(二二四〇米)等があり、三國山下一二四四米の山背は三國峠にて、古くより上越の交通路に利用さる。東北より西南に走るこの山脈は東南側に利根川支流の赤谷川・四萬川の源を興へ、北方には信濃川の支流魚野川・清津川の水源とな

ミクニ

る。關東側山麓には湯掛曾・法師・笹ノ湯・四萬等の温泉・源泉湧出し、北方新潟側にも赤湯・湯澤等の温泉湧出す。湯澤までは通常乗合自動車道が通じて交通至便なり。三國山脈の山腹には未だ十分紹介されず。谷川岳の山腹には近時水河の遺跡らしきもの発見されたり。

ミクニ

三國峠 越後山系三國山脈の主峯。群馬縣利根郡新治村と新潟縣南魚沼郡三國村との境上に位す。高崎方面と新潟・長岡方面とを結ぶ重要交通路に當り、荷物は平素は馬にて、冬季は、こによりて運搬せられたり。その後、北東方に清水峠路が開墾せられしも高峻なるため實用化されず、依然この峠に往來を見たり。されど信越線開通後はこの峠も次第に寂るに至れり。いま峠上に大なる鳥居と三國権現の社殿とあり。北側路に三國三宿とて、二宿・三宿の三宿あり、邊に湯澤に下る。南方は法師温泉に下り、それより上越線後閑驛に至る。天正十年織田氏

ミキ

通至便なり。大正十一年に町制を布く。此地は和名抄、那賀郡和射郷の内にて、太平記に雪の海といふはこれなり。この浦に康暦二年十一月十六日、海嘯地震あり、人民の損亡多かりきと。

ミキ

美木多村 大阪府和泉國泉北郡の中郡。和泉山脈の北麓臺地を占め、福泉町の南に接し、西北より東南に長く、東南部は南河内郡に界す。東南境より西北方へ連る低き二條の丘陵が東・西兩境を限り、東南隅に發する石津川は中央東偏を西北流し、西北部にて南方より来る支流を合せ福泉町に出づ。工業・農業・林産等あり。北方の濱寺町及び堺市へバスを通ず。久世村と共に和名抄、大鳥郡和田郷の地なり。

ミキ

右田村 山口縣周防國佐波郡の西南部。防府市の西北に接し、佐波川の西岸に沿ふ。西は古敷郡に界し、東北は小野村、西南は僅に海に面す。面積三一・七六方軒。川に沿うて地形は南北に長く、流域は肥沃なる平地をなし耕地よく拓く。西部に山地連りて凌雲寺山(三七〇米)郡境に聳ゆ。農業最も盛んにして米・麥・甘藷・蔬菜及び清酒・醬油・陶器・水産物等の産多し。縣道を以つて山口市・防府市へバスの便あり。この地は和名抄、佐波郡玉祖郷の内なり。官幣中社玉祖神社鎮座す。中世には右田村といふ。大字大崎の邊はもと大崎浦と云へり。また江戸時代の人、製鹽業の開祖、

は武藏・上野の兵を以て越後に亂入せんとせしが、上杉氏の小兵に此地を扼さる。また明治維新の際、會津の將、町野源之助は此處を守りたり。

三國山 關東山地秩父山塊の一峯。埼玉縣秩父郡大滝村・長野縣南佐久郡川上村・群馬縣多野郡上野村の境上、即ち武藏・信濃・上野の三國上にある故に山名あり。標高一八二八米。山體は秩父古生層より成り、東流する荒川、北流する神流川、西流する千曲川の水源をなす。登山は多く東麓大滝方面より荒川を廻り、十文字峠最高點より尾根を北に縱走して達す。

三國村 新潟縣越後國南魚沼郡の西南隅。清津川の水源をなす。南と東南は三國山脈の諸峯を連る群馬縣上野郡に、西はその支脈前山連峯を以て長野縣信濃國に界す。全村一五〇〇—二〇〇〇米餘の山岳重疊し、平地を殆ど見ず。清津川は東南部の三國山中に發し、西部の諸水を兼ねる一を合して北流す。流域に山岳連りて溪谷あり。西部赤湯山麓の溪谷には温泉湧出す。三國街道は東南隅三國峠を越え上州より來り河岸を北走す。この地は三國峠の下にして、清津川の源に居り、二宿と淺貝とを合して木村をなす。大字淺貝は西北方の二宿・三宿と共に江戸時代より三宿と呼ばれ、重要な宿場なりしも今は林業・製炭・鐵道の耕作等に從ふ山間の小村なり。省線上越本

田中藤六(贈從五位)はこの地の人なり。大崎浦 (明治天皇御小休所) 指定史蹟。大字下右田宇野坂にあり。明治十八年山陽道遷幸の際、七月二十九日及び三十一日兩度御召替のため御小休所となりし處にて舊規よく保存さる。(明治天皇御小休所) 指定史蹟。大字下右田宇野坂にあり。明治十八年山陽道遷幸の際、七月二十九日及び三十一日御小休所となりし處にて、家は取除かれ、峠道に沿ひて石垣・石段等を存し、御座所址には聖蹟記念碑を建て。(玉祖神社) 大字大崎に鎮座。國幣中社。祭神、玉祖神外一柱。式内社。神位、康保元年從一位。神封、大同元年十戸。本國の一宮たり。玉祖神は天孫降臨に供奉、のち本國佐波郡大崎の地に神遷りしかば社殿を建て奉養す。神功皇后參詣ありしと。江戸時代に藩主毛利氏の崇敬あり。例祭九月廿五日。他に三月四日國祭、五月上の辰の日玉岩宮祭、九月廿四日占手神事等あり。(御神社) 大字高井に鎮座。祭神、祭神素戔鳴尊。式内社。仲哀天皇、神功皇后、筑紫親征の際の創建と云ふ。例祭、十月八日・九日。(天徳寺) 中宗。建久年間、源頼朝の開基と傳ふ。中世は兵燹に罹りて衰頹せしが、寛永二年に毛利元俱再興し、爾來右田毛利氏の菩提所となる。

三木本 大阪府中河内郡にありし村。大正二年に南河内郡太田村

線湯澤驛へは約一六軒を隔て、交通は便ならず。

三國山 越中・能登・加賀の三國境に位する山にて、富山縣西礪波郡南谷村・石川縣羽咋郡河合谷村・河北郡英田村に跨る。標高三二四米、山體は第三紀層より成る。

三國(國) 國造本紀に見ゆる國名。即ち成務天皇の御宇、彦太忍信命四世の孫若長足尼を以て國造と定むと見ゆ。今の福井縣(越前國)坂井・足羽・大野・丹生の各郡に互りし地域なるべし。いま坂井郡に三國の名殘る。

三國町 福井縣越前國坂井郡の北西部。九頭龍川の河口右岸に臨み、越前平野水運の咽喉を扼する港町なり。西北は雄島村、東北は加戸村・東は本莊村、南は木部村に接し、西は九頭龍川を隔てて新保村と相對す。河沿ひに西北・東南にやや長く、面積二・六方軒。西北部に平山丘陵の延び来る外は平坦にして、市街東部には沃野連く連る。三國港は九頭龍川河口に發達し、また坂井港とも稱す。産業は工業・商業・水産業いづれも盛にして、稻・蠶・繭・油の産は特に著はれ、縣下有数の商業地たり。また近海に於ける中心漁港にして遠洋漁業會社・水産會社等あり。其他、造船・金屬工業行はる。省線三國線は北陸本線金津驛より岐れて西走し三國驛(明治四十四年設置)あり、福井驛よりガタキーン車を直通して約五十分

にありし村。大正二年に南河内郡太田村

線湯澤驛へは約一六軒を隔て、交通は便ならず。

三國山 越中・能登・加賀の三國境に位する山にて、富山縣西礪波郡南谷村・石川縣羽咋郡河合谷村・河北郡英田村に跨る。標高三二四米、山體は第三紀層より成る。

三國(國) 國造本紀に見ゆる國名。即ち成務天皇の御宇、彦太忍信命四世の孫若長足尼を以て國造と定むと見ゆ。今の福井縣(越前國)坂井・足羽・大野・丹生の各郡に互りし地域なるべし。いま坂井郡に三國の名殘る。

三國町 福井縣越前國坂井郡の北西部。九頭龍川の河口右岸に臨み、越前平野水運の咽喉を扼する港町なり。西北は雄島村、東北は加戸村・東は本莊村、南は木部村に接し、西は九頭龍川を隔てて新保村と相對す。河沿ひに西北・東南にやや長く、面積二・六方軒。西北部に平山丘陵の延び来る外は平坦にして、市街東部には沃野連く連る。三國港は九頭龍川河口に發達し、また坂井港とも稱す。産業は工業・商業・水産業いづれも盛にして、稻・蠶・繭・油の産は特に著はれ、縣下有数の商業地たり。また近海に於ける中心漁港にして遠洋漁業會社・水産會社等あり。其他、造船・金屬工業行はる。省線三國線は北陸本線金津驛より岐れて西走し三國驛(明治四十四年設置)あり、福井驛よりガタキーン車を直通して約五十分

にありし村。大正二年に南河内郡太田村

線湯澤驛へは約一六軒を隔て、交通は便ならず。

三國山 越中・能登・加賀の三國境に位する山にて、富山縣西礪波郡南谷村・石川縣羽咋郡河合谷村・河北郡英田村に跨る。標高三二四米、山體は第三紀層より成る。

三國(國) 國造本紀に見ゆる國名。即ち成務天皇の御宇、彦太忍信命四世の孫若長足尼を以て國造と定むと見ゆ。今の福井縣(越前國)坂井・足羽・大野・丹生の各郡に互りし地域なるべし。いま坂井郡に三國の名殘る。

三國町 福井縣越前國坂井郡の北西部。九頭龍川の河口右岸に臨み、越前平野水運の咽喉を扼する港町なり。西北は雄島村、東北は加戸村・東は本莊村、南は木部村に接し、西は九頭龍川を隔てて新保村と相對す。河沿ひに西北・東南にやや長く、面積二・六方軒。西北部に平山丘陵の延び来る外は平坦にして、市街東部には沃野連く連る。三國港は九頭龍川河口に發達し、また坂井港とも稱す。産業は工業・商業・水産業いづれも盛にして、稻・蠶・繭・油の産は特に著はれ、縣下有数の商業地たり。また近海に於ける中心漁港にして遠洋漁業會社・水産會社等あり。其他、造船・金屬工業行はる。省線三國線は北陸本線金津驛より岐れて西走し三國驛(明治四十四年設置)あり、福井驛よりガタキーン車を直通して約五十分

にありし村。大正二年に南河内郡太田村

線湯澤驛へは約一六軒を隔て、交通は便ならず。

三國山 越中・能登・加賀の三國境に位する山にて、富山縣西礪波郡南谷村・石川縣羽咋郡河合谷村・河北郡英田村に跨る。標高三二四米、山體は第三紀層より成る。

三國(國) 國造本紀に見ゆる國名。即ち成務天皇の御宇、彦太忍信命四世の孫若長足尼を以て國造と定むと見ゆ。今の福井縣(越前國)坂井・足羽・大野・丹生の各郡に互りし地域なるべし。いま坂井郡に三國の名殘る。

三國町 福井縣越前國坂井郡の北西部。九頭龍川の河口右岸に臨み、越前平野水運の咽喉を扼する港町なり。西北は雄島村、東北は加戸村・東は本莊村、南は木部村に接し、西は九頭龍川を隔てて新保村と相對す。河沿ひに西北・東南にやや長く、面積二・六方軒。西北部に平山丘陵の延び来る外は平坦にして、市街東部には沃野連く連る。三國港は九頭龍川河口に發達し、また坂井港とも稱す。産業は工業・商業・水産業いづれも盛にして、稻・蠶・繭・油の産は特に著はれ、縣下有数の商業地たり。また近海に於ける中心漁港にして遠洋漁業會社・水産會社等あり。其他、造船・金屬工業行はる。省線三國線は北陸本線金津驛より岐れて西走し三國驛(明治四十四年設置)あり、福井驛よりガタキーン車を直通して約五十分

にありし村。大正二年に南河内郡太田村

線湯澤驛へは約一六軒を隔て、交通は便ならず。

三國山 越中・能登・加賀の三國境に位する山にて、富山縣西礪波郡南谷村・石川縣羽咋郡河合谷村・河北郡英田村に跨る。標高三二四米、山體は第三紀層より成る。

三國(國) 國造本紀に見ゆる國名。即ち成務天皇の御宇、彦太忍信命四世の孫若長足尼を以て國造と定むと見ゆ。今の福井縣(越前國)坂井・足羽・大野・丹生の各郡に互りし地域なるべし。いま坂井郡に三國の名殘る。

三國町 福井縣越前國坂井郡の北西部。九頭龍川の河口右岸に臨み、越前平野水運の咽喉を扼する港町なり。西北は雄島村、東北は加戸村・東は本莊村、南は木部村に接し、西は九頭龍川を隔てて新保村と相對す。河沿ひに西北・東南にやや長く、面積二・六方軒。西北部に平山丘陵の延び来る外は平坦にして、市街東部には沃野連く連る。三國港は九頭龍川河口に發達し、また坂井港とも稱す。産業は工業・商業・水産業いづれも盛にして、稻・蠶・繭・油の産は特に著はれ、縣下有数の商業地たり。また近海に於ける中心漁港にして遠洋漁業會社・水産會社等あり。其他、造船・金屬工業行はる。省線三國線は北陸本線金津驛より岐れて西走し三國驛(明治四十四年設置)あり、福井驛よりガタキーン車を直通して約五十分

にありし村。大正二年に南河内郡太田村

線湯澤驛へは約一六軒を隔て、交通は便ならず。

三國山 越中・能登・加賀の三國境に位する山にて、富山縣西礪波郡南谷村・石川縣羽咋郡河合谷村・河北郡英田村に跨る。標高三二四米、山體は第三紀層より成る。

三國(國) 國造本紀に見ゆる國名。即ち成務天皇の御宇、彦太忍信命四世の孫若長足尼を以て國造と定むと見ゆ。今の福井縣(越前國)坂井・足羽・大野・丹生の各郡に互りし地域なるべし。いま坂井郡に三國の名殘る。

三國町 福井縣越前國坂井郡の北西部。九頭龍川の河口右岸に臨み、越前平野水運の咽喉を扼する港町なり。西北は雄島村、東北は加戸村・東は本莊村、南は木部村に接し、西は九頭龍川を隔てて新保村と相對す。河沿ひに西北・東南にやや長く、面積二・六方軒。西北部に平山丘陵の延び来る外は平坦にして、市街東部には沃野連く連る。三國港は九頭龍川河口に發達し、また坂井港とも稱す。産業は工業・商業・水産業いづれも盛にして、稻・蠶・繭・油の産は特に著はれ、縣下有数の商業地たり。また近海に於ける中心漁港にして遠洋漁業會社・水産會社等あり。其他、造船・金屬工業行はる。省線三國線は北陸本線金津驛より岐れて西走し三國驛(明治四十四年設置)あり、福井驛よりガタキーン車を直通して約五十分

にありし村。大正二年に南河内郡太田村

線湯澤驛へは約一六軒を隔て、交通は便ならず。

三國山 越中・能登・加賀の三國境に位する山にて、富山縣西礪波郡南谷村・石川縣羽咋郡河合谷村・河北郡英田村に跨る。標高三二四米、山體は第三紀層より成る。

三國(國) 國造本紀に見ゆる國名。即ち成務天皇の御宇、彦太忍信命四世の孫若長足尼を以て國造と定むと見ゆ。今の福井縣(越前國)坂井・足羽・大野・丹生の各郡に互りし地域なるべし。いま坂井郡に三國の名殘る。

三國町 福井縣越前國坂井郡の北西部。九頭龍川の河口右岸に臨み、越前平野水運の咽喉を扼する港町なり。西北は雄島村、東北は加戸村・東は本莊村、南は木部村に接し、西は九頭龍川を隔てて新保村と相對す。河沿ひに西北・東南にやや長く、面積二・六方軒。西北部に平山丘陵の延び来る外は平坦にして、市街東部には沃野連く連る。三國港は九頭龍川河口に發達し、また坂井港とも稱す。産業は工業・商業・水産業いづれも盛にして、稻・蠶・繭・油の産は特に著はれ、縣下有数の商業地たり。また近海に於ける中心漁港にして遠洋漁業會社・水産會社等あり。其他、造船・金屬工業行はる。省線三國線は北陸本線金津驛より岐れて西走し三國驛(明治四十四年設置)あり、福井驛よりガタキーン車を直通して約五十分

にありし村。大正二年に南河内郡太田村

線湯澤驛へは約一六軒を隔て、交通は便ならず。

三國山 越中・能登・加賀の三國境に位する山にて、富山縣西礪波郡南谷村・石川縣羽咋郡河合谷村・河北郡英田村に跨る。標高三二四米、山體は第三紀層より成る。

三國(國) 國造本紀に見ゆる國名。即ち成務天皇の御宇、彦太忍信命四世の孫若長足尼を以て國造と定むと見ゆ。今の福井縣(越前國)坂井・足羽・大野・丹生の各郡に互りし地域なるべし。いま坂井郡に三國の名殘る。

三國町 福井縣越前國坂井郡の北西部。九頭龍川の河口右岸に臨み、越前平野水運の咽喉を扼する港町なり。西北は雄島村、東北は加戸村・東は本莊村、南は木部村に接し、西は九頭龍川を隔てて新保村と相對す。河沿ひに西北・東南にやや長く、面積二・六方軒。西北部に平山丘陵の延び来る外は平坦にして、市街東部には沃野連く連る。三國港は九頭龍川河口に發達し、また坂井港とも稱す。産業は工業・商業・水産業いづれも盛にして、稻・蠶・繭・油の産は特に著はれ、縣下有数の商業地たり。また近海に於ける中心漁港にして遠洋漁業會社・水産會社等あり。其他、造船・金屬工業行はる。省線三國線は北陸本線金津驛より岐れて西走し三國驛(明治四十四年設置)あり、福井驛よりガタキーン車を直通して約五十分

にありし村。大正二年に南河内郡太田村

線湯澤驛へは約一六軒を隔て、交通は便ならず。

三國山 越中・能登・加賀の三國境に位する山にて、富山縣西礪波郡南谷村・石川縣羽咋郡河合谷村・河北郡英田村に跨る。標高三二四米、山體は第三紀層より成る。

三國(國) 國造本紀に見ゆる國名。即ち成務天皇の御宇、彦太忍信命四世の孫若長足尼を以て國造と定むと見ゆ。今の福井縣(越前國)坂井・足羽・大野・丹生の各郡に互りし地域なるべし。いま坂井郡に三國の名殘る。

三國町 福井縣越前國坂井郡の北西部。九頭龍川の河口右岸に臨み、越前平野水運の咽喉を扼する港町なり。西北は雄島村、東北は加戸村・東は本莊村、南は木部村に接し、西は九頭龍川を隔てて新保村と相對す。河沿ひに西北・東南にやや長く、面積二・六方軒。西北部に平山丘陵の延び来る外は平坦にして、市街東部には沃野連く連る。三國港は九頭龍川河口に發達し、また坂井港とも稱す。産業は工業・商業・水産業いづれも盛にして、稻・蠶・繭・油の産は特に著はれ、縣下有数の商業地たり。また近海に於ける中心漁港にして遠洋漁業會社・水産會社等あり。其他、造船・金屬工業行はる。省線三國線は北陸本線金津驛より岐れて西走し三國驛(明治四十四年設置)あり、福井驛よりガタキーン車を直通して約五十分

にありし村。大正二年に南河内郡太田村

線湯澤驛へは約一六軒を隔て、交通は便ならず。

三國山 越中・能登・加賀の三國境に位する山にて、富山縣西礪波郡南谷村・石川縣羽咋郡河合谷村・河北郡英田村に跨る。標高三二四米、山體は第三紀層より成る。

三國(國) 國造本紀に見ゆる國名。即ち成務天皇の御宇、彦太忍信命四世の孫若長足尼を以て國造と定むと見ゆ。今の福井縣(越前國)坂井・足羽・大野・丹生の各郡に互りし地域なるべし。いま坂井郡に三國の名殘る。

三國町 福井縣越前國坂井郡の北西部。九頭龍川の河口右岸に臨み、越前平野水運の咽喉を扼する港町なり。西北は雄島村、東北は加戸村・東は本莊村、南は木部村に接し、西は九頭龍川を隔てて新保村と相對す。河沿ひに西北・東南にやや長く、面積二・六方軒。西北部に平山丘陵の延び来る外は平坦にして、市街東部には沃野連く連る。三國港は九頭龍川河口に發達し、また坂井港とも稱す。産業は工業・商業・水産業いづれも盛にして、稻・蠶・繭・油の産は特に著はれ、縣下有数の商業地たり。また近海に於ける中心漁港にして遠洋漁業會社・水産會社等あり。其他、造船・金屬工業行はる。省線三國線は北陸本線金津驛より岐れて西走し三國驛(明治四十四年設置)あり、福井驛よりガタキーン車を直通して約五十分

にありし村。大正二年に南河内郡太田村

線湯澤驛へは約一六軒を隔て、交通は便ならず。

三國山 越中・能登・加賀の三國境に位する山にて、富山縣西礪波郡南谷村・石川縣羽咋郡河合谷村・河北郡英田村に跨る。標高三二四米、山體は第三紀層より成る。

三國(國) 國造本紀に見ゆる國名。即ち成務天皇の御宇、彦太忍信命四世の孫若長足尼を以て國造と定むと見ゆ。今の福井縣(越前國)坂井・足羽・大野・丹生の各郡に互りし地域なるべし。いま坂井郡に三國の名殘る。

三國町 福井縣越前國坂井郡の北西部。九頭龍川の河口右岸に臨み、越前平野水運の咽喉を扼する港町なり。西北は雄島村、東北は加戸村・東は本莊村、南は木部村に接し、西は九頭龍川を隔てて新保村と相對す。河沿ひに西北・東南にやや長く、面積二・六方軒。西北部に平山丘陵の延び来る外は平坦にして、市街東部には沃野連く連る。三國港は九頭龍川河口に發達し、また坂井港とも稱す。産業は工業・商業・水産業いづれも盛にして、稻・蠶・繭・油の産は特に著はれ、縣下有数の商業地たり。また近海に於ける中心漁港にして遠洋漁業會社・水産會社等あり。其他、造船・金屬工業行はる。省線三國線は北陸本線金津驛より岐れて西走し三國驛(明治四十四年設置)あり、福井驛よりガタキーン車を直通して約五十分

にありし村。大正二年に南河内郡太田村

線湯澤驛へは約一六軒を隔て、交通は便ならず。

三國山 越中・能登・加賀の三國境に位する山にて、富山縣西礪波郡南谷村・石川縣羽咋郡河合谷村・河北郡英田村に跨る。標高三二四米、山體は第三紀層より成る。

三國(國) 國造本紀に見ゆる國名。即ち成務天皇の御宇、彦太忍信命四世の孫若長足尼を以て國造と定むと見ゆ。今の福井縣(越前國)坂井・足羽・大野・丹生の各郡に互りし地域なるべし。いま坂井郡に三國の名殘る。

三國町 福井縣越前國坂井郡の北西部。九頭龍川の河口右岸に臨み、越前平野水運の咽喉を扼する港町なり。西北は雄島村、東北は加戸村・東は本莊村、南は木部村に接し、西は九頭龍川を隔てて新保村と相對す。河沿ひに西北・東南にやや長く、面積二・六方軒。西北部に平山丘陵の延び来る外は平坦にして、市街東部には沃野連く連る。三國港は九頭龍川河口に發達し、また坂井港とも稱す。産業は工業・商業・水産業いづれも盛にして、稻・蠶・繭・油の産は特に著はれ、縣下有数の商業地たり。また近海に於ける中心漁港にして遠洋漁業會社・水産會社等あり。其他、造船・金屬工業行はる。省線三國線は北陸本線金津驛より岐れて西走し三國驛(明治四十四年設置)あり、福井驛よりガタキーン車を直通して約五十分

にありし村。大正二年に南河内郡太田村

線湯澤驛へは約一六軒を隔て、交通は便ならず。

て連す。社線三國蘆原電鐵はこれに並走して三國神社(昭和五年設置)・電車三國(昭和七年設置)の二驛を設て、三國港の北岸なる東寺坊に通ず。また道路は北・東・南の三方へ國道・縣道を出し、福井市との間にバスの往來頻繁なり。三國港は古來北陸道の商港として開え、秋田方面の木材、北海道松前よりの魚類等は皆此港に入りしため大いに榮えしが、鐵道開通によりてやや衰ふ。港は銚子口と稱し、川口の右角より長さ約五〇〇米の防波堤が突出して、その左角と相對して港口を成す。元來その口狭く、水深淺く、且つ所々に暗礁あり、碇泊に不便なりしが、明治十一年以降數年に亘りて行ひし整港工事により、港形全く變し良泊となれり。但し冬季は海上風浪荒くして航行停止の止むなき場合あり。當港より敦賀へ五二哩、小濱へ六九哩、境へ一六九哩、新潟へ二四哩、函館へ六三三哩、佐渡小浜へ一五一哩あり。いまは内務省指定港例にして、鐵製品(二三萬圓)・未鮮魚介(五一萬圓)・石炭(四九萬圓)・木材(四〇萬圓)・砂利・薪炭・魚粕・桐實等、合計一九七萬圓を移出す(昭和九年)。港内防波堤に燈臺あり、大正十五年に雄島村に於て設置せしものにて、不動白光、光速距離一二・五哩。當町はもと坂井郡郡役所のありし地なり。いま福井縣裁判所出張所・郵便検査所・稅務署・三國電鐵

會社及び縣立の中學・女學校等あり。棟雲丹・登餅・三國饅頭等を名産とし、民謡三國節は名高く、瀧谷寺の糸織も古來名あり。三國の遊女また古くその名を顯はれ長谷川・野風の事は近世時人傳にその風流の事蹟を傳ふ。附近の野地としては野鹿年間燗時能の據りし古城址あり(沿革) 武烈天皇崩じ、群臣、應神天皇五世の孫男大連王を三國坂中井より迎へ奉りて嗣となす。即ち三國坂中井より迎へて天文二十七年七月、唐船の入港せし事あり。三國とは本國の義にて男大連皇子此地を稱りて港となし給ふ、のち遂に三國といへり。一説に本國の義にあらずして足羽・坂井・丹生の三國の義なりと云ふ。三國國造・三國公・三國真人等のおほせし所なり(三國神社) 櫻谷町に鎮座。祭神、大山咋神・男大連天皇。社地は櫻天皇のなほ皇子にましませし時に傳へられたる三國宮の址にして、もと櫻谷神社と稱す。延喜式内の古社たり。例祭、五月十九日。(神明社) 大字坂井に鎮座。祭神、天照皇大神・男大連皇子。古來附近町村八箇所の總社として崇敬せらる。本殿・拜殿・繪馬堂・神樂堂等あり。例祭、九月十六日。(瀧谷寺) 瀧谷にあり。新義真言宗。永和三三年の創建にして開山は觀海上人なり。寺寶の絹本着色地藏菩薩の畫像は國寶なり。此寺はまた糸織を以て著はる(瀧谷寺庭園) 指定名勝。瀧谷寺の境内にして江戸中期の築造にかかり、本堂より書院に亘りて丘陵の斜面に作られ、山腹の露岩を利用して小池を穿ち古松これに臨み、庭園等の景緻を配し石を立て燈籠を置き、背景に椎・樺・高野槲等の巨樹を有する山水型の庭園にして頗る絶佳なり。(勝授寺) 眞宗本願寺派。蓮學山と號す。本尊は阿彌陀如來(傳聖德太子作)。明和・安永の頃、屢次回祿に遭ひて堂宇瓦上せしも後年再建成る。(性海寺) 新義真言宗智山派。開創は宗信。當初、坂井郡北山の麓谷にありて枝谷性海寺と號せしが其後現地に移る。絹本着色地藏菩薩像一軸は國寶。(三國神社) 越前の三國町にあり。出雲の吉川六左衛門の陶器。元祿元年、出雲の吉川六左衛門の三國町に來りて創めしもの。一旦廢棄せんとせしが、同地の札場嘉右衛門が引受け明和五年再興せし故、札場神社とも呼ばる。郡名によりて坂井神社とも稱す。

【三國神社】 省線北陸線の一部。福井縣の北部にあり。北陸本線金津驛より分れて西方日本海岸の三國港驛(兼島村)に至る九・八軒。途中、金津驛にて社線永平寺鐵道、蘆原・三國兩驛にて社線三國蘆原電鐵に接続す。【三國ヶ岳】 美濃・近江・越前の三國境に位置する山にて、岐阜縣揖斐郡坂内村・滋賀縣伊香郡丹生村、福井縣南條郡坂井村に跨る。標高二六九米。山頂は花崗岩より成す。西段に愛宕山連る。多紀郡菟山町は北西麓に當り、西流する鎌山川貫流す。【三國岳】 國見山(奈良・三重縣境)の別名。【三國岳】 大臺原山(奈良縣)の別名。【三國山】 中國山脈の一峯。因幡・伯耆・美作の三國境に位置し、鳥取市の南西方約二七軒に當り、鳥取縣八頭郡佐治村と東伯郡小鹿村並に岡山縣吉田郡上倉原村に跨る。標高一二五二米、山體花崗岩より成る。中國分水山脈はこの附近にて最も北偏し、日本海岸まで約二〇軒に過ぎず。南方は岡山平野を流る加茂川の源をなし、北方は鳥取平野を貫く智頭川一支の源をなす。【三國山】 三國山(鳥取・島根・廣島縣境)の別稱。【三國村】 岡山縣備前國和氣郡の東北隅。東は兵庫縣、西北は英田郡に界し、南は神根村に接す。面積四三・九七方軒。北部を五・六百米の山脈東西に走り、村内概して山岳地なるも稍南方に低くなり三百米に降る。山間所々の窪地に耕地を有するも平地に乏しく、大部分は山林に蔽はる。米・蕎麥・木炭の産量も多く、漆・柿・蒟蒻等これに次ぐ。縣道は省線山陽本線と氣津及び吉永驛へ通じバスの便あり。もと今の神根村と共に神根と汎稱せり。(八塔寺) 僧道鏡の開創と傳へ、

に跨る。標高一二六九米。圓頂峯をなし、北東麓に三國ヶ岳(一二九二米)續き、中間に夜叉ヶ池を瀆へ、北西麓に上谷山(一一九七米)、南麓に土藏岳(一〇〇二米)連る。北斜面より日野川發して北流す。この地に昔々木秀義の乳母夜叉御前を鎮せし所と傳ふ。【三國山】 近江・越前・若狭の三國境、滋賀縣高島郡西庄村・福井縣敦賀郡栗野村・三方郡耳村に跨る山。標高八七六米、山體花崗岩より成る。この山スキー登山に適し、また南西麓西庄村牧野にスキー場あり。北麓に野坂岳(九一四米)續き、東麓に乘鞍岳(八六六米)連り、南西麓に山路栗柄越の乗鞍あり。【三國峠】 山中湖の南東方、山梨縣南都留郡中野村と神奈川縣足柄上郡三保村との境上に最高點(一一六七米)を置く峠。東方は明神峠最高點に續き、西方に龍聖峠最高點を望む。北西方下には山中湖の明鏡を俯瞰す。この峠附近は秋紅葉の頃ハイキングに好適す。【三國岳】 鈴鹿山脈の一峯。美濃・伊勢・近江の三國境、岐阜縣安海郡時村・三重縣員辨郡立田村・滋賀縣大津郡大瀧村に跨る。標高九二五米。山體秩父古生層より成る。前山は標高八一五米にして本峯の南に位置す。登山は近江側は西側大瀧村大君ヶ畑より、美濃側は北側の時村山より行はる。【三國岳】 近江・丹波・若狭の三國境上

に位置する山にして、滋賀縣高島郡朽木村、京都府北桑田郡知井村、福井縣敦賀郡知三村に跨る。標高七七六米に過ぎざれども高山性の風趣に富む。山體古生層より成る。山頂より北方日本海、南東方琵琶湖の見晴し良し。【三國岳】 舞鶴要塞地帯の東部、若狭・丹波・丹後の三國境上に位置する山にして、福井縣大飯郡青柳村・京都府何鹿郡奥上林村・東舞鶴市に跨る。山體因幡岩より成る。【三國岳】 近江・山城・丹波の三國境、滋賀縣高島郡朽木村・京都府愛宕郡久多村・北桑田郡知井村に跨り時つ。標高九五九米、山體秩父古生層より成る。南方久多川を北に廻りて登高す。東麓を大野川上流西流す。北麓に別峯三國岳(七七六米)續き、南西麓に天狗岳(九二二米)連る。【三國山】 葛城山脈の一峯にして、葛城山の東麓五軒餘に當る。河内・和泉・紀伊の三國境上に位置し、大阪府南河内郡高向村・泉北郡南河内村・和歌山縣伊都郡四郷村に跨る。標高八八六米。南西麓部に七越峠の山路南北に通ず。北西斜面より櫻尾川發源し、北流して大阪湾に注ぎ、南斜面より四郷川源流し南流して紀ノ川に落つ。【三國川】 攝津國(大阪府)の神崎川の一名。【三國ヶ岳】 丹波高原の一峯。兵庫縣有

馬郡小野村と多紀郡城南村との境上に位置す。標高六四八米、山體は花崗岩より成る。西段に愛宕山連る。多紀郡菟山町は北西麓に當り、西流する鎌山川貫流す。【三國岳】 國見山(奈良・三重縣境)の別名。【三國岳】 大臺原山(奈良縣)の別名。【三國山】 中國山脈の一峯。因幡・伯耆・美作の三國境に位置し、鳥取市の南西方約二七軒に當り、鳥取縣八頭郡佐治村と東伯郡小鹿村並に岡山縣吉田郡上倉原村に跨る。標高一二五二米、山體花崗岩より成る。中國分水山脈はこの附近にて最も北偏し、日本海岸まで約二〇軒に過ぎず。南方は岡山平野を流る加茂川の源をなし、北方は鳥取平野を貫く智頭川一支の源をなす。【三國山】 三國山(鳥取・島根・廣島縣境)の別稱。【三國村】 岡山縣備前國和氣郡の東北隅。東は兵庫縣、西北は英田郡に界し、南は神根村に接す。面積四三・九七方軒。北部を五・六百米の山脈東西に走り、村内概して山岳地なるも稍南方に低くなり三百米に降る。山間所々の窪地に耕地を有するも平地に乏しく、大部分は山林に蔽はる。米・蕎麥・木炭の産量も多く、漆・柿・蒟蒻等これに次ぐ。縣道は省線山陽本線と氣津及び吉永驛へ通じバスの便あり。もと今の神根村と共に神根と汎稱せり。(八塔寺) 僧道鏡の開創と傳へ、

元祿元年、源頼朝、新羅所として十三重塔を建造す。江戸時代、藩主池田氏諸堂を建築す。【三國村】 福岡縣筑後國三井郡の北端。二日市町(筑紫郡)の東南方凡そ四軒に位置し、北は筑紫郡に、西は佐賀縣三養基郡に界す。西北部が丘陵地をなす以外は低平なる平野にして東部には實滿川が南流す。米・蕎麥、其他各種農産あり。西北約一・五軒には省線鹿兒島本線原田驛あり。この地は和名抄、御原郡日方郷の内にして、此處は正平十四年、大原合戦の古跡と稱す。此戦は一に山原原合戦と稱し、實滿川・太刀洗川の原野二三里の間に起れる大戦なり、即ち、菊池武光が少貳頼尚と戦ひし所。また村内に大保ヱルフヨリスあり。※大原 (御勢大靈石神社) 大字大原に鎮座。祭神、足仲彦天皇・八幡大神外三柱。式内社。神功皇后攝政二年創建と云ふ。例祭、十一月十五日。【三國山】 豊後・筑後・肥後の三國境上に位置し、大分縣日田郡中津江村・福岡縣八女郡矢部村、熊本縣鹿本郡内田村の三村に跨る山。標高九九四米、山體輝石安山岩より形成せらる。西方には國見山(一一〇一八米)連る。

【三國ヶ岳】 美濃・近江・越前の三國境に位置する山にて、岐阜縣揖斐郡坂内村・滋賀縣伊香郡丹生村、福井縣南條郡坂井村に跨る。標高二六九米。山頂は花崗岩より成す。西段に愛宕山連る。多紀郡菟山町は北西麓に當り、西流する鎌山川貫流す。【三國岳】 國見山(奈良・三重縣境)の別名。【三國岳】 大臺原山(奈良縣)の別名。【三國山】 中國山脈の一峯。因幡・伯耆・美作の三國境に位置し、鳥取市の南西方約二七軒に當り、鳥取縣八頭郡佐治村と東伯郡小鹿村並に岡山縣吉田郡上倉原村に跨る。標高一二五二米、山體花崗岩より成る。中國分水山脈はこの附近にて最も北偏し、日本海岸まで約二〇軒に過ぎず。南方は岡山平野を流る加茂川の源をなし、北方は鳥取平野を貫く智頭川一支の源をなす。【三國山】 三國山(鳥取・島根・廣島縣境)の別稱。【三國村】 岡山縣備前國和氣郡の東北隅。東は兵庫縣、西北は英田郡に界し、南は神根村に接す。面積四三・九七方軒。北部を五・六百米の山脈東西に走り、村内概して山岳地なるも稍南方に低くなり三百米に降る。山間所々の窪地に耕地を有するも平地に乏しく、大部分は山林に蔽はる。米・蕎麥・木炭の産量も多く、漆・柿・蒟蒻等これに次ぐ。縣道は省線山陽本線と氣津及び吉永驛へ通じバスの便あり。もと今の神根村と共に神根と汎稱せり。(八塔寺) 僧道鏡の開創と傳へ、

線の肥前御厨(昭和十年設置)あり、また沿岸汽船の寄港地として交通は至便なり。北松浦半島より平戸・五島に至る一帯の地は古来九州島に於ける牛牧の地として知らる。延喜式肥前國野牧あり、野野は本村の舊名宇野御厨の字野にあらすやとの説あり。國牛十圖に「御厨牛、以肥前國宇野御厨貢牛、稱之」とあり。御厨の地名沿革明ならざるも、或は伊勢皇大神宮に御費を供ふる屋舎、後には御厨のありし地ならんか。中世は宇野御厨の地。松浦富山代文書の中に「松浦山代國三郎弘申、肥前國宇野御厨内山代、多久島、青島、船木、荒古田、東島、五島、惣道捕使(下略)、建武四年五月廿八日云々」とあり。以て當時庄内の領域を知るべし。また海東諸國記には三果野、太平記、松浦古史略記には何れも三果屋と書き、海路記には松浦の三果屋の條に「常に舟がかりする處を美來屋の屋賀といふはな

し、地勢平坦肥沃、耕地よく拓け、人口密なり。米・麥・蕎麥及び清酒・醤油・味噌・蒟蒻・パン等の製造最も盛にて蠶・絹等の漁獲もあり。山陰街道は海岸を走り、粟落敷多これに沿ふ。また省線山陰本線貫通し御來屋驛(明治廿五年設置)は隣村光徳村の地籍にあり。明治三十二年町制を布く。神風抄に伯耆國久永御厨といふは此地なりといふ。こは後醍醐天皇隠岐より御船の處にしていま「元弘帝御船處」と題する碑あり、安政五年藩命により建つる所といふ。その東手の海中に御懸掛岩あり、干潮の時は陸続きとなる。〔住吉神社〕大字宮前町に鎮座。郷社。祭神、底筒之男命・息長足船命外二柱。舊稱、攝津大明神。寶永六年、宗源宣旨を以て正一位を授けらる。元弘年中後醍醐天皇當國に御津奉の時、當社に奉幣せらる。例祭、十月十九日。

【三桑】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に大野郡三桑郷あり、その地今詳ならざるも揖斐郡谷汲村・長瀬村の邊か。【三桑】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に不破郡三桑郷あり、その地今の不破郡今須村の邊に當る。【ミケ】三毛(福前縣) 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に東郡三毛郷あり、その地今詳ならざるも揖斐郡谷汲村・長瀬村の邊か。【ミケカド】三毛門村 福前縣美濃國上郡の東部。北は周防灘に臨み、西は八尾町に接す。北は東吉村を挟みて中津川あり。全村地形低平にて一望沃野開けた。米・麥等を産し、水産もあり。北部を日向街道及び省線日豊本線が通過し字ノ島驛(西方向約二軒)及び中津驛(東方向約三軒)へのバスが便あり。この地は和名抄、上毛郡上野郷の地か。〔昔川神社〕大字香川に鎮座。郷社。祭神、別雷神・伊弉諾命外七柱。舊稱、加茂大明神。例祭、八月十五日。

【ミゴチ】三河内村 京都府丹波國與謝郡の西南部。宮津川の南西方。宮津川より南に岩瀬町・加悦町方面に向ふ低地帯の一部分に當り、加悦谷と稱する陥没地帯の中央を占む。村の中央を南北に貫通する主要街道の西部は丘陵性山地、その東部は耕地なり。本村は御嶽の加悦谷八箇村の一にして、丹後橋の主要機業地なり。京都府立工業学校の分校場此地にあり、主に村内機織工の指導をなす。また村の東半部は加悦谷盆地の一部分に當り、野田川之を灌し農耕行はれ未を産す。粟落は主街道に沿ふ一の街村にして、村の中央に約八一九百米の間延び、南方加悦町と一線きの街村を形成す。本村に式内神社あり、また附近より銅鑛の発見せらるるあり、この地開闢の古きを知る。和名抄の山田郷の故地ならん。

【ミト】美古登村 廣島縣備後國比婆郡の東部。西城町の西北に接し、西は比和町、北は八軒村に界す。面積九五・七二方軒。高燥なる山岳地を占め、

く水田多くして米産豐富なり。水産もあり。主邑は西南部の乙津川とその分派との絞るる地帯にして兩川に挟まれて發達す。省線日豊本線の鶴崎驛は南方約一軒にあり。〔野坂社〕大字三佐に鎮座。郷社。祭神、造玉男神・伊弉冉命外四柱。もと同藩より藩費にて社殿を修理し、安永七年以降毎年九石を寄せたり。例祭、一月十九日。

【ミサカ】三權 岡山縣上道郡にありし村。明治三十二年岡山市に編入す。【ミサカ】三坂 靜岡縣伊豆國賀茂郡の南海岸。西に三濱村、北に南上村、東に南中村・南崎村あり、西南は遠江灘に面す。村は北部と南部に分れ、北部は山村にて雑木林多く、南部海岸地方は温帯なり。野菜の促成栽培・養蠶の早繭等にて有名なり。中木・入間等は定置漁業行はる。この地は和名抄、賀茂郡賀茂郷の内なるべし。本村の海岸は伊豆西南海岸として指定名勝たり。※松崎村

【三坂】備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に神石郡三坂郷あり、その地今の神石郡新坂村の邊に當る。【三坂】筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に穂波郡三坂郷あり、美佐加と調す。その地今の嘉穂郡上穂波村・大分村の邊に當る。【ミサカ】三阪村 福島縣磐城國石城郡の西北部。平市の西北方向約二一軒。西

北は田村郡、西は石川郡に各隣接す。面積七〇・一六方軒。阿武隈山地に屬し、西南境に芝山(八一九米)、南境に鹽見山(七二二米)聳え、土地概して高原状を呈し、夏井川の一支流西境に發源して村の北部を東流し、河谷拓く。米・蕎麥・木炭を産す。道路は西部を東南より西北に通ず。人口密度は一方軒につき四二人。新編會津風土記には、三坂越前守は天正年中、岩城常陸に仕へしが、のち退散し、子孫、會津松平氏に仕ふ云々と見ゆ。三坂氏は此地に在名を稱せしものか。

【御坂】武蔵國(埼玉縣)の古地名。和名抄に横見郡御坂郷あり、美佐加と調す。その地今の大里郡吉見村・比企郡大岡村の邊に當る。【御坂山脈】山梨縣甲府盆地の南縁を形成し、富士火山體の間に挟り東西の方向に連る山地をいふ。その東端は桂川の上流を以て丹澤山塊に接し、東北はほぼ中央線によりて界され、關東山地の西南端大菩薩山地に接續す。その西端は走向を轉じて南方に走り、富士川と富士火山體の間に南北に走る天主山脈に連絡す。東西の長さ約四〇軒、南北の幅約一二軒。東八代・西八代・南都留・北都留の四郡に跨がる。この山地を構成する主なる岩石は御坂層と稱する第三紀中新統の海底火山噴出物を主とする凝灰質岩石なり。その標式的發達は御坂峠附近に認め得ら

りて三州街道と下伊那郡會地村郷に合し、北方飯田町に通ず。神坂峠はまた...

主體とす。

【神村】 福岡縣筑前國宗像郡の東北端。北及び西は玄海灘に臨み、赤間町の西北...

ミサキ 三前

下總國(千葉縣)の古地名。和名抄に海上郡三前郷あり、その地...

ミサキ 三崎

【三崎町】 神奈川県相模國三浦郡の南端。三浦半島先端の漁港。半島の南端は三〇...

ANDO

起を推定し得るものは類例甚だ稀なり。【城ヶ島】 町の前面二〇〇米の距離に浮...

附近一部を除きては立入を許さず。三崎港との間に渡船の便あり、また本島を...

なり。鰻・鰯等の漁獲多く産出の産多し。村には天然記念物として名高き...

谷を流れて太平洋に注ぐ。下游の流域には沖積平地ありて耕作行はる。海岸は沈...

ANDO

【三崎村】 石川県能登國珠洲郡の東北端。能登半島の東北端に位し、東及び南は日...

【三崎村】 愛媛縣伊豫國西宇和郡の西部。佐田岬の西端に位し、東は神松名村に界...

ミササ

倉と見ゆ。その地味かならざるも、豊前國(福岡縣)全郡の漆の産地。漆はまた社殿ともいひ、いまの門前附近ならんといふ。

ミササ 三朝村

鳥取縣伯耆國東伯耆郡の東部。天神川の支流に沿ひ、倉吉町の東方約四軒餘に存す。北は花見・西郷二村に、南は旭村に接す。面積九・二四方軒。四角は山脈迫りて村内地勢概して山地なるも、三朝川村心を西流し、西境にて天神川の支流と合し廣き谷を形成す。附近に耕地多し。三朝温泉は三朝川溪谷に湧出し、ラザラム含有を以て日本第一と稱され、療養所ほか諸設備備し温泉街發達す。米・麥・繭・蔬菜・土産品などを産す。また浴客よりの収入もあり。倉吉町へはバスを通す。(三朝温泉)三朝川の河畔に湧出す。温泉は鹽類泉・硫酸泉・炭酸泉の三種あり、何れも特色あるも、その代表的浴場の泉質は鹽類泉にて、ラザラム含有量一リットル中に一四二マツ、世界第二位、日本第一のラザラム温泉なり。起原は源義朝の將大久保左馬之祐が主家再興祈願のため三徳山へ參詣の途次、妙見菩薩の示現により發見せるものと傳へ、株湯が即ちそれなりといふ。その發見日といふ陰曆四月八日はまた三朝樂師の葬日にて、花婿と稱し入浴者多く、花婿市販かにて夜は數百年來繼續せる大綱引の興あり。(村営ラザラム療養所)乾式・温式の二種の吸入装置を設け、前者は著次の儘吸入させ、後者は浴槽内に於ける特別装置により源泉より導けるエマナチオンと自然に浴槽より發散する瓦斯とを攪拌し、入浴と吸入とを同時に行はす。

ミササ 三條

廣島縣安佐郡にありし町。明治四十年町制を布き、昭和四年廣島市に編入せしむ。

ミササキ 御陵

鳥取縣岩美郡にありし村。明治四十年、法美村・國府村と共に廢し、その地域を以つて宇倍野村を建つ。

ミサシマ 美佐島

新潟縣南魚沼郡にありし村。明治三十九年、六日町ほか八箇村を合し、新に六日町を置く。

ミサト 三里

【三里村】山梨縣甲斐國南豆摩郡の西北部。富士川の一支出川に沿ふ山村。東西に長く、西は赤石主脈を境に静岡縣駿河國安倍郡に界し、東境には御殿山・富士見山等一六〇〇米餘の諸峯連立し、谷れ中央を東より南へ貫流する早川に富み傾斜す。全村土地高燥にして山林に富み農耕地に乏しきも、河岸には米・麥の耕作・養蠶行はる。其他、林業・製炭に従ふ者も多し。河沿の里道により社線富士身延鐵道久那土驛へ約一六軒。駿河街道へ約一二軒。これより甲府市へバスの便あり。此地は清和源氏、武田氏の一流、早川氏を稱せし所。村内には大井川水系の田代川を利用せし東京電燈第二發電所

MIYOSHI

南北に走り、また十津川にはプロペラ船の便しあれども、概れ交通不便にて殊に西部に於て甚だし。

【三里村】

高知縣土佐國長岡郡の南部。高知市の東南約五軒餘にあり、北は五臺山村に、東は稻生・十市二村に界し、西は浦戸浦に、南は土佐灣に臨む。中部以北は一〇〇一五〇米の丘陵起伏して所々に低地あり。南部には西南方に中島狀の砂嘴突出して浦戸灣の闊門を扼し、風景明媚の地をなす。平地には耕地拓けて米・繭を産し、また氣候温暖なるため米の二毛作をなすと共に促成栽培盛に行はれ、胡瓜・茄子・南瓜・菜豆・西瓜等の野菜、柑橘・梨・桃・枇杷・柿等の果實を圃西方面に移出す。殊に木村の楊梅は土佐名物として名高し。漁業も行はれ、鰻等の漁獲少からず。縣道よく發達して高知市に至る。また高知市農人町より海上三河巡航船の便あり。此地は和名抄長岡郡登利郡の内なるべし。大字稱には種崎千松公園あり、一帯の沙濱は松原にて、西南方柱状に對し、風光勝れ、夏季は海水浴場として知らる。勤王家田内齋吉(贈從四位)・武市平平太(贈正四位)は木村の人なり。(武市平平太舊宅及び墓)指定史蹟。舊宅は宇武市屋敷にあり。牛平太が廿二歳まで居住せし所にして、よく舊規模を存す。墓は舊宅地に接續せる丘陵上あり、表面に武市平平太小廟と刻し、後方に記念碑を建つ。(仁井田村

社)大字仁井田に鎮座。祭神、宇靈天皇・同皇后外三神。欽明天皇の御宇伊豫親王の後裔玉澄公、高岡郡窪川村に高岡神社(現在縣社)を創祀せしが、公に附隨せし者等、當郡に在りて窪川村より當所に勧請し本社となす。例祭、八月一日・十一月一日。

【三思】

佐賀縣小城郡にありし村。昭和七年に小城町に編入す。

ミサト 三郷

【三郷村】群馬縣上野國佐波郡の北部。伊勢崎町の北隣にて西より北は勢多郡と隣す。赤城山の南麓にて、關東平野西北隅の一部を占め、全村平地にて、西南境を利根川支流の廣瀬川南流し、北部は大池あり。南部は水田をなし、北部は畑地にて所々林を交へ、農業行はれて米・麥を産し、桑園ありて養蠶も行はれ、繭の産あり。縣道は中央を縱走し、南は伊勢崎町、北は赤城山裾の太胡町に通す。省線兩毛線は南部を西北に走り、伊勢崎驛に近し。本村の大字太田には一大古墳ありまた大字波志江よりは瓦製の個人を掘り出せしことあり。

【三郷村】

岐阜縣美濃國惠那郡の東部。多治見町の東北方凡そ二十四軒にあり。北は武並村に、東は長島町に、南は本郷村・遠山村・鶴岡村に、西は土岐郡の金戸村・大沢村に隣る。花崗岩より成る惠那山脈の北斜面を占め、竹折川に向けて階段斷層をなす。村の中部には東北より

ミサト

西南の方向に斷層崖が走る。斷層崖下の山地には農業營まれば水田あるも見るべき産物なく、林業としては薪炭の産多し。南部には屏風山(七九四米)・夕立山(七二七米)等あり。山村なる爲め集落は散村をなし、交通路はワザワザの道が斷層崖を上り、下竹折川の谷に出づ。中世は佐々良木と稱せられ、のち遠山庄に屬し、江戸時代は岩村藩領なり。

【三郷村】

奈良縣大和國生駒郡の南部。生駒山脈の東斜面に位し、東は龍田町に接し、東南は大和川を隔て北葛城郡玉寺町に對す。西と西南は大阪府中河内郡に界す。本村は生駒山脈の東斜面地にして、西境に高安山(四八八米)そびゆ。東部には稍々平地地開け、大和川は東方より來り東南境に沿ひて西南流す。米・麥・繭を産す。東部には縣道ありて定期バスの往來至つて頻繁にして社線信貴生駒鐵道の山下驛(大正十一年設置)あり、同驛より信貴山へ至る鋼索線を設ち、また社線信貴山急行電鐵の信貴山門驛(昭和五年設置)あり。もとは今の龍田町と共に龍田と汎稱せし處。大字立野の西なる嶺を龍田山と云ひ、往昔龍田國を設けしといふ。明治二十二年立野・勢野・南畑の三部落を合して三郷村と名づく。※龍田山・龍田關(龍田神社)大字立野に鎮座。官幣大社。祭神、天御社命・國御社命。延喜の制名神大社に列し、十六社または二十二社の一なり。古來、渉風防遏

ミサト 美里村

沖繩縣琉球國中頭郡北部の中央。那覇市を距ること東北約二

MIYOSHI

五穀豐熟の守護神として皇室を始め上下一般の信仰篤し。社傳に崇神天皇の御宇天下の公民、惡風荒水に苦しめる時、この神天皇の御夢に現はれ給ひ、吾を朝日の日向ふ處、夕日の日隱る處の龍田の小野に齋き祀れとの神告により、その所に神殿を造り齋き祀りたるを本社起原なりと。例祭四月四日。(八幡神社)村社。祭神聖田別命。本殿は國寶。(觀音寺)大字立野にあり。嚴道念佛堂。木造地藏菩薩立像一軀は國寶。

【三郷村】

大分縣豐前國下毛郡の西南部。山國川に跨り、南と西南は日田郡に界し西南方約八軒に日田町あり。東南部は珠那に接す。南北に長し。村内山岳重疊し、南境には壹尺八寸山(七〇七米)屹立し、南部一帯の山地をなして中央へ低下す。北半は東・北・西の三面山岳を繞らし西北境に中摩殿山(九九一米)、西境に釣鐘山(八五二米)等聳え、中央へ低下す。中部には村を貫きて東流する山國川あり。沿岸にやや耕地發達す。農産物最も多く工業は之に次ぎ林産は第三位にて水産もあり。縣道が河谷に沿ひて中央を通過し西部にて南方へ向ひ大石峠を越えて日田郡に入りバスを通す。社線那馬溪鐵道は中央を横斷して中摩驛・白地驛・那馬溪温泉驛・守實驛(何れも大正十三年設置)あり。

【三郷村】

高知縣土佐國長岡郡の南部。高知市の東南約五軒餘にあり、北は五臺山村に、東は稻生・十市二村に界し、西は浦戸浦に、南は土佐灣に臨む。中部以北は一〇〇一五〇米の丘陵起伏して所々に低地あり。南部には西南方に中島狀の砂嘴突出して浦戸灣の闊門を扼し、風景明媚の地をなす。平地には耕地拓けて米・繭を産し、また氣候温暖なるため米の二毛作をなすと共に促成栽培盛に行はれ、胡瓜・茄子・南瓜・菜豆・西瓜等の野菜、柑橘・梨・桃・枇杷・柿等の果實を圃西方面に移出す。殊に木村の楊梅は土佐名物として名高し。漁業も行はれ、鰻等の漁獲少からず。縣道よく發達して高知市に至る。また高知市農人町より海上三河巡航船の便あり。此地は和名抄長岡郡登利郡の内なるべし。大字稱には種崎千松公園あり、一帯の沙濱は松原にて、西南方柱状に對し、風光勝れ、夏季は海水浴場として知らる。勤王家田内齋吉(贈從四位)・武市平平太(贈正四位)は木村の人なり。(武市平平太舊宅及び墓)指定史蹟。舊宅は宇武市屋敷にあり。牛平太が廿二歳まで居住せし所にして、よく舊規模を存す。墓は舊宅地に接續せる丘陵上あり、表面に武市平平太小廟と刻し、後方に記念碑を建つ。(仁井田村

ミサワ—ミシマ

ミサワ 三澤

【三澤村】青森縣陸奥國上北郡の東部。百石町の北に隣り、東は太平洋、西は小川原流に面す。面積一四・一八方軒。三本木臺地の北部を占め、全村廣き臺地をなし、淋代平の名あり。北部には佛沼ありて、その沿岸低湿なり。海岸は平直して、臺地下に砂濱をなす。村の生産は牛馬牛池にして會ては漁業を主生業とし、近來農業に傾きつつあり。馬鈴薯、麥、粟、大豆、稗、馬を産す。道路は村の略中部を南北に通じ、南方東北本線古間木驛へは約四軒あり。この地に淋代飛行場あり、延長約五〇〇米、幅員約六〇〇米、太平洋無着陸機の出発地として知らる。即ち昭和五年九月にはアロムリー・ゲッティが、六年六月にはアッヅエが此地を出発地として太平洋横断飛行を試み共に失敗せし、同年十月、ハードン・マンガゴンは遂に最初の太平洋横断に成功し淋代の地名有名となる。

【三澤村】山形縣羽前南置賜郡の中部。米澤市の西南に隣り、西南及び南は福島縣に接す。面積一四六・九四方軒。西境には鳥帽子山(一一九七米)・梅峰(一五四一米)、西部に高倉山(一二二七米)聳え、西・南・東の三境には山地連りて、北方に傾斜し、全村概ね山地をなす。小川原は西南境に發源し西部を略々北流し、大櫛川と桐木川は東部を北流す。沿岸に耕地拓く。米・蕎麥を産し、山地には木炭の

産多し。道路は小櫛川に沿ひて西部を略南北に通じ、奥羽本線米澤驛へは約六軒、米坂線西米澤驛へは約三軒。各バスの便あり。村内に小野川温泉、小温(高二五米、幅三米)、立石温(高三〇米、幅二米)、大温(高二五米、幅三米)等あり。(小野川温泉)泉質、鹽化土類含有食鹽泉。胃腸病・婦人病・皮膚病等に効果あり。この温泉は小野小町の發見なりと傳ふ。(羽黒山神社)大字赤芝に鎮座。郷社。祭神、倉稻魂命。大同二年に郷人創祀し近隣十箇町村の鎮守と仰ぎたりと傳ふ。例祭、陰曆六月十五日。(八雲神社)大字染澤に鎮座。郷社。祭神、素戔鳴大神。天喜五年、遠藤筑前なる者の創祀と傳ふ。例祭、陰曆六月十九日。

【三澤村】埼玉縣武蔵國秩父郡の東北部。皆野町の東隣にあり。全村山地にて東境は七〇〇米前後の山地連りて、南部に大霧山(七六七米)あり。また西境には中部に雲山(五八三米)あり。これ等の山地は東西より村内に傾斜し、森林多し、村の西部はその場合に一條の縣道南北に通じ、村落もその部分に發達す。山地よりは林産多し、山裾の狭き耕地には麥・米を産し、養蠶も盛なり。また相織物の産額大なり。従走する縣道は西北は皆野町の社務秩父鐵道視察驛・皆野驛に出で、南は南隣の高橋村を経て秩父町に通ず。

【三澤村】神奈川縣相模國津久井郡の東部。中野町の北隣にて、桂川の北岸にあ

る小村。北は東京府南多摩郡と隣りす。全村低き山地にて、南境を東流する桂川の谷に迫る。東南部に稍平地ありて麥・甘藷等を産し養蠶も行はる。縣道中野町に通じ、更に西走して奥瀬町に通じバスの便あり。

ミサワ 三澤村

【三澤村】鳥根縣出雲國仁多郡の西北部。西は飯石郡、北は温泉村、東は三成村に隣接す。面積二〇・〇五平方軒。四周山脈に圍繞せられ、西境に於て最高にして、中央を斐伊川の一支流北流す。流域の平野は肥沃にて耕作行はれ西部山地には山林多し、他は牧畜行はる。米・蕎麥・用材・木炭・家畜を産す。省線木次線出雲三成驛に近く、利用の便あり。古くは三澤郷に作り、和名抄、仁多郡三澤郷と見ゆ。中世は木曾義仲の商と稱する三澤氏の居りし處、大字鴨倉の鎌倉山は居城の址なり。天文中、三澤爲幸は尾子氏の先鋒となり、毛利氏と戦ひ戦死す。弘治三年、毛利元就此國を殲ふるに及び城主爲景これに降る。(三澤神社)大字三澤に鎮座。祭神、阿理須高日子根命。相殿、志那都比古命・志那都比賣命外六神。三代實錄に貞觀十三年正五位下を授けらる。例祭、十月二十九日。

ミシハセ 肅慎

【肅慎】東洋古代民族の一、隋唐時代には靺鞨と稱す。いまの朝鮮の北部より滿洲國、蘇聯領沿海州に亘り國を建てたり。我が邦にては肅慎をミシハセと訓じ、我が古史に其の名屢々見ゆ。

欽明天皇の五年十二月に此國人佐渡島に來りし記事あり。續紀、養老四年紀に靺鞨の名も見ゆ。ミシハセはまた譯りてアシハセとも云ふ。蓋し古代の假名の見の草體の略なるア字を形の似たるを以て後にアの字に譯りしよりアシハセとは稱せしなり。

ミシハセノクマ 肅慎隈

【肅慎隈】佐渡國(新潟縣)の古地名。書紀、欽明天皇の五年十二月、肅慎人佐渡島の北部に漂着して留まり、のち瀬波河浦に移りしが、浦の神思みてこれを近づけず、爲めに死者半ならんとし、その骨を巖岫に積み、名づけて肅慎隈といふと見ゆ。その地評かならざるも、いま佐渡郡加茂村大字梅津の海濱ならんといふ。

三島

【三島村】茨城縣常陸國筑波郡の南部。小貝川の北岸にあり、南は川を隔てて北相馬郡と相對す。北境附近は低き臺地をなすも、他は小貝川流域平地の一部にて水田多し、米を主産し蕎麥も少からず。縣道は中央を西北に走り、結城郡水海道町に通ず。その他、北方の谷田郡町にもバスの便あり。主なる果物は縣道に沿ひ平地の部分に發達す。

三島村

【三島村】千葉縣上總國君津郡の南部。小糸川の上流に沿ひ、南は安房郡と隣す。全村丘陵地にて森林多し、中央を西北に流る小糸川流域には狭き平地ありて農産行はれ、米・蕎麥を産し養蠶・養蠶も行

はる。縣道は川沿ひに北走してバスを通ず。この縣道は木更津町に至るものなり。この地は和名抄、周准郡山家郷の内なるべし。

【三島】伊豆國(東京府)の古地名。和名抄に賀茂郡三島郷あり、その地今の伊豆七島に當る。

【三島(郷)】越後國(新潟縣)の古地名。もと三島氏の居りし所。初は古志國に屬せしが、大化改新の際に郡となり越中國に屬し、大寶二年に至り越後國に屬す。延喜式に郡名見え和名抄は美之末と註し三島・高家・多岐・賀賀・那珂・刺母・刺上・千屋の八郷を管す。室町時代の頃、私に刈羽郡と改め、寛文中、更に沼垂郡に改めしが其の沼垂郡の舊域に非ざるを知りまた刈羽郡に復し以て今日に至る。

【三島】越後國(新潟縣)の古地名。和名抄に三島郡三島郷あり、美之末と訓す。その地今の刈羽郡柏崎町の邊に當る。

【三島】越中國(富山縣)の古地名。和名抄に射水郡三島郷あり、美之末と訓す。その地は今の射水郡大門町・二口村・大島村・小抄町の邊に當る。

【三島野】萬葉集に見ゆる越中國(富山縣)の地名。和名抄に射水郡三島郷ありいま射水郡二口村に三島野の字名存るといへばこの邊か。萬葉一八・三島野に霞たなびき然すかに昨日も今日も雪は降りつつ 大伴家持

【三島町】靜岡縣伊豆國田方郡の北部に

ある町。北と西は駿東郡に境す。町域は箱根火山の西麓にあり。省線東海道本線の三島驛(昭和九年設置)は町の西方に離れてあり、町の發展に支障せり。しかし近時自動車の發達によりこの缺點が補はれつつあり。同様より起る社線駿豆鐵道は町域を貫通し、三島廣小路(昭和三年設置)・三島町(明治三十二年設置)の二驛ありて伊豆半島西側の物資集散の咽喉となり、蜜柑・牛乳・薪炭の集散地たり。清酒・山葵・養蠶等を産す。上古、この地は伊豆國府及び國分寺のありし處にして政治文化の中心地たり。されば地名も伊豆國府と稱せしが、三島神社をこの地に移してより三島と改む。天平十三年三月、小野東人な、同十四年十月、豐饒王を此地に配せし事あり。海道の要衝に當るより屢々兵家必争の地たり。即ち建武二年十二月、新田義貞賊軍と戦ひ、義貞敗れて西走す。文明三年三月、足利成氏及び與黨この地に至り、將に堀越御所を襲はんとす。堀越公方足利政知、その手兵をこの地に出して對抗す、成氏遂に古河に退却せり。元龜元年九月、武田信玄この地にて北條氏政と對峙せしも戦はずして退却せり。江戸時代は東海道五十三次の宿驛として三島・小田原間に謂ゆる箱根八里の峻を控へ最も重要な位置を占め諸侯參勤交代の路筋に當り、人馬の往來繁く頗る繁榮を極む。宿場町の當として遊女等多く居り、俗語に「富士の白雪や朝

日で解ける、解けて流れて三島へ落ち」とある如く富士山の雪の解けたる水にて化粧する故に美しとして謂ゆる三島女郎衆の名喧傳さる。東海道線開通するや他の宿場町と同様一時衰微せしが、今やまた町勢を恢復し北伊豆の中心地となり。町の北部には野戦重砲兵第一旅團司令部及び野戦重砲兵の兵營あり。又もと李王家の御別荘たりし所の庭よりは清泉が湧き清流をなす、これ三島女郎衆の化粧水たりしものと名高し。丹波興作持夜の小室節「花の浦焼名物の、鏡のはだへ沼津の宿、三島越ゆれば箱根へ三里」曾我會精山・四「香に愛でて拾ひ洩らせる後世の種、開の開路を如何にせん、照らせ三島の宮所、御燈の光しん／＼と、心も清き瑞穂に」熊栗毛・二上「此ときやうやく三しまのしゆくへつくと、兩かばよりよびたつる女のこゝろな、お泊りなさいませ」エヒつばるな、こゝをばなしたら泊るべい。すんならサアお泊り。あかすかべい引ト、にげるはずみに、あんなに行あたる。(三島神社)官幣大社。祭神、玉皇入彦靈之事代主神。古來大山祇神を祀りしを、明治維新の際、平田篤胤の説によりて變更したるものなり。創祀年代詳ならずと云ふ。仁徳天皇の朝、攝津三島神社より迎祀せしものと云ふ。伊豫三島神社より迎祀せりとも云ふ。孝謙天皇天平寶字二年此國の地九戸を神封に充て奉りしを始め、歴代の崇敬絶えず、延喜

の制名神大社に列す。源頼朝・北條時政並に徳川氏の尊崇また厚く、江戸時代社領五百三十石あり。享保十八年・寛保二年社殿を修理、延享四年造替成りしも、安政大震に倒壊、安政五年造替に着手し明治二年竣工。同四年官幣大社に列す。社殿は總持白木の権現造、全般に亘る彫刻は精巧を極む。社實中、蒔繪櫓(傳平政子奉納)一合・短刀一口・太刀一口・脇差一口は國寶たり。例祭、八月十六日。(三島神社の金木庫)指定天然記念物。一株。根元周囲約三米、地上約一米にて二大支幹に分れ枝は四方に擴れり。木庫の巨樹として有数のものなり。(伊豆國府及び國分寺址)三島神社の東隣長谷といふ地の小久保と接する處、即ち現在藥師院の邊が國府址なるべしといふ。此地、箱根・足柄・伊豆の三街道に沿ひ、總社(三島神社)國分寺に近くチヤウヤは應舎、コトカは國府の轉訛ならんと。國分寺は三島町六反田なる蓮行寺これなり。境内に現に七重塔の礎石八個を存しまた赤城より運來教巴瓦及び布目瓦の破片を出す。國分尼寺につきては同町市ヶ原祐泉寺及びその附近にて礎石或は古瓦を發見して之に擬するものあり。その地は二日町法華寺と接すれば、或は往時、同寺の區域に屬し、ここに尼寺ありしかと考へらる。

【三島】愛知縣額田郡にありし村。明治三十九年他の二箇村と共に同町を置き

岡崎町は大正五年に市制を布く。

【三島郡】 大阪府攝津國の北部。大阪市の東北に接し、淀川の右岸に沿ひ、北は京都府南桑田郡及び乙訓郡に界す。北部及び西部は山地をなし、東北境には釋迦嶽・ギンセン山(六七九米)等そびえ、西北部には明ヶ田尾山(六二〇米)・石堂ヶ岡(六八一米)等が聳立す。中部には郡を貫きて北部山地の麓に東西に走る断層あり。南半は西部を除く外、大阪平野の北部を占むる爲め地形低平にて、東境に沿ひて淀川西南流し、西南部に至りて西に神崎川を分ち大阪市との境界をなす。中央には南流する数條の河川ありて神崎川に合す。南部は土地肥沃にして水利の便よく米・麥類・菜種・麥天・苧・牛乳・鶏卵等を産し、また大阪市に接する爲め工業盛にて絹織紡織・不二糖・金巾・天竺等の機械工業、清酒・麥酒・ウイスキー・清涼飲料水等の飲料工業及び乾電池・電池附屬品・工業用藥品・ガラス製品・工業用藥品・木製品・農具品・靴製用品・製紙・菜種油各種の工業行はる。郡内は富田町・高槻町・茨木町・吹田町の四町外二十ヶ村を含み、昭和十年の一方村人口密度五八二人にて、吹田町の如きは五八一一人を算す。西國街道は中央を東西に横斷し、西部を南北に貫通する縣道もあり、其他南部は縣道四通八達し、大阪市北部に當るを以て市の住宅地帯ともなりバスの往來頻繁なり。省線東海道本線

及び社線京阪電鐵新京阪線が東北より西南に通じ京都・大阪間の交通は極めて便利なり。本郡は往昔の三島縣の地にて國郡制定の時に郡となれるもの。續紀和銅四年の條には島上郡名見ゆれば此頃既に上下二郡に分けしものなるべし。爾後傳へて明治に至り二十九年四月島上・島下二郡を併せて三島郡の稱を復す。

【三島村】 大阪府攝津國三島郡の中部。茨木町の北に接し、東は富田町に界す。全村地形低平にして中央を貫きて茨木川が南流す。西南隅にも村内を掠めて南下する一河川あり。米の産多く杞柳・阿片の外に、工業・畜産あり。北部には西國街道が横斷し、南部には縣道と社線京阪電鐵京阪線及び省線東海道本線が通過して後者の攝津富田驛(東方約〇・五軒)・茨木驛(西南約一軒)に近し。この地古くは和名抄、島下郡安成郡の内なるべし。村内の磯良神社のいぼざくら、及び舊藩邸は指定天然記念物たり。(磯良天皇三島野御陵)大字太田にあり。磯野のうちにありて長さ約二三八米、周濠を有する前方後圓墳にて南面し、四段に築かれ松樹繁茂し、西側に御料所あり、陸奥三基を敷ふ。(磯良神社のいぼざくら)指定天然記念物。櫻樹一株。茶芽、八重、白花、大輪の山櫻にて根元より數本の支幹に分る。數百年を往たる老樹なり。【總持寺】 大字總持寺にあり。古義眞言宗。補陀落山と號す。寛平二年越前守藤

原高房の男中納言山蔭、先考の遺志を繼ぎて開創、遺唐大使大神御井に託し白檀香木を唐土に求め觀音像を刻して本尊とせしに創る。西國街道三十三所二十二番の札所、御詠歌、おしなべて高き卑しき總持寺の佛の誓ひたまはなれし。

伊豫三島縣(大正六年設置)を設く。また川之江・今治市に定期船を出し、東北方上分町へ縣道を通じバスの便あり。面積は狭小にして約二方軒。人口は昭和十年八八七四人を算しその稠密さは縣下第二にして市況頗る活潑なり。明治三十一年町制を布く。三島明神を鎮守とし、河野黨の封邑たりしものなるべし。(三島神社) 鎮座、大山祇命・上津姫神・下津姫神。例祭、十月四日。

【見島村】 山口縣長門國阿武郡の西部海上、萩市の西北方四十餘軒の日本海上に浮ぶ見島一島を占む。面積七・九方軒。中央部は丘陵起伏すれど東岸と南岸に平地ありて耕作行はる。西岸は荒蕪地をなし、東南部に桑園存す。東海岸は出入に富み觀音崎・日崎が海中に突出す。南岸本村の南海岸上に金島あり、見島牛の産地として知らる。米・蕎麥を産す。萩市及び仙崎町より定期船の便を有す。村内に古墳ヤゴホツツあり。(見島牛産地)指定天然記念物。見島牛の数は大體四五百頭前後にして、毛色黒褐色を帯び、體格北は平均一米一五、牡は平均一米二一。性質極めて温順敏活にして、力強く、頗る強健、甚だ粗食に耐へ、管理容易にして耕鋤時を除き、手綱を用ゐることなく婦女幼児の掛懸のみにてよく御し得と云ふ。(見島村の龜嶺息地)指定天然記念物。本村字片くの片く池を中心とする一帯の地域なり。龜は「くさがめ」にして多數棲息し、その數萬萬なるか計上すべからず。苗代及び播種期には田地の四周に古網或は小竹等を以て龜垣を造り龜の水田に侵入するを防ぐ。指定地は農作物に少しも被害なき地方なり。(見島神社) 字見島に鎮座。鎮座、應神天皇・仲哀天皇外二神。もと八幡宮と稱し貞觀元年宇佐より勧請すと傳へ明治四十一年住古長府より勧請せる同村字上藥師畑の

【見島村】 山口縣長門國阿武郡の西部海上、萩市の西北方四十餘軒の日本海上に浮ぶ見島一島を占む。面積七・九方軒。中央部は丘陵起伏すれど東岸と南岸に平地ありて耕作行はる。西岸は荒蕪地をなし、東南部に桑園存す。東海岸は出入に富み觀音崎・日崎が海中に突出す。南岸本村の南海岸上に金島あり、見島牛の産地として知らる。米・蕎麥を産す。萩市及び仙崎町より定期船の便を有す。村内に古墳ヤゴホツツあり。(見島牛産地)指定天然記念物。見島牛の数は大體四五百頭前後にして、毛色黒褐色を帯び、體格北は平均一米一五、牡は平均一米二一。性質極めて温順敏活にして、力強く、頗る強健、甚だ粗食に耐へ、管理容易にして耕鋤時を除き、手綱を用ゐることなく婦女幼児の掛懸のみにてよく御し得と云ふ。(見島村の龜嶺息地)指定天然記念物。本村字片くの片く池を中心とする一帯の地域なり。龜は「くさがめ」にして多數棲息し、その數萬萬なるか計上すべからず。苗代及び播種期には田地の四周に古網或は小竹等を以て龜垣を造り龜の水田に侵入するを防ぐ。指定地は農作物に少しも被害なき地方なり。(見島神社) 字見島に鎮座。鎮座、應神天皇・仲哀天皇外二神。もと八幡宮と稱し貞觀元年宇佐より勧請すと傳へ明治四十一年住古長府より勧請せる同村字上藥師畑の

【見島村】 山口縣長門國阿武郡の西部海上、萩市の西北方四十餘軒の日本海上に浮ぶ見島一島を占む。面積七・九方軒。中央部は丘陵起伏すれど東岸と南岸に平地ありて耕作行はる。西岸は荒蕪地をなし、東南部に桑園存す。東海岸は出入に富み觀音崎・日崎が海中に突出す。南岸本村の南海岸上に金島あり、見島牛の産地として知らる。米・蕎麥を産す。萩市及び仙崎町より定期船の便を有す。村内に古墳ヤゴホツツあり。(見島牛産地)指定天然記念物。見島牛の数は大體四五百頭前後にして、毛色黒褐色を帯び、體格北は平均一米一五、牡は平均一米二一。性質極めて温順敏活にして、力強く、頗る強健、甚だ粗食に耐へ、管理容易にして耕鋤時を除き、手綱を用ゐることなく婦女幼児の掛懸のみにてよく御し得と云ふ。(見島村の龜嶺息地)指定天然記念物。本村字片くの片く池を中心とする一帯の地域なり。龜は「くさがめ」にして多數棲息し、その數萬萬なるか計上すべからず。苗代及び播種期には田地の四周に古網或は小竹等を以て龜垣を造り龜の水田に侵入するを防ぐ。指定地は農作物に少しも被害なき地方なり。(見島神社) 字見島に鎮座。鎮座、應神天皇・仲哀天皇外二神。もと八幡宮と稱し貞觀元年宇佐より勧請すと傳へ明治四十一年住古長府より勧請せる同村字上藥師畑の

【見島村】 山口縣長門國阿武郡の西部海上、萩市の西北方四十餘軒の日本海上に浮ぶ見島一島を占む。面積七・九方軒。中央部は丘陵起伏すれど東岸と南岸に平地ありて耕作行はる。西岸は荒蕪地をなし、東南部に桑園存す。東海岸は出入に富み觀音崎・日崎が海中に突出す。南岸本村の南海岸上に金島あり、見島牛の産地として知らる。米・蕎麥を産す。萩市及び仙崎町より定期船の便を有す。村内に古墳ヤゴホツツあり。(見島牛産地)指定天然記念物。見島牛の数は大體四五百頭前後にして、毛色黒褐色を帯び、體格北は平均一米一五、牡は平均一米二一。性質極めて温順敏活にして、力強く、頗る強健、甚だ粗食に耐へ、管理容易にして耕鋤時を除き、手綱を用ゐることなく婦女幼児の掛懸のみにてよく御し得と云ふ。(見島村の龜嶺息地)指定天然記念物。本村字片くの片く池を中心とする一帯の地域なり。龜は「くさがめ」にして多數棲息し、その數萬萬なるか計上すべからず。苗代及び播種期には田地の四周に古網或は小竹等を以て龜垣を造り龜の水田に侵入するを防ぐ。指定地は農作物に少しも被害なき地方なり。(見島神社) 字見島に鎮座。鎮座、應神天皇・仲哀天皇外二神。もと八幡宮と稱し貞觀元年宇佐より勧請すと傳へ明治四十一年住古長府より勧請せる同村字上藥師畑の

【三島村】 高知縣土佐國香美郡の西南部。野市町の西南に隣接し、南は土佐河に臨む。物部川右岸の下流平地を占め、肥沃なる香長平野の中央を占む。また海岸に並行して後川東流し、東南隅にて海に注ぐ。沿岸は砂渚廣く横ばる。土地平坦にて氣候温暖なる爲め農業非常に盛にして米・蕎麥の産地に多く、海濱は野菜の促成栽培盛なり。北部に社線高知鐵道通じ南部には縣道東西に横斷す。バスの便ありし。本村は草摺の志土、島村衛吉(贈従四位)の出身地とす。(八幡宮) 大字物部に鎮座。鎮座、應神天皇。舊稱、物部神社八幡宮。例祭、七月二十八日・十一月六日。(八幡宮) 大字久枝に鎮座。鎮座、應神天皇。古來當村の産土神。例祭、七月十三日・十月二十三日。

【三島村】 高知縣土佐國香美郡の西南部。野市町の西南に隣接し、南は土佐河に臨む。物部川右岸の下流平地を占め、肥沃なる香長平野の中央を占む。また海岸に並行して後川東流し、東南隅にて海に注ぐ。沿岸は砂渚廣く横ばる。土地平坦にて氣候温暖なる爲め農業非常に盛にして米・蕎麥の産地に多く、海濱は野菜の促成栽培盛なり。北部に社線高知鐵道通じ南部には縣道東西に横斷す。バスの便ありし。本村は草摺の志土、島村衛吉(贈従四位)の出身地とす。(八幡宮) 大字物部に鎮座。鎮座、應神天皇。舊稱、物部神社八幡宮。例祭、七月二十八日・十一月六日。(八幡宮) 大字久枝に鎮座。鎮座、應神天皇。古來當村の産土神。例祭、七月十三日・十月二十三日。

【三島村】 高知縣土佐國香美郡の西南部。野市町の西南に隣接し、南は土佐河に臨む。物部川右岸の下流平地を占め、肥沃なる香長平野の中央を占む。また海岸に並行して後川東流し、東南隅にて海に注ぐ。沿岸は砂渚廣く横ばる。土地平坦にて氣候温暖なる爲め農業非常に盛にして米・蕎麥の産地に多く、海濱は野菜の促成栽培盛なり。北部に社線高知鐵道通じ南部には縣道東西に横斷す。バスの便ありし。本村は草摺の志土、島村衛吉(贈従四位)の出身地とす。(八幡宮) 大字物部に鎮座。鎮座、應神天皇。舊稱、物部神社八幡宮。例祭、七月二十八日・十一月六日。(八幡宮) 大字久枝に鎮座。鎮座、應神天皇。古來當村の産土神。例祭、七月十三日・十月二十三日。

【三島村】 高知縣土佐國香美郡の西南部。野市町の西南に隣接し、南は土佐河に臨む。物部川右岸の下流平地を占め、肥沃なる香長平野の中央を占む。また海岸に並行して後川東流し、東南隅にて海に注ぐ。沿岸は砂渚廣く横ばる。土地平坦にて氣候温暖なる爲め農業非常に盛にして米・蕎麥の産地に多く、海濱は野菜の促成栽培盛なり。北部に社線高知鐵道通じ南部には縣道東西に横斷す。バスの便ありし。本村は草摺の志土、島村衛吉(贈従四位)の出身地とす。(八幡宮) 大字物部に鎮座。鎮座、應神天皇。舊稱、物部神社八幡宮。例祭、七月二十八日・十一月六日。(八幡宮) 大字久枝に鎮座。鎮座、應神天皇。古來當村の産土神。例祭、七月十三日・十月二十三日。

【見島村】 山口縣長門國阿武郡の西部海上、萩市の西北方四十餘軒の日本海上に浮ぶ見島一島を占む。面積七・九方軒。中央部は丘陵起伏すれど東岸と南岸に平地ありて耕作行はる。西岸は荒蕪地をなし、東南部に桑園存す。東海岸は出入に富み觀音崎・日崎が海中に突出す。南岸本村の南海岸上に金島あり、見島牛の産地として知らる。米・蕎麥を産す。萩市及び仙崎町より定期船の便を有す。村内に古墳ヤゴホツツあり。(見島牛産地)指定天然記念物。見島牛の数は大體四五百頭前後にして、毛色黒褐色を帯び、體格北は平均一米一五、牡は平均一米二一。性質極めて温順敏活にして、力強く、頗る強健、甚だ粗食に耐へ、管理容易にして耕鋤時を除き、手綱を用ゐることなく婦女幼児の掛懸のみにてよく御し得と云ふ。(見島村の龜嶺息地)指定天然記念物。本村字片くの片く池を中心とする一帯の地域なり。龜は「くさがめ」にして多數棲息し、その數萬萬なるか計上すべからず。苗代及び播種期には田地の四周に古網或は小竹等を以て龜垣を造り龜の水田に侵入するを防ぐ。指定地は農作物に少しも被害なき地方なり。(見島神社) 字見島に鎮座。鎮座、應神天皇・仲哀天皇外二神。もと八幡宮と稱し貞觀元年宇佐より勧請すと傳へ明治四十一年住古長府より勧請せる同村字上藥師畑の

【見島村】 山口縣長門國阿武郡の西部海上、萩市の西北方四十餘軒の日本海上に浮ぶ見島一島を占む。面積七・九方軒。中央部は丘陵起伏すれど東岸と南岸に平地ありて耕作行はる。西岸は荒蕪地をなし、東南部に桑園存す。東海岸は出入に富み觀音崎・日崎が海中に突出す。南岸本村の南海岸上に金島あり、見島牛の産地として知らる。米・蕎麥を産す。萩市及び仙崎町より定期船の便を有す。村内に古墳ヤゴホツツあり。(見島牛産地)指定天然記念物。見島牛の数は大體四五百頭前後にして、毛色黒褐色を帯び、體格北は平均一米一五、牡は平均一米二一。性質極めて温順敏活にして、力強く、頗る強健、甚だ粗食に耐へ、管理容易にして耕鋤時を除き、手綱を用ゐることなく婦女幼児の掛懸のみにてよく御し得と云ふ。(見島村の龜嶺息地)指定天然記念物。本村字片くの片く池を中心とする一帯の地域なり。龜は「くさがめ」にして多數棲息し、その數萬萬なるか計上すべからず。苗代及び播種期には田地の四周に古網或は小竹等を以て龜垣を造り龜の水田に侵入するを防ぐ。指定地は農作物に少しも被害なき地方なり。(見島神社) 字見島に鎮座。鎮座、應神天皇・仲哀天皇外二神。もと八幡宮と稱し貞觀元年宇佐より勧請すと傳へ明治四十一年住古長府より勧請せる同村字上藥師畑の

【見島村】 山口縣長門國阿武郡の西部海上、萩市の西北方四十餘軒の日本海上に浮ぶ見島一島を占む。面積七・九方軒。中央部は丘陵起伏すれど東岸と南岸に平地ありて耕作行はる。西岸は荒蕪地をなし、東南部に桑園存す。東海岸は出入に富み觀音崎・日崎が海中に突出す。南岸本村の南海岸上に金島あり、見島牛の産地として知らる。米・蕎麥を産す。萩市及び仙崎町より定期船の便を有す。村内に古墳ヤゴホツツあり。(見島牛産地)指定天然記念物。見島牛の数は大體四五百頭前後にして、毛色黒褐色を帯び、體格北は平均一米一五、牡は平均一米二一。性質極めて温順敏活にして、力強く、頗る強健、甚だ粗食に耐へ、管理容易にして耕鋤時を除き、手綱を用ゐることなく婦女幼児の掛懸のみにてよく御し得と云ふ。(見島村の龜嶺息地)指定天然記念物。本村字片くの片く池を中心とする一帯の地域なり。龜は「くさがめ」にして多數棲息し、その數萬萬なるか計上すべからず。苗代及び播種期には田地の四周に古網或は小竹等を以て龜垣を造り龜の水田に侵入するを防ぐ。指定地は農作物に少しも被害なき地方なり。(見島神社) 字見島に鎮座。鎮座、應神天皇・仲哀天皇外二神。もと八幡宮と稱し貞觀元年宇佐より勧請すと傳へ明治四十一年住古長府より勧請せる同村字上藥師畑の

【見島村】 山口縣長門國阿武郡の西部海上、萩市の西北方四十餘軒の日本海上に浮ぶ見島一島を占む。面積七・九方軒。中央部は丘陵起伏すれど東岸と南岸に平地ありて耕作行はる。西岸は荒蕪地をなし、東南部に桑園存す。東海岸は出入に富み觀音崎・日崎が海中に突出す。南岸本村の南海岸上に金島あり、見島牛の産地として知らる。米・蕎麥を産す。萩市及び仙崎町より定期船の便を有す。村内に古墳ヤゴホツツあり。(見島牛産地)指定天然記念物。見島牛の数は大體四五百頭前後にして、毛色黒褐色を帯び、體格北は平均一米一五、牡は平均一米二一。性質極めて温順敏活にして、力強く、頗る強健、甚だ粗食に耐へ、管理容易にして耕鋤時を除き、手綱を用ゐることなく婦女幼児の掛懸のみにてよく御し得と云ふ。(見島村の龜嶺息地)指定天然記念物。本村字片くの片く池を中心とする一帯の地域なり。龜は「くさがめ」にして多數棲息し、その數萬萬なるか計上すべからず。苗代及び播種期には田地の四周に古網或は小竹等を以て龜垣を造り龜の水田に侵入するを防ぐ。指定地は農作物に少しも被害なき地方なり。(見島神社) 字見島に鎮座。鎮座、應神天皇・仲哀天皇外二神。もと八幡宮と稱し貞觀元年宇佐より勧請すと傳へ明治四十一年住古長府より勧請せる同村字上藥師畑の

【御庄村】 山口縣周防國玖珂郡の東部。岩國川の南岸に沿ひ岩國町の西方一軒餘にあり。西部及び東部には丘陵連りて中部へ緩く傾斜し南部中央には南方より緩く丘陵並あり。中央北部には積々低地開け北境を岩國川が東流す。米・麥・蕎麥等の農産及び工業あり。山陽道及び省線山陽本線は東南部を掠めて過ぎ東方一軒餘に岩國驛あり。また國道には自動車便あり。中世は岩國御庄といふ。もと藤河村に屬せしが大正五年分離して舊庄名に因み御庄村と名づく。

【御庄村】 山口縣周防國玖珂郡の東部。岩國川の南岸に沿ひ岩國町の西方一軒餘にあり。西部及び東部には丘陵連りて中部へ緩く傾斜し南部中央には南方より緩く丘陵並あり。中央北部には積々低地開け北境を岩國川が東流す。米・麥・蕎麥等の農産及び工業あり。山陽道及び省線山陽本線は東南部を掠めて過ぎ東方一軒餘に岩國驛あり。また國道には自動車便あり。中世は岩國御庄といふ。もと藤河村に屬せしが大正五年分離して舊庄名に因み御庄村と名づく。

【御庄村】 山口縣周防國玖珂郡の東部。岩國川の南岸に沿ひ岩國町の西方一軒餘にあり。西部及び東部には丘陵連りて中部へ緩く傾斜し南部中央には南方より緩く丘陵並あり。中央北部には積々低地開け北境を岩國川が東流す。米・麥・蕎麥等の農産及び工業あり。山陽道及び省線山陽本線は東南部を掠めて過ぎ東方一軒餘に岩國驛あり。また國道には自動車便あり。中世は岩國御庄といふ。もと藤河村に屬せしが大正五年分離して舊庄名に因み御庄村と名づく。

【御庄村】 山口縣周防國玖珂郡の東部。岩國川の南岸に沿ひ岩國町の西方一軒餘にあり。西部及び東部には丘陵連りて中部へ緩く傾斜し南部中央には南方より緩く丘陵並あり。中央北部には積々低地開け北境を岩國川が東流す。米・麥・蕎麥等の農産及び工業あり。山陽道及び省線山陽本線は東南部を掠めて過ぎ東方一軒餘に岩國驛あり。また國道には自動車便あり。中世は岩國御庄といふ。もと藤河村に屬せしが大正五年分離して舊庄名に因み御庄村と名づく。

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【見島(郡)】 山口縣(山口縣)

【見島(郡)】 山口縣(山口縣)

【見島(郡)】 山口縣(山口縣)

【見島(郡)】 山口縣(山口縣)

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

【三尻村】 埼玉縣武蔵國大原郡南宇和郡の中部。城邊町の西北に位し

郡の中郡。熊谷市の西方約四軒にて、深谷町の東南方約三軒。關東平野西北の一部を占め、南方を荒川東流し、南部には水田多し、他は畑地にて所々林を交ふ。昔は茶畑多かりし、現今は桑園多く、養蠶を主要とし、繭の産額大なり。その他農業は米・麦等の産多く、最近は蔬菜栽培に力を入れ、それによる収入多し。縣道は深谷町及び東北隅の玉井村に通じ、玉井村にて中山道に合す。同村に省線高崎線原野驛を置く。また南は南陽大蔵生村に通じ、同村に社線秩父鐵道大蔵生驛を置く。この地は近世、原之郷玉井庄に屬す。東鑑、承久三年六月の條に見ゆる瓶尻小次郎は、此地より出でし人なるべし。村内に熊谷陸軍飛行學校あり、昭和十二年十二月同校内に東京陸軍飛行學校を設置す。

ミス 三須村

和歌山縣紀伊國西牟婁郡の西北部。田邊町の東方一軒餘にありて會津川に臨る。東・西兩部には時々東北より西南に丘陵連立し、西境に衣笠山(二三四米)あり。會津川の一支は中央を西南に貫流し流域には耕地相當に拓かれたり。米・蕎麥・柑類の類を多く産し殊に蜜柑は郡内第一にて甘味は有田産のものに劣らず。道路は熊野街道中津路が河岸を走り、南部にてより東南走し朝來街道に連絡するものあり。田邊町にバスを通ず。昔、西行法師この地を通りし時「待ちきつる八上のさくら咲きにけり寛

くおろすな三柄の山風」と詠みしといふ。〔三柄川原寺塔址〕指定史蹟。三柄川に臨める臺地上にあり。大形の礎石を遺存し、奈良時代の様式を存するものにして附近よりは古瓦・石造相輪の殘缺等を出土せり。

ミス 三須村

岡山縣備中國郡津野の北端。西は常盤村、東は加茂村を隔て、倉敷市に對し、南は山手村に接し、北は吉備郡總社町に接す。面積五・九七平方軒。岡山平野の西北部に屬し、村内の地勢極めて平坦肥沃、耕作盛んなり。米の産額多く、蕎麥・蕎麥・蕎麥及び酒を産す。倉敷市に縣道通じバスの便あり。この地は備中國分寺及び國分尼寺のありし處。大字赤濱は僧雲舟の生れし地といふ。〔備中國分尼寺址〕指定史蹟。大字上林の法蓮と呼ぶ地にあり、山手村の地城にも互る。遺址のうち圓形遺出ある礎石が長方形をなすは金堂址、この他に講堂址・門址と思はる礎石を存す。なほ僧寺址は尼寺址の西方にあり現在國分寺の堂宇あり、二の礎石を残すに過ぎず。この兩寺址の間には編織塚と呼ぶ前方後圓墳ありて、石室あり、内部に石棺を藏す。〔作山古墳〕指定史蹟。作山にあり。田間に横はる大形前方後圓墳。規模は加茂村の造山古墳に次ぎ、長徑約三一八米、高さ前方部約二二米、後部約二二米ありて三段に築成され、中・下段は墳輪圓筒を繞らし、遺址は埋まりて遺址を留

め、その外側に土壘址を遺存し、東側に近く小圓墳を附屬せしむ。〔國分寺〕大字上林にあり。古義實宗。天平年中、行基の創建。もと八宗實學の道場なりしを貞治年間、眞言宗となる。

ミス 美豆

京都府福喜郡にありし村。昭和十年、久世郡没町に編入す。〔美豆御牧〕山城國(京都府)久世郡・福喜郡に跨れる牧場。昔時、馬寮の御牧ありし馬放牧の地。現今木津川の兩岸に跨り、御牧村と稱する地はその東北岸に在りて久世郡、美豆は没町に接し福喜郡北端に在り八幡町に編入さる。源義經將士經・一「あつぱれ駿足御馬ぞう、いづれの牧より引かれしぞや、美豆の御牧か鳥飼か、信濃に桐原望月か、播磨に家島駿河に三種」太平記記載。二「あら面白の牧野や、みづの御牧か鳥養牧か、信濃に望月きり原牧、甲斐に黒駒立野の牧、武藏に徳坂小野の牧、生國播磨の家島島の牧野かや」

ミス 水

〔水島〕岡山縣淺口郡の海上にある小島。上下二島より成り、上水島は備前國兒島郡に屬するも、下水島は備前國淺口郡に屬す。往昔木曾義仲の軍が平氏の軍と戦ひて敗れし水島の古戰場はこの島とは關

係なく、いま玉島町の大字柏島の地なる水島が遺(渡)なりといふ。壽永二年冬、平氏は原島にあり、山陽道を平定して都へ上ると聞き、源義仲は矢田義清・海野行廣等を遣はして備中國の水島が途に陣して平軍を待受けたり。平氏は平重衡・道盛・如盛・教經を將としてこれと戦ひ主將を討取れり。その地は今陸岸となりしが、當時は淺瀬なりき。

ミス 美水面

〔水島〕岡山縣(備前國)美水面郡の東南部。郡邑新渡の東南方一〇軒餘にして、東と南にて金川郡と界す。東西約一二軒、南北六一〇軒。北大嶽山脈の南麓に屬する山地にして、北境に互武山(六二三米)、東南境には國士峰(四三八米)・兎峯、西南境には雄徳山(三八九米)・鶴峰(四〇一米)聳え、城内の東部にも牡丹峰・大徳山等三三四〇米の諸峯連なり、西方に低夷す。西の水は古新恩川となりて西流し、東の水は美水川となりて南流し、之等流域に稍々廣き平地ひらく。住民は畑作農業に従ふ者多く、蕎麥・大豆・棉花・大麻・人蔘・蕎麥等を産す。議政府・平壤間二等道路中部を貫き自動車を通ずるも、交通なほ便ならず。主邑秋川里は古新恩川右岸に位し、地方的中心にして、金融組合・市場等あり。

ミス 瑞江

東京府南葛飾郡にありし村。昭和七年十月、東京市に入り

ミス 水尻村

他町村と合し江戸川を建つ。高島郡の南部。大溝町の北に接し、東南隅は琵琶湖岸に接す。東西に細長し。西境には蛇谷ヶ峯(九〇二米)・阿彌陀山(四五四米)等の山峯聳え、中部及び東部は低平なる平野をなす。南方より流れる加茂川は東折して本村に入り来り、中部・東部を灌溉し青柳村を経て琵琶湖に注ぐ。農業を主とし米・蕎麥・油菜等を産し、特産物には葱・西瓜を出し、副業として養蠶・牛の肥育等行はる。東部には縣道及び社線江若鐵道通じて水尻驛(昭和四年設置)あり。この地はもと三尾の神戶郷と云ひし地なりといふ。〔稻荷山古墳〕大字鴨尾の南方後圓墳にして、いま後圓部の一部を存す。墳中の小石室内にある形骸家形石棺の内より、金製垂下飾・金製短冠・同香・雙魚佩飾・切子玉・古鏡・鹿角製柄頭付短刀・同小刀子・金製拵掛環頭太刀、その他を發見し、棺外より馬具・土器等三十餘種、百二十餘點の極めて豊富なる遺品を發見せり。石棺は上部に覆屋を作りて現場に保存し、遺物は東京帝國博物館及び京都帝國大學文學部に收藏保管さる。〔慈教寺〕大字鴨尾にあり。建宗大谷派。慶長七年、東西兩本願寺の分立せし時、兄顯智が眞宗本願寺派慈教寺を高島郡高島村大字黒谷に建てしに對し、弟顯興(二)に知願に作らば教如に歸して當寺を建つ。

ミスオ—ミスカ

〔水カイトー〕水海道町 茨城縣下總國結城郡の東南隅。西境を鬼怒川、東境を小貝川南流し、東は筑波郡と、南は北相馬郡と隣す。全町低地にして農業行はれ、農家は全戸數の一二%にて米・蕎麥・大豆・蕎麥を産し、また手工業行はれて醬油・酒の産あり。主要は商業にて六〇%を占め、縣下南部の商業地の一なり。縣道は中央を縱走し、粟原はこれに沿ひて中央部に發達す。社線常陸鐵道また之に沿ひ、水海道驛(大正二年設置)を置く。往昔、平野門が猿島に鶴宮を造營せし時、この地を大井の津と名づけ京の大津に比べしといふ。

ミスガキ

瑞鷺山 關東山地秩父山地の一峯。山梨縣北巨摩郡宮村の北東端。標高二三〇米。東接は金峰山(二五九五米)・朝日岳(二五八一米)・國師ヶ岳(二五九一米)に連るも、西方は秩父連山が本山を最後として山勢衰へ、信州峠(最高點一四六二米)・横尾山(一八一八米)等を經て八ヶ岳の裾野に連る。北東端に小川岳(二四一八米)聳立す。山體は花崗岩より成り、花崗岩の奇峭、奇峯峙ち、特に南東方には多く、鐘岩・子持岩・矢竹岩・辨慶力岩等あり。山頂部は山骨露出し、山腹は針葉樹林、山麓一體は潤葉樹林を以て掩はれ、その間に笹澤川・本谷川の溪流ありて紅葉の美を以て知らる。山頂よりは東に秩父連嶺、南には近く茅ヶ岳(七〇四米)、遙かに南

アルプス・富士山を見渡し、西に八ヶ岳を間近に眺め、北に淺間山の噴煙を望む。登山は南方黒平及び南西方宮富ラザム嶺より二路あるも増宮の方便なり。温泉より山頂まで一三軒、東谷川を渡り、金山・小峠を経て達頂す。

ミスカミ

水上市 臺灣臺南州嘉義郡の西南隅。嘉義市の西南端。東は中埔庄、西は東石郡の大保・鹿草二庄、南は新營郡の白河・後壁二庄、北は嘉義市及び太保庄に次々境を接し、東西に長く南北に短き地形をなす。東端の中埔庄より來れる八寮溪は初め北流を西流し、やがて中央部を斜めに切断して南境に至り、更に西流して東石・新營二郡の境界をなし、終に臺灣海峡に注ぐ。東端の小部分が低き丘陵をなす外は土地總て平坦にて潤ゆる嘉義平野の一部を爲す。それ故農耕地甚だ多し灌漑の便不十分の爲め兩期作田少く大部分は單期作田及び畑なり。農産物は年産五十九萬圓の水稲・陸稻を筆頭に、四十五萬餘圓の甘蔗、十一萬餘圓の甘藷を最も主要なるものとす。他に黃麻・落花生・豆類・蔬菜類・果物類あり。畜産にては勞役用の水牛・黄牛を除き、豚・山羊・鶏・鶩・鶩等の家畜を養ふ。高穀多く一般家庭に著く飼育せられ、消費都市たる嘉義市を隔て控へて益々増産の傾向にあり、更に改良地肥豚舎の普及と共に一面採肥上の利益と相俟つて農家經濟の有力なる一支柱をなす。工業は

明治製糖の南端工場に於ける製糖及び酒精製造の外に製糖精米及び煉瓦・瓦の製造工場もあるも、規模小にして地方の需要を充たすに過ぎず。鐵道及及び鐵道道路は相並行して西部を南北に貫き、前者は水上驛(明治三十五年設置)を設置し、後者は水上驛の便ありて交通の主動脈をなし、他に内外の産業道路・部落道路四通八達して地水上上の各主要地を結ぶ。庄役場所所在地水上は制度改正前は水堀頭街と稱し、驛の附近に一小事街を形成す。管内はもと嘉義西堡・榮興池堡・下茄苳南堡の三堡に分屬し、早く清國當初より開拓の緒に就き、水上は水堀頭街と稱する前、既に大龜壁と呼ばれ諸藩十七社の一たりしといふ。明治二十八年帝國領臺以來、數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り地方制度の根本的改革と共に清國時代より存続し來りし堡を廢せられ前記三堡に分屬せし一街十五庄を計十六大字に改め、且つ水堀頭を水上と改稱し、之を一掃して水上庄となり、嘉義郡に編入せられ現今に至る。〔北回歸線標〕大字下寮にあり。温・熱帯の分岐點にして、標塔は北緯二十三度二十七分四秒五一、東經百二十度二十四分四秒五五に位置す。嘉義市の南方三哩、鐵道鐵道の沿線水田中に高く聳ゆ。本標塔は明治四十一年臺灣鐵道全通記念として建設されたるものにして、基隆起點二九二軒にあり。大正元年の風害に倒れ、大正十二年

度改築せり、昭和九年の震害により改築せられしが、昭和十年八月再び之を改築し、白壁の塔となれり。

ミスキ

地名。和名抄に美馬郡三次郷あり、美須木と訓す。その地、今の美馬郡内ならんも詳かならず。

ミスキ

水城村 福岡縣筑前國筑紫郡の中央北部。二日市町の北に接し、東は大宰府町に界す。東北境には大城山(四一〇米)聳えて、西南方へ傾斜す。其他は平坦なる平野にして、大宰府町より本村の南部に流下し来る御笠川は西部を西北流す。耕地よく發達して米・麥を産す。西部低地は福岡海岸平野と筑紫平野とを結ぶ重要な通路に當り、鹿兒島街道及び社線九州鐵道線が西北より東南に通じ、バスの往來も頻繁なり。省線鹿兒島本線は南端を控めて通過し二日市驛は南方約〇・五軒、水城驛(大正二年設置、大野村にあり)は西方約〇・五軒にあり。本村は水城及び大宰府の所在地として知られ、また觀音寺は菅原道真の配所にして「恩賜御衣箱在此」と吟ぜしは此處なり。また大野城址及四王寺址として史蹟に指定されたる大野城址は一部本村に互る。〔水城址〕指定史蹟。本村大字吉松の邊より上水城附近に至る平野を横斷して東西兩丘陵を連れたる大築堤。現在せる東堤約三二〇米、西堤約七〇〇米、高さ約一四米頂部にて約四米、中央の切斷部を

御笠川北流す。天智天皇三年、我國が高麗を授け、唐・新羅聯合軍と朝鮮に戦ひ形勢不利なるを見て萬一を慮り、水城を工築して内部に水を湛へて大宰府の防衛とせしもの如く、藤原末期には既に廢址となれりといふ。西堤は鹿兒島本線によりて切斷せられ、その切斷箇所より當時の遺物出土す。昭和六年には貯水の調節を圖るために敷設されたる水門の木橋の遺構をも發見。また當時の關門の礎石今に存す。〔大宰府址〕指定史蹟。大字觀音寺にあり。宣化天皇の御代、官家那津口に置き西海道九州を總攬せしめ兼て三韓に備へしめ給ふ、これ大宰府の遺構と云ふべし。筑紫大宰の名の史上に始めて見えしは推古天皇十七年なり。この那津にありし官家が後の大宰府の地に移されし年代詳かならず。天智天皇の朝には大宰府が設置せられ、水城及び大野・檜の二城を築き大宰府の防備とされ、大寶令の制定により大宰府の官制規定せらる。かくて西海諸國の統治と對外警備を兼ね、且つ藩客變遷の重要な官衙となる。奈良時代に至り一旦廢され筑紫都督府が置かれしが、間もなく舊に復せり。その後天慶三年藤原純友の亂に累代の廳舎焼失の厄に遭ひ、府政これより衰ふるに至り、のち元弘・建武の戦亂を経て、應永年中に至り全く廢滅し歸す。其の址は大宰府往還の北に當り大門址の礎石、その北にある中門址の礎石の残存あり、そ

の北更に約一二〇米を經て正廳址に達し、その間道の右に東廡、左に西廡の遺址存し、何れも數箇の礎石残存せり。正廳址は一段高き土壇上にあり、三十六箇の圓柱座を造出せる礎石整然として遺存す。石柱は花崗岩にして大き徑二米内外に達し、圓柱座は何れも徑七五釐を有す。重層の廳舎として復原を極めし謂ゆる都府樓の遺址なり。西廡址の西方なる丘上には最近拓かれし大宰府藏司の遺址と覺ゆる礎石群露出す。正廳址の土壇の西側に設けられたる參考館には、奈良時代より鎌倉時代に及ぶ各時代の遺瓦、その他の出土品を陳列す。尙ほ正廳址には寛政元年龜井南溪の撰文にて、同人の書に成れる「大宰府」碑、其他二基の碑が建立せる。〔菟置關址〕御笠川の北岸にあり。天智天皇の御宇置かれし關址なり。鼓曲に名高き菟置道心加藤繁氏に督てこの關の關守たりしと云ふ。〔筑前國分寺址〕指定史蹟。大字國分にあり。國分寺の現境内はその一部なり。金堂址の礎石と傳ふるもの一箇、東廡前に存す。寺の後方畑地は講堂址と傳ふ。門の外側に塔址の土壇遺存し、精孔を有する心礎等四個の礎石現存し、舊規略を察するに足る。附近より奈良時代の特徵ある古瓦出土す。〔國分瓦窯址〕指定史蹟。國分寺の東北二百米にあり。窯は臺地の斜面を利用して築造せしもの。其の窯址はもと八箇存せりといふも、今僅かに二箇を遺存せるのみ。

ミスコシ

水越村 熊本縣肥後國上益城郡の南部。甲佐町の東北約四軒にありて南は下益城郡に界す。四周概ね山地を以て圍まれ南境に甲佐岳(七五三米)聳ゆ。山地の間に狭長なる小低地ありて部落點在す。生業は殆ど農業にして田は少けれども畑地多き山林あり。産物は米・麥・蕎麥・林産物等にして茶・楠・椎茸の特産あり。西方約五軒にある御船町ハマス便あり。本村はいま瀧尾村と組合村をなし役場を瀧尾村に置く。山間の孤村にして土俗に征西將軍の故跡を傳へ、村に將軍堂あり。〔水越鎮乳洞〕大字五ヶ瀬にあり、甲佐岳の東麓、水越川の上流五ヶ瀬所川と合流するところに位し、洞内は延長約八軒、その本幹をなすものは約三六三米に及び、三米以上の石物が隨所に密垂す。洞内に口之院・百萬塔・佛石・親子地藏・靈妙院之名符・靈妙門・中の院の遺跡・御舟門・風神旗・萬丈山仙人の杖・萬丈山天狗岩等の名あり。

ミスサワ

水澤 岩手縣陸中國費澤郡の東部。黒澤尻町(和賀郡)の南方約一六軒。北上川の右岸に位し、その支流は町内を東に貫流して北上川に合す。費澤川の扇狀地に屬し、町の北部及び南部には東西に互る低き丘陵あり。兩丘陵の間は平坦にして水田拓く。米・大豆・麥を産し、また

の北更に約一二〇米を經て正廳址に達し、その間道の右に東廡、左に西廡の遺址存し、何れも數箇の礎石残存せり。正廳址は一段高き土壇上にあり、三十六箇の圓柱座を造出せる礎石整然として遺存す。石柱は花崗岩にして大き徑二米内外に達し、圓柱座は何れも徑七五釐を有す。重層の廳舎として復原を極めし謂ゆる都府樓の遺址なり。西廡址の西方なる丘上には最近拓かれし大宰府藏司の遺址と覺ゆる礎石群露出す。正廳址の土壇の西側に設けられたる參考館には、奈良時代より鎌倉時代に及ぶ各時代の遺瓦、その他の出土品を陳列す。尙ほ正廳址には寛政元年龜井南溪の撰文にて、同人の書に成れる「大宰府」碑、其他二基の碑が建立せる。〔菟置關址〕御笠川の北岸にあり。天智天皇の御宇置かれし關址なり。鼓曲に名高き菟置道心加藤繁氏に督てこの關の關守たりしと云ふ。〔筑前國分寺址〕指定史蹟。大字國分にあり。國分寺の現境内はその一部なり。金堂址の礎石と傳ふるもの一箇、東廡前に存す。寺の後方畑地は講堂址と傳ふ。門の外側に塔址の土壇遺存し、精孔を有する心礎等四個の礎石現存し、舊規略を察するに足る。附近より奈良時代の特徵ある古瓦出土す。〔國分瓦窯址〕指定史蹟。國分寺の東北二百米にあり。窯は臺地の斜面を利用して築造せしもの。其の窯址はもと八箇存せりといふも、今僅かに二箇を遺存せるのみ。

ミスキ

大字觀世音寺に在り。天台宗。清本山と號す。天智天皇、御母齊明天皇の御菩提のため建立を祈願し給ひ、八十餘年を経て天平十八年に竣工すと云ふ。往古は普門院と稱し、横西隨一の互利たりしが、康平七年に火災に罹り堂宇灰燼に歸す。爾來兩三回の修葺・再建を経て今に至る。開山は滿雲上人にして玄叡法師を中興とす。本尊聖觀音菩薩像は天智天皇の御願に依る所にて春日の作と稱せられ、不空罽索觀音立像(天武天皇御願)・十一面觀音立像(持統天皇御願)・馬頭觀音・十一面觀音を稱して富山の五體觀音と云ひ、本州三十三所巡禮給願の札所とす。寺寶に前記五體のほかに十體の佛像・舞樂面三箇・銅鐘一口・銅製天蓋光心一箇・拍大一對は何れも國寶に列せらる。本堂及び阿彌陀堂安置の多數の佛像は藤原時代或は鎌倉時代に作られたる優秀のものにて九州地方稀に見る壯觀なり。今の堂は大正元年二萬圓の國幣によりて修葺せられしものなり。

ミスキ

箕月 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に久慈郡高月郷あり、高月は箕月の誤にて、風土記の密氣里に當る。その地は今の多賀郡坂上村・河原子町・國分村に當るか。

ミスクボ

水窪町 静岡縣遠江國周知郡の北端。北は長野縣下伊那郡に接す。西境は天龍峽にて、町域はその支流の水窪川・氣田川の水源地たり。東北

ミスキ

ミスサ

ミスコシ

水越村

熊本縣肥後國上益城郡の南部。甲佐町の東北約四軒にありて南は下益城郡に界す。四周概ね山地を以て圍まれ南境に甲佐岳(七五三米)聳ゆ。山地の間に狭長なる小低地ありて部落點在す。生業は殆ど農業にして田は少けれども畑地多き山林あり。産物は米・麥・蕎麥・林産物等にして茶・楠・椎茸の特産あり。西方約五軒にある御船町ハマス便あり。本村はいま瀧尾村と組合村をなし役場を瀧尾村に置く。山間の孤村にして土俗に征西將軍の故跡を傳へ、村に將軍堂あり。〔水越鎮乳洞〕大字五ヶ瀬にあり、甲佐岳の東麓、水越川の上流五ヶ瀬所川と合流するところに位し、洞内は延長約八軒、その本幹をなすものは約三六三米に及び、三米以上の石物が隨所に密垂す。洞内に口之院・百萬塔・佛石・親子地藏・靈妙院之名符・靈妙門・中の院の遺跡・御舟門・風神旗・萬丈山仙人の杖・萬丈山天狗岩等の名あり。

ミスサワ

水澤 岩手縣陸中國費澤郡の東部。黒澤尻町(和賀郡)の南方約一六軒。北上川の右岸に位し、その支流は町内を東に貫流して北上川に合す。費澤川の扇狀地に屬し、町の北部及び南部には東西に互る低き丘陵あり。兩丘陵の間は平坦にして水田拓く。米・大豆・麥を産し、また

ミスキ

大字觀世音寺に在り。天台宗。清本山と號す。天智天皇、御母齊明天皇の御菩提のため建立を祈願し給ひ、八十餘年を経て天平十八年に竣工すと云ふ。往古は普門院と稱し、横西隨一の互利たりしが、康平七年に火災に罹り堂宇灰燼に歸す。爾來兩三回の修葺・再建を経て今に至る。開山は滿雲上人にして玄叡法師を中興とす。本尊聖觀音菩薩像は天智天皇の御願に依る所にて春日の作と稱せられ、不空罽索觀音立像(天武天皇御願)・十一面觀音立像(持統天皇御願)・馬頭觀音・十一面觀音を稱して富山の五體觀音と云ひ、本州三十三所巡禮給願の札所とす。寺寶に前記五體のほかに十體の佛像・舞樂面三箇・銅鐘一口・銅製天蓋光心一箇・拍大一對は何れも國寶に列せらる。本堂及び阿彌陀堂安置の多數の佛像は藤原時代或は鎌倉時代に作られたる優秀のものにて九州地方稀に見る壯觀なり。今の堂は大正元年二萬圓の國幣によりて修葺せられしものなり。

ミスキ

箕月 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に久慈郡高月郷あり、高月は箕月の誤にて、風土記の密氣里に當る。その地は今の多賀郡坂上村・河原子町・國分村に當るか。

ミスクボ

水窪町 静岡縣遠江國周知郡の北端。北は長野縣下伊那郡に接す。西境は天龍峽にて、町域はその支流の水窪川・氣田川の水源地たり。東北

ミスキ

ミスサ

ミスコシ

水越村

熊本縣肥後國上益城郡の南部。甲佐町の東北約四軒にありて南は下益城郡に界す。四周概ね山地を以て圍まれ南境に甲佐岳(七五三米)聳ゆ。山地の間に狭長なる小低地ありて部落點在す。生業は殆ど農業にして田は少けれども畑地多き山林あり。産物は米・麥・蕎麥・林産物等にして茶・楠・椎茸の特産あり。西方約五軒にある御船町ハマス便あり。本村はいま瀧尾村と組合村をなし役場を瀧尾村に置く。山間の孤村にして土俗に征西將軍の故跡を傳へ、村に將軍堂あり。〔水越鎮乳洞〕大字五ヶ瀬にあり、甲佐岳の東麓、水越川の上流五ヶ瀬所川と合流するところに位し、洞内は延長約八軒、その本幹をなすものは約三六三米に及び、三米以上の石物が隨所に密垂す。洞内に口之院・百萬塔・佛石・親子地藏・靈妙院之名符・靈妙門・中の院の遺跡・御舟門・風神旗・萬丈山仙人の杖・萬丈山天狗岩等の名あり。

ミスサワ

水澤 岩手縣陸中國費澤郡の東部。黒澤尻町(和賀郡)の南方約一六軒。北上川の右岸に位し、その支流は町内を東に貫流して北上川に合す。費澤川の扇狀地に屬し、町の北部及び南部には東西に互る低き丘陵あり。兩丘陵の間は平坦にして水田拓く。米・大豆・麥を産し、また

ミスキ

大字觀世音寺に在り。天台宗。清本山と號す。天智天皇、御母齊明天皇の御菩提のため建立を祈願し給ひ、八十餘年を経て天平十八年に竣工すと云ふ。往古は普門院と稱し、横西隨一の互利たりしが、康平七年に火災に罹り堂宇灰燼に歸す。爾來兩三回の修葺・再建を経て今に至る。開山は滿雲上人にして玄叡法師を中興とす。本尊聖觀音菩薩像は天智天皇の御願に依る所にて春日の作と稱せられ、不空罽索觀音立像(天武天皇御願)・十一面觀音立像(持統天皇御願)・馬頭觀音・十一面觀音を稱して富山の五體觀音と云ひ、本州三十三所巡禮給願の札所とす。寺寶に前記五體のほかに十體の佛像・舞樂面三箇・銅鐘一口・銅製天蓋光心一箇・拍大一對は何れも國寶に列せらる。本堂及び阿彌陀堂安置の多數の佛像は藤原時代或は鎌倉時代に作られたる優秀のものにて九州地方稀に見る壯觀なり。今の堂は大正元年二萬圓の國幣によりて修葺せられしものなり。

ミスキ

箕月 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に久慈郡高月郷あり、高月は箕月の誤にて、風土記の密氣里に當る。その地は今の多賀郡坂上村・河原子町・國分村に當るか。

ミスクボ

水窪町 静岡縣遠江國周知郡の北端。北は長野縣下伊那郡に接す。西境は天龍峽にて、町域はその支流の水窪川・氣田川の水源地たり。東北

ミスキ

ミスサ

ミスコシ

水越村

熊本縣肥後國上益城郡の南部。甲佐町の東北約四軒にありて南は下益城郡に界す。四周概ね山地を以て圍まれ南境に甲佐岳(七五三米)聳ゆ。山地の間に狭長なる小低地ありて部落點在す。生業は殆ど農業にして田は少けれども畑地多き山林あり。産物は米・麥・蕎麥・林産物等にして茶・楠・椎茸の特産あり。西方約五軒にある御船町ハマス便あり。本村はいま瀧尾村と組合村をなし役場を瀧尾村に置く。山間の孤村にして土俗に征西將軍の故跡を傳へ、村に將軍堂あり。〔水越鎮乳洞〕大字五ヶ瀬にあり、甲佐岳の東麓、水越川の上流五ヶ瀬所川と合流するところに位し、洞内は延長約八軒、その本幹をなすものは約三六三米に及び、三米以上の石物が隨所に密垂す。洞内に口之院・百萬塔・佛石・親子地藏・靈妙院之名符・靈妙門・中の院の遺跡・御舟門・風神旗・萬丈山仙人の杖・萬丈山天狗岩等の名あり。

ミスサワ

水澤 岩手縣陸中國費澤郡の東部。黒澤尻町(和賀郡)の南方約一六軒。北上川の右岸に位し、その支流は町内を東に貫流して北上川に合す。費澤川の扇狀地に屬し、町の北部及び南部には東西に互る低き丘陵あり。兩丘陵の間は平坦にして水田拓く。米・大豆・麥を産し、また

ミスキ

大字觀世音寺に在り。天台宗。清本山と號す。天智天皇、御母齊明天皇の御菩提のため建立を祈願し給ひ、八十餘年を経て天平十八年に竣工すと云ふ。往古は普門院と稱し、横西隨一の互利たりしが、康平七年に火災に罹り堂宇灰燼に歸す。爾來兩三回の修葺・再建を経て今に至る。開山は滿雲上人にして玄叡法師を中興とす。本尊聖觀音菩薩像は天智天皇の御願に依る所にて春日の作と稱せられ、不空罽索觀音立像(天武天皇御願)・十一面觀音立像(持統天皇御願)・馬頭觀音・十一面觀音を稱して富山の五體觀音と云ひ、本州三十三所巡禮給願の札所とす。寺寶に前記五體のほかに十體の佛像・舞樂面三箇・銅鐘一口・銅製天蓋光心一箇・拍大一對は何れも國寶に列せらる。本堂及び阿彌陀堂安置の多數の佛像は藤原時代或は鎌倉時代に作られたる優秀のものにて九州地方稀に見る壯觀なり。今の堂は大正元年二萬圓の國幣によりて修葺せられしものなり。

ミスキ

箕月 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に久慈郡高月郷あり、高月は箕月の誤にて、風土記の密氣里に當る。その地は今の多賀郡坂上村・河原子町・國分村に當るか。

ミスクボ

水窪町 静岡縣遠江國周知郡の北端。北は長野縣下伊那郡に接す。西境は天龍峽にて、町域はその支流の水窪川・氣田川の水源地たり。東北

ミスキ

ミスサ

ミスコシ

水越村

熊本縣肥後國上益城郡の南部。甲佐町の東北約四軒にありて南は下益城郡に界す。四周概ね山地を以て圍まれ南境に甲佐岳(七五三米)聳ゆ。山地の間に狭長なる小低地ありて部落點在す。生業は殆ど農業にして田は少けれども畑地多き山林あり。産物は米・麥・蕎麥・林産物等にして茶・楠・椎茸の特産あり。西方約五軒にある御船町ハマス便あり。本村はいま瀧尾村と組合村をなし役場を瀧尾村に置く。山間の孤村にして土俗に征西將軍の故跡を傳へ、村に將軍堂あり。〔水越鎮乳洞〕大字五ヶ瀬にあり、甲佐岳の東麓、水越川の上流五ヶ瀬所川と合流するところに位し、洞内は延長約八軒、その本幹をなすものは約三六三米に及び、三米以上の石物が隨所に密垂す。洞内に口之院・百萬塔・佛石・親子地藏・靈妙院之名符・靈妙門・中の院の遺跡・御舟門・風神旗・萬丈山仙人の杖・萬丈山天狗岩等の名あり。

ミスサワ

水澤 岩手縣陸中國費澤郡の東部。黒澤尻町(和賀郡)の南方約一六軒。北上川の右岸に位し、その支流は町内を東に貫流して北上川に合す。費澤川の扇狀地に屬し、町の北部及び南部には東西に互る低き丘陵あり。兩丘陵の間は平坦にして水田拓く。米・大豆・麥を産し、また

ミスキ

大字觀世音寺に在り。天台宗。清本山と號す。天智天皇、御母齊明天皇の御菩提のため建立を祈願し給ひ、八十餘年を経て天平十八年に竣工すと云ふ。往古は普門院と稱し、横西隨一の互利たりしが、康平七年に火災に罹り堂宇灰燼に歸す。爾來兩三回の修葺・再建を経て今に至る。開山は滿雲上人にして玄叡法師を中興とす。本尊聖觀音菩薩像は天智天皇の御願に依る所にて春日の作と稱せられ、不空罽索觀音立像(天武天皇御願)・十一面觀音立像(持統天皇御願)・馬頭觀音・十一面觀音を稱して富山の五體觀音と云ひ、本州三十三所巡禮給願の札所とす。寺寶に前記五體のほかに十體の佛像・舞樂面三箇・銅鐘一口・銅製天蓋光心一箇・拍大一對は何れも國寶に列せらる。本堂及び阿彌陀堂安置の多數の佛像は藤原時代或は鎌倉時代に作られたる優秀のものにて九州地方稀に見る壯觀なり。今の堂は大正元年二萬圓の國幣によりて修葺せられしものなり。

ミスキ

箕月 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に久慈郡高月郷あり、高月は箕月の誤にて、風土記の密氣里に當る。その地は今の多賀郡坂上村・河原子町・國分村に當るか。

ミスクボ

水窪町 静岡縣遠江國周知郡の北端。北は長野縣下伊那郡に接す。西境は天龍峽にて、町域はその支流の水窪川・氣田川の水源地たり。東北

ミスキ

ミスサ

ミスコシ

水越村

熊本縣肥後國上益城郡の南部。甲佐町の東北約四軒にありて南は下益城郡に界す。四周概ね山地を以て圍まれ南境に甲佐岳(七五三米)聳ゆ。山地の間に狭長なる小低地ありて部落點在す。生業は殆ど農業にして田は少けれども畑地多き山林あり。産物は米・麥・蕎麥・林産物等にして茶・楠・椎茸の特産あり。西方約五軒にある御船町ハマス便あり。本村はいま瀧尾村と組合村をなし役場を瀧尾村に置く。山間の孤村にして土俗に征西將軍の故跡を傳へ、村に將軍堂あり。〔水越鎮乳洞〕大字五ヶ瀬にあり、甲佐岳の東麓、水越川の上流五ヶ瀬所川と合流するところに位し、洞内は延長約八軒、その本幹をなすものは約三六三米に及び、三米以上の石物が隨所に密垂す。洞内に口之院・百萬塔・佛石・親子地藏・靈妙院之名符・靈妙門・中の院の遺跡・御舟門・風神旗・萬丈山仙人の杖・萬丈山天狗岩等の名あり。

ミスサワ

水澤 岩手縣陸中國費澤郡の東部。黒澤尻町(和賀郡)の南方約一六軒。北上川の右岸に位し、その支流は町内を東に貫流して北上川に合す。費澤川の扇狀地に屬し、町の北部及び南部には東西に互る低き丘陵あり。兩丘陵の間は平坦にして水田拓く。米・大豆・麥を産し、また

ミスキ

大字觀世音寺に在り。天台宗。清本山と號す。天智天皇、御母齊明天皇の御菩提のため建立を祈願し給ひ、八十餘年を経て天平十八年に竣工すと云ふ。往古は普門院と稱し、横西隨一の互利たりしが、康平七年に火災に罹り堂宇灰燼に歸す。爾來兩三回の修葺・再建を経て今に至る。開山は滿雲上人にして玄叡法師を中興とす。本尊聖觀音菩薩像は天智天皇の御願に依る所にて春日の作と稱せられ、不空罽索觀音立像(天武天皇御願)・十一面觀音立像(持統天皇御願)・馬頭觀音・十一面觀音を稱して富山の五體觀音と云ひ、本州三十三所巡禮給願の札所とす。寺寶に前記五體のほかに十體の佛像・舞樂面三箇・銅鐘一口・銅製天蓋光心一箇・拍大一對は何れも國寶に列せらる。本堂及び阿彌陀堂安置の多數の佛像は藤原時代或は鎌倉時代に作られたる優秀のものにて九州地方稀に見る壯觀なり。今の堂は大正元年二萬圓の國幣によりて修葺せられしものなり。

ミスキ

箕月 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に久慈郡高月郷あり、高月は箕月の誤にて、風土記の密氣里に當る。その地は今の多賀郡坂上村・河原子町・國分村に當るか。

ミスクボ

水窪町 静岡縣遠江國周知郡の北端。北は長野縣下伊那郡に接す。西境は天龍峽にて、町域はその支流の水窪川・氣田川の水源地たり。東北

ミスキ

ミスサ

ミスコシ

水越村

熊本縣肥後國上益城郡の南部。甲佐町の東北約四軒にありて南は下益城郡に界す。四周概ね山地を以て圍まれ南境に甲佐岳(七五三米)聳ゆ。山地の間に狭長なる小低地ありて部落點在す。生業は殆ど農業にして田は少けれども畑地多き山林あり。産物は米・麥・蕎麥・林産物等にして茶・楠・椎茸の特産あり。西方約五軒にある御船町ハマス便あり。本村はいま瀧尾村と組合村をなし役場を瀧尾村に置く。山間の孤村にして土俗に征西將軍の故跡を傳へ、村に將軍堂あり。〔水越鎮乳洞〕大字五ヶ瀬にあり、甲佐岳の東麓、水越川の上流五ヶ瀬所川と合流するところに位し、洞内は延長約八軒、その本幹をなすものは約三六三米に及び、三米以上の石物が隨所に密垂す。洞内に口之院・百萬塔・佛石・親子地藏・靈妙院之名符・靈妙門・中の院の遺跡・御舟門・風神旗・萬丈山仙人の杖・萬丈山天狗岩等の名あり。

ミスサワ

水澤 岩手縣陸中國費澤郡の東部。黒澤尻町(和賀郡)の南方約一六軒。北上川の右岸に位し、その支流は町内を東に貫流して北上川に合す。費澤川の扇狀地に屬し、町の北部及び南部には東西に互る低き丘陵あり。兩丘陵の間は平坦にして水田拓く。米・大豆・麥を産し、また

ミスキ

大字觀世音寺に在り。天台宗。清本山と號す。天智天皇、御母齊明天皇の御菩提のため建立を祈願し給ひ、八十餘年を経て天平十八年に竣工すと云ふ。往古は普門院と稱し、横西隨一の互利たりしが、康平七年に火災に罹り堂宇灰燼に歸す。爾來兩三回の修葺・再建を経て今に至る。開山は滿雲上人にして玄叡法師を中興とす。本尊聖觀音菩薩像は天智天皇の御願に依る所にて春日の作と稱せられ、不空罽索觀音立像(天武天皇御願)・十一面觀音立像(持統天皇御願)・馬頭觀音・十一面觀音を稱して富山の五體觀音と云ひ、本州三十三所巡禮給願の札所とす。寺寶に前記五體のほかに十體の佛像・舞樂面三箇・銅鐘一口・銅製天蓋光心一箇・拍大一對は何れも國寶に列せらる。本堂及び阿彌陀堂安置の多數の佛像は藤原時代或は鎌倉時代に作られたる優秀のものにて九州地方稀に見る壯觀なり。今の堂は大正元年二萬圓の國幣によりて修葺せられしものなり。

ミスキ

箕月 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に久慈郡高月郷あり、高月は箕月の誤にて、風土記の密氣里に當る。その地は今の多賀郡坂上村・河原子町・國分村に當るか。

ミスクボ

水窪町 静岡縣遠江國周知郡の北端。北は長野縣下伊那郡に接す。西境は天龍峽にて、町域はその支流の水窪川・氣田川の水源地たり。東北

ミスキ

ミスサ

天御中主神・火産靈神外三柱。弘仁元年に奥州三所に勧請せられし一にて源頼義父子の崇敬以來代々鎮守府將軍の崇敬厚かりきと云ふ。例祭四月廿二日。〔高野長英舊宅〕指定史蹟。大畑小路にあり。

明治九年の改築により屋根その他は當時の状態を傳へざるも舊構のよく存せる階下の八疊・六疊の二室は長英の居室とす。誕生地はこゝより西北約二〇〇米の吉小路にあり。長英は近世文化の先覺者、風土に對しての門に醫學を修め、名聲世に振ひしが、のち幕府の忌諱に觸れ、獄を設けて密に翻譯等に從事せしも嘉永三年自害、年四十七、維新後に正四位を贈らる。〔緯度観測所址〕地球回轉軸の變化を知るため緯度の變化の量を恒星観測によりて調査する天文臺にして、かかる目的により列國共同に設けたる世界八観測所の一なり。この観測は一九〇〇年より始まり、一九二二年以降三六〇年に至る間、萬國天文同盟會緯度變化委員會中央局設けられし最近廢せらる。〔くさす場〕大字東邊にあり。慶長年間、木挽四郎兵衛、深く天主教を信じ國禁に觸れて磔刑に處せられし地と云ふ。磔臺に接する福島にては天主教のメダル四箇発見せられ今に存す。

【水澤(縣)】明治四年十一月、陸中國にありし一國。瀋陽・江刺の三縣を廢し水澤縣を一國に置きて陸中國の五郡と陸中國の三郡とを管す。翌年六月に治所を陸中國登米に移せしが八年十一月には再び一國に移し縣名を改めて磐井縣となす。磐井縣は九年四月に廢せられ、陸中國の五郡を宮城縣に、陸中國の三郡を岩手縣に屬せしめて今日に至る。

【水澤村】新瀉縣越後國中魚沼郡の中部。信濃川の右岸。十日町の西南方約七軒。東南境を一千米前後の山脈連互し南魚沼郡と界して西北へ傾斜し、山裾は數段の段丘發達して信濃川に臨む。耕作地は西北部の河岸に多く、他は山林をなす。米を主産し、養蠶・手織織の副業行はる。米を主産し、養蠶・手織織の副業行はる。米を主産し、養蠶・手織織の副業行はる。米を主産し、養蠶・手織織の副業行はる。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。矢部川の右岸に沿ひて羽大塚町の南に接し、南は山門郡に、西は三浦郡に界す。筑紫平野の一部を占むるため全村地形低平にて、東南境に沿ひて矢部川が西南流す。沖ノ瀨川の細流が之より分れ南部を西流す。米産多し。縣道及び省線鹿兒島本線は東部を縦貫し船小屋驛(昭和三年設置)あり。この地は舊下妻郡の大字にして、幕末の勤王家、瀨上郡太郎(贈正五位)・瀨上謙三(贈從五位)・水田謙次(贈從五位)・井村簡二(贈正五位)等の出身地たり。大字尾島は文治元年、平家壇ノ浦に亡び、その殘黨の多く斬られし處といふ。〔船小屋驛〕矢部川に沿ふ。一中は水田村、一半は古川村に屬す。含鐵炭酸泉。加熱浴用。〔天滿神社〕縣社。祭神、菅原道真。嘉祿二年菅原爲水、勳を奉じて建立。朱印領千石。久留米御用氏の崇敬厚し。例祭九月二十五日。〔光明寺〕大字津島にあり。古義眞言宗。天平十九年行基開創。聖武天皇の勸願所。當時勸して金光明經を安置せしめ給ひしを以て金光明寺と號す。近世寺運衰退し往時の盛衰なしと雖も尙ほ地方の一巨刹たり。本尊、千手觀音(傳行基作)。

【水田村】岡山縣備中國上房郡の東北部。落合町(眞庭郡)の西南方約八軒の山中に存し、旭川の支流備中川の上流に沿ふ。東は眞庭郡に界し、西北は皆那町、西南は上水田村に、南は上有渡村に接す。面積一七・九方軒。地形は西北より東南に延び、中央備中川岸に平地展けたるも河岸を南北に亘るにつれ地勢漸高す。中央に耕地拓け北部・南部には山林多し。米、蕎麥の産多し、木炭・柿・葛粉等も小産す。當村に水田鏡山(品川白蓮瓦會社發行)あり、鏡山は當村と眞庭郡美川村とに跨りて五五萬餘坪、昭和十年事業を開始し同年格魯鐵道一〇〇哩を出す。高梁町・落合町へ縣道通じバスの便あり。上水田村と共に和名抄、美賀郡(のち阿賀に作る)水田郷の地なり。明治三十三年阿賀郡より本郡に編入し、以て今日に至る。

【水田村】福岡縣筑後國八女郡の西部。國登米に移せしが八年十一月には再び一國に移し縣名を改めて磐井縣となす。磐井縣は九年四月に廢せられ、陸中國の五郡を宮城縣に、陸中國の三郡を岩手縣に屬せしめて今日に至る。

ミスナ

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

日光線靜和驛、及び西北隣富山村内の同線新大平下驛、省線兩毛線大平下驛に近く何れも縣道を通す。この地は東鑑、養和元年、野木宮合戦の條に見ゆる水代六次の郷里なるべし。大字根本は近世は根本宿と稱し、北方に根本城址あり、城は永祿元年、小山の一族、美濃守の築きしもの。のち小田原の城代近藤出羽介、本城を守りしが、天正十八年に武州八王子城へ籠り、のち本多佐渡守正信に賜り、慶長十三年に正信の三男、大隅忠純を城主となし封三萬石、寛永八年に五子城主絶す。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

日光線靜和驛、及び西北隣富山村内の同線新大平下驛、省線兩毛線大平下驛に近く何れも縣道を通す。この地は東鑑、養和元年、野木宮合戦の條に見ゆる水代六次の郷里なるべし。大字根本は近世は根本宿と稱し、北方に根本城址あり、城は永祿元年、小山の一族、美濃守の築きしもの。のち小田原の城代近藤出羽介、本城を守りしが、天正十八年に武州八王子城へ籠り、のち本多佐渡守正信に賜り、慶長十三年に正信の三男、大隅忠純を城主となし封三萬石、寛永八年に五子城主絶す。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

【水島村】富山縣越中國西礪波郡の東部。津澤町の北に接す。平坦肥沃なる礪波平野の一部を占め、瀧渡川の發達により沃田多し。米を主産し、特産物に水島柿あり。

ミスノ

起伏し、高度は一五〇—一六〇米の丘陵にして北境には庄内川が峡谷をなし、南西へと流れ、水野川は此等の山地より山間盆地を作りつつ庄内川に合流す。西北部には東谷山(二九八米)あり。この盆地内には田圃あり、村の産業として山地の陶土を採集して陶磁器を作る窯業を主とす。交通路には庄内川の谷より瀬戸市に出づる街道あり、南部には僅かに瀬戸街道通じ、之と並行に社線瀬戸電線通じ今村驛(明治三十八年設置)・尾張横山驛(昭和二年設置)・追分驛(明治三十八年設置)を置く。和名抄の山田郡神戶郷は此地ならんか、詳かならず。東谷山には圓形式の古墳ありて、名古屋城を築く時は石垣使用の岩石を多数給せし地なり。大字下水野の八尾城址はもと水野氏の住みし城なり。上水野の城ヶ峯の水野城址は磯村左近衛城して之に居り磯田信長に仕へたりと傳ふ。(尾張郡神戶)大字下水野に鎮座。郷社。祭神天・大明命・健甕命・天香山命。式内社。別稱、當國明神。一に東谷明神と書く。靈元天皇寛文十一年社殿を修造す。例祭、九月十五日。

ミスノオ

水尾山 清和天皇水尾山陵の所在地。いま京都市右京區嵯峨にあり、愛宕山の南西に位し丹波國境に近し。*京都市(二一七〇頁)

ミスノオ

水ノ尾山 中山山脈の一峯。徳山市の北方凡そ二八新、山口

ミスノコ

水ノ子島 九州島と四國島との豊後水前川の略中央に孤立する小島。愛媛縣の日振島と相對す。島上に燈臺あり。明治三十七年の設置に係り、燈質は四白光、毎三十秒一閃光、光達距離は二〇海里とす。

ミスハシ

水橋村 栃木縣下野國芳賀郡の西部。祖母井町の西南隣にして眞岡町の北方約五・五軒にあり。西部は低き臺地にて畑地をなし、所々林を交ふ。中部より東部にかけては平地開けて五行川の本支流南流し、水田多し。農業行はれて米を主産し、他に麥の産あり。縣道は祖母井町、南方の眞岡町、西方の宇都宮市(約一二軒)に通じ、祖母井町より村の北部を経て宇都宮市に通ずる縣道には省營自動車茂木線通す。(天満宮)大字西水沼に鎮座。郷社。祭神、菅原道真。もと船戶北原天神と稱す。領主宇都宮氏崇敬す。本殿・幣殿・拜殿を備ふ。例祭、陰曆一月二十五日。

水橋

延喜式に見ゆる越中國の縣名。↓西水橋町(富山縣)

ミスハラ

水原 福島縣岩代國信夫郡の南部。松川町の西に隣り、南は安達郡に接す。奥羽山脈の東斜面に屬し、西南境は海拔約七〇〇米にして東方に傾斜し、全村概ね山地をなす。松川は西境に發源して北部を東流す。米・蕎麥の産あり。また松川町と共に重要鐵山たる松川鐵山の鐵區をなし、金・銀を産す。(松川町参照)便あるも一般に交通便ならず。

水原村

新潟縣越後國中頸城郡の東南部。新井町の東南方凡そ八軒の山村。東部・西北に細長く、東南隅は黒倉山連峯の佛ヶ峯(一〇〇米餘)を以て長野縣信濃國下水内郡に界す。山勢概ね西北に傾斜し、略中央部谷合に多少の耕地ありて米・蕎麥を耕作するも、他は概ね山林をなし薪炭の副産あり。村内交通は里道により省營信越本線新井驛へ至る道路あり、途中バスの便あるも交通餘り便ならず。

ミスヒキ

水引町 鹿児島縣薩摩國薩摩郡の西部。川内川河口の右岸に位し、西は東支那海に臨む。東部・中部は波狀の丘陵地をなし、低地が其間に介在す。西部は概ね低平にして海岸は砂濱をなす。川内川は南境に沿ひて西へ北流して海に注ぎ、河川に砂洲多し。米・蕎麥・繭其他の農産多し、また林産・水産あり。縣道及び省營鹿児島本線が中央を西北より東南に貫き後者の草道驛(大正十一年

ミスフカ

水深村 埼玉縣武藏國北埼玉郡の東南部。加須町の東南隣にて、西方騎西町にも近く、東より南は南埼玉郡薮宮町その他と隣す。全村平地にて米を産し、養蠶盛にて繭の産多し。縣道は加須町・騎西町・薮宮町及び東南方の久喜町に通じて、加須町の社線東武鐵道伊勢崎線加須驛、北隣大桑村の同花崎驛等に出づるに便なり。この地は幕末の勤王家、小田熊太郎(贈正五位)の出身地たり。

ミスホ

水保村 福島縣岩代國信夫郡の西部。福島市の西方約八軒。西端は耶麻郡に接す。土地東西に長く約一五軒、幅約二軒餘あり。西境は一切觀山(一九四九米)、東南境に吾妻富士(一七〇五米)聳えて西方に傾斜し西部は山地をなすも、東部全面積の四分の一は福島盆地に屬し平坦なり。須川は北境を、荒川は東南境を各ほぼ東流し、その支流村内を流る。西部に微温湯湧出す。米・蕎麥を産す。道路は中部を東西に通ずるもの及び東部を南北に通ずるものあり、北方

奥羽本線鹿坂驛へは約四軒あり。この地は古來水保郷と稱せし地にして、村名はその遺稱なり。

ミスホ

瑞穂 我國の古稱の一。瑞は美しきを賞めていふ語、穂は稻穂。要するに稻美しく實る國の意。記・上「豊原之千秋長五百秋之水穂國者、我御子正勝壽勝壽日天忍孫命之所知國」神代紀・上天神謂伊弉諾伊弉册曰、有豊原千五百秋瑞穂之地、宜汝往播之。祝詞式・大慶祭「大八洲豊原瑞穂之國于安國止平氣所食止」

瑞穂村

栃木縣下野國下都賀郡の中部。栃木市の南隣にあり。關東平野の一部を占め、全村平地開けて巴波川・水野川南流し、水田多く米を主産す。その他、麥の産あり。また養蠶行はれて繭の産も多し。二條の縣道は村内を北走して栃木市に通じ、バスの便あり、栃木市の省線兩毛線栃木驛、社線東武鐵道日光線栃木驛に連絡す。また西隣富山村内にある兩毛線大平下驛及び東武鐵道日光線新大平下驛にも近し。明治四十年、明治天皇、結城行幸の際、此地にて御幸儀あらせらる。尊攘の志士、川連虎一郎(贈從五位)は本村の出身者なり。

ミスホ

千葉縣下總國香取郡の西北部。利根川の南岸に位し、佐原町の西方にして、間に東大戸村を挟む。南半は丘陵地にして森林あり。北半は利根川流域の平

地にて水田多く米を主産し、他に麥・蕎麥を産す。縣道は中部を横走し、省線成田線また之に沿ふも村内に隣なく、東隣東大戸村に大戸驛を置く。

瑞穂村

千葉縣上總國山武郡の西南南部。大網町の西南隣にして、南は長生郡本納町等と隣す。中部より西部にかけては丘陵地にして針葉樹林多し、東部は九十九里濱沿岸平地の一部をなし、農業行はれて米・蕎麥を産し、養蠶・養蠶も行はる。縣道は大網町より東部を南走して本納町に通じ、省線房総本線また之に沿ふも村内に隣なく、山邊村に大網驛ありてバスを通ず。此地は和名抄、山邊郡草野郷の地なるべく、往時は一面の草野なりしものか。

瑞穂村

山梨縣甲斐國南都留郡の中部。富士山の東北麓を占め、桂川の上流に沿ふ。ほぼ菱形に近き村の南半部は富士山麓の緩傾斜面にて、桂川東部を南より東南に流れて水田・桑園開け、北半部は三ヶ峠山の南斜面にて概ね山林をなす。されど近世新倉の人、永島安能なるもの新渠を作り、河口湖の水を引きてより新田よく開け米の産多し。次で蕎麥を産し郡内職の家内工業も行はる。桑園は中央やや東寄を貫通する國道中山道に沿ひ發達し、富士北口の登山路に當る。また東南方山中湖畔を経て沼津に至る街道もあり、交通の要地として往時より繁え、各村町に次ぐ主要村なり。省線中央本線大

月驛より社線富士山麓電線の霞池温泉前驛(昭和五年設置)・下吉田驛(昭和四年設置)・月光寺驛(昭和六年設置)の三驛を置く。また自動車の便もあり。(小室淺間神社)大字下吉田に鎮座。郷社。祭神、木花開耶麻命。延暦十二年坂上田村麿征夷討討に際し富士山に祈り、四年後(大同二年)平定と同時に創祀せりと傳ふ。例祭、九月十九日。(月光寺)大字下吉田にあり。臨濟宗妙心寺派。水上山と號す。もと天台宗を奉じ稱光院と云ひしが、中古廢絶せしを開山祖龍興師に、月光庵を建て向嶽寺に屬せしが、寛永の末、禪心和尚の時、妙心寺に屬す。本尊釋迦尊を安置し、寺寶に開山・向嶽寺開山その他の自費證を藏す。

瑞穂村

長野縣信濃國下高井郡の北部。飯山町(下水内郡)の東北凡そ八軒、野澤温泉(豊郷村)に村の北に隣接す。千曲川右岸にありて、東境には毛無山(一六四九・七米)、南境には城山(八六三・七米)あり。南は穂高村に隣り、共に飯山盆地の東邊をなす。村は城山並に小宮神社の背後の山、高度八七〇米を達する線にて東部山地と盆地部に急變あり、階層崖を思はしむ。下部には更に五百米内外の丘陵地あり明かに信濃川の河岸段丘なり。この段丘を凌越せる小谷の扇狀地により三五〇米内外の段丘あり現千曲川岸に臨む。耕地は下部の二段丘並に小扇地上に水田耕作が營まれ、扇狀地の頂點に

瑞穂村

瑞穂村 鳥取縣因幡國氣高郡の北部。河内川下流左岸に沿ひ、北の一部を以て日本海に接す。南は鹿野町に、東は實木村に界す。面積七・二方軒。地は地勢に

ミスワ—ミソノ

【御園村】大字竹澤にあり。縣社。祭神宇...

【水分村】福岡縣筑後國浮羽郡の西北部...

【ミセタニ 三瀬谷村】三重縣伊勢...

【ミソノ 御園村】大分縣豊前國下毛...

ミセン

【彌山】大正十五年上清町と改む。

【ミソノ 御園村】大分縣豊前國下毛...

【ミソキ 御園村】愛媛縣伊豫國喜多...

【ミソノ 御園村】大分縣豊前國下毛...

ミソクイ

【溝口町】鳥取縣伯耆國日野郡の北部...

【ミソグチ 溝口】兵庫縣神崎郡中寺村の大字...

【ミソクイ】大分縣豊前國下毛郡の北部...

【ミソクイ】大分縣豊前國下毛郡の北部...

ミソノ

【御園村】三重縣伊勢國度會郡の東北部...

【御園村】滋賀縣近江國神崎郡の中部...

【御園村】滋賀縣近江國神崎郡の中部...

【御園村】滋賀縣近江國神崎郡の中部...

ミソノ

【三田】陳奥國(宮城縣)の古地名。和名...

【三田】陳奥國(宮城縣)の古地名。和名...

【三田】陳奥國(宮城縣)の古地名。和名...

【三田】陳奥國(宮城縣)の古地名。和名...

ミソノ—ミタ

【御園村】大分縣豊前國下毛郡の北部...

【御園村】大分縣豊前國下毛郡の北部...

【御園村】大分縣豊前國下毛郡の北部...

【御園村】大分縣豊前國下毛郡の北部...

【御園村】大分縣豊前國下毛郡の北部...

田部七ヶ宿村・小原村の邊に當る。
【三田】 東京市芝区の地名。古くは御田にも作る。金杉川以南、高輪に至る間を云ひ、洪積臺地がその大部分を占む。慶應義塾大學の臺上にあり。附近には三田の二字を冠せる町名多し。太平記忠臣講釋・六ヶ氣徳淨瑠璃出次第に、貞光は信濃國碓氷の生まれ、嗣は武蔵の三田の者、さて公時は伊豆國と申せども、生所も知れず宿なしと、みす／＼見えるからぞめき。

【三田村】 東京府武蔵國西多摩郡の北部。五日市町の北方にして多摩川に沿ふ。西南隅には大嶽山(二六七米)および御嶽山(一〇七〇米)あり。また北境には惣岳山(七四二米)・高木山(七九三米)等連なり、南北兩山地の組合を多摩川東流す。山地一帯森林多く、木材の産額大なり。川沿ひに狭き平地ありて藁・甘藷を栽培し、養蠶も行はる。また綿織物・絹織物・漆器等の製造行はる。川沿ひに府道通し社線青梅電氣鐵道これに沿ひて西走し樂々園(昭和三年設置)・二俣尾(大正五年設置)・軍畑・澤井・御嶽(以上昭和四年設置)の五群を置く。御嶽より水川村及び御嶽山麓本へバスの便あり。瀧本より御嶽までケーブルカーあり。御嶽山を始めとし多摩川沿ひに登山道その他名所多く良き行樂地をなす。(※御嶽山)〔御嶽神社〕 大字御嶽山に鎮座。府社。祭神御嶽山(一説に日本武尊とす)。

安閑天皇御宇の創立と云ひ、崇神天皇の勅に依り神地と定めらる。もと御嶽大權現と云ひ、明治二年大蔵止乃豆神社と改稱し、同七年現社名に改む。赤糸織甲冑一領は國寶。例祭、五月八日。(御嶽の神代傳)指定天然記念物。一株。樹勢大、巨樹として有数のものなり。(青淵神社) 大字澤井上分字惣岳山に鎮座。郷社。祭神、大國主命。延喜式内同名の社に充つる説あり。一に徳國明神とも稱す。社前に靈泉あり、眞名井、又は青淵井とも稱す。社名これに起るといふ。中世以降領主の崇敬を受く。例祭、三月十八日。〔海禪寺〕 大字二俣尾にあり。曹洞宗。山號、瑞龍山。寛正年中益芝和尚の創建に係り、開山は一州正伊。當初は長勝寺と號せしむ。五世太古の時より現寺號を用ふ。永祿六年兵燹に罹り爾來寺運大いに衰没、天正十七年徳光禪師の頃より漸次甦り復す。

【三田村】 長野縣信濃國南安曇郡の中部。松本市を去る西北約一三二町。省線大赤南線科野(豊科町内)より四方凡そ三軒。北は島川村、東は温村、西は小倉村に接す。村の西境にある角藏山(一六二米)は日本アルプスの前山たる御嶽(二六四七米)より常念嶽(二七五七米)に連なる山脈の糸魚川・松本構造線の断層崖の侵蝕による山なり。村は断層浸蝕各たる島川・梓川の扇状地の複合線に位置す。従つて湧水多く水田に利用され、耕地面積に對する水田率の多きことが特色と見らる。田尻・田多井・小田井の三主要部落あり合して一村となり、三田村の名起る。田の字を附することによりて同地の自然と經濟的立地の状態が察せらる。村は東半は扇状地にして松本市の一部を形成し、西半は角藏山の山地となる。従つて東部より水田・桑畑・林業と高度に照應する生産立地が明瞭に見らる。【三田】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に山縣郡三田郷あり、その地いまの山縣郡岩野田村・高宮町の邊なるべし。【三田村】 三重縣伊賀國阿山郡の中央西偏。上野町より約〇・五軒の北にあり。北半は約四〇〇米の山地をなして南に傾斜し、南半は伊賀盆地の一部を占めて地形低平なり。伊賀川は南部を西南流す。農業を主とし米・麥・菜類の産多し、日ノ菜の特産あり。省線關西本線は南部を東西に走り伊賀上野野(明治三十年設置)あり。同線より上野野へ鐵道通す。古くは三田郷に作り、和名抄に阿拜郡三田郷と見ゆ。【三田】 因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄に知頭郡三田郷あり、いまの八頭郡智頭村・中田村の邊なるべし。中田村の大字三田はその遺稱ならん。【三田】 隱岐國(島根縣)の古地名。和名抄に知夫郡三田郷あり、美多と調す。その地の今知夫郡黒木村の邊に當る。【三田村】 廣島縣安藝國高田郡の西南端。

横に對する水田率の多きことが特色と見らる。田尻・田多井・小田井の三主要部落あり合して一村となり、三田村の名起る。田の字を附することによりて同地の自然と經濟的立地の状態が察せらる。村は東半は扇状地にして松本市の一部を形成し、西半は角藏山の山地となる。従つて東部より水田・桑畑・林業と高度に照應する生産立地が明瞭に見らる。【三田】 美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に山縣郡三田郷あり、その地いまの山縣郡岩野田村・高宮町の邊なるべし。【三田村】 三重縣伊賀國阿山郡の中央西偏。上野町より約〇・五軒の北にあり。北半は約四〇〇米の山地をなして南に傾斜し、南半は伊賀盆地の一部を占めて地形低平なり。伊賀川は南部を西南流す。農業を主とし米・麥・菜類の産多し、日ノ菜の特産あり。省線關西本線は南部を東西に走り伊賀上野野(明治三十年設置)あり。同線より上野野へ鐵道通す。古くは三田郷に作り、和名抄に阿拜郡三田郷と見ゆ。【三田】 因幡國(鳥取縣)の古地名。和名抄に知頭郡三田郷あり、いまの八頭郡智頭村・中田村の邊なるべし。中田村の大字三田はその遺稱ならん。【三田】 隱岐國(島根縣)の古地名。和名抄に知夫郡三田郷あり、美多と調す。その地の今知夫郡黒木村の邊に當る。【三田村】 廣島縣安藝國高田郡の西南端。

に移轉す。敷地三〇萬平方米。現今備付の天文學器械中主要なるものはレブソルFの子午儀、カールツァイスの赤道儀、メルツの赤道儀、スタインハイルの太陽寫眞機、アラッシャーの天體寫眞機、ツプファーの分光太陽寫眞機、リッフライの一等振子時計三基、ゴータエ一等子午環、カールツァイス大赤道儀、カールツァイスのアインスタイン塔望遠鏡等あり。毎年春秋二回を限り、望遠鏡による天體觀測を特志者に許可す。構内に測地學委員會の設けし測量基線あり、百米の等邊三角形を合する測量の邊なり。參謀本部陸地測量部はここに一等三角點を置き、全國三角點の經緯度測定の基準點とす。【ミタカヤ】 二田ヶ谷村 埼玉縣武藏國北埼玉郡の北部。羽生町の東方にて、間に井泉村を挟み、北隣の村君村、東隣の大越村を隔てて利根川に近し。關東平野の一部を占め、全村平地にて米・麥の産多し、藪も多産す。縣道は羽生町及び南方の不動岡に通じ、何れもバスの便あり。羽生町には社線東武鐵道伊勢崎線あり。羽生線を置く。【ミタカラ】 三寶 大阪府泉北郡にありし村。大正十五年堺市に編入す。【ミタカワ】 三田川村 佐賀縣肥前國神埼郡の東南部。神埼町の東に接し東は三養基郡に界す。筑紫平野の中央を占むる爲め全村地形低平にて一望肥沃なる水田拓げ、米産多し。藪・麥も多産す。

太田川の支流三條川に沿ふ。東南は賀茂郡、西南は安佐郡に、北は秋越村に隣接す。面積三〇・〇四方軒。北には白木山(八九〇米)、南に高嶺山(七〇〇米)、東に安田山(七三五米)聳立し、本村はその中間に横はる。北部・南部共に地勢高峻なるも中央の三條川沿岸に傾斜す。流域平地は農業行はれ、他の大部は山林地に屬す。米・麥・蕎麥・木炭・牛・馬・清酒・川魚等を産す。省線高橋線の上三田・彌谷(以上昭和五年設置)・中三田(大正四年設置)・白木山(昭和四年設置)の四群あり。古くは三田郷に作り、和名抄に高田郡三田郷と見ゆ。中世は三田莊に作る。【ミタ】 御田 武蔵國(東京府)の古地名。和名抄には荏原郡御田郷あり、その地いまの東京市目黒區の一部および品川區大崎・芝區三田の邊までも及びしものなるべし。【ミタ】 彌陀庄 臺灣高雄州岡山郡の西部。東は、北より路竹庄・岡山街・楠梓庄に接し、西は臺灣海峡に臨み、北は湖内庄に、南は左營庄に夫々隣接す。管内は概ね平地にて、地勢概して東部に高く西部海岸には鹽田多し。産業の主なるものは農・水産・畜・工業等にて、農業を第一位とす。主産とするところは、米・落花生・甘藷・甘蔗・果實等にして、約百三十萬圓を産出す。また水産業に於ては、水産漁獲物・養殖漁獲物・水産製造等に分別、全體にて年五十萬圓を漁獲す。

農家に於ては、水牛・黄牛・雜種牛・豚・山羊・家鴨・鵝等を飼養する者多し。庄は畜産業の中心をなし、年産約三十一萬圓に達す。工業に於ては其の種類多岐に互れども、其主なるものは製鹽・煉瓦・精米・醤油・麥茶・竹細工・乾藪等にして其年産約五十萬圓と稱せらる。教育施設に於ては公學校三、分教場一を有し、就學率は昭和十一年末に於て三〇・一二%なりしも、近年社會教化機關として施設せられたる國語講習所・簡易國語講習所・算學兒童講習所の傾向を示す。本庄内に於ては鐵道の通過するなきも、近年道路の完備と相俟つて自動車の運行盛となりしを以て、管内物資の移出入に不便少し。大字彌陀は現在役場の所在地にして、一肆街を形成するも、臺灣府志(續修)には「彌陀港、水運大海出入とあるより推せば、往時は海岸線深く灣入して彌陀港なる一港を開き居りしもの如し。本庄の地は、清領當時建てられたる仁壽上里の大部分及び維新里の存せし地にして、上記二里は我領臺後も其行政區劃として用ひられしが、大正九年十月地方制度改正に際し、上記二里中の十四庄(仁壽上里中の十二庄と維新里中の二庄)を割きて彌陀庄なる一庄を建て、高雄州岡山郡の管下に歸せしめたり。【ミタカ】 二高村 廣島縣安藝國佐伯郡の南部海上なる西能美島の北部を占め、

農家に於ては、水牛・黄牛・雜種牛・豚・山羊・家鴨・鵝等を飼養する者多し。庄は畜産業の中心をなし、年産約三十一萬圓に達す。工業に於ては其の種類多岐に互れども、其主なるものは製鹽・煉瓦・精米・醤油・麥茶・竹細工・乾藪等にして其年産約五十萬圓と稱せらる。教育施設に於ては公學校三、分教場一を有し、就學率は昭和十一年末に於て三〇・一二%なりしも、近年社會教化機關として施設せられたる國語講習所・簡易國語講習所・算學兒童講習所の傾向を示す。本庄内に於ては鐵道の通過するなきも、近年道路の完備と相俟つて自動車の運行盛となりしを以て、管内物資の移出入に不便少し。大字彌陀は現在役場の所在地にして、一肆街を形成するも、臺灣府志(續修)には「彌陀港、水運大海出入とあるより推せば、往時は海岸線深く灣入して彌陀港なる一港を開き居りしもの如し。本庄の地は、清領當時建てられたる仁壽上里の大部分及び維新里の存せし地にして、上記二里は我領臺後も其行政區劃として用ひられしが、大正九年十月地方制度改正に際し、上記二里中の十四庄(仁壽上里中の十二庄と維新里中の二庄)を割きて彌陀庄なる一庄を建て、高雄州岡山郡の管下に歸せしめたり。【ミタカ】 二高村 廣島縣安藝國佐伯郡の南部海上なる西能美島の北部を占め、

西北は凡そ五軒の海水を隔てて廣島に對し、東は津久茂瀬戸を隔てて江田島に對す。面積一〇・三二方軒。廣島灣に北面し、海岸には三吉・高嶺の集落存す。村内概ね山地にして地勢南方に漸高す。海岸線出入乏しきも、前面に那沙美瀬戸を隔てて大那沙美島・小那沙美島あり。雑穀・酒類・内海魚類・米・麥・蕎麥・薪炭・牛・馬等の産多し。小那沙美島に鹽臺を有し、近海航行の便あり。もと三吉・高嶺の二村名づく。【ミタカ】 三鷹村 東京府武蔵國北多摩郡の東部。東京市の西隣にて北は武蔵野町、南は調布町と隣す。武蔵野臺地の一部を占め、畑地多く米・麥・蕎麥を産す。府道よく發達し、省線中央本線は北部を西走するも、三鷹驛(昭和五年設置)は武蔵野町内にあり。社線帝都電鐵は三鷹驛・井之頭公園驛・吉祥寺驛の三驛を置く。村の西南部には東洋第一の東京天文臺を置く。省線の沿線に最近、東京西郊の住宅地として發展せんとしつゝあり。【東京天文臺】 大澤にあり。東經百三十九度三十二分二分二十九秒、北緯三十五度四十分二十二秒、海拔五七米に位す。天文學に關する事項を攻究し、天象觀測・曆書編製・時の測定・報時及び時計の檢定に關する事務を掌り、且つ大學院及び理學部學生の實地授業及び研究の用に供する所、大正十三年東京市府麻呂よりここ

に移轉す。敷地三〇萬平方米。現今備付の天文學器械中主要なるものはレブソルFの子午儀、カールツァイスの赤道儀、メルツの赤道儀、スタインハイルの太陽寫眞機、アラッシャーの天體寫眞機、ツプファーの分光太陽寫眞機、リッフライの一等振子時計三基、ゴータエ一等子午環、カールツァイス大赤道儀、カールツァイスのアインスタイン塔望遠鏡等あり。毎年春秋二回を限り、望遠鏡による天體觀測を特志者に許可す。構内に測地學委員會の設けし測量基線あり、百米の等邊三角形を合する測量の邊なり。參謀本部陸地測量部はここに一等三角點を置き、全國三角點の經緯度測定の基準點とす。【ミタカヤ】 二田ヶ谷村 埼玉縣武藏國北埼玉郡の北部。羽生町の東方にて、間に井泉村を挟み、北隣の村君村、東隣の大越村を隔てて利根川に近し。關東平野の一部を占め、全村平地にて米・麥の産多し、藪も多産す。縣道は羽生町及び南方の不動岡に通じ、何れもバスの便あり。羽生町には社線東武鐵道伊勢崎線あり。羽生線を置く。【ミタカラ】 三寶 大阪府泉北郡にありし村。大正十五年堺市に編入す。【ミタカワ】 三田川村 佐賀縣肥前國神埼郡の東南部。神埼町の東に接し東は三養基郡に界す。筑紫平野の中央を占むる爲め全村地形低平にて一望肥沃なる水田拓げ、米産多し。藪・麥も多産す。

す。北部には長崎街道及び省線長崎本線が横斷し、神崎驛(四方約一軒)に近し。この地は和名抄、神埼郡神崎郷の内にして、中世は鶴島が龍造寺と共に相争ひし地、のち、鶴島落領たり。(日連原馬場) 古來日連原松原と稱せし地にて文祿元年、肥前・肥後の鶴島・加藤兩侯觀覽の下に於て行はると傳ふる日連原設計の址なり。現今の標は明治五年に植ふられしものなるが、成長頗る早く、根元の周囲一・二米に達するものあり。花季は約一軒の直線路の兩側に花より花に續きて花の大トナリを成す。馬場を挟みし神天神社にも樓多し。馬場の西側に當設置馬場あり、陽春櫻花爛漫の候、花の吹雪を背に肥馬相競ひ、觀客殊に雜沓す。花季には日連原假祭が設けらる。(東妙寺) 眞言律宗。寺傳に佐々木高綱の弟唯阿の開基に係るといひ、のち足利尊氏再興す。木造釋迦如来像・同聖觀音像・懷良親王御筆經卷は國寶。【ミタカワ】 三田川村 埼玉縣武藏國秩父郡の西北部。小鹿野町の西隣にて、西は群馬縣多野郡と隣す。關東山地の一部を占め、北境に二子山(一六六六米)・白石山(九九七米)・觀音山(六九八米)等西より東に連り、南境もまた西部の兩神山(一七二四米)に續く山地をなし、南北より村内に傾斜す。村の中央は兩山地の組合にて河原澤川東流す。山地一帯潤葉樹林多し。川沿ひには狭き耕地あり

ミチカ—ミチノ

在地。東は河邊郡戸米川村に、南は魚田町に隣接し、西は日本海に面す。面積約五四方軒。酒田街道は海岸を南北に通ず。省線羽越本線の道川驛(大正九年設置)あり。地勢東部に高く西方に傾斜し、観音森山(三四三米)は東南端にそびゆ。君ヶ野川は東端に發源して村の中部を西流して日本海に注ぎ、沿岸に耕地拓く。海岸は平直にして砂濱をなす。生業は農を主とし、他に北海道へ出稼をなす者及び村内の石油鑛場に働く者あり。漁業は農閑期に鱈・鱧等の來獲を待ちて營むに過ぎず。當村の一部は上郷村・下郷村の各一部と共に由利鑛山の鑛區をなす。同鑛山は秋田油田に於ける屈指の石油山にして、また本邦重要鑛山の一たり。この外、村内には幾多の石油鑛區あれど何れも振はず。僅かに大ヶ澤鑛山(旭石油會社採行)は昭和九年に事業を開始し、同年原油四〇七箱を産出す。なほ勝手鑛山(日本石油會社採行)も同年試掘に於て原油二六箱を出だす。(道川油田)秋田油田の一分區にして、道川村邊より河邊郡豊岩村邊にかけて、南北に細長く約一四軒に亘る。地質調査所の測定によれば、由利統に屬し下部は北浦層(砂岩・頁岩の互層)上部は臨本層(砂質・頁岩)にして、油層は頁岩の龜裂に存し、深度は凡そ二〇〇—二七〇米とす。代表的鑛山は道川村を中心とする由利鑛山なり。(由利鑛山)鑛區は道川・上郷・下郷の三村に跨がれて約三八七七畝

ミチノク

陸奥 道の奥の義。古くは今の福島縣以北なる太平洋方面の地域を汎稱す。古事記に道奥石城國造、舊事記國造本紀に道奥多國造の名あり。陸奥の二字を用ふる例となる。中世略して之をミチノ國と稱し、轉じてミチノ國を征するや、上總より轉じて陸奥國に入り、蝦夷既に平いで日高見國より還り西南常陸を経て、甲斐國に至るとあり。之を陸奥の國名の初見となす。普通には、上文に武内宿禰の奏言を録して、東夷の中に日高見國あり、其の國人男女ともに推結文身、人と爲り勇悍なり、是をすべて蝦夷といふ」とありて、往時蝦夷の本國の義として解せられしもの。日本紀の成れる奈良朝初期に於ては、今の岩手縣北上川流域以北をすべて蝦夷の國となし之を漢然日高見國と呼びしもの如し。ヒダカミとは夷人住所の地方の義なり。其の北上川、古名を日高見川と云ひ又日上川と書けり。三代實錄に日高見水神あり、延喜式内日高見神社の名を以て録す。されば日本紀編者の見所、日本武尊平定の蝦夷の國を以て此の地方に擬定せしものなるべし。然れども、古事記の記する所によれば、尊は走水の海を流りて後、それより出てまして悉く荒蕪る蝦夷どもを平け、還り上ります時に足柄の

ミチノウエ

道田 常陸國(茨城縣)の古地名。和名抄に行方郡道田郷あり、その地名の行方郡大和村の邊に當る。今行方郡大和村の邊に當る。ミチノウエ 道上村 福島縣 備後國深安郡の中西郡。神邊町の西北に連なり、西北は加茂村・下加茂村、東北は中修村、南は下岩成村に接す。面積三・四七方軒。地形南北に延び、北半に低き山地を有すれど、南半は平地にほゞ耕地をなす。農業・養蠶業盛んにして牧畜は之に次ぐ。純農村なり。米・麥・蕎麥・牛・馬等を産す。省線福島南線中央を東西に通じ道土驛(大正三年設置)あり。ミチノオ 道ノ尾 長崎縣西彼杵郡一驛(明治三十年設置)。長崎縣西彼杵郡長興村にあり。ミチノオクキク 道奥菊多 下 兼、蝦夷の傳説に歸する事あり。傳説據るは後の出羽國置賜郡にして、皇化福島地方より板谷峠を越えて最上川上流地方に進出し、風にこぼれ城壁の蝦夷なる羽蝦夷の存在を見るに至りしことを示す。和銅五年出羽國の設置せらるるや、其の北に置かれたりし最上郡と共に出羽國に移管せらる。水ぎに太平洋海岸方面にありては、孝德天皇の御代に石城郡の設置あり更に天智天皇の御代に玉城郡の設置あり造を造らんとせしめしが爲に長き十五丈の大船を造らしめしこと、共に常陸風土記に見ゆ。太平洋海岸地帯の進歩以て察すべし。新くて文武天皇大寶令制定の頃には、海岸方面に石城國、仙道郡ち阿武隈川流域、及び會津に涉りて石背國の設置を見るに至る。治府は恐らくは後の石城郡と岩瀬郡とにありしなるべし。續日本紀には此の兩國を以て、能登・安房と共に奈良朝初期養老二年の設置となす。而も其の記事中に明かなる矛盾誤謬あり、また其の原文を抄録せる日本紀略には能登・安房兩國分立の事のみを言ひて、石城・石背兩國の事を言はず。殊に扶桑略記に至りては、此の際此の兩國を廢して陸奥に合併せりとなせるなり。蓋し今の續日本紀の記事は、後人の傍書の挿入なるべく、扶桑略記の記事も亦年時に於て誤謬あり。養老三年の時なほ兩國の存在せしことは、同七月に石城國群家十處を置くことによりて知らる。蓋し

ミチノ

從來東山道の一國として、石背よりのみ通ぜし陸奥國に對して石城より通ずる海岸路を開きしものなるべし。然るに其の後夷地經營の進歩に伴つて、直接に征夷の衝に當る陸奥の國力充實の必要ありてか、此の兩國を廢して陸奥國に合併す。續日本紀神龜元年坂東九國の語あり。當時安房分立後の事なれば、所謂九國は今の關東八州と陸奥とにして、石背、石背の兩國は既に廢止せられし後なるべし。次で同書神龜五年四月條に、陸奥國に白河軍團を置くの記事あるを見れば、此の時石背國の存せざりしは明白にして、兩國の廢止は養老三年四月より、遅くとも神龜五年四月の間にありしなるべし。明治元年に陸奥を分ちて五國となすに當り、此の兩國の舊稱を復して、舊地城に磐城・岩代の二國を置く。磐城は舊石城が今人にイハキと讀み難かるべきを顧慮して、殊更に其の文字を改めたりしもの、また岩代は舊名石背をイハシロと讀み誤り、それに讀み易き文字を擇びて宛てしに外ならず。其の石背がイハセなるべきことは、其の石背郡を延喜式に磐瀬(今岩瀬)に作れるによりて知らる。但し兩國の境域古今同じからず。古への石城國は専ら海邊即ち阿武隈山脈以東の太平洋方面地方のみ限られ、石背國は仙道郡ち阿武隈川流域と、會津地方とを包括せしが、明治の分割に際しては國力の均等に重きを置き、舊石城國の全部及び舊石

ミチノ—ミチノ

坂本に至りませる事をのみ云ひて、其の足跡の必ずしも奥州に及べることと言はず。更に承和二年の太政官符によれば、舊記を案するに白河・菊多の劃を置いてより、今に四百餘歲とありて、時代はほゞ允恭天皇の御代に當る。然らばそれよりも遙に上れる景行天皇の御代に於て、尊が遠く北上地方にまで到り給へる事疑なきにあらず。蓋し奥州は當時蝦夷の國として、此の頃其の入口なる山道、海道の要害に劃を置き、以て華夷の境界を劃せしものならん。唐書に我が國の事を記して、東北大山を限り其の外は即ち毛人とあり。毛人は即ち蝦夷なり。關東奥羽を分てる白河・菊多一帯の山岳以外を以て蝦夷の國となせし狀以て觀るべし。降りて鎌倉時代に至りても、なほ奥羽を日して蝦夷の國と認めしことは、文治五年の幕府の政令に於て、「出羽、陸奥に於ては夷の國たるによりて、度々の新制にも除き訖りぬ」との理由を以て、舊制上除外例を認めしことによりても察せらる。然るに古事記には、崇神天皇の御代四道將軍派遣の時、北陸に向へる大彥命と、東海に向へる武甕川別命との父子が、會津に相會せりと傳説を收む。蓋し所謂地名傳説に屬するものとして、史實に違きものなるべし。陸奥が一國として設置せられたる年代は明かならず。大化の改新に先づ東方八道の國司を任ず。常陸風土記に、此の時坂東地方分れて八國となる

とありて、而も當時安房國分置以前のことなれば、當然陸奥國は右八國の一に數へられたりしものなるべし。蓋し養老に白河・菊多の二國を置き、以後、皇化次第に關外に及び、ついにこゝに一國の設置を見るに至りしものならん。國造本紀には道奥菊多、道田岐間、阿尺、思、伊久、染羽、浮田、信夫、白河、石背、石城等の諸國造の名が掲げ、菊多・岐間の二國造は應神天皇の御代に、また阿尺以下の九國造は更に古く成務天皇の御代に置かれたりと記す。其の時代を言ふもの、後の國造家の家傳に基づき、必ずしも悉く信すべしにあらざらんも、常陸風土記には常陸の各地に倭武天皇の遺蹟を傳ふる多く、また景行天皇東國巡狩の古傳の証ひ難きものなきにあらざれば、武尊の經營は崇神天皇の皇子磐城入彦命の兩毛地方經營の古傳と相俟つて、當時房總半島より、少くも常陸方面に涉れるものと解すべく、皇化はより次第に北進して、是等諸國造が成務天皇の御代に於て設置せりと古傳の如きも、必ずしも排すべきにあらず。斯くて大化の改新に際しては今の關東地方と共に、是等の地方を一國として、道の奥に在る國の意味より、陸奥國司の任命ありしものか。當時陸奥國司の管する範圍は、主として今の福島縣特に阿武隈川流域地方、及び海岸方面に限られたりしものなるべし。降つて傳統天皇の御代に至り、陸奥國置賜郡の城

に接續す。(魚津埋没林)指定天然記念物。會て陸上に繁茂せる原始林が陸地の急激なる陥没のため海中に没入し次いで土砂の被ふ所となりたるものなり。樹木は杉を主とし多少の闊葉樹を交ふ。樹齡は百年乃至五百年を主とし稀に千年に及ぶ。大部分は其樹幹のみ存するも、中には倒木の長き樹幹の保存せらるるものあり、原始林下にありたる落葉層も亦泥炭として保存せらるるを見る。之等埋没樹の既に發掘されたるもの百六十餘本に及ぶ。尙ほ多數の樹幹・樹幹の附近一帯に埋没し居るを豫想せらる。

ミチノク 陸奥 道の奥の義。古くは今の福島縣以北なる太平洋方面の地域を汎稱す。古事記に道奥石城國造、舊事記國造本紀に道奥多國造の名あり。陸奥の二字を用ふる例となる。中世略して之をミチノ國と稱し、轉じてミチノ國を征するや、上總より轉じて陸奥國に入り、蝦夷既に平いで日高見國より還り西南常陸を経て、甲斐國に至るとあり。之を陸奥の國名の初見となす。普通には、上文に武内宿禰の奏言を録して、東夷の中に日高見國あり、其の國人男女ともに推結文身、人と爲り勇悍なり、是をすべて蝦夷といふ」とありて、往時蝦夷の本國の義として解せられしもの。日本紀の成れる奈良朝初期に於ては、今の岩手縣北上川流域以北をすべて蝦夷の國となし之を漢然日高見國と呼びしもの如し。ヒダカミとは夷人住所の地方の義なり。其の北上川、古名を日高見川と云ひ又日上川と書けり。三代實錄に日高見水神あり、延喜式内日高見神社の名を以て録す。されば日本紀編者の見所、日本武尊平定の蝦夷の國を以て此の地方に擬定せしものなるべし。然れども、古事記の記する所によれば、尊は走水の海を流りて後、それより出てまして悉く荒蕪る蝦夷どもを平け、還り上ります時に足柄の

青國の中白河郡(いま東白川・西白河・石川)・安積郡の東部(いま田村郡)並びに石城・石背分立當時陸奥國に屬せし刈田郡を併せて磐城國となし、青石背國より右記磐城に編入せし殘部を以て岩代國となす。石城・石背兩國分立時代の陸奥國は、ほゞ今の宮城縣の域に當り、而も一方海岸帯に北進して、鹽釜元年開村に郡家を建つたことあり。今の岩手縣下閉伊郡宮古地方のことなるべし。當時の蝦夷須賀君古麻比留言ふ、先祖以來昆布を貢獻し、常に此地に採りて年時間かず、今國府郡下相去る事道遠く、往還句を累ねて甚だ辛苦多しと。以て皇化の輿地に及べる古きを見るべし。此際陸奥國府は悉く名取郡(いま岩手)にありしものか、陸奥國府の名あり。撰所天平年間北進して宮城郡多賀城を以て神龜元年大野東人置く所となす。是れ多賀城碑云ふ所なるも、此の碑文は鹽原鈔に聖武天皇元年陸奥國内領守府を置くとあるを誤解して偽作せしものなるべけれど固より信すべきにあらず。其の鹽原鈔に聖武天皇元年とあるは、著者北畠親房其の自ら謂ふ如く遺族勿々の間にありて、座右に史料乏しく、讀日本紀に天平元年領守將軍大野東人の名の初見せるより、ついでに斯く記述せしものにてもあるべし。天平年間以來奥州に於ける蝦夷懷柔の政策は着々進歩し、一方には皇

軍の威武を示しながら、一方には投歸の夷族を優遇し、漸次奥地に城寨を築造し諸郡を設けし、土着の夷酋にして歸順して郡領に任ぜらるるもの亦少からず。かくて天平九年には陸奥より今の宮城縣北部を経て出羽縣に通ずる道を開き、奈良朝末期に至りては、今の岩手縣南部地方にまで皇化の普及を見るに至れり。然るに寶龜十一年に至り、上治郡(今の宮城縣栗原郡地方)の大領伊治公磐麻呂、其の出身の夷酋なるによりて、同僚より遇するに夷俘を以てせらるるを憤り、遂に反して按察使紀廣純を殺し多賀城を陥る。此の亂たる其の原因民族的侮辱にあるが故に、從來歸降の夷族多く勃發して之に當り、其の勢猖獗にして、官軍容易に之を鎮定する能はず。爾來戰亂繼二三十年、延暦の末葉征夷大將軍坂上田村麻呂により漸く之を平ぐるを得たり。當時田村麻呂の經略する所、ほゞ北上川流域の全部に涉り、今の岩手縣の大部分は殆ど我が皇化の下に屬するに至りしもの如し。ついで文寧編麻呂の遠征あり。善きに田村麻呂の未だ及ばざりし馬淵川の上流なる爾麻呂・郡母及び伊の地方にまで進出し、ほゞ今の岩手縣の全部を平定す。後世此の郡母を以て青森縣上北郡七戸町附近の坪村の事と看し、この田村麻呂が日本中央の文字を刻せる意の碑を建てたりとなすも、固より信すべきにあらず。田村麻呂征討の成果として

延暦二十一年鹽原城を築き、こゝに鎮守府を置き征夷の策源地大いに前進す。かくて弘仁二年に至り、其の北方に新に和賀・神賀・磐波の三郡を設けす。是れ即ち我が國家が奥州に置ける郡の最北なるものにして、征夷の成果の最高潮に達せるの時なりとす。然るに其の後久しからずして中央に於ける貴族政治の弊害漸く著しく、殊に清和天皇の御代藤原良房權權時代以降、地方の政治甚しく紊亂して、陸奥國府の威力は以て能く夷地を制するに足らざるに至り、是より夷族は漸く勢力を挽回して次第に南下の勢を示す。かくて既に延喜の頃に至りては、畿内に弘仁二年に設置せし和賀・神賀・磐波三郡の名も、民部省所管の郡名中より抹消せらるるに至れり。蓋し風に夷地に没入して、陸奥國司統治の外に放棄せらるるに至りしものならん。

延喜式載する所の郡
白河(いま東白川・西白河・石川) 磐瀨
(いま岩手) 會津(いま南會津・北會津・大沼・河沼) 耶麻(安積) 安達 信夫(いま伊達) 信夫 刈田 柴田 名取 菊多(いま石城郡の中) 磐城(いま但馬の北中・双葉郡の中) 磐前(いま双葉郡の中) 中世磐城郡の北中を割き磐前郡と云ひ、明治二十九年磐前・磐城を合して双葉郡といふ。 行方 宇多 伊具 互理 宮城 黒川 賀美 色麻 (いま賀美郡の中) 玉造 本太 栗原

に之を攻めしが、官軍大敗。朝議即ち當時武將の譽れ高き源賴義を陸奥守兼鎮守府將軍に任じて事に當らしむ。是より賴義在任十二年、頼時は夙く歿せしも子貞任頼義にして容易に之を平ぐる能はず。國守重任の期滿するに及び、最後の窮策として出羽山北の伴長清原武則一族の援を求め、漸くにして貞任を滅ぼすことを得たり。之を世に前九年の役と稱す。武則功によりて鎮守府將軍に任ぜらる。夷人にて此の官に任ぜらるる之を初とす。こゝに於て清原氏の勢力は陸奥出羽の兩國に涉り、却つて安倍氏を凌駕するものあり。されば安倍氏は滅びしも夷人の手より皇地を奪回する能はず。たゞ夷を以て夷に代へしに過ぎざるの結果となれり。他日後三年役の起るの已むを得ざりし形勢は、既に此の時に胚胎す。かくて後二十餘年、頼義の子義家陸奥守となりて任に赴くや、たゞ清原氏内訌あり。義家之に干渉して遂に清原氏を滅ぼす。此の役前後五年に涉り、世に之を後三年の役と稱す。此の役武則の子武貞の妻子藤原清衡は義家に當りて功あり。清原氏に代りて奥羽二州に遷居し、其の勢さきの安倍・清原二氏に勝れるものあり。衣川を出で、其の南方平泉に根據を構へ、子基衡を経て孫秀衡に至るまで、三代百餘年間の榮花の蹟は、今に残れる中尊寺の金色堂其の他に就いて見るを得べし。清衡中尊寺を建立して願文を本尊

釋迦佛に呈す。文中に自ら東夷の邊境を以て任じ、祖考の餘業を承けて俘囚の上頭に居ると稱し、其の配下を以て擊敵夷落降虜或處と號す。當時の形勢以て見るべし。されば心ある都人は、清衡王地を押領すと稱し、或は基衡を擬するに何叙の名を以てす。秀衡を呼ぶに奥州の夷族にして其の統治領域の地に及ばず。ほゞ奥羽を以て之に放任するの觀あり。源平二氏の相争ふや、秀衡平氏と結託して源朝の後を窺ふ。平氏は秀衡の歡心を求めて之を鎮守府將軍に任じ、後に陸奥守に拜す。名實ともに奥州を其の壘盤に委したるなり。平氏滅んで頼朝兵を奥州に加ふ。たゞ秀衡死し、子基衡怯懦にして之に抗する能はず。平泉容易に陥落し藤原氏遂に滅びて奥羽始めて鎌倉幕府統一の治下に屬す。こゝに於て頼朝は葛西清重を奥羽總奉行として、以下各地に鎌倉武士を配置し、是が統治監督に當らむ。後年奥州の豪族にして、當時封を得たりと稱するもの多きも、古記録古文書の之を徵すべきもの甚少し。併しながらともかくも奥羽地方は此の際始めて統一政治の下に屬するに至りしものにして、而もなほ「出羽陸奥に於ては夷の地たるによりて」との理由を以て、すべて秀衡、泰衡の善法を遵守せしむるの已むなき状態にありき。殊に最北の津輕地方に至りては、當時なほ夷族の蟠踞するものなほ

甚だ多く、鎌倉武士をして是が統御に遣せざりしが爲めに、其の地の豪族安東氏を以て執權北條義時時代の代官となして、蝦夷の管領に任じて之を治めしむ。殊に津輕の西部江津木・奥法・馬の三郡の地は、下國或は下郡と稱し、安東氏の本領安堵を認め鎌倉武士の干渉を許さざりしもの、如く、之を王領または禁裏領と稱し、鎌倉役を勤めしと傳へらる。安東氏は安倍貞任の後と稱し、下國家中興秋田實季は「鎮狄、東夷、東蝦夷、日下」など何れも將軍の號、皆以て我等の家の外無之候」と稱し、自ら其の夷族たる事を認む。鎌倉時代の末期に當りて安東氏一族の間に内訌あり、遂に津輕蝦夷の騷亂となる。幕府乃ち將を遣はして之を鎮定せんとせしむ能はず。爲に其の威信を損する事甚しく、鎌倉幕府倒潰の端す。此の時にありと言はる。鎌倉幕府倒れて建武中興の業成るや、北畠顯家陸奥守に任ぜられ、鎮守府將軍を兼ね、義良親王を奉じて奥羽に鎮す。南北朝の戦亂、八戸(後に遠野)南部氏の祖南部行、顯家に從ひて奥羽北部に遷居し、南方には伊達行朝・結城親朝等の王事に勤むるあり。足利尊氏は一族斯波家兼を奥州探題として大時に居らしめ、其の子兼頼を出羽最上郡に置き、東西相呼應して官方に當らしむ。家兼の後は大時氏を稱し、兼頼の後是最上氏となる。其の他鎌倉時代以來の諸家の、それら官方武家方に分

れ相攻争する事多年、勢力互に消長あり叛服時に常ならず、結局南風雖は武家一統の代となり、鎌倉管領の統治に屬する事となれり。室町幕府の統制を失ふや豪族各地に割據して雄を争ふこと他の地方と敢て異なる所なきも、流石に奥州は僻遠の地方の事として、他の地方にては舊家多く併れ新に家を起せるものにては舊家は其の趣を異にして、鎌倉時代以來の舊家のよく其の家を傳へて、江戸時代まで繼續せるもの少からず。先づ福島縣方面にありては、源頼朝奥州征討の後に対ざられたりと言はる。中村朝宗の後裔伊達氏あり、もと伊達・信夫の二郡地方を領し、佐原義運の後裔盛名氏は會津を領して是と相拮抗し、海岸方面には相馬常の後裔相馬氏宇多・行方二郡を領して勢力あり。中にも伊達氏最も有力にして次第に四近を併合し、阿武隈川流域地方より、更に北進して宮城縣南部諸郡を兼れ、また西北出羽米澤の方面に出でて、天文年中一旦こゝに遷り、ついで天正年間に至り、遂に會津の盛名氏を滅ぼして黒川(若松)城に遷る。其の勢最も盛んにして、殆んど奥羽南部地方を悉く統一せんとするの概あり。其の傍に於て相馬・田村・岩城・結城などの諸氏、僅かに古き山嶺を傳へて東南部地方に家を存す。次ぎに伊達氏の北には、是れも頼朝以來の舊家なる葛西氏、尊氏以來の大時氏と東西相對し、岩手・青森方面には、同じ

ミツオ—ミツキ

國熊毛郡の東部。東は玖珂郡に界し、北は高水村、南は東海・周防二村に接す。面積約一九方軒。四圍山地を繞らざり、中央を島田川貫流して流域に肥沃なる平地ひらけ農耕地をなす。東北部の窪ヶ原は東部・北部に小脈を出し山林に蔽はる。人工林・天然林共に繁茂し松樹多し。地勢西南に稍傾く。炭林各所に散在し木炭・薪材を産す。本村は商工業都市に遠き僻地にあり古來農業・養蠶業のみにて立ち、近來米價の暴落に依り經濟的に逼迫せる爲め現下は村民協力一致自力更生に邁進しつつあり。縣道を以て米川村及び省線山陽本線島田驛にバスを通ず。此地は和名抄、熊毛郡周防郡の内。〔櫻田神社〕 大字安田に鎮座。郷社。祭神、伊弉諾尊・伊弉冉尊外二神。舊稱、櫻尾大権現。郡内高水村の高水神社より分靈すと傳ふ。例祭、十月二十二日。

ミツオカ

三ツ川村 長野縣信濃郡北佐久郡の中流。淺間火山の泥流の佐久平に流下せる末端に位置す。岩村田町と小諸町との中間凡そ三軒、東は南大井村、南は中佐都村、西は千曲川の支流なり。村は森山・耳取・市村の三部落よりなり、各々淺間火山の伏流水の湧出する部分に位置す。三ツ川の名こより起る。佐久平舊湖の一底面に當り土壌肥沃湧水泉による水田は二毛作行はれ、桑畑また卓越す。村は千曲川沿岸の段丘と、舊湖底たりし原と、淺間の裾野と三層の

ミツカイチ

三日市町 富山縣越中郡下新川郡の西北部。北陸道に沿ひ魚津町の東北約七・五軒。全村平地にして北部を黒部川の一分支貫流す。土地肥沃にて米を産するも、また附近諸村の農産物集散地をなし、特産黒部西瓜の積出地なり。また清酒醸造・紙木・織物等の工業行はる。北陸道と黒部峡谷及び海岸に至る縣道との分岐點に發達せる聚落にして、省線北陸本線三日市驛(明治四十三年設置)は町の西方石田村地内にあり、社務所鐵道の分岐點をなし、町内に西三日市・東三日市の兩驛(共に大正十一年設置)を置く。また富山市より社務所富山電鐵の便もあり交通至便なり。この地は和名抄、新川郡市留郷の内にして、各に此邊を櫻井庄とも稱せり。明治十一年、明治天皇、北陸東海御巡幸の際この地に御小休あらせらる。(八心大市比古神社) 三日市に鎮座。縣社。祭神、大山祇神。式内社。俗に三島大明神と稱し信仰せらる。例祭、十月三日。(櫻井寺) 寶宗大

ミツカヒ

三ヶ日町 靜岡縣遠江國引佐郡の西南部。北及び西は愛知縣八名郡に接し、東に東濱名村・奥山村、南に濱名郡知波田村あり。南部に濱名湖の支湖猪ノ鼻湖あり。北部村境に富巻山(五六三米)・金山(四三三米)・西境には坊ヶ峯(四四五米)あり、城内は釣橋川・日比澤川・上尾奈川及びその支流によりて數箇の丘陵に分割され、南部に板築山(二二二米)・本城山(一三五米)及び大明神山(九五米)等あり。坊ヶ峯の南、本城峠は往昔關東・關西の交通の要衝に當り、また北境板敷峠は豊川流域を通る別所街道に通ずる要路なり。その西方有利峠には三州街道西方に通ず。高尾約百米以下の沖積地帯の中央、沖積平野の周圍にありて桑園・蜜柑畑となり、沖積地は水田にして稻・蕎麥の栽培盛なり。三ヶ日は猪ノ鼻湖に面し、三州街道・姫街道の交點に當り、物資の集散あり。その北方の大福寺は寶宗にて濱名湖の發祥地なり。その西方平山は眞實の蜜柑を以て有名なり。明治二十九年引佐郡に編入され、大正十一年に濱名村を三ヶ日町と改稱す。この地は和名抄、濱名郡大神郷の内。もと數知郡に屬す。中世は伊勢の

ミツカホ

三日浦 朝鮮總督府鐵道東海北部線の一驛(昭和七年設置)。江原道高城郡新北面にあり。三ツ川村 靜岡縣遠江國磐田郡の中部。天龍川の左岸に位置し、磐田原の北境丘陵地帯の西部を占め、東部は太田川の支流宮川の沖積平地なり。宮川に沿うて川會・友水・見取の聚落あり、東部に豊岡、西部に葛ヶ谷・樋口の聚落發達す。米・茶等を産す。ミツカワ 三ツ川村 愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年本村外三箇村を廢し櫻井村を置く。ミツキ 見付 石川縣珠洲郡にありし村。明治四十一年外二村と合し新に賣立村を置く。ミツキ 御調郡 廣島縣十六郡の一。備後國の中南部。郡の大部は尾道市・三原市の北に連り、更に前面瀬戸内海上の四ノ島・向島及び附近の小島嶼を加ふ。面積三三・一四方軒。郡内三庄・土生

ミツク

二町外廿六箇村を含む。北は世羅郡、東は廣島・沼隈二郡、西は豊田郡に界す。郡内の地勢概ね山地にして北部・南部に略東西に連互する二條の小山脈存し、海拔五〇米内外の高さを有す。兩山脈の中央を置田川支流の御調川が西南大峯山(六一〇米)の東麓に發して東流し、流域は平地を形成し農耕地をなす。北部山中にも一小川發して北流し、附近に耕地を有す。其他の大部分は山林地・牧畜地に屬し、一般に養蠶業行はれて繭の産多し。瀬戸内海の島々は栗樹の栽培盛なり。本郡の特産物蠶糸は南部の美ノ郷村附近を中心に備後表として産量多し。郡内の交通は不便なれど、尾道市・三原市に接し縣道二線はこの兩市より發して郡の東西を北に貫通し、省線山陽本線の諸驛及び三次町等にバスあり。また社線尾道線道は東南部に通じ三成・美ノ郷・諸原・市等の諸驛を置く。萬葉集卷一五に備後國水調郡とあるのは本郡に同じ。和名抄は美豆木と註し、伯多・梓原・者度・佳賀・小國・因島・歌島の七郷を管す。明治卅一年四月に尾道市が、昭和十一年に三原市が本郡中より獨立す。

ミツクエ

三机村 愛媛縣伊豫國西宇和郡の西部。佐田半島の中部にあり、東は町見村に、西は四ツ濱村に界し、北は伊豫灘、南は宇和海に面す。四圍山脈西端の海上に延びたる半島の中心を占め、海岸はリナス式をなすため風曲

ミツク

見付町 靜岡縣遠江國磐田郡の南部。南隣の中泉町と雙見町をなし、

ミツク

見付町 靜岡縣遠江國磐田郡の南部。南隣の中泉町と雙見町をなし、

ミツサ—ミツネ

に大敗して東軍の據る所となる。これよりその同盟合議の本營となる。七月、河合繼之助、山本帯刀等、此地より進發して長岡城を回復せしむるに破られ、此地の東軍また潰走す。昭和九年に庄川村を合併。明治天皇、明治十一年北陸東海御巡幸の際此地に御小休あらせられ、いま明治天皇見附行在所として指定史蹟なり。

ミツサワ

三澤 出雲國(鳥根)の古地名。和名抄に仁多郡三澤郷あり、其地今の仁多郡三澤村の邊なり。

ミツサワ

満澤嶺山 東小國村(山形縣) 佐賀縣東松浦郡にありし村。大正十三年、唐津町(のち市制を布く)に編入せられ、村名を失ふ。

ミツエ

光末村 廣島縣備後國神石郡の西南部。南は父木野村に隣接し、他の三周は上村に圍まる。面積一方新。村内は概ね山地に蔽はれ、東南より西北に向ひて地勢やや傾く。村の大半は山林地に占めらるるも、西北境に近き低地に小耕地拓く。純農村にて米・麥・蕎麥の産額を主とし、また蕎麥・家畜類を産す。總額二四、〇〇〇圓内外なり。縣道は東界に近く貫通し、東城町・福山市にバスの便を有す。高蓋村・父木野村・光信村・木津和村と組合村をなし、高蓋村に役場を置く。

ミツセ

三瀬 高知縣土佐國吉川郡の東南部。

ミツシマ

満島 佐賀縣東松浦郡にありし村。大正十三年、唐津町(のち市制を布く)に編入せられ、村名を失ふ。

ミツトウゲ

三ツ峠山 關東山地御坂山塊の一峯。山梨縣南都留郡河口・賣・西桂の三村境上に峙つ。標高一七八五米。山容秀麗にして、山頂は三峯秀峙し三峯山とも稱せらる。山上よりは南アルプス・八ヶ岳・秩父連峰を一時に收め、特に南方間近に峙つ富士山と富士山麓に散在する五湖との展望に絶好にして、近時著しく著名となれり。山頂南面の岩壁は屏風岩と稱せられ、ロッカクライメンガの絶壁地として興味あり。登山は富士山麓電氣小沼驛より山頂まで約七新、途中三峯標現の小取り及び不動の温泉あり。降路は南方に取れ、母の白濁を経て河口湖に至るが普通とす。

ミツトモ

光友村 福岡縣筑後國八女郡の西部。福岡市の東南約一軒にありて矢部川の左岸に沿ふ。南都及び東都に

ミツハシ

三橋 鳥取縣東伯郡にありし村。大正七年久津賀村・泊村と共に廢しその區域を以て泊村を置く。

ミツハマ

三津濱町 愛媛縣伊豫國温泉郡の西部海岸。松山市の西北方約四新。西は四十島瀬戸を隔てて興居島及び内海に臨む。東部に一〇〇米餘の丘陵南北に走り西に傾斜し、その南方には低平なる沖積平地廣く發達す。ここに耕地よく拓けて米・麥・蕎麥等を産す。主産業は漁業にして鯛・鮎・鰯等の魚獲及び水産製造物の産多し。特産として蒲鉾・罐詰等は名あり。市街は西部海岸に發達し良好なる三津港を開き、松山市の外港をなす。昔より瀬戸内海の一要津として重きをなし近年築港完成に伴ひて益々繁榮を著せり。省線鐵道本線は東都を南走し三津濱驛(昭和二年設置)を置く。また社線伊豫鐵道電氣の三津驛・高濱驛・梅津寺驛・港山驛を置く。海上交通もまた行はれ、今治市・長濱港等には定期船を出す。人口約一萬三千四百人、人口稠密なる町なり。大正十四年に古三津村を、また昭和十二年には新濱村を本町に編入す。本町は慶長八年、加藤嘉明、松前より移りて松山城を築くや、水軍の根據地として繁榮し、次いで久松氏また船奉行を置き、水軍を監督せしめ、軍港を築いたる商港たり。近時、瀬戸内海航路の寄港地として榮え、一時高濱の築港成り、その繁華を奪はれんとせしが此處にもまた繁華をなし、往時の盛觀に復するに至れり。また河野通春が文明・明徳の頃に據りきといふ湯山城址は此地にありしものなるべし。また大字古三津邊を栗田津(湯田津・栗田津)と稱す。齊明紀七年に「御船泊于伊豫湯田津行宮」。湯田津此云「備前陀豆」萬葉一「湯田津に船乗りせむと月まては潮もかなひぬ今は傍き出でな 額田王」。大字古三津の刈谷島は慶長五年に河野氏の遺臣が主家の再興を謀りて兵を擧げしが、加藤嘉明率りて攻るに及び遂に敗れし所。(廣島神社)大字古三津に鎮座。郷社。祭神、田心姫命、市杵島姫命、瀧津姫命。もと東山にありしが、慶長五年に兵火に罹り此地に遷せりと傳ふ。例祭八月六日。(三津の朝市)三津濱驛の西北約一軒半、自動車の便あり。三津濱町棧橋附近にあり、元祿二年の創立にして、魚類多く集り、伊豫節にも、三津の朝市、道後の湯」と唄はれ、今も昔ながらの賑賑を極む。(梅津寺海水浴場)新濱村に屬し、三津濱より高濱

ミツノ

三津ノ村 和歌山縣紀伊國東牟婁郡の東部。熊野川の右岸に位し、

ミツノ

光信村 廣島縣備後國神石郡の西南部に位し、東は高蓋村を隔てて甲奴郡に對し、東と南は上村に接す。

ミツノ

三庄町 廣島縣備後國御調郡の南海上に横ばる因ノ島の東南岸を占め、東と南は海に面す。東南は海峡を隔てて弓削島に對し、北は三浦村、西は中庄村・土生町に接す。面積四・八六方新。海岸に沿うて細長き地形をなし、北境・西境に山地連りて村内、た概ね山地なり。海岸線は出入に富み、中央に三庄潭深く穿入す。潭岸より南部にかけて小平地あり耕地拓く。村民は農業・牧畜・工業を營み、米・麥・蕎麥・果實・清酒・木炭・牛・馬の産多し。弓削島に渡船の便あり。大正十年町制を布く。昔は海賊(海軍)の根據地たり。

ミツノ

新宮市の西方約七軒にあり。東北部は川を隔てて南牟婁郡に界す。西北部には雲取山一帯の山地あり。東南部には白見山(九二六米)一帯の山地重疊す。兩山麓に沿ひて中央には赤木川が屈曲しつつ東北に貫き、熊野川は東北境に沿ひて東南流し赤木川の水を合す。合流點附近にやや低地開く。米・蕎麥を産し、工業・畜産等もあれど、村民の主生業は林業にて東部に白見國有林もあり。赤木川に沿ひて縣道通じ南方の野浦町へバス通す。熊野川にはプロペラ船の便あり。大字日足の一部、大字田長の全部、大字能城山本の一部は吉野熊野國立公園の内とす。

ミツノ

三庄町 廣島縣備後國御調郡の南海上に横ばる因ノ島の東南岸を占め、東と南は海に面す。東南は海峡を隔てて弓削島に對し、北は三浦村、西は中庄村・土生町に接す。面積四・八六方新。海岸に沿うて細長き地形をなし、北境・西境に山地連りて村内、た概ね山地なり。海岸線は出入に富み、中央に三庄潭深く穿入す。潭岸より南部にかけて小平地あり耕地拓く。村民は農業・牧畜・工業を營み、米・麥・蕎麥・果實・清酒・木炭・牛・馬の産多し。弓削島に渡船の便あり。大正十年町制を布く。昔は海賊(海軍)の根據地たり。

ミツノ

光信村 廣島縣備後國神石郡の西南部に位し、東は高蓋村を隔てて甲奴郡に對し、東と南は上村に接す。

ミツノ

三津ノ村 和歌山縣紀伊國東牟婁郡の東部。熊野川の右岸に位し、

ミツノ

光信村 廣島縣備後國神石郡の西南部に位し、東は高蓋村を隔てて甲奴郡に對し、東と南は上村に接す。

ミツノ

光信村 廣島縣備後國神石郡の西南部に位し、東は高蓋村を隔てて甲奴郡に對し、東と南は上村に接す。

ミツノ

光信村 廣島縣備後國神石郡の西南部に位し、東は高蓋村を隔てて甲奴郡に對し、東と南は上村に接す。

ミツノ

光信村 廣島縣備後國神石郡の西南部に位し、東は高蓋村を隔てて甲奴郡に對し、東と南は上村に接す。

ミツノ

光信村 廣島縣備後國神石郡の西南部に位し、東は高蓋村を隔てて甲奴郡に對し、東と南は上村に接す。

ミツノ

光信村 廣島縣備後國神石郡の西南部に位し、東は高蓋村を隔てて甲奴郡に對し、東と南は上村に接す。

ミツノ

光信村 廣島縣備後國神石郡の西南部に位し、東は高蓋村を隔てて甲奴郡に對し、東と南は上村に接す。

ミツヒ

に至る間にあり、白砂青松の境にして、南方に興居島、即ち伊豫の小富士が聳え風光佳なり。夏季は伊豫鐵道津島寺臨時驛が設けらる。興居島、高嶺の南面に横はる島なり。島の中央に火山岩より成る伊豫小富士が聳ゆ。此の名産地にして、桃花の季節には遊覧者多し。この附近の海岸は釣魚に適す。

ミツビシ

三ツ菱ヶ原 東京市麹町區丸ノ内、宮城前の俗稱。東京驛附近の地はもと三ツ菱(岩崎家)の所有にして、久しく草薙たる原たりしにより、かく呼びしものなり。

ミツビシオビラ

三ツ菱尾平嶺山

ミツビシカセー

三ツ菱下聖鐵山

三ツ菱鐵業會社の發行にして、昭和十年には鐵一〇〇、九九六、發石二、二〇三五(此總額約七二萬圓)を産出し、同年六月末の従業員は九三人とす。現に重要鐵山たり。

ミツビシサンコー

三ツ菱三光金山

朝鮮忠清南道にあり、鐵區は公州郡新下面と青陽郡雲谷面とに跨る。三ツ菱鐵業の發行にて、昭和十年には金六四九瓦、銀一、九一〇瓦、金銀鐵六三三瓦(此總額五萬四千餘圓)を産出し、同年六月末の従業員は二二五人とす。

ミツビシヒバイ

三ツ菱美唄炭礦

ミツホ

三穂村 長野縣信濃國下伊那郡の中部。飯田市の南方約八軒。天龍川の西岸に位置し、伊那盆地の南端をなす。西境に水晶山(七九八米)・西山(七五〇米)あり。圓頂なる小丘陵をなし、北境の城山(七四〇米)及び山本村の二ツ山(七七三米)と南北に列をなす。これは皆殆ど同一高度を持つ一平坦面にして、更にこれ等の東方には五〇〇米の平坦面あり。村もその主要部は此の下段にあり。恐らく河成段丘と見らる。この兩段丘の内に若返りし天龍川は支流を切込み、村の南境をなす阿知川・弟川は深く刻みてケレ谷をなす。上部の段丘の上には貝澤泉垣外・鳥垣外・立石等の部落あり。上部段丘崖下にその伏流を利用して梨子洞・數田・久留米・下瀬の部落あり。以上の部落は湧水を利用して水田をなし、また養蠶を営む。上段の部落は桑畑・林業による生活をなす。村の東部を遠州街道通過す。大字伊豆木は松尾小笠原氏の一族、靱負長屋、伊豆木に一千石を賜はり、幕府の交代寄合に列し、世襲して幕末に至る。謂ゆる伊奈家三家の一なり。

ミツホ

満穂村 愛媛縣伊豫國喜多郡の東北部。内子町の北にあり。東は立川村、西は柳澤村に界し、北は伊豫郡に接す。村内には數百米の山岳重疊して地勢一般に高峻なり。中央に狭小なる低地ありて耕作をなし米・麥・蕎麥を産す。山

ミツマタ

三又村

福岡縣筑後國三

穂郡の西部。筑後川の東岸に沿ひ大川町の北に接す。川の對岸は佐賀縣佐賀郡なり。地形は低平、一望沃野開け、西境には筑後川酒々として西南流す。川中に横はる道海島も大字の一なり。米産多く、酒造盛にして銘酒に誇りあり。西岸に沿ひて縣道走り、その西に社線大川鐵道通過して三又(大正二年設置)・鐘ヶ江(大正元年設置)の二驛あり。

ミツマタ

三俣

福岡縣筑後國三

穂郡の東北部。不働岡町の東隣にあり。關東平野の一部を占め、南境を古利根川東流し、全村平地にて、村内にも小流多く、西半には水田、東半には畑地多し。農業行はれて米及び蕎麥を産し、養蠶も盛にて繭の産額多し。縣道は加須町に通じ岡町に社線東武鐵道伊勢崎線の加須驛を設く。

ミツマタ

三俣

新潟縣信濃國南魚沼郡の西南

部。信濃川支流の清津川上流に沿ひ。西南隅の高場山(二四六米)、東南隅の日白山(一六三〇米)、北隅の高津倉山(一八一米)を頂點とする略正三角形をなし、これら三國山脈の諸峯に東西を狭まれて清津川は、村内を南より北へ深溪を穿ちて貫流す。村内土地高峻にて平地に

ミツマタ

三俣

新潟縣信濃國南魚沼郡の西南

部。信濃川支流の清津川上流に沿ひ。西南隅の高場山(二四六米)、東南隅の日白山(一六三〇米)、北隅の高津倉山(一八一米)を頂點とする略正三角形をなし、これら三國山脈の諸峯に東西を狭まれて清津川は、村内を南より北へ深溪を穿ちて貫流す。村内土地高峻にて平地に

養

後米の産多くまた麥も出す。他に蘭草を産して英産・花産・墨表等を製し、なほ酒の産もあり。郡内は筑後川に沿ふ城島町・大川町の外に十八箇村を含み、昭和十年の人口一〇四、三八三人にして、一方軒の密度は七五七人なり。交通よく發達して縣道は四通八達し、各地へハスの往來頻く、省線鳥居島本線は東北部を南北に通過し、矢部川驛にて分岐する省線佐賀線は西南部を西北に走る。久留米市より来る社線大川鐵道は北部を西南に横切りて筑後河原に出で之に沿ひて大川町に達す。筑後川は諸所に渡船の便あり。書記發行紀に水沼縣とあるは本郡の地なるべし。和名抄は美無萬と註し、高家・田家・三浦・鳥養・夜間・青木・荒木・菅の八郷を管す。近世世つてミツマと謂じ、今これに従ふ。明治廿二年四月、久留米市は本郡の中より獨立す。

ミツマ

三浦 福岡縣十九郡の一。筑後國の西南部。久留米市の西南に接し、筑後川の左岸に沿ひて僅に右岸に跨り、西は佐賀縣三葉郡・神埼郡・佐賀郡に界す。筑後平野沖積地の一部を占むるため地形極めて平坦にして山と稱すべきものなく一畝大曠野連る。西部には筑後川流れ、ほほ江川に沿ひて西南し、西南部にて西に早津江川を分つ。筑後川は南方約二軒にして有明海に注ぎ、早津江川は西南方約四軒にして海に入る。北部に一小川あり、西北流して筑後川に注ぐ。全部到るところ農業に適して水田よく拓け、筑

ミツマ

三浦

福岡縣十九郡の一。筑後國の

西南部。久留米市の西南に接し、筑後川

の左岸に沿ひて僅に右岸に跨り、西は佐

賀縣三葉郡・神埼郡・佐賀郡に界す。

筑後平野沖積地の一部を占むるため地形

極めて平坦にして山と稱すべきものなく

一畝大曠野連る。西部には筑後川流れ、

ほほ江川に沿ひて西南し、西南部にて西

に早津江川を分つ。筑後川は南方約二軒

にして有明海に注ぎ、早津江川は西南方

約四軒にして海に入る。北部に一小川

あり、西北流して筑後川に注ぐ。全部到

るところ農業に適して水田よく拓け、筑

後米の産多くまた麥も出す。他に蘭草を

産して英産・花産・墨表等を製し、なほ

酒の産もあり。郡内は筑後川に沿ふ城島

町・大川町の外に十八箇村を含み、昭和

十年の人口一〇四、三八三人にして、一

方軒の密度は七五七人なり。交通よく

發達して縣道は四通八達し、各地へハ

スの往來頻く、省線鳥居島本線は東北

部を南北に通過し、矢部川驛にて分岐

する省線佐賀線は西南部を西北に走

る。久留米市より来る社線大川鐵道は

北部を西南に横切りて筑後河原に出

で之に沿ひて大川町に達す。筑後川

は諸所に渡船の便あり。書記發行紀

に水沼縣とあるは本郡の地なるべし。

和名抄は美無萬と註し、高家・田家・

三浦・鳥養・夜間・青木・荒木・菅

の八郷を管す。近世世つてミツマと

謂じ、今これに従ふ。明治廿二年四

月、久留米市は本郡の中より獨立

す。

【三浦(縣)】 明治四年七月筑後國にありし三浦を廢して置ける久留米・三浦・柳川の三縣を廢して十一月更に本縣を久留米に置き筑後一國を管す。九年四月に至りて伊萬里縣の改稱したる佐賀縣を併せ、肥前國の八郡及び松浦郡の一部を管し、次で杵島・藤津・松浦の三郡を長崎縣に移管。同年八月に至り本縣を廢して肥前國はこれを長崎縣に、筑後國はこれを福岡縣に屬せしむ。

【三浦村】 福岡縣筑後國三穂郡の北部。

筑後川の左岸に沿ひ城島町の東に接して東西に長し。西北部は川を隔てて佐賀縣三葉郡に界す。全村地形低平にして西部の村境に沿ひ筑後川が西流す。米の産多く酒造盛んにて清酒に池産あり。中部には久留米市より柳河町へ至る縣道あり。西部には久留米市と大川町とを結ぶ縣道走る。社線大川鐵道は西部を東西に走りて早津驛・塚崎驛(共に大正元年設置)・草場驛(大正二年設置)を置く。此地は和名抄、三穂郡三滿郷の地にて、東鑑、文治五年、頼朝の御庄發行停止の申狀の中に「鎮西三滿庄地頭、和田義盛令停止候」とあれば當時の御領なりしものか。【弓頭神社】 大字高三浦に鎮座。郷社。國乳別皇子。皇子は皇行天皇の御子にましまし三滿の君として降らせられ當地に葬せられたり。例祭十月二十八日。

【ミツマ 光満】 愛媛縣北宇和郡高光村の大字。省線宇和島線の光満驛(大正三年設置)あり。

【ミツマサ 光政村】 岡山縣備前國上道郡の南部。岡山市の東南方約八軒。南は津田村を挟みて兒島灣に面す。北は可和村、東は金田村、西は操陽村と接す。面積三・八六方軒。吉井川と旭川とに挟まれたる沖積平野の中央部を占め、村内の地勢極めて平坦肥沃にして全村概ね耕地なり。米・麥・蕎麥・酒等の産多し。縣道東西に貫通し岡山市へバスの便あり。

謂ゆる上新田の一部にして藩主池田氏の開拓せし處。村名は即ち藩主池田光政より出づ。

【ミツマタ 三又村】 福岡縣筑後國三穂郡の西部。筑後川の東岸に沿ひ大川町の北に接す。川の對岸は佐賀縣佐賀郡なり。地形は低平、一望沃野開け、西境には筑後川酒々として西南流す。川中に横はる道海島も大字の一なり。米産多く、酒造盛にして銘酒に誇りあり。西岸に沿ひて縣道走り、その西に社線大川鐵道通過して三又(大正二年設置)・鐘ヶ江(大正元年設置)の二驛あり。

【三俣村】 埼玉縣武藏國北埼玉郡の東部。加須町の東北隅にて、不働岡町の東隣にあり。關東平野の一部を占め、南境を古利根川東流し、全村平地にて、村内にも小流多く、西半には水田、東半には畑地多し。農業行はれて米及び蕎麥を産し、養蠶も盛にて繭の産額多し。縣道は加須町に通じ岡町に社線東武鐵道伊勢崎線の加須驛を設く。

【三俣村】 新潟縣信濃國南魚沼郡の西南部。信濃川支流の清津川上流に沿ひ。西南隅の高場山(二四六米)、東南隅の日白山(一六三〇米)、北隅の高津倉山(一八一米)を頂點とする略正三角形をなし、これら三國山脈の諸峯に東西を狭まれて清津川は、村内を南より北へ深溪を穿ちて貫流す。村内土地高峻にて平地に

乏しく農務盛ならず、僅に麥・粟・神・大豆等の雜穀を作る。山林に林産物あり。清津川の右岸に沿ひ三國街道は東境の芝原峠を越えて湯澤村に入る。省線上越線湯澤驛へ約九軒。

【三俣村】 静岡縣遠江國小笠郡の南部。北に大坂村・千濱村、東に南山村、南に三濱村、西に大瀨村あり。菊川の右岸沖積地に位し、面積僅に〇・五六方軒、戸數七六の小村なり。この地はもと新井郷の地にして菊川はまた岡安川ともいふ。いま三濱村と組合村をなし役場を三濱村に設く。

【ミツマタレンゲ 三俣蓮華岳】 一に蓮華岳といふ。日本北アルプスの一雄峯。鷲羽岳・雙六岳の間に位する一峯にして標高二八四一米。日本北アルプスの中心點、信・飛・越の稜點をなす圓頂峰にして、尾根はY字形に分岐し、一は南東方雙六岳・樺澤岳・槍ヶ岳に續き、一は北東方に延びて鷲羽岳・野口五郎岳・鳥帽子岳に達し、北西方に達する尾根は中ノ岳岳・太郎兵衛平に至る。東側は長野縣北安曇郡平村、西側は岐阜縣吉城郡上賣村、北側は富山縣上新川郡大山村に屬す。山頂よりは前記諸峯を始めとし、東方には高嶺川を隔てて鷲岳・大天井岳等を望み、視界雄偉廣闊なり。この山は針ノ木・鳥帽子方面より槍への縱走路に當れども、北東方鷲羽岳間の尾根は僅松嶺さ急傾斜をなすため風雨の日は此處を避

け、北方富山縣寄りの中腹をからみ鷲羽岳との中間なる三俣蓮華小屋に至る。この小屋は縱走路の一泊地として重要視せられ、又ここより北に下り黒部源流地を探索するも興味あり。

【ミツミネ 三峰・三峯】 【三峰山】 那須火山脈に屬する一峯。宮城縣宮城郡大澤村と黒川郡吉田村との境上に位す。標高一四一八米。北西方は船形山(一五〇〇米)に續き、南東方は北泉岳(一二五三米)に連る。

【三峯山】 關東山地秩父山塊の東部に峙立する山。北より南に連る妙法ヶ岳(一三三二米)・白岩山(一九二二米)・雲取山(二〇一八米)の三峯より形成せらる。埼玉縣秩父郡大瀨村に屬し、東側は東京府西多摩郡水川村に延ぶ。妙法ヶ岳は標高大ならざれども石灰岩の峯頭を露出して怪奇なる姿を呈し、山上に三峰神社鎮座す。※大瀨村 妙法ヶ岳へは多く高崎線熊谷驛にて社線秩父鐵道に乘換へ、三峰口驛下車、乗合自動車にて大輪に至り、ついで登高す。神橋・清淨の瀧を過ぎ急登すれば頂上に達す。ここに壯麗なる社殿を有する三峰神社あり、傍に宿泊を許さるる參籠所あり。これより路を東方に取り、大血川の溪谷を右に見下しつつ岩場を進めば、奥宮の鎮座する妙法ヶ岳に達す。雲取山に縱走するには參籠所より妙法ヶ岳に至る中間より尾根筋を南に進

ミツマ

ミツマ

ミツマ

ミツマ

ミツマ

ミツマ

ミツマ

ミツモト

み、二箇所の山小屋を過ぐれば白岩山に...

【三峯岳】三峯岳・三國山等の別名あり...

【密陽】朝鮮慶尙南道の東北郡...

【水戸市】茨城縣の中部にあり...

ミツモト

に石南嶺・波洞山・天皇山(一八九米)...

【密陽】朝鮮慶尙南道の東北郡...

【水戸市】茨城縣の中部にあり...

ミツモト

【密陽】朝鮮慶尙南道の東北郡...

【水戸市】茨城縣の中部にあり...

【水戸市】茨城縣の中部にあり...

ミツモト

【密陽】朝鮮慶尙南道の東北郡...

【水戸市】茨城縣の中部にあり...

【水戸市】茨城縣の中部にあり...

ミツモト

り、他は南郷村外二箇村と合して上田村...

にはヒトクバが群生し樹間にはチヤウ...

宅區として好過し東京の山ノ手に當る...

【水戸市】茨城縣の中部にあり...

これに代り、三代遺徳の時四方を略し、勢大に振ひしが、豊臣秀吉の時、太田城主佐竹義宣、江戸氏を退ひて此地を占め、城市を東西に延長し、三ノ丸を築築せるほか白旗・南・仲・西の諸町を開く。然るに間もなく佐竹氏は出羽秋田に移封せられ、徳川氏の治むる所となる。藩政公は城市に大改修を加へ、二代義公の時、藩政呼更正せられ、面目一新して、國中第一の都邑となる。當時水戸城は江戸藩府の東北列藩に對する第一防禦陣地たりしため、頗る要害堅固に計畫せられ、那珂川・千波沼等のほか、惣濠重疊して、通路を遮断し、土人の住居は城の周圍並に上市を占めたり。下市は低沼なるも、埋立を行ひ、或は小路を開きて各種大間屋店舗を建れ、本街として、股賑を極めし。維新後は官衙・學校等多く上市方面に設けられ、鐵道開通し兵營設置せらるるに至りて繁華自ら上市に移る。明治廿二年、接續地の一部を併せて市制を施行し、昭和八年常務村を合併して今に至る。

〔水戸城〕市の中央にあり。常陸大掾平國香八世の孫、馬場大掾平資幹の築きし所に於て、應永七年、滿幹の時大に城郭を修築せしが、同廿四年、足利持氏は滿幹の所領を削り、本城を佐竹氏被官江戸通房に與ふ。江戸氏三代遺徳、四方を經營し、勢大に振ひ、明應五年二ノ丸を築きしが、重通の代、天正十九年、佐竹義宣に奪はる。義宣は三ノ丸を増築し、規模大となりしも、慶長五年關ヶ原役後、佐竹義宣秋田に移るるに及び、家康第十一子頼房の治城となり、三十五萬石を領し、徳川副將軍と稱せられ、子孫世襲して明治に至る。明治四年藩を廢して縣を置き、も間もなく廢して茨城縣に入る。城は上市の東部をなす丘陵、那珂川・千波沼を控ふる要害にして、東西一軒半、南北〇・五軒、自然の險谷を利用せる空濠によりて三部に別たる。東部は本丸にして、いま水戸中學校あり、中部は二ノ丸にして、いま師範學校あり、西部は三ノ丸にして、弘道館あり。本丸は俗に佐竹城と呼ばれ、江戸時代以前の築造にかゝる。三ノ丸址の茨城縣立師範學校舊校舍本館は明治天皇行在所にして指定史蹟なり。

〔水戸行在所〕指定史蹟。水戸城三ノ丸址、舊縣立師範學校校舍本館にして、明治廿三年十月廿六日、明治天皇當行幸の御行在所とし給ひし所。

〔愛宕山古墳〕指定史蹟。松本町にあり。前方後圓型にして、後圓部の頂上に愛宕神社を奉祀す。南南東に面し、全長約一八・二米、後圓部の直径約七八・二米、高さ約四〇・九米、前方部の直径約七五・五米、高さ約三八・五米あり。頂部は社殿遺構、參道開設のため削平し、前方部中央及び後圓部四個の削り石階を設け、また前方部の封土西南兩個に後圓部の西北部に互り削取せし部分あり、其他は幸に完存し、後圓部の東方並に西北部に墳

〔水戸行在所〕指定史蹟。水戸城三ノ丸址、舊縣立師範學校校舍本館にして、明治廿三年十月廿六日、明治天皇當行幸の御行在所とし給ひし所。

〔愛宕山古墳〕指定史蹟。松本町にあり。前方後圓型にして、後圓部の頂上に愛宕神社を奉祀す。南南東に面し、全長約一八・二米、後圓部の直径約七八・二米、高さ約四〇・九米、前方部の直径約七五・五米、高さ約三八・五米あり。頂部は社殿遺構、參道開設のため削平し、前方部中央及び後圓部四個の削り石階を設け、また前方部の封土西南兩個に後圓部の西北部に互り削取せし部分あり、其他は幸に完存し、後圓部の東方並に西北部に墳

徳川家康。後水尾天皇元和七年、徳川頼房父家康の靈を祀りて創建す。社殿造營の工成るや天皇藤原公廣をして奉幣且つ宣命を讀ましめ藤原實晴をして贊せしめ給ふ。後光明天皇正保三年初めて神幸の式を行ふ。本殿・拜殿は元和七年の建造にて國寶建造物たり。社寶の太刀一口も國寶に指定さる。例祭四月十七日。

〔八幡宮〕常盤八幡町に鎮座。縣社。祭神、譽田別尊、外二神。もと白旗八幡と稱す。創立年代に就きて二説あり。一、康平六年源頼義奥州亂を鎮定し、凱旋の折石清水八幡宮を勧請せりと、一、佐竹義宣居城の久慈郡太田に鎌倉八幡宮を勧請し、これ創始なりと。東山天皇元祿七年徳川光圀西北郊那珂西(中西)に遷祀し、同帝寛永四年徳川綱修は更に現社に移す。社領として幕府より朱印三百石寄進あり。例祭、四月十五日。境内には、葉上に種子を生ずる珍奇なる公孫樹一株あり、白旗山八幡宮の御業附銀香として指定天然記念物たり。

〔吉田神社〕市内吉田に鎮座。縣社。祭神、日本武尊。日本武尊御東征の時、兵を此地に憩め給へるに因みて、顯宗・仁賢兩朝の頃、尊を祀りて創建すと傳ふ。式内社。常陸國三ノ宮たり。後光明天皇慶安元年、徳川氏朱印十五石を寄進す。社殿造營は常に鹿島神社宮造修毎になす。例祭、十月二十一日。

〔桂岸寺〕新義真言宗豊山派。大悲山保

和院と號す。往昔は茨城郡又無色にありて善門寺と稱せしが、天和二年、水府の重臣多賀郡松岡前守、中山備前守信治これを現地に移し、寺田を附して香華院となし、檀法印を岡山とす。境内に勢至堂あり、行基作の勢至菩薩を安す。一に是を二十三夜堂といひ、賽者頗る多し。

〔本行寺〕村にあり。日蓮宗。法榮山本法院と號し、池上本門寺に屬す。創建年代不詳。往昔茨城郡堀村にありしが、天和三年現地に移す。

〔好文寺〕併樂園の西南部、野景の地にあり。天保年間、併樂園と共に落主徳川齊昭の創建。落主、文人墨客を集め詩歌吟詠し、清遊を試みし所なり。入口に齊昭筆「好文亭」と題する扁額あり。正室には齊昭筆「樂壽樓」の扁額をかゝぐ。今公開し、一般に觀覽を許さる。

〔彰考館文庫〕常盤町にあり。常磐神社の東隣に位し、大日本史編纂の參考に供せられし和漢書凡そ七萬冊を蔵す。寛政十二年毛筆にて寫せし獨逸兵書、文化十二年寛本にて書寫せる和蘭辭書、及び藤田東湖の書き入れし大日本史草稿等を陳列す。

〔水戸光園〕水戸藩主。頼房の第三子。世に水戸武門・西山公と稱す。明暦三年封を賜ひ、大日本史を修して大義名分を明かにし、また橋公碑を建つる等、維新の氣運を作る。元祿十三年歿。年七十三。義公と號し、正一位を贈らる。

〔水戸齊昭〕水戸藩主。文政十二年封を賜ひ、文教を興し大砲を鑄し兵を修む。安政五年朝廷、密に勅して幕府を輔け外侮を防がしめ給ふも、戊午の變に水戸居となり、高麗元年歿す。年六十一。烈公と號し、正一位を贈らる。

〔藤田東湖〕水戸藩の儒者。名は彪、字は斌卿。通稱、虎之助・誠之進。陶谷の男。文武に兼造し、藩主を輔け藩政の綱維に參す。時に幕府の忌諱に觸れしも、幕府の政客間に隱然一勢力たり。安政二年歿。年五十。明治二十二年正四位を贈らる。その著、常陸帶・弘道館遺蹟・回天詩史等あり。

〔藤田小四郎〕水戸藩士。名は信、字は子立。號名、小野城男。號、雪溪。先愛媛。東湖の男。勤王を唱へ、筑波山に舉兵破れて西上、慶應元年歿す。年二十四。從四位を贈らる。

〔武田耕雲齋〕水戸藩老。伊賀守と稱し、藩主慶篤を輔けて、幕府の議を策す。元治元年、藤田小四郎等と共に兵を挙げ、勤王を奉じて、幕府の賞を擧げんとし、次で西上して、徳川慶喜に心事を陳べんとせしが、幕兵に阻まれ、慶應元年歿す。年六十三。正四位を贈らる。

〔池田留吉〕高輪東禪寺、英國假公使館襲撃の一人にして、後退れ、江戸に潜伏中捕に就き、文久二年八月十四日獄に死す。年二十四。正五位を贈らる。

〔水戸地〕御庭燒の一。文化頃水戸藩主が後樂園に築宮、製作せしめし陶器。落款に水戸國主・後樂・後樂園製の印あり。交趾風の樂地。後樂園燒。

〔筑波山事件(天狗黨の亂)〕水戸藩主齊昭の時、藩論二分し書生連・天狗黨と稱し、前者は家老結城寅次・市川三左衛門等、後者は藤田東湖・戸田忠敬等々首領となりて互に軋軋あり。のち東湖・忠敬死し、尋て齊昭壽するに及び、天狗黨その勢を失ひしも、東湖の子小四郎及び武田耕雲齋・田丸直光等、齊昭の遺志を繼ぎて、尊王攘夷を唱へ、勤王を奉戴して之を實行せんとし、元治元年同志を糾合して筑波山に據りて兵を擧ぐ。幕府之を討せんとし、軍を進ばせしが、小四郎等之を諸所に破り、又武田耕雲齋兵を館山に擧げ、筑波勢幕軍の重圍に陥りて日に蹙るに及び、策を定め、京師に至りて心事を慶喜に陳べんとし、美濃に到る。時に慶喜等之を退討せんとし、京師を發すと聞き、右折して加賀に到り、幕軍のため阻まれて降り、翌慶應元年武田・田丸等の首領以下夫々處刑せられり。

〔水戸藩〕省轄東北線の一部。茨城縣結城・眞壁・西茨城の三郡を走る。東北本線小山驛より分岐し、下館・岩瀬等の諸

ミトコ

一遺分れ西南方に向ひ太平洋岸に出づ。大字蔵土より高池町宇津木に至る古座川の兩岸を古座嶽と云ひ登野に富む。

【水戸電氣鐵道】私設鐵道。茨城縣にあり。橋町(水戸市)より發し、奥ノ谷驛(鹿島郡沼南村)に至る一・二軒。省線とは非連帯にして動力はガソリン・蒸氣併用、軌間は一・〇六七米とす。

【御津町】愛知縣三河國寶飯郡の中部。豊橋市の西北約五軒。北は長澤村・赤坂町・御油町に、東は國府町に、南は小坂井町・前芝村に夫々接し、西は温美河に臨み、更に大塚村及び蒲郡町と隣る。北部は古生層よりなる三河山地の南端に屬し、北端には五井山(四五五米)宮地山(三六二米)そびえ、西南隅には御堂山(三六三米)、東部には新宮山、南部には大恩寺山(九七米)存す。此の三河山地の下には洪積層地盤を、香羽川はこの山麓を流れ沖積平野を作り、温美河に注ぐ。洪積層地の北部には桑園の分布多く、南部沖積地には水田の分布多し。交通路は海岸沿ひに平坂街道通じ蒲郡方面に至り、省線東海道本線は此地をよきり、御油驛(明治二十一年設置)を置く。此地はもと佐藤村と稱し、和名抄に見ゆる寶飯郡津郷の地なり。延喜式に渡津驛とあるは此の郷内にて、然るの流と云へるもこの地なるべし。明治三十九年に

御津村・御馬村・佐藤村を廢して御津村を置き、昭和五年町制を布けり。(御津神社)大字廣石に鎮座。縣社。祭神、大國主命。創立年代詳かならざれども、仁壽元年從五位下を授けられ、延喜の制、國幣の小社に列し、參河國神名帳に正三位御津大明神と見ゆ。古來御津七郷十二箇村の氏神とせらる。(引馬神社)大字御馬に鎮座。村社。祭神、素戔鳴尊を主神とし、相殿に五男三女神・大己貴命等を祀る。正曆年中山城の八坂神社より勧請すと傳ふ。建久二年再興。領主今川・細川・牧野・松平・伊奈氏の崇敬あり、黒印領五石を有せり。古來牛頭天王と稱せしを、維新の際、現社名に改む。「大恩寺」廣石にあり。淨土宗。御津山。もと三輪宗に屬せしが、文安二年に了庵慶善再興して現宗に改む。明應八年に後土御門天皇勅願所となし給ふ。近世寺領百石を有せり。佛堂・念佛堂・玉宮曼荼羅園(根本彩色)一幅は國寶。

【彌刀】大阪府中河内郡にありし村。昭和十二年廢して布施市に入る。

【御堂村】岩手縣陸中郡岩手郡の北部。村の西南端は沼宮内町に接し、北は二戸郡、東は九戸郡に接す。面積一三一・一方軒。西北方に四岳(一〇一八米)聳え、東南方に傾斜し、村の西北部はその山麓をなすも、南部には丘陵所々に起伏して、全村概ね山地をなし北上用は村の中西部を南方に貫流し、東

西兩方より支流を合し、その沿岸に耕地ひろく。米・麥・大豆・神・木炭及び馬等か産す。陸羽街道は北上川に沿ひて南北に通ず。省線東北本線沼宮内驛(明治二十四年設置)あり。(仙波堤壘穴住居址)仙波堤にあり。丘陵の頂上に約三十の壘穴住居址あり、よく舊壘を存す。形態は主として正圓形にて、數箇の小壘穴附屬するものあり。これらの壘穴は地表を掘り下げ内部に石組壁を設け上部に簡單なる屋蓋を設けたりしものなり。多くは牛島狀に突出せる丘陵に群集存在し、一種の城塞を兼ねし村落と認めらるるものなり。發見されし遺物は銅生式土器・青磁土器・鐵器破片・土製勾玉なり。その年代詳かならざるも、恐らく平安時代のものならん。

【三尾川村】和歌山縣紀伊國東牟婁郡の西南部。西牟婁郡本町の西北約四軒にあり、古座川に跨りて西と南は西牟婁郡に界す。四周山地を以て圍まれ、東北端には井谷山(四〇二米)屹立し、西端に御山(五一五米)・藤根山(三八三米)等聳え、南端には西ノ峯山(三八五米)・姥山・山(四八二米)等あり。北方より來る古座川は東北部山地の南を繞りて屈曲しつゝ、東流し西北部にて西方より來る支流を合し、又中央部にては東北流する河川の水を合る。米・繭・林産及び工業・水産・畜産を出す。古座川に沿ひて古座町に達する縣道あり、途中にて

【三徳村】鳥取縣伯耆國東伯耆郡の東南部。倉吉町の東約一三軒の山中に存し、東端と北端は氣高郡にして、西は三朝村に對す。面積二九・六方軒。四周山地に圍繞せられ、三徳山(九〇〇米)南端に聳え、氣高郡界には滑石峠あり。南西方に傾き三朝川支流河畔に小平地を有するのみ。米・麥・繭・木材・牛・馬等を産す。縣道中央を東西に通じ氣高郡及び倉吉町にバスの便あり。大正六年三徳村・郡村を廢し三徳村を建つ。「三徳山」指定史蹟・名勝。三佛寺の境内にして、天神川の支流三徳川の上流にあり、海拔約九〇〇米、輝石安山岩及びその集塊岩より成る。山上は風涼よく三佛寺の奥院あり、山麓の三佛寺本堂より奥院に至る間に牛ノ背・馬ノ背・鼻ノ背・伏見岩・屏風岩・胎内岩等あり、奥院より上方には天狗岩・仙人窟及び三輪の岩屋等あり、何れも行場にして、古來大和の古野山、伊豫の石鏡山と共に役の行者の閑山と稱され、山陰道修験場の一として著名なり。「三佛寺」天台宗。傳説に役小角投するところの三輪の蓮花の一片が落下せし地なりと。靈覺大師・彌陀・釋迦・大日三尊を奉安す。奇巖奇跡の地。

【海徳】鳥取縣氣高郡にありし村。大正六年、海徳村と蒲野郡村を廢

し。その區域を以て大正村を置く。

【三戸古】鳥取縣岩美郡にありし村。大正七年三戸古村・大路村を廢し、米里村を置く。

【二處】出雲國(鳥根縣)の古地名。和名抄に仁多郡三處郷あり、その地今の仁多郡三成村・龜高村の地に當り、風土記の三處郷に當る。

【水戸田村】富山縣越中府射水郡の中部。小杉町の西南方約二軒、東磯波郡中田町との略中間を占む。東南隅に五〇米前後の小丘ある外、村内低平にして水田多し。米を主産とし、薬品・麻織物等の工業頗之に次ぐ。村内を東北―西南に横切る縣道あり小杉町・中田町間のバス通じ、北と南へも縣道を分岐す。省線北陸本線小杉驛・大門驛の何れへも四―五軒を隔つ。地は和名抄、射水郡蒲田郷の内、近世は東條保に屬せり。

【御殿村】愛知縣三河國北設樂郡の東部。豊橋市の東北四十五軒。北は岡村に、東は本郷町に、南は三輪村に、西は振草村に相接す。この地は第三紀層又は古生層より成る三河山地の中にありて、北部には御殿山(七八九米)・古戸山(七五九米)等あり、南部には明神山(一〇一六米)が屹立す。西北より振草川曲流をなしつつ、流れ、西部より神田川峡谷を作りて東流し、村の東部にて兩川は合流し本郷村方面に至る。此等河川の流域には水田・桑園見られ、葉落も此等

の川の洪流地に散村をなして分布す。交通路として別所街道は東の本郷村より入り振草川の谷を登り振草村に通ず。又神田川の谷よりは花丸峠を越えて、西方の田口町に至る道あり。(觀神社)大字月に鎮座。郡社。祭神、瀬織津比賣命。參河國神名帳の「從五位上觀村天神」は本社なりといふ。古來、舊月村の産土神たり。例祭、四月七日。

【緑野(郡)】上野國(群馬縣)の古郡名。續紀和四四年紀に郡名見ゆ。和名抄は美止乃と註し林原・小野・升茂・高足・佐味・大前・尾張・保美・土師・浮田・高山の十一郷を管す。明治三十年四月本郡は多胡郡・南甘樂郡と合して多野郡を建て郡名を失ふ。

【三留野】長野縣西筑摩郡諏訪村の大字。省線中央本線三留野驛(明治四十二年設置)を置く。

【三富村】山梨縣甲斐國東山梨郡の北部。甲武信ヶ嶽(二四八三米)の南斜面を占め、笛吹川の水源地をなす。面積一三四・八六方軒の大村。村境には關東山脈の主・支脈連互して笛吹川の谷を圍み、北は甲武信ヶ嶽を頂點に、埼玉縣武蔵國・長野縣信濃國に界す。村内西半部は殊に高嶺にて龜冠山(二二二二米)・黒金山(二二三二米)等の高峯重疊し、森林繁茂す。笛吹川はこの兩山に發源し、東部を南流し深き峡谷を刻む。葉落概ねこの河谷に沿ひ林業・養蠶・麥の耕作等

に従事す。西北部の東洋御料地、西部の西澤御料地を初め村内林産物多く林用軌道を通じ運搬に供す。笛吹川に沿ふ縣道は秩父往還の一部にして、東北端飯坂峠を越え秩父地方に通ず。省線中央本線鹽山驛より約十二軒、途中までバスの便あり。村の南部には川浦温泉・發電所等あり。また滑澤温泉(高三三〇米、幅一三米)・二の瀧(高一八米、幅一八米)・一の瀧(高二三米、幅一八米)あり。(川浦温泉)泉質は硫酸泉にして温度は四五度。頭湯・遊歩・痔疾・リウマチス・子宮病等に効能あり。概して療養向なり。建久五年(約七十年前)高山重忠富士の裾野の登野の途次この地に宿り、靈夢に感じて發見したりと云ふ。古き温泉にて、湯治専門の所として置く。

【三刀屋町】鳥根縣出雲國飯石郡の北東部。斐伊川・三刀屋川合流地の南岸に位し、東は大原郡木次町に隣接す。南は飯石村、西は鍋山村、北は一宮村に界す。面積六・六四平方軒。東端を斐伊川、西端を三刀屋川に灌溉され、沃野町内を蔽ひ耕地は沿岸に發達せり。南部に丘陵性臺地存す。農業を主とし、米・蕎麥及び木炭・川魚類・家畜類等を産す。木次町・今市町へ夫々バス通ず。古くは三屋郷に作り、和名抄に飯石郡三屋郷と見ゆ。出雲風土記には神龜三年三刀屋三屋に改むとあり。明治二十二年三刀屋村とし、昭和三年町制を布く。

【三徳郡】香川県二市七郡の一。讃岐國の西部。東は仲多度郡に、南は徳島・愛媛の兩縣に隣接し、他は瀬戸内海に面す。海上の栗島・伊吹島等を併せて面積三三九・四一方軒。郡の東及び南は讃岐山脈に屬する高峻なる山岳層層し西及び北に向つて低下す。西部中央には七寶山(志保山)の諸峯南北に連互し、その端は西北方に伸びて牛島狀の突出をなし西・北海岸に區分す。東部山地より發する梓田・財田の二川は西に、高瀬川は北に、山麓下に展開する低平なる沖積平野を流れて海に注ぐ。從つて肥沃なる耕地多く農業盛なり。北部海岸は鹽田をなす所あり、また漁業も盛なり。丸龜市より來る國道は都を斜に走り西南方に至り豊後町を経て愛媛縣に達す。こゝより分れて東方の琴平町(仲多度郡)に至る縣道あり。省線讃岐本線は西部を國道に沿うて南走し省線土讃線は東部を掠めて通過す。本郡は明治三十二年三野・豊田の二郡を併せて建てしもの。

【御佩】美濃國(岐阜縣)の古地名。和名抄に武藏郡御佩郷あり、その地今の武儀郡上牧村の邊に當る。

【美理】信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に佐久郡美理郷あり、その地今の北佐久郡三岡村・中津村・中佐都村・高瀬村の邊に當る。

【美土里村】群馬縣上野國多野郡の北東部に位し藤岡町の西隣なり。

【ミトリ】

【ミトリ】

【ミトリ】

【ミトリ】

【ミトリ】

【ミトリ】